令和4年度

運営諮問会議報告書

鳥羽商船高等専門学校

令和４年度　運営諮問会議　議事概要

令和５年３月８日（水）　１３：３０～１５：２０

場所：１号館３階会議室及びオンライン

運営諮問委員出席者
対面参加委員：今津委員（議長）、菅沼委員、森委員、西井委員、三宅委員
オンライン参加委員：本田委員、木本委員
運営諮問委員欠席者：中川委員、松岡委員

本校出席者：和泉校長、伊藤副校長、坂牧副校長、橋爪副校長、江崎校長補佐、小林事務部長、國枝学生課長

陪席者：水野総務課課長補佐、高橋企画・地域連携係長、高尾企画・地域連携係員

オンライン陪席者：白石校長補佐、林専攻科長、窪田商船学科長、出江情報機械システム工学科長、西川一般教育科長、山下電子機械工学科長

１．開会挨拶学校概要（和泉校長）

事務部長による運営諮問委員の紹介・挨拶及び配布資料確認後、和泉校長による開会挨拶及び学校概要の説明が、配布資料の統合報告書及びキャンパスマスタープラン記載内容より行われた。主な項目は以下のとおり。

・高専の概要、本校本科及び専攻科の概要
・文部科学省補助金事業（デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業 DX をけん引する高度専門人材育成事業）、国立高専機構事業 高専発！「Society 5.0 型未来技術人財」育成事業 GEAR5.0（未来技術の社会実装教育育成事業）を通して実施している地域課題型 PBL について
・鳥羽丸および校内施設整備、キャンパス構想、防災について

２．議長選出

和泉校長の挨拶終了後、議長選出が行われ、今津委員が議長となり、その後の議場進行を行った。

３．本校の現状と課題（伊藤副校長）

伊藤副校長による本校の現状と課題について、以下の６つの項目について説明が行われた。

（１）本校の概要
（２）入学から卒業まで
（３）３つの支援室
（４）教育の質の向上と地域連携など
（５）学生支援と生活支援
（６）研究活動と学生の活躍

（１）については、教育理念、高専のシステム、教職員数、学科・専攻科概要、授業カリキュラムについて説明があった。

（２）については、教学マネジメントの実施事項紹介、学生募集及び中学校訪問、オープンキャンパス、本校の入試制度、倍率、評定、成績、原級留置、退学、就職・進学、３年間における教育目標達成度アンケート、卒業生における教育目標達成度アンケート、原級留置を低減のための再評価制度について説明があった。

（３）については、学生の学力向上及び学修支援を目的とした学修推進支援室、授業カリキュラムと支援事業（就職支援セミナーなど）によるキャリア支援を行うキャリア教育推進室、国際交流事業・英語力強化事業を行うグローバル教育推進室について説明があった。

（４）については、自治体、大学、民間企業との包括協定など他機関との連携、共同研究等について説明があった。

（５）については、学生からの相談を受ける学生相談室、授業において感染症対策を講じるまなびの継続、教員 FD 研修を実施する教務主事室の支援、生活指導、学生会活動支援を実施する学生主事室、寮生、学校との意見交換保護者との情報共有を実施し学寮を運営する寮務主事室について説明があった。

（６）については、研究方針、研究活動に関する目的・目標の説明、今年度の外部資金獲得状況、学生の活躍（各種コンテスト、部活動）について説明があった。

４．各委員の質疑・コメント

伊藤副校長の説明後、今津議長より、各委員に対し、質疑・コメントを求めた。委員からの質疑に対しては、伊藤副校長が回答した。

【森委員】　中学校訪問の際の説明内容、アポの取り方及び訪問者の授業の調整方法について教えてほしい。また、県外はどの範囲まで行っているか。

【伊藤副校長】　春季は前年度入試結果の報告。秋季は学生募集要項を持って、当該年度入試の案内を行う。新任教員がいる場合のみペアで訪問。県外訪問もあるので、時間調整には苦労している。中学校へのアポは、訪問する教員が直接行う。県外については、近隣府県、関東東北も一部訪問している。船団体主催のオンライン説明会での PR、高専機構が開催する説明会での PR も行っている。

【西井委員】　情報機械システム工学科に興味がある生徒が多い。課外活動の地域移行が進んでおり、その一環で鳥羽市教育委員会が中心として実施のパソコン教室を実施しており、本校も参画している。平日夜や土日に実施してもらえるとありがたい。

【伊藤副校長】　公開講座等で活かしていくことを検討する。

【森委員】　新聞記事にて本校がコンテスト等で受賞していることを見かけた。

【三宅委員】　年度計画について、努力されている。大学でもオンライン授業が行われているが、学習効果について疑問があり、検証の必要があると考えている。半導体ネットワークなどを通し、高専と大学の連携を強くしたいと考えている。

【伊藤副校長】　オンライン教育の効果については、対面授業とは同じ形にあてはめることができないため、２、３年での実施状況を基に検証が必要と考えている。高専と大学間の連携については、本校としてもお願いをしたい。

【菅沼委員】　駅で教員の登校指導を本校でも実施していることに驚いた。また、教育について、学問の内容は変わらないが、学生の質の変化により、教員が苦慮されている。

【伊藤副校長】　登校指導ついては、交通安全の観点より実施しているが、１名１名個々に実施している訳ではない。以前と比べ、メンタル等問題がある場合、合理的配慮を国として行う形に沿い、本校も対応を行っている。

【坂牧副校長】登校指導は、学生対応のみでなく、地域とのコミュニケーションツールとしても取り組みを行っている。

【本田委員】　知識が熱いうちに入社してもらえるので、期待している。DX 推進のうえで、IT リテラシーの深化を期待している。

【伊藤副校長】　DX、IT リテラシーは情報機械システム工学科で具体的に力を入れている。当科は次年度卒業生が出るので、期待してほしい。

【木本委員】　門戸が広いということとなると、同じクラス内で、学力レベルの差がないのか。その場合、教育はどのレベルに合わせているか。また企業も少子化による地元優先採用をしたく、本校から誰が就職しても問題ないといえるようにしてほしいとの希望がある。

【伊藤副校長】　学力に不安がある学生については、学修推進支援室でサポートをしている。今後も科目を増やす等検討し、全体の学力レベルを上げたいと考えている

【今津議長】　海運業界には日本人の優秀な学生で興味を持つ者が少なくなった。駅の看板、練習船でのイベント等で、練習船以外の海運会社や教育機関のことなども外に PR していく動きがある。影響力が強いところとタッグを組み、PR 活動していくと、よりよくなるのではないか。
高専は、学生１人あたりに教員の数、密度は高く、会話ができる環境にある利点を活かしてほしい。

【伊藤副校長】　船団体との交流を、より一層情報共有のうえ、よりよい PR 活動を進めていきたい。

【和泉校長】　商船高専５校で実施の海事人材プログラムで実施しており、少しずつ広がっている。より海運業領域の外にいる人も巻き込んでいきたい。

５．総括
【今津議長】　まとめとして、コロナ禍で学生のケア、工夫をよくしているとの言葉を受けた。

６．開会挨拶（和泉校長）
　和泉校長より、閉会挨拶として、各委員の質疑・コメントに対する御礼、提言を今後に生かすことを述べ、会議が閉会した。

令和５年３月８日

令和４年度　運営諮問会議資料

１　令和４年度　鳥羽商船高等専門学校運営諮問会議次第

２　令和４年度　運営諮問会議委員名簿

３　令和４年度　運営諮問会議座席表

４　令和４年度　年度計画達成状況

５　令和４年度　鳥羽商船高等専門学校キャンパスマスタープラン

６　令和４年度　鳥羽商船高等専門学校統合報告書

７　令和４年度　学校要覧

８　学校だより　Vol.９４

９　２０２３　学校案内

１０　学生の活躍（令和４年度）（新聞記事・ホームページ）

１１　鳥羽商船高等専門学校運営諮問会議規則

令和４年度　鳥羽商船高等専門学校運営諮問会議次第

日　時：令和５年３月８日（水）　１３：３０～１５：３０
場　所：鳥羽商船高等専門学校　１号館３階会議室、オンライン

１　開　　会

２　委員の紹介

３　校長挨拶

４　学校概要説明

５　配付資料の確認

６　議　　事

（１）本校の現状と課題について

（２）その他

７　閉　　会

令 和 ４ 年 度 運 営 諮 問 会 議 委 員 名 簿

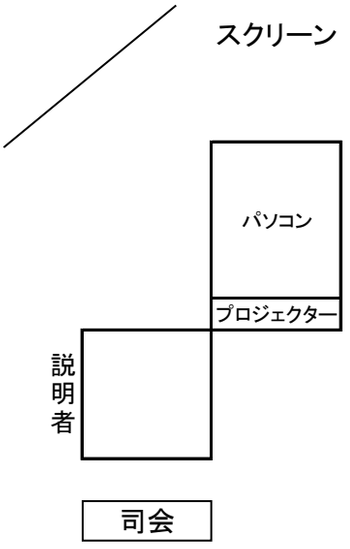
氏　　名	現　　職	備　考
今　津　隼　馬	国立大学法人東京海洋大学　名誉教授	
中　川　進　一	鳥羽商船高等専門学校奨学後援会　会長	
菅　沼　延　之	鳥羽商船高等専門学校同窓会　会長	
西　井　　潔	鳥羽市立加茂中学校　校長	
森　　典　英	三重県立伊勢高等学校　校長	
本　田　直　基	美和ロック株式会社　伊勢工場群　総務部長	
木　本　啓　輔	シンフォニアテクノロジー株式会社　電子精機本部 伊勢製作所副製作所長	
松　岡　敏　生	公益財団法人三重県産業支援センター 事業部技術支援課　課長	
三　宅　秀　人	国立大学法人三重大学　大学院工学研究科　電気電子工学専攻 教授	

※　委嘱期間　　令和３年１２月１日～令和５年３月３１日

令和4年度　運営諮問会議座席表

日時：令和5年3月8日（水）
13：30～15：30

場所：1号館3階大会議室
オンライン



○ 菅沼　延之
○ 三宅　秀人
○ 今津　隼馬
○ 森　典英
○ 西井　潔

副校長兼学生主事（坂牧）　校　長（和泉）　副校長兼教務主事（伊藤）　副校長兼寮務主事（橋爪）

校長補佐兼研究主事（江崎）　事務部長兼総務課長（小林）　学生課長（國枝）

総務課課長補佐（水野）　企画・地域連携係長（高橋）

本田委員、木本委員はオンライン出席。

中川委員、松岡委員は欠席。

※　学科長、専攻科長はオンライン陪席参加（各個人の研究室等）

入口

令和４年度　鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況

令和４年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、本校独自の以下自己評価標語を用いる。

S：計画をはるかに上回る実績を残した
A：達成度 100%以上
B：達成度 70%～100%未満
C：達成度 70%未満
－：該当なし

年度計画		委員会等	事務	計画の進捗状況等 ※コロナに関係するものは赤字	計画に対する課題 ※コロナに関係するものは赤字	鳥羽商船 自己点検評価
１．１　教育に関する事項						
（１）入学者の確保						
①－１	入学希望者が学校への理解や入学後のイメージを具体的に持てるよう、以下のことを行う。 ・学校の設備・施設がWeb上で３６０度見渡すことができるオリジナルパノラマ写真の６月頃に導入する。 ・ホームページ内の掲載情報の更新及びコンテンツの精査（新しいものを追加するか、既存のもので不要なものはないか等）をする。 ・学校公式YouTube及び学校公式Facebookにて広報活動を行う。	広報・公開	総務	・校内３６０度パノラマ写真の撮影を10/14に実施し、1/30にホームページ上に公開した。 ・ホームページ内にローテーションバナーの新規作成、校内及び鳥羽丸の360度パノラマビューの公開など、広報に必要なコンテンツを追加しており、さらなるコンテンツの整備を進めている。 ・高専高度化推進経費「TOBA SHOSEN GIRLS CHANNELによるリアルな高専生活配信」の採択により、学生の視点に基づいた日常の学校生活をSNSで紹介することにより、中学生や保護者への情報提供を行うことで、入学志願者の確保につなげる。 ・プロカメラマンによる校内の風景・学生の活動を記録しSNS、パンフレット等で活用していく。 ・学校公式SNSの利用について規則、ガイドラインを制定した。		A
①－１	・ポストコロナ時代に対応していくうえで、実施方法や場所を工夫して対面での説明会の実施可能性を検討して可能な範囲で実施する。また他高専との合同説明会については、引き続き参加し、志願者確保を目指す。 ・地域の中学校長会を含め、各中学校へ巡回PRを実施し、オープンキャンパス、公開講座の開催情報や本校の特徴・魅力を発信する。 ・高専制度創設60周年にかかる機構本部イベント等に際しては、各関係団体と連携を取りながら広報活動を行う。	教務	教務 総務	・Webの学校説明会・相談会を継続実施しながら、対面での学生募集にかかる説明会・イベントを実施した（実施状況は下記のとおり）。対面で行うイベントは、1組あたりの参加人数を制限し、プログラムを半日ずつとし会食を避けるなど、新型コロナウイルス感染症の対策を行った。 令和5年度入学者選抜の学科別志願者数について、商船学科は定員40名に対し64名の志願者があり、志願者倍率1.6倍、情報機械システム工学科は定員80名に対し126名の志願者があり、志願者倍率は同じく1.6倍であった。 ・校長が近隣地区（鳥羽・伊勢・志摩・松阪）の中学校長会会長6校を訪問し、意見交換を行った。11・12月に岩手県・宮城県・東京都・京都府の中学校計21校を訪問した。 ・高等専門学校制度創設６０周年記念誌、毎日新聞特集記事等において、調整連絡等をおこなった。 【説明会等実施状況】 ・Web学校説明会（全2回　7/30参加者21名、10/22参加者9名） ・Web入試相談会（全5回　7/23：3名、8/6：2名、10/8：2名、10/29：２名、11/19：2名） ・【対面】オープンキャンパス　計308組 （8/11-12　参加者234組　うちS科志望81名　J科志望153名、10/1　参加者74組　うちS科志望19名　J科志望55名） ・【対面】塾向け学校説明会（10/18　19校参加）、 ・【対面】受験相談会（12/4　参加者19組　うちS科志望7組 J科志望12組） ・【対面】練習船乗船体験（10/15　参加者12組27名、・11/19　参加者12組24名） （他高専との合同説明会） ・【対面】国公私立高専合同説明会（6/19 千代田区 7/17 大阪市 ） ・【対面】三重県３高専合同説明会（7/9参加者 津市 10組20名、 四日市市12組24名、10/1参加者 津市5組10名、四日市市8組15名） ・【オンライン】KOSEN　FAIR（10/30、11/6個別相談）		A

令和４年度　鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況

令和４年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、本校独自の以下自己評価標語を用いる。

S：計画をはるかに上回る実績を残した
A：達成度 100%以上
B：達成度 70%～100%未満
C：達成度 70%未満
－：該当なし

年度計画		委員会等	事務	計画の進捗状況等 ※コロナに関係するものは赤字	計画に対する課題 ※コロナに関係するものは赤字	鳥羽商船 自己点検評価
①－２	オンデマンド（動画等による学校紹介・オープンキャンパス）、オンライン（Skype等を用いたオンライン学校説明会・相談会）の実現、充実を検討するが、これらの相談会はすでに高専等に興味のある学生以外を引き付けるのは難しいので、オフラインでの対面説明会、相談会及びオープンキャンパスの充実を再検討する。 巡回PRについて、新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、県内外中学校への巡回を検討する。また、今年度から教員全員体制で中学校を巡回する方向で調整し、中学校へのPRを強化する。	教務	教務	昨年度に引き続きオンライン学校説明会・相談会（Skype等利用）を継続しながら、対面での説明会、相談会、オープンキャンパス等を実施した（実施状況は①-１に記載）。今後は、オンラインから対面形式の説明会・イベントの実施へと切り替えていく。 また、中学校への巡回PRは春（6月～7月）と秋（10月～11月）に実施し、春は県内中学校149校への巡回を行った。秋は県内中学校145校および県外中学校132校への巡回を行った。 今年度は原則全教員体制で実施し、初めて担当する教員は経験者と2人ペアで中学校訪問を実施している。		A
②－１	パンフレットについては、前年度変更できなかった学生写真及び学生コメントを検討し、その他の部分も含め、今年度に合う内容に更新する。また、説明会やオープンキャンパス等にて高専の広報リーフレット「キラキラ高専ガールになろう！」を配布する。 また、対面での入試広報活動が実施された場合、女子学生を参加させ、在学生の生の声を中学生に聞いてもらう機会を積極的に作っていく。	教務	教務	今年度のパンフレットについては、主にコンテスト関係や、国際交流のページについて写真の更新を行った。また、説明会等にて高専の広報リーフレットを配布した。 併せて、学科改組により設置した情報機械システム工学科の学年進行が来年度完成するため、それに合わせた2年後の変更に向けて入試広報室長をリーダーとしてWGを立ち上げた。 WGでは、2024年学校案内の学生写真及び学生コメントの変更について、撮影場所や対象学生を検討し、3月上旬までに学生を選出、4月に撮影、次年度春の巡回PR時に学校案内を配布できるよう計画を立てた。 練習船鳥羽丸体験航海やオープンキャンパスに、補助学生として女子学生も参加しており、中学生や保護者と接する機会を作っている。		A
②－２	昨年度導入した学校ホームページの自動翻訳ツールを継続して使用する。	広報・公開	総務	自動翻訳メニューを含めた学校ホームページを構成して掲載している。 令和5年2月には英語への自動翻訳ページを閲覧したUAEの「Abu Dhabi Maritime Academy」から連絡があり、令和5年4月の本校訪問につながった。 　また、高専機構本部情報企画課と豊田高専から、本校が使用しているホームページ自動翻訳ツールの導入を検討しているため、ツールの使用感等について情報共有してほしいと問い合わせがあった。		A
③	平成31年度からの大幅な入学選抜方法の改定に対し、入試業務の点検、入学者への追跡調査等により教務委員会でその評価を行い、修正等を検討する。 昨年度に引き続き「最寄り地等受験制度」を活用し、コロナ禍にある受験生の感染リスク軽減・志願者確保を図る。 また、本科生の入学者選抜において、Web出願を導入する。	教務	教務	入学者選抜方法と前期成績の相関関係について、教務委員会で追跡調査を行った。調査の結果、選抜区分と前期成績について、推薦選抜の学生が成績の良い傾向があることを確認できた。 また、昨年度に引き続き最寄り地受験制度を募集要項やHP等で周知し受験生のリスク軽減を図っている。 Web出願システムについては、本科の入試選抜にて導入を行い、教職員の業務負担軽減された。 初年度のため、中学校教員向け説明会を実施した。（11/22　21校参加）		S

令和４年度　鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況

令和４年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、本校独自の以下自己評価標語を用いる。

S：計画をはるかに上回る実績を残した
A：達成度 100%以上
B：達成度 70%～100%未満
C：達成度 70%未満
－：該当なし

年度計画		委員会等	事務	計画の進捗状況等 ※コロナに関係するものは赤字	計画に対する課題 ※コロナに関係するものは赤字	鳥羽商船 自己点検評価
（２）教育課程の編成等						
①-1	・商船系５商船高専が協力して商船学科の次世代海洋人材育成など練習船を利活用した将来の学科、専攻科における人材育成の充実についての検討を継続して行う。 ・練習船鳥羽丸の代替新造船（商船高専系三番船）を目指し、５商船系高専が引き続き連携をして、新大島丸および新弓削丸の建造を支援する。 ・商船学科と海事システム学専攻を含めた一体型の具体的改革を実現するために、商船学科に何が必要か検討を継続する。 ・高度連携関係にある鈴鹿高専と同県内にある地理的強みを生かし、教育・研究・学生指導等について、緊密に連携協力を行う。 ・和歌山高専との包括協定に基づいて、GEAR5.0事業等を通し、教育・研究連携を推進していく。 ・「地域への貢献」を主として、コンソーシアムみえの事業などを通じて、引き続き県内高等教育機関と連携を図り、学生が活躍できる場を提供する。 ・鳥羽市との連携協定を基に地域のニーズを取り入れた取り組みを設定し、PBL教育を通じて、学生を地域課題に積極的に参加させ、問題の解決を図る。 ・文科省補助事業「デジタル分野の掛け合わせによる産業DX事業「海洋・海事産業を対象とした全校でのPBL実践によるDX推進人材の育成」及び、GEAR5.0事業の農林水産分野で中核拠点校として採択された課題「とる」から「つくる」へ農林水産業のDX推進プロジェクト」の実施を通じて、全校的なPBLを実施する。これより、GEAR5.0の函館、一関、阿南、和歌山はじめ各高専との社会実装、人材育成について教育連携を深化させる。	校長	企画・地域連携係	・練習船鳥羽丸の代船建造検討委員会を設置し、WGや関連施設整備について全校的に検討し、建造調達仕様書を確定した。また、搭載予定観測機器について、包括協定を結んでいる和歌山高専と協議を行った。 ・５商船高専が連携して新弓削丸と新鳥羽丸の建造のための予算が措置された。 ・鈴鹿高専との連携協力会議が12/14に対面で本校にて開催された。両校の教務、学生、寮務、研究の各主事間及び事務部長間で連携事項について協議し、一層の協力体制の強化を図る機会ができた。 ・コンソーシアムみえの事業として実施予定の「みえまちキャンパス」に対し、学生募集を行い、本校より学生４名が出場した。 ・鳥羽市と連携して、GIGAスクール構想に伴うICT教育支援として市内小学校２校に対し、対象の出前授業を実施した。 ・GEAR5.0については、農林水産業「研究開発プラットフォーム」に基づきウニの閉鎖式陸上養殖、全国高専ご当地発酵飲料・食品開発と販売、産業廃棄物のリサイクルによる異分野連携実現のため、教員間、学生アイデアソン等を対面及びオンラインで２回開催し、連携を行い、関係性を深化させた。 ・産業DX事業については、PBL実践を行うための装置・設備等を調達することにより、全校におけるPBL実践のための環境が充実した。		A
①-2	専攻科学生の地域企業へのインターンシップ参加について、今後も推奨していく。また、豊橋技術科学大学等との連携教育プログラムについて、引き続き検討していく。		教務	地域企業へのインターンシップ情報について、本科生ならびに専攻科学生へ周知を行い参加を推奨した。 インターンシップの参加状況については、下記のとおり。 【本科生】商船学科：延べ21名 4社へ参加 情報機械システム工学科：延べ89名 53社へ参加 【専攻科】生産システム学専攻：延べ15名 12社へ参加 豊橋技術科学大学等との連携教育プログラムについては、引き続き検討する。		A

令和４年度　鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況

令和４年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、本校独自の以下自己評価標語を用いる。

S：計画をはるかに上回る実績を残した
A：達成度 100%以上
B：達成度 70%～100%未満
C：達成度 70%未満
－：該当なし

年度計画		委員会等	事務	計画の進捗状況等 ※コロナに関係するものは赤字	計画に対する課題 ※コロナに関係するものは赤字	鳥羽商船 自己点検評価
②-1	学生が海外で活躍する機会を後押しするために、学生派遣を実施しているMELキャンプ等や逆に本校に短期留学生を受け入れて実施するプログラムを複数用意している。「鳥羽商船高等専門学校の主催事業における海外渡航及び滞在に関する実施基準」に沿って、その具体的なプログラム内容を精査して改善を推進する。また、海外留学を経験した学生に積極的に学内で発表を行わせ、海外留学未経験の学生の留学意欲を向上させる。	教務 グローバル教育 推進室	学生生活	新型コロナウイルス感染症による入出国規制は緩和され始めており、渡航を伴った国際交流事業も再開されているものもある。 渡航を伴うプログラムに学生から1件の申し込みがあったが、事業のプログラムと当該学生の専攻分野の間に乖離があったことから、今年度の申し込みは見送ることとした。 代わりに、当該学生の専攻とも合致する内容のプログラムを案内し、次年度以降の参加に向けて指導を行う予定とした。 一方、昨今の円安に伴う海外渡航費等の高騰から、例年と同等の金額で例年通りのプログラムを実施することが困難となっている。 一部の派遣プログラムにおいて、為替の影響により今年度はオンラインで実施せざるを得なくなったが、本校から8名の学生が参加する予定である。 また本プログラムについては次年度以降の現地開催に向けて、現行プログラムの見直し、検討を行っている。 また海外渡航プログラムの新規策定を視野に入れて、駐日ニュージーランド大使館等が主催する説明会に参加したり、タイ高専やモンゴル高専とのオンライン交流を試験的に実施する（11名参加）等の準備を行っている。 昨年度オンラインで参加した国際交流プログラムについては、参加学生による報告会を開催し、学生の留学意欲の推進、向上を計った。(10/26)		A
②-2	オンラインによる海外教育機関の留学生との交流に加え、短期留学生を積極的に受け入れて、日本人学生と交流させることにより、日本国内でも国際コミュニケーション力を向上させる。 　学外講師を招いて実施するTOEIC対策特別講座などを通じて、積極的な支援を行う。	教務 グローバル教育 推進室	学生生活	短期留学生の受け入れについて、本校では夏期と春期に受入プログラムを計画し、実施に向けた準備、調整を行っていた。 夏期プログラムについては、今年夏ごろまで新型コロナウイルス感染症による入出国規制が厳しかったことから、派遣元の学校で実施される予備学修が不十分となった。 春期プログラムについても、派遣元の学校で実施する見通しが立っていない様子であった。 そのため、今年度は短期留学生の受け入れは実施できなかった。 本校学生のTOEICを通じた英語力の向上に向けては、外部講師を招聘しTOEIC対策特別講座を実施し、20名の学生が参加した。（10/8～10）		A

令和４年度　鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況

令和４年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、本校独自の以下自己評価標語を用いる。

S：計画をはるかに上回る実績を残した
A：達成度 100%以上
B：達成度 70%～100%未満
C：達成度 70%未満
－：該当なし

年度計画		委員会等	事務	計画の進捗状況等 ※コロナに関係するものは赤字	計画に対する課題 ※コロナに関係するものは赤字	鳥羽商船 自己点検評価
③-1	「全国高等専門学校プログラミングコンテスト」、「全国高等専門学校ロボットコンテスト」、「全国高等専門学校体育大会」、「インターハイ」等の活動に積極的に参加し、加えて本校学生が優秀な成績を収められるよう支援して学生の意欲向上を図る。	教務 学生	学生生活	・第35回アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2022　東海北陸大会において、デザイン賞、特別賞(セメダイン株式会社)を受賞した。 ・第33回全国高等専門学校プログラミングコンテストにおいて、特別賞を受賞した。 ・高専ワイヤレスIoTコンテスト2021において、海洋SDGｓ大賞を受賞した。 ・第３回全国高等専門学校ディープラーニングコンテスト2022(DCON2022)において、第6位に入賞、企業賞(QUICK賞)を受賞した。 ・GNSS・QZSSロボットカーコンテスト2022において、オンライン部門にて審査員特別賞を受賞した。 ・パソコン甲子園2022において、モバイル部門にてベストアイデア賞を受賞した。 ・令和４年度日本水産学会中部支部大会（オンライン開催）において、優秀発表賞を受賞した。 ・第11回高校・高専気象観測機器コンテストにおいて、最優秀賞、代表理事特別賞を受賞した。 ・「高専GCON2022」において、高専60周年記念賞を受賞した。 ・キャンパスベンチャーグランプリ中部大会において、奨励賞を受賞した。 ・全国高等学校総合体育大会（インターハイ）に少林寺拳法部が出場した。また、全国高等専門学校体育大会に陸上部、水泳部が出場した。 ・全国商船高専漕艇大会においてカッター部Aチームが優勝した。		S
③-2	ボランティアの依頼情報があった場合については、学校内の掲示板等に情報を周知する。地域と連携して学生主体の地域ボランティア活動を促進する。	教務 学生 寮務	学生生活	・視覚障害者が参加する「全国ハンザクラス ブラインドセーリング大会」が伊勢市で開催され、地域支援として本校学生が大会で使用する自動音声ソフトの共同開発を行った。（11/12） ・地域のNPO法人「故郷の海を愛する会」が主催する小中学生向けのイベントに本校学生がスタッフとして参加した。（12/10）		A
③-3	外部の各種奨学金制度については、学内の主要な掲示板に掲載するとともに、関係指導教員にも通知し、学生への情報提供に努める。 更には、「トビタテ！留学JAPAN」プログラムに関する学内説明会を行い、学生の申請を促す。	グローバル教育推進室	学生生活	「トビタテ！留学JAPAN」について、高校生コースおよび大学生コースの次年度募集が開始されたため、全学生に周知すると共に、関係教員に指導を依頼した。 併せて、日本学生支援機構から通知のある上記説明会等を学生全体に周知した。 高校生コースに10名、大学生コースに2名の事前申請があり、応募学生に向けた募集開始の連絡および応募方法等の説明を行った。		A

令和４年度　鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況

令和４年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、本校独自の以下自己評価標語を用いる。

S：計画をはるかに上回る実績を残した
A：達成度 100%以上
B：達成度 70%～100%未満
C：達成度 70%未満
－：該当なし

年度計画		委員会等	事務	計画の進捗状況等 ※コロナに関係するものは赤字	計画に対する課題 ※コロナに関係するものは赤字	鳥羽商船 自己点検評価
（３）多様かつ優れた教員の確保						
①	専門科目担当教員の公募において、応募資格の一つに原則、博士の学位を有する者を掲げる。	教員選考	人事労務	専門科目担当教員の公募において、応募資格の一つに原則、博士の学位を有する者を掲げて選考を行った。		A
②	クロスアポイントメント制度の活用を検討する。	教員選考	人事労務	クロスアポイントメント制度の活用を検討した。		A
③	ライフステージに応じた柔軟な勤務時間制度や同居支援プログラム等の取組を周知する。 また、女性教員の働きやすい環境の整備を進める。		人事労務	ライフステージに応じた柔軟な勤務時間制度や同居支援プログラム等の取組を周知している。育児休業から復帰した女性教員のライフサイクルに合わせ、早出労働勤務・在宅勤務を適用している。育児中の男性教員に、所定外労働の免除、在宅勤務等の配慮を実施している。 女性研究者支援プログラムに応募し採択された。		A
④	外国人教員の積極的な採用について検討する。	教員選考	人事労務	外国人教員の積極的な採用について検討している。		A
⑤	長岡技術科学大学及び豊橋技術科学大学との連携を図りつつ、国立高等専門学校・両技術科学大学間の教員人事交流を可能な限り検討する。	教員選考	人事労務	教員人事交流を検討し申請した。		A
⑥	法人本部主催の研修に教職員を積極的に参加させる。	教務	人事労務	本部主催の新任教員研修（1名）・中堅教員研修（1名）・管理職研修（1名）に参加させた。		A
⑥-2	学内においても教員ファカルティ・ディベロップメントを実施し、教員の能力向上を図る。	教務	教務	8/31に「アドミッションポリシー・ディプローマポリシーで求める学生像の具体化」をテーマとし、グループワーク型ファカルティ・ディベロップメントを実施した。教員15名が参加し、「入口対策」「出口対策」等に対して問題点を抽出し、解決案を検討した。		A
⑦	引き続き教員顕彰等への推薦を行う。	校長	人事労務	教員顕彰への推薦を行った。		A

令和４年度　鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況

令和４年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、本校独自の以下自己評価標語を用いる。

S：計画をはるかに上回る実績を残した
A：達成度 100%以上
B：達成度 70%～100%未満
C：達成度 70%未満
－：該当なし

年度計画		委員会等	事務	計画の進捗状況等 ※コロナに関係するものは赤字	計画に対する課題 ※コロナに関係するものは赤字	鳥羽商船 自己点検評価
（４）教育の質の向上及び改善						
①	・３つのポリシーを時代に合わせて精査しつつ、新たに数理・データサイエンス・ＡＩ教育の実践を取り入れる。 ・モデルコアカリキュラムに基づく教育の実質化を進めるために、WEBシラバスにおいてルーブリックを明示し到達目標を具体化する。 ・アクティブラーニングを積極的に導入し、学生の自主的勉学を促進する。その応用のひとつとしてPBLを推進する。 ・CBTに基づく学習到達度の把握、学習状況調査及び卒業時の満足度調査による教育効果の検証を行う。 ・学内でFDを実施し、活動内容を共有する。	教務	教務	・8月に「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」が認定され、商船学科・情報機械システム工学科において、プログラムを構成する授業科目にて数理・データサイエンス・AIの教育を実践している。 ・いくつかの授業でグループディスカッションやグループワークを取り入れたアクティブラーニングを実施している。 また、情報機械システム工学科では「PBL1」から「PBL4」の授業において1年生から4年生までの学年縦断型のPBL活動を実施した。 ・令和4年度WEBシラバスにてルーブリックを明示し到達目標を具体化している。 ・8月に教員FDを実施し、活動内容については、10月教務委員会、教員会議にて学内共有を行った。		A
②－１	・自己点検及び外部委員による会議にて評価を実施し、教育の質の向上に努める。また、昨年度、トライアル版で実施した教員自己点検評価を本格的に開始する。	点検評価	企画・地域連携	・年度末に実施の運営諮問会議において、外部委員からの評価を受け、教育の質の向上に努めた。 ・教員自己評価について、今年度より本格始動し、教員が自己評価シート入力対象50名中43名が入力し、校長、副校長で一次評価を実施し、教員選考委員会にて最終評価を行った。		A
②－２	・STCW条約（船員の訓練及び資格証明並びに当直の基準に関する国際条約）に基づく資質基準を維持するとともに、同条約に基づいた設備の点検を継続する。	QSS	教務	STCW条約に基づく資質基準の維持に努め、学内でQSS監査を11月に実施した。		A
③－１	・GEARの推進により農林水産業分野を題材とした課題解決型の人材育成を実施する。 ・掛け合わせDX人材のプロジェクトにより海洋・海事DX人材育成を実践する。 ・商船学科の実験実習科目における船員養成カリキュラムにおいて教員・学生が直感的にPBLとなっていることが理解できるように教材などを整備する。 ・工業系学科は１年次からPBL授業が整備されているが、旧来型の実験実習とならない様に課題解決の視点を持った授業を展開していく。 ・地域の自治体と連携し、主に小中学生を対象とした情報プログラミング教育を含むSTEAM教育として公開講座や出前授業を実践する。	教務	教務	・GEAR農水に工業系の３・４・５年生の５０名以上が卒業研究やPBLとして取り組み、課題解決に取り組んでおり、学外コンテストへのエントリー・発表を行なっている。掛け合わせDXでは、教材整備として操船シミュレータ、鳥羽丸の運行映像記録、デジタルファブリケーション機器の調達を進めている。これらを活用した海洋・海自人材育成のための教育体系の見直しを進めている。鳥羽市教育委員会と連携し、小中学生向けのプログラミング講座を新たに立ち上げSTEAM教育を開始した他、皇學館大学とも連携したことで多面的な分野の教育が可能な体制になりつつある。 ・商船学科の教材整備については、PBLに対応した教材を「船舶通信論」で作成し、授業やテストへ展開した。この内容を踏まえて多くの科目に展開する ・PBLの授業で地域で抱えている課題を自治体とのアイデアソン等を通じて調査し、農業・水産、地域の活性化等の多岐にわたるシステムを構築した。 また学内において、ポスターやデモンストレーションを通じてPBLの授業での成果を発表した。 ・小中学生を対象としたSTEAM教育として2回（8月、10月）のプログラミング講座を実施した。また、U16プログラミングコンテスト三重大会を12月に実施した。		A

令和４年度　鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況

令和４年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、本校独自の以下自己評価標語を用いる。

S：計画をはるかに上回る実績を残した
A：達成度 100%以上
B：達成度 70%～100%未満
C：達成度 70%未満
－：該当なし

年度計画		委員会等	事務	計画の進捗状況等 ※コロナに関係するものは赤字	計画に対する課題 ※コロナに関係するものは赤字	鳥羽商船 自己点検評価
③－２	包括連携協定を結んでいるKDDI・KDDI総研と共同で、モバイルシステムやモバイルプログラミング向けの教育コンテンツを開発する。また、三重県が実施する「みえ創業チャレンジスクール」と連携し、４年生のビジネス基礎において有名起業家の講演、ワークショップを開催し持続的に実施できる教材を開発する。その他、鳥羽商船高専連携協力会の会員企業と連携した教育コンテンツの開発について検討・実践を行う。 新型コロナウィルスに対する感染防止に注意しながら、企業とのインターンシップをオフラインで実施できるように検討しながら共同教育の実践を進める。 これらの取り組み事例を取りまとめ、テクノセンター報などに掲載することで、各国立高専への周知を行う。	研究主事	企画・地域連携	・KDDIから講師を招いて４・５年生向けに実施したモバイルシステム・モバイルプログラミングにおいて５Gの原理や応用方法などについての講義を実施した。４年生のビジネス基礎においては、三重県とも連携し伊勢市出身の起業家を招いてビジネスプランの立案と発表を実施、起業家からのフィードバックを受けている。なお、これらの講義で利用した資料は共有されており、今後の授業でも活用していく。 ・連携協力会の企業向けにAI/IoTの講座を2/3、2/27に開催し、地域の企業ニーズを調査しながらコンテンツの充実を進めた。 ・新型コロナウィルスに対する感染防止に配慮しつつ、対面でのインターンシップも実施できた。 ・テクノセンター報を年度末に取りまとめ、HPに掲載するだけでなく各高専へメールで案内を出していく。		S
③－３	リテラシ教育においては、引き続きＩＴパスポート試験・情報セキュリティマネジメント試験・基本情報技術者試験等の問題を教材として活用する。また、K-SEC提供のサイバーセキュリティ教材等を用いた実践教育の導入を引き続き進め、実践的なサイバーセキュリティ人材の育成に務める。三重県警サイバー犯罪対策課やMie CS-ISACの枠組みを活かし、情報共有や講習を通じて教員の指導力向上に繋げることで、サイバーセキュリティ教育の高度化をはかる。DXに係るサイバーセキュリティ人材育成のための学生ポートフォリオとして学生・保護者用ポータルサイトを構築し、運用する。	情報メディア教育センター	総務	・三重県警サイバー犯罪対策課協力による公開講座を12/4に実施した。K-SEC提供のサイバーセキュリティ教材を制御情報工学科5年生「ネットワークシステム」等で活用した。 ・三重県警サイバー犯罪対策課やMie CS-ISACの枠組みを活かし、サイバー防犯ボランティアとして11/5の三重県警イベントに参加した。また11/16にはサイバー犯罪対策課の方に学生向け講話を実施した。		A
④	高等専門学校教育の高度化に向けて、技術科学大学との間で定期的な連携・協議の場を設け、ビデオ教材等を活用した教育、教員の研修、国立高等専門学校と技術科学大学との間の連携教育、人事交流などの分野で有機的な連携を推進する。	教員選考	人事労務	技術科学大学との人事交流について検討した。		A

令和４年度　鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況

令和４年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、本校独自の以下自己評価標語を用いる。

S：計画をはるかに上回る実績を残した
A：達成度 100%以上
B：達成度 70%～100%未満
C：達成度 70%未満
－：該当なし

	年度計画	委員会等	事務	計画の進捗状況等 ※コロナに関係するものは赤字	計画に対する課題 ※コロナに関係するものは赤字	鳥羽商船 自己点検評価
（５）学生支援・生活支援等						
①	精神科医１名（月１日）、カウンセラー２名（月１日、週１日）を配置し、面接及び必要に応じて電話相談を実施する。学生相談室においては、心理的専門資格を有するものを非常勤職員として配置し、学生の相談を受け付ける。 スクールソーシャルワーカー（月２日）を配置し、学生支援体制の拡充を図る。 　また、外部専門家を招聘しての研修・講演会を実施する。	学生	学生生活	・学生相談は、教職員での対応のほか、精神科医1名及び臨床心理士2名、計3名の専門職で必要に応じて実施している。 ・学生に対し、いじめアンケートを3回（6月、10月、12月）実施し、結果に基づきいじめ防止対策委員会を開催した。 （6/14、6/21、8/9、10/25、11/8、12/6、1/19、2/20に開催）状況確認を行い随時個別対応を行った。 また、学期開始の全校集会時に学生主事より注意喚起を行った。（4月、9月） ・高専生活に関するアンケートを2回（7月、11月）実施し、要観察学生に対しては、学生相談室長等による面談を実施した。 ・教職員に対し、いじめ防止関連の研修として、スクールカウンセラーによる講演を録画視聴にて実施した。（9/5） ・学生に対し、スクールカウンセラーによるいじめ防止の講演を録画視聴にて実施した。（1/25）		A
②	奨学金制度を多くの学生が活用できるように、新入生入学時の説明会における案内や学内、ホームページへの情報掲載を行い利便性を図る。	学生	学生生活	・新入生入学説明会時に主だった貸与奨学金の案内を行った。 ・ホームページにも主な貸与奨学金情報を掲載し周知した。 ・Teamsの全校学生向けチーム内のチャンネルにて、随時奨学金の募集を案内した。		A
③	・学生のキャリア教育の統括的な支援について、鳥羽商船高専連携協力会や同窓会の協力も得ながら実践を行う。 ・１、２年生については学科横断的に社会人基礎力の養成を行う。 ・３年生以上については、それぞれの学科の特徴を活かした就職力の養成を行う。	キャリア教育推進室	学生生活	(1)社会人基礎力養成 ・新入生オリエンテーション（コミュニケーション力向上）を実施した。（4/22） ・ピアサポーター養成トレーニングを遠隔により実施。スクールカウンセラーによる講演会やグループワークを行った。（9/17） (2)就職力養成 ①人材広告企業による遠隔講義 ・工業系3、4年生を対象としたWeb 適性検査と就職活動講座を実施した。（11/15） ・工業系3、4年生を対象とした面接対策講座を実施した。（11/22） ②セミナー ・校内就職支援セミナーを実施した。（12/9、12/10 Zoomによる Web形式、101社参加）		A

令和４年度　鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況

令和４年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、本校独自の以下自己評価標語を用いる。

S：計画をはるかに上回る実績を残した
A：達成度 100%以上
B：達成度 70%～100%未満
C：達成度 70%未満
－：該当なし

年度計画		委員会等	事務	計画の進捗状況等 ※コロナに関係するものは赤字	計画に対する課題 ※コロナに関係するものは赤字	鳥羽商船 自己点検評価
１．２ 社会連携に関する事項						
①	教員の研究分野や研究成果については、Researchmapなどへ最新の情報を掲載する。また、シーズ集を作成することはもちろん、共同研究、受託研究の成果をまとめ、テクノセンター報に掲載しホームページに掲載する他、鳥羽商船連携協力会の会員企業向けへの案内を行う。	研究主事	企画・地域連携	教員の研究分野や研究成果について、科研費の審査員も閲覧する可能性が高いResearchmapへ最新の情報を掲載するように依頼済み。また、年度はじめにシーズ集を作成、共同研究、受託研究の成果をまとめた上で、年度末に作成するテクノセンター報に掲載し、ホームページに掲載する他、鳥羽商船連携協力会の会員企業向けへの案内を行った。		A
②	KRA、テクノセンター、鳥羽商船高専連携協力会、高専研究ネットワーク等を活用し、産業界や地方公共団体との新たな共同研究・受託研究の受け入れを促進する。 技術マッチングのイベント等でその成果の情報発信を行うとともに、知的資産化など社会還元に努める。	テクノセンター	企画・地域連携	KRAから発信される公募情報を参考に、高専研究ネットワーク等と調整しながら共同研究・受託研究を実施している。 ・NICT：ブルーカーボン貯留量の自動計測システムの開発による漁村の脱炭素・収益向上に向けた取り組み（KDDIなど） ・総務省：ローカル5Gを活用したAI画像認識によるブリ養殖の効率化に向けた実証（ZTVなど） ・農研機構：中山間カンキツ産地における人・もの・土地のシェアリングによるサステナブル産地モデルの実現（三重県など） これらの成果はアグリビジネス創出フェア、シーフードショーなどで情報発信するとともに、知財への登録手続きをすすめている。		S
③-1	（機構本部のみの計画のため、省略）					
③－２	・学校行事、各種イベント開催、コンテスト結果等について積極的にプレスリリースする。 ・学校公式YouTube及び学校公式Facebookにて広報活動を行う。	広報・公開	総務	・学校行事や学生の活躍について、学校のホームページに掲載することはもちろん、高専機構本部が推奨するPR-TIMESを通じたプレスリリースや文教ニュースへの投稿、地元記者クラブへの取材依頼などを実施し、昨年度以上のメディア掲載件数（156件）が見込まれる（現在149件）。また、SNSなどインターネットによる配信の充実を図るため、既存の鳥羽商船高専に関するSNSを整理すると共に発信のガイドラインを作成し、公式YouTubeチャンネルを開設し、学校全般に係る動画を投稿している。		S
	・一般市民の利用促進のため、ホームページに図書館の利用案内の情報を掲載する。	図書紀要	図書	ホームページに図書館の利用案内の情報を掲載し、一般市民の利用促進を行っている。また、鳥羽市の公式SNS（Facebook, Twitter）に図書館の紹介記事を掲載してもらうことで新たな情報発信も行った。		A
１．３ 国際交流等に関する事項						
①-1	機構本部、関係機関との組織的・戦略的な連携の下に、相手国と連携・協議しつつ、その要請及び段階等に応じた支援に取り組む。	グローバル教育推進室	総務担当補佐	従来実施してきた国際交流事業について、コロナ禍においても実施できるような方法について関係各機関と検討している。 渡航ができない段階や渡航制限や渡航後の隔離などの規制が緩和された段階、各段階に応じた実施方法などを都度検討し、新型コロナウイルス感染症が終息した際に従来の事業が再開できるよう努めた。		B
①-2～①-5	（機構本部のみの計画のため、省略）					

令和４年度　鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況

令和４年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、本校独自の以下自己評価標語を用いる。

S：計画をはるかに上回る実績を残した
A：達成度 100%以上
B：達成度 70%～100%未満
C：達成度 70%未満
－：該当なし

年度計画		委員会等	事務	計画の進捗状況等 ※コロナに関係するものは赤字	計画に対する課題 ※コロナに関係するものは赤字	鳥羽商船 自己点検評価
②	・学生に限らず教職員が国際化の重要性を認識するために、グローバル教育推進室を中心として「KOSEN」の海外展開を促進する活動を実施する。	グローバル教育推進室	総務担当補佐	海外留学を経験した学生の発表を、学生だけでなく教職員にも案内し参加を促すことで、学校全体の国際化の重要性の普及に努めた。 発表の様子は学内関係者限定で視聴できるようにした。 また教職員の英語力向上に向けて、学生に向けて開催したTOEIC対策特別講座を教職員の参加も可能にした。 タイ高専への教員派遣に向けた推薦を行った。 タイ高専審査員として本校英語科教員が業務担当している。		A
③-1	学生が海外で活躍する機会を後押しするために、学生派遣を実施しているMELキャンプ等や逆に本校に短期留学生を受け入れて実施するプログラムを複数用意している。「鳥羽商船高等専門学校の主催事業における海外渡航及び滞在に関する実施基準」に沿って、その具体的なプログラム内容を精査して改善を推進する。また、海外留学を経験した学生に積極的に学内で発表を行わせ、海外留学未経験の学生の留学意欲を向上させる。【再掲】	教務 グローバル教育推進室	学生生活	新型コロナウイルス感染症による入出国規制は緩和され始めており、渡航を伴った国際交流事業も再開されているものもある。 渡航を伴うプログラムに学生から1件の申し込みがあったが、事業のプログラムと当該学生の専攻分野の間に乖離があったことから、今年度の申し込みは見送ることとした。 代わりに、当該学生の専攻とも合致する内容のプログラムを案内し、次年度以降の参加に向けて指導を行う予定とした。 一方、昨今の円安に伴う海外渡航費等の高騰から、例年と同等の金額で例年通りのプログラムを実施することが困難となっている。 一部の派遣プログラムにおいて、為替の影響により今年度はオンラインで実施せざるを得なくなったが、本校から8名の学生が参加する予定である。 また本プログラムについては次年度以降の現地開催に向けて、現行プログラムの見直し、検討を行っている。 また海外渡航プログラムの新規策定を視野に入れて、駐日ニュージーランド大使館等が主催する説明会に参加したり、タイ高専やモンゴル高専とのオンライン交流を試験的に実施する（11名参加）等の準備を行っている。 昨年度オンラインで参加した国際交流プログラムについては、参加学生による報告会を開催し、学生の留学意欲の推進、向上を計った。(10/26)【再掲】		
③-2	オンラインによる海外教育機関の留学生との交流に加え、短期留学生を積極的に受け入れて、日本人学生と交流させることにより、日本国内でも国際コミュニケーション力を向上させる。 学外講師を招いて実施するTOEIC対策特別講座などを通じて、積極的な支援を行う。【再掲】	グローバル教育推進室	学生生活	短期留学生の受け入れについて、本校では夏期と春期に受入プログラムを計画し、実施に向けた準備、調整を行っていた。 夏期プログラムについては、今年夏ごろまで新型コロナウイルス感染症による入出国規制が厳しかったことから、派遣元の学校で実施される予備学修が不十分となった。 春期プログラムについても、派遣元の学校で実施する見通しが立っていない様子であった。 そのため、今年度は短期留学生の受け入れは実施できなかった。 本校学生のTOEICを通じた英語力の向上に向けては、外部講師を招聘しTOEIC対策特別講座を実施し、20名の学生が参加した。（10/8～10）【再掲】		

令和４年度　鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況

令和４年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、本校独自の以下自己評価標語を用いる。

S：計画をはるかに上回る実績を残した
A：達成度 100%以上
B：達成度 70%～100%未満
C：達成度 70%未満
－：該当なし

年度計画		委員会等	事務	計画の進捗状況等 ※コロナに関係するものは赤字	計画に対する課題 ※コロナに関係するものは赤字	鳥羽商船 自己点検評価
③-3	外部の各種奨学金制度については、学内の主要な掲示板に掲載するとともに、関係指導教員にも通知し、学生への情報提供に努める。 更には、「トビタテ！留学JAPAN」プログラムに関する学内説明会を行い、学生の申請を促す。 【再掲】	グローバル教育推進室	学生生活	「トビタテ！留学JAPAN」について、高校生コースおよび大学生コースの次年度募集が開始されたため、全学生に周知すると共に、関係教員に指導を依頼した。 併せて、日本学生支援機構から通知のある上記説明会等を学生全体に周知した。 高校生コースに10名、大学生コースに2名の事前申請があり、応募学生に向けた募集開始の連絡および応募方法等の説明を行った。 【再掲】		
④-1	※ホームページ関係については、②－２にて記載済み。		総務 総務担当補佐	自動翻訳メニューを含めた学校ホームページを構成して掲載している。 令和5年2月には英語への自動翻訳ページを閲覧したUAEの「Abu Dhabi Maritime Academy」から連絡があり、令和5年4月の本校訪問につながった。 　また、高専機構本部情報企画課と豊田高専から、本校が使用しているホームページ自動翻訳ツールの導入を検討しているため、ツールの使用感等について情報共有してほしいと問い合わせがあった。【再掲】		
④-2	日タイ産業人材育成協力イニシアティブに基づく留学生の受入を引き続き検討する。		学生生活	新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑み、現在は渡航を中止している。	新型コロナウイルス感染症の感染状況による。	―
⑤	令和元年度に作成した「鳥羽商船高等専門学校の主催事業における海外渡航及び滞在に関する実施基準」に沿った危機管理措置を講じ、海外渡航時の安全面への配慮を行う。また、外国人留学生に関しては、資格外活動状況のヒアリングを定期的に実施する。		学生生活	外務省が定めるガイドラインを定期的に確認すると共に、本校が作成した「鳥羽商船高等専門学校の主催事業における海外渡航及び滞在に関する実施基準」に沿って判断し、本校を通じて行う渡航を伴う国際交流事業の再開を検討している。また、外国人留学生については、ヒアリングを実施して生活状況を確認した。		A

令和４年度　鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況

令和４年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、本校独自の以下自己評価標語を用いる。

S：計画をはるかに上回る実績を残した
A：達成度 100%以上
B：達成度 70%～100%未満
C：達成度 70%未満
－：該当なし

年度計画	委員会等	事務	計画の進捗状況等 ※コロナに関係するものは赤字	計画に対する課題 ※コロナに関係するものは赤字	鳥羽商船 自己点検評価
２．１　一般管理費等の効率化					
・事務の効率化及び管理経費の削減を推進する。	事務部 校長	総務課 学生課 （総務課財務担当補佐）	電気代の高騰により、7/1～9/30まで、各化粧室設備等の温度設定をオフにすることにより、電気代の節約を行った。		A
２．２　一般管理費等の効率化　（機構本部のみの計画のため、省略）					
２．３　契約の適正化					
・引き続き真にやむを得ない場合を除き一般競争入札等によることを徹底する。 ・鈴鹿高専とのさらなる共同調達を検討する。また、物品の低廉な調達を目指し、近隣高専、大学との連携の在り方を探る。 ・入札結果等、公開可能な契約情報をホームページ上に公開する。		調達	・引き続き真にやむを得ない場合を除き一般競争入札等によることを徹底している。 ・今年度については、共同調達案件はなかった。 ・入札結果等、公開可能な契約情報をホームページ上に公開する予定である。		A
３ 予算（人件費の見積もりを含む。）、収支計画及び資金計画					
３．１　一般管理費等の効率化　（機構本部のみの計画のため、省略）					
３．２ 外部資金、寄附金その他自己収入の増加					
鳥羽商船高専連携協力会の会員企業と積極的に交流を行い、共同研究・受託研究を推進する。 　外部資金の獲得については、研究助成に対する応募を積極的に行うために、テクノセンターの研究支援部門が公募情報の案内や申請書の執筆支援を行う。 　同窓会とも連携し、創基１５０周年の記念事業に向けた基金の設置を行い、寄付活動を推進し、これらの募集には寄付者にとって利便性の高い決済手段を導入し、ホームページ等で適切な案内を行う。	研究主事	企画・地域連携	科学研究費については、全教員・技術職員の申請を推進し、校内査読を実施し申請率９８％となった。 各種公募情報に基づき、外部資金への応募も推進した結果、A-STEP、NEDO、NICT、総務省、農研機構など多くの受託研究・共同研究が受託できている。（２０件、２６，６０６千円） 創基１５０周年の記念事業に関する委員会を組織し、基金を立ち上げ、寄付活動を推進するため、近隣の商工会議所、同窓会や連携協力会の会員向けに案内を行っている。		A
４　短期借入金の限度額　（機構本部のみの計画のため、省略）					
５　不要財産の処分に関する計画　（機構本部のみの計画のため、省略）					
６　重要な財産の譲渡に関する計画　（機構本部のみの計画のため、省略）					
７　剰余金の使途　（機構本部のみの計画のため、省略）					

令和４年度　鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況

令和４年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、本校独自の以下自己評価標語を用いる。

S：計画をはるかに上回る実績を残した
A：達成度 100%以上
B：達成度 70%～100%未満
C：達成度 70%未満
－：該当なし

年度計画		委員会等	事務	計画の進捗状況等 ※コロナに関係するものは赤字	計画に対する課題 ※コロナに関係するものは赤字	鳥羽商船 自己点検評価
８．その他主務省令で定める業務運営に関する事項						
８．１ 施設及び設備に関する計画						
①－１	・「国立高等専門学校機構施設整備５か年計画」に基づき、高専教育の高度化への対応を目指し、「ものづくり」を先導する人材育成の場にふさわしい基盤的環境を整備するため、実習工場の物品移転及び電気工事を９月末までに完了させる。 ・荒天航泊実験棟の改修を２月末までに完了し、実習工場に続き、実践的技術力を備えた人材育成の場にふさわしい基盤的環境を整備し、実験実習及び研究調査活動の活性化を図る。	校長 情報メディア教育センター 施設環境整備	財務担当補佐 総務 施設	実習工場の物品移転は5/31に完了した。また、電気工事については、6/24に完了した。また、大型機器の据付調整等業務についても9/15に完了した。まだ、一部機器の調整がまだであるが、今後業者依頼を行い、令和5年3月までに完了する予定である。 ・荒天航泊実験棟の改修については、9/1より工事を開始し工期内に完了した。		A
	・ラーニング・コモンズの具体的教育活用を進めつつ、並行して図書、学術雑誌、視聴覚資料等の収集及び当該業務の電子化・効率化を通じて、図書館の学習支援機能の強化を図ることで、本校における情報メディア教育を充実させる。	図書紀要	図書	公開講座やクラブ活動において、ラーニングコモンズに設置した大型ディスプレイやホワイトボードを活用している。また、学生から要望がある図書の購入を推進するためにオンラインブックハンティングを実施した。		A
①-２	昨年に引き続き暁寮食堂、隣接する暁寮浴室について非構造部材の劣化が見受けられるため、引き続き改修工事の要求を実施する。	施設環境整備	施設	国際寮（仮称）の新設要求に併せて、暁寮食堂、暁寮浴室の概算要求で予算要求を行った。概算要求で賄えない部分改修については、引き続き改修工事の要求した。		A
②	・学生及び教職員を対象に、「実験実習安全必携」を配付するとともに、安全衛生管理のための各種講習会を実施する。	安全衛生	人事労務	AED講習会の開催を企画し、１１月～１月で３回実施した。１５名が受講した。 学校行事の前に、AED講習会を対象学生向けに簡易的に実施した。		A
②-２	・「実験実習安全必携」を学生に周知し、安全管理を促す。	安全衛生	教務	「実験実習安全必携」を学生便覧に盛り込み、学生へ配布した。		A
③	概算要求、営繕要求での建物改修時に男女共同参画を鑑みた内容での計画を検討していく。	施設環境整備	施設	今後の女子学生の増加も考慮した内容で、WGや関係部署と協議・検討を進め、教室や女子学生ロッカーの整備を行った。		A

令和４年度　鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況

令和４年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、本校独自の以下自己評価標語を用いる。

S：計画をはるかに上回る実績を残した
A：達成度 100%以上
B：達成度 70%～100%未満
C：達成度 70%未満
－：該当なし

年度計画		委員会等	事務	計画の進捗状況等 ※コロナに関係するものは赤字	計画に対する課題 ※コロナに関係するものは赤字	鳥羽商船 自己点検評価
８．２ 人事に関する計画						
（１）方針						
①	課外活動、寮務等の見直しとして、外部人材やアウトソーシング等の活用を促進する。		人事労務 学生生活	引き続きバスケットボール部、水泳部、バドミントン部、卓球部、柔道部の外部指導員を雇用した。 寮の当直者を雇用した。		A
②	教員人員枠削減の完成年度である令和５年度末に向けて適切に人員枠の管理をすすめるとともに限られた枠内での再配分が可能か検討する。	教員選考	人事労務	校長・副校長を中心に人員枠の再配分について検討した。女性教員新規採用者数増加のための教員人員枠の特例措置を申請し承認された。		A
③	若手教員確保のため、教員人員枠の弾力化を行う。	教員選考	人事労務	校長・副校長を中心に長期的な視点に立ち、検討した。		A
④-1	専門科目担当教員の公募において、応募資格の一つに原則、博士の学位を有する者を掲げる。【再掲】	教員選考	人事労務	専門科目担当教員の公募において、応募資格の一つに原則、博士の学位を有する者を掲げて選考を行った。【再掲】		
④-2	クロスアポイントメント制度の活用を検討する。【再掲】	教員選考	人事労務	クロスアポイントメント制度の活用を検討した。【再掲】		
④-3	ライフステージに応じた柔軟な勤務時間制度や同居支援プログラム等の取組を周知する。 また、女性教員の働きやすい環境の整備を進める。【再掲】		人事労務	ライフステージに応じた柔軟な勤務時間制度や同居支援プログラム等の取組を周知している。育児休業から復帰した女性教員のライフサイクルに合わせ、早出労働勤務・在宅勤務を適用している。育児中の男性教員に、所定外労働の免除、在宅勤務等の配慮を実施している。 女性研究者支援プログラムに応募し採択された。【再掲】		
④-4	外国人教員の積極的な採用について検討する。【再掲】	教員選考	人事労務	外国人教員の積極的な採用について検討している。【再掲】		
④-5	男女共同参画室を中心に、男女共同参画に関する意識啓発のため、関連情報を教職員へ提供し、外部が主催する男女共同参画に関する研修等に教職員を積極的に参加を促す。また、学生に対しても様々な意識啓発を行い、関連する各種イベントへの参加を促す。	男女共同参画推進室長	総務	Teamsに男女共同参画に関するイベント等を発信するチームを作成し、教職員、学生へ随時情報発信を行った。今年度は、女子学生エンパワーメントプログラム2022年にのべ7名の女子学生が参加した。高専GCON2022には２チームがエントリーし、１チームは本選へ出場し、高専60周年記念賞を受賞した。		A
⑤	教職員の積極的な人事交流を進め、多様な人材育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し資質の向上を推進する。		人事労務 教務	・職員の人事交流を実施している。 ・校内の新任教職員研修を実施している。新たに事務職員向けの語学研修を企画・実施した。 ・8/31に「アドミッションポリシー・ディプローマポリシーで求める学生像の具体化」をテーマとし、グループワーク型ファカルティ・ディベロップメントを実施した。教員15名が参加し、「入口対策」「出口対策」等に対して問題点を抽出し、解決案を検討した。		A

令和４年度　鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況

令和４年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、本校独自の以下自己評価標語を用いる。

S：計画をはるかに上回る実績を残した
A：達成度 100%以上
B：達成度 70%～100%未満
C：達成度 70%未満
－：該当なし

年度計画	委員会等	事務	計画の進捗状況等 ※コロナに関係するものは赤字	計画に対する課題 ※コロナに関係するものは赤字	鳥羽商船 自己点検評価
（２）人員に関する指標（機構本部のみの計画のため、省略）					
８．３ 情報セキュリティについて					
「政府機関等のサイバーセキュリティ対策のための統一基準群」に基づき、本校のセキュリティポリシー関連規則の恒常的アップデートをはかる。また、Azure Information Protection (AIP)やAzure Rights Management service (Azure RMS)等のInformation Rights Management (IRM)活用に関する周知および運用方法の提案を行い、職責等に応じて必要となる実践的な情報セキュリティ教育を実施する。 「すぐやる３箇条」を周知徹底し、定期的にセキュリティインシデントの予防および被害拡大を防ぐための啓発として事例紹介等を実施する。また、セキュリティ管理委員会を開催し、前述のセキュリティ教育状況について受講数等推進状況を確認し、必要があれば対策の有効性について議論・見直しを行う。高度化する情報セキュリティリスクに対応するために、学外機関と連携しMieCS-ISACに参画し、外部セキュリティコンサルやアンチウイルスベンダーおよび近隣地域機関と共同で情報セキュリティインシデントの予防活動に取り組む。 DX人材育成のためBYOD端末活用を促進する。しかしながら、BYOD端末の持ち込みは学内ネットワークのセキュリティリスクを高める問題がある。その対策としてBYOD端末の運用を前提としたセキュリティアプライアンスを導入する。	情報メディア教育センター	総務	・公開部会ワーキングとも連携しSNS使用に関するガイドライン等諸規則の整備を行った。 ・Information Rights Management (IRM)を活用した教育に必要な機密性情報をセキュアに共有する仕組みを構築し、使用方法等を学内に周知した。 ・高度化する情報セキュリティリスクに対応するために、アンチウイルスベンダーであるトレンドマイクロのセキュリティ専門家による講義を12/7に実施した。 ・近隣地域機関と共同で情報セキュリティインシデントの予防活動に取り組むため11/5の三重県警イベントに運営として参加協力を行った。 ・BYOD端末の学内持ち込みに対する対策としてセキュリティアプライアンスを導入した。		A
８．４ 内部統制の充実・強化					
①-1 ～ ②-1	（機構本部のみの計画のため、省略）				
②－２	高専機構作成「コンプライアンス・マニュアル」及び「セルフチェックリスト」により、教職員のコンプライアンスの向上を図る。	校長	総務	本部から2/6に「コンプライアンス・マニュアル」及び「セルフチェックリスト」が送付され、2/8に総務係から全教職員へ周知し、セルフチェックを実施した。		A
②-3 ～ ③	（機構本部のみの計画のため、省略）				
④	公的研究費等に関する不正使用の防止策を確実に実施するとともに、教職員に対し、コンプライアンス教育研修を実施し、不適正経理の防止についての周知を行う。また、研究倫理教育を行う（eラーニングにて実施）。	校長	財務・経理	4月当初に全教職員宛に「公的研究費使用マニュアル」をメールで周知し，公的研究費使用ルールの確認を定期的に意識づけている。 新規採用の教職員には都度マニュアルを配付し，公的研究費の使用ルールについて説明している。 四半期に一度、全教職員に向けて公的研究費の不正使用防止のための啓発をメールにて行っている。 コンプライアンス研修については2～3月にeラーニングにて実施する予定である。		A

独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画
（令和４年度）

独立行政法人通則法（平成 11 年法律第 103 号）第 31 条の規定により、平成 31 年３月 29 日付け 30 受文科政第 132 号で認可を受けた独立行政法人国立高等専門学校機構（以下「機構」という）の中期目標を達成するための計画（中期計画）に基づき、令和４年度の業務運営に関する計画を次のとおり定める。

１．国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置

１．１ 教育に関する事項

（１）入学者の確保

①－１　入学希望者を対象としたホームページコンテンツの充実や、全日本中学校長会、地域における中学校長会等への広報活動を行い、国立高等専門学校の特徴や魅力を発信する。

また、中学生及びその保護者等を対象に国公私立の高等専門学校が連携して合同説明会を開催することにより、組織的、戦略的な広報活動を行い入学者の確保に取り組む。

さらに、高専制度創設 60 周年に際して、一般社団法人全国高等専門学校連合会等の関係団体と連携の上、様々な広報活動を行う。

①－２ 各国立高等専門学校は、入学説明会、体験入学、オープンキャンパス、学校説明会等（女子中学生含む）の機会を活用することにより、入学者確保のための国立高等専門学校の特性や魅力を発信する。

②－１ 女子中学生向け広報資料を活用した広報活動や、オープンキャンパスの女子学生を対象としたブース出展、国立高等専門学校の女子学生が研究紹介等を行う高専女子フォーラム等

の機会を活用することにより、女子学生の確保に向けた取組を推進する。

②－２　留学生の確保に向けて、以下の取組を実施する。

・諸外国の日本国大使館等への広報活動を実施する。

・ホームページの英語版コンテンツの充実や説明会等の機会を通じ、高等専門学校教育の特性や魅力について情報発信を強化する。

③　国立高等専門学校の教育にふさわしい充分な資質、意欲と能力を持った多様な入学者を確保するため、令和２年度に策定した作問ポリシーに基づき、「思考力・判断力・表現力」をより重視した入学者選抜学力検査を引き続き実施する。

また、受験生の利便性を向上させるため、居住地の近くの高専等で受験が可能となる「最寄り地等受験」について、令和２年度及び令和３年度の実施結果を踏まえ、受験会場の拡大等により充実させる。

さらに、Web 出願について、令和３年度に一部の国立高等専門学校で試行的に実施した結果を踏まえ、令和４年度においては、全国立高等専門学校での Web 出願システムの導入を進める。

加えて、受験生の志望校の選択肢を広げるため、一度の学力検査で複数の国立高等専門学校の志望が可能となる「複数校志望受験制度」を推進する。

（２）教育課程の編成等

①－１　法人本部がイニシアティブを取って各国立高等専門学校の強み・特色をいかした学科再編、専攻科の充実等を促すため、法人本部の関係部署が連携をとり、各国立高等専門学校の相談を受け、組織的に指導助言を行っていく。

①－２　国立高等専門学校の専攻科及び大学が連携・協力し、そ

れぞれの機関が強みを持つ教育資源を有効に活用しつつ、教育内容の高度化を図ることを目的とした連携教育プログラムを推進する。また、社会ニーズを踏まえた高度な人材育成に取り組むため、産業界と連携したインターンシップ等の共同教育や、各国立高等専門学校の特色をいかした共同研究を実施する。

さらに、民間企業等と連携し、高等専門学校教育に実務家教員の登用を推進する。

②－１　学生が海外で活動する機会を後押しする体制の充実のため、以下の取組を実施する。

・「日本型高等専門学校教育制度（KOSEN）」の導入支援対象校やこれまで学生交流協定を締結している海外教育機関を中心として単位認定制度の整備や単位互換協定の締結を推進する。

・海外の教育機関との包括的な協定の締結などにより、組織的に海外留学や海外インターンシップ、学生交流を推進する。

②－２　学生の英語力、国際コミュニケーション力の向上や海外に積極的に飛び出すマインドを育成する取組を実施する国立高等専門学校への重点的な支援を行う。

③－１　公私立高等専門学校と協力して、学生の意欲向上や国立高等専門学校のイメージの向上に資する「全国高等専門学校体育大会」や、「全国高等専門学校ロボットコンテスト」等の全国的な競技会やコンテストの活動を支援する。

③－２ 学生へのボランティア活動の参加意義や災害時におけるボランティア活動への参加の奨励等に関する周知を行う。また、顕著なボランティア活動を行った学生及び学生団体の顕彰、学生評価への反映などによりボランティア活動の参加を推奨する。

③－３　「トビタテ！留学 JAPAN」プログラムをはじめとする外部の各種奨学金制度等の情報を収集するとともに、学生が積極的に活用できるよう促すことで、学生の国際会議の参加や海外留学等の機会の拡充を図る。

（３）多様かつ優れた教員の確保

①　専門科目担当教員の公募において、応募資格の一つとして、博士の学位を有する者を掲げることを原則とするよう、各国立高等専門学校に周知する。

②　クロスアポイントメント制度の実施を推進する。

③　ライフステージに応じた柔軟な勤務時間制度や同居支援プログラム等の取組を実施する。

　また、女性研究者支援プログラムなどの実施により女性教員の働きやすい環境の整備を進める。

④　外国人教員を積極的に採用した国立高等専門学校への支援を行う。

⑤　長岡技術科学大学及び豊橋技術科学大学との連携を図りつつ、国立高等専門学校・両技術科学大学間の教員人事交流を実施する。また、国立高等専門学校間の教員人事交流についても実施する。

⑥　法人本部による研修又は各国立高等専門学校におけるファカルティ・ディベロップメントを実施するとともに、学校の枠を超えた自主的な活動を推奨する。

　なお、教員の能力向上を目的とした各種研修について、専門機関等と連携し企画・開催する。

⑦　教育活動や生活指導などにおいて、顕著な功績が認められる教員や教員グループを表彰する。

（４）教育の質の向上及び改善

① 法人本部及び各国立高等専門学校は、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーのふさわしさなどを組織的に精査するとともに、モデルコアカリキュラムに基づく教育の実質化を進め、教育実践の PDCA サイクルを機能、定着させるため、以下の項目について重点的に実施するとともに、高校の新学習指導要領を参考にしつつ、令和５年度の公開に向けてモデルコアカリキュラムの改訂を進める。併せて、教育内容の豊富化及び教育指導の質の向上とともに、学生の主体的な学びの促進及び個別最適な学びの支援を図るため、国立高等専門学校間の教材の共有や、授業科目の履修・単位の互換認定を推進する。

[Plan] WEB シラバスにおけるルーブリックの明示による到達目標の具体化・共有化

[Do] アクティブラーニングの実施状況の確認と全国立高等専門学校への好事例の共有

[Check] CBT（Computer-Based Testing）を用いた学習到達度の把握、学習状況調査及び卒業時の満足度調査の実施による教育効果の検証

[Action] 教育改善に資するファカルティ・ディベロップメント活動の推進及びそれらの活動内容の収集・公表

② 各国立高等専門学校の教育の質の向上に努めるため、自己点検・評価及び高等専門学校機関別認証評価を計画的に進めるとともに、評価結果の優れた取組や課題・改善点については、各国立高等専門学校において共有・展開する。

また、モデルコアカリキュラムに基づく国立高等専門学校の本科における教育の質保証の枠組の導入を推進する。

③－１ 各国立高等専門学校において、地域や産業界が直面する課題解決を目指した課題解決型学習 PBL（Project-Based Learning）の導入を推進する。

また、地域の自治体等と連携し、小中学生・高校生を対象とした情報プログラミング教育を含むSTEAM教育の支援を行い、地域の理工系人材の早期発掘及び人材育成を推進するとともに、国立高等専門学校におけるSTEAM教育の高度化を図る。

③－２　企業と連携した教育コンテンツの開発を推進しつつ、インターンシップ等の共同教育を実施し、その取組事例を取りまとめ、各国立高等専門学校に周知する。

③－３　セキュリティを含む情報教育について、関係する外部機関と連携し教員の指導力向上を図ることにより、教育内容の高度化に向けた取組を進める。

④　高等専門学校教育の高度化に向けて、技術科学大学との間で定期的な連携・協議の場を設け、ビデオ教材等を活用した教育、教員の研修、国立高等専門学校と技術科学大学との間の連携教育、人事交流などの分野で有機的な連携を推進する。

（５）学生支援・生活支援等

①　各国立高等専門学校の学生相談体制の充実のため、カウンセラー及びソーシャルワーカー等の専門職の配置を促進するとともに、各国立高等専門学校の学生指導担当教職員に対し、障害を有する学生への支援を含めた学生指導に関し外部専門家の協力を得て、具体的事例等に基づいた実効性のある研修を実施する。

②　高等教育の修学支援新制度などの各種奨学金制度に係る情報が学生に適切に行き渡るよう、法人本部が中心となり各国立高等専門学校に積極的な情報提供を行う。また、ホームページや刊行物などの活用や様々な機会を利用して税制上の優遇措置について、適切に情報提供し、理解の拡大を図ること等により、産業界など広く社会からの支援による奨学金制度の充実を図る。

③　各国立高等専門学校において、入学時から卒業時までの計画的

なキャリア教育を推進し、卒業生や企業等と連携を図るとともに、キャリア支援を担当する窓口の活用を促す等、企業情報、就職・進学情報などの提供体制・相談方法を含めたキャリア支援の充実を図る。また、次年度以降のキャリア支援体制を充実させるため、卒業時にキャリア支援も含めた満足度調査を実施するとともに、卒業生の情報を活用するネットワーク形成のため、同窓会との連携を強化する。

１．２ 社会連携に関する事項

① 広報資料の作成や「国立高専研究情報ポータル」等のホームページの充実などにより、教員の研究分野や共同研究・受託研究の成果などの情報を発信する。

② 高専リサーチアドミニストレータ（KRA）や地域共同テクノセンター、国立高等専門学校間の研究ネットワーク等を活用し、産業界や地方公共団体との新たな共同研究・受託研究の受入れを促進するとともに、効果的技術マッチングのイベント等でその成果の情報発信や知的資産化など社会還元に努める。

③－１ 法人本部は、各国立高等専門学校の情報発信機能を強化するため、報道機関等との関係構築に取り組むとともに、情報発信に積極的に取り組む国立高等専門学校には、校長裁量経費を配分する措置を講じる。

③－２ 各国立高等専門学校は、地域連携の取組や学生活動等の様々な情報をホームページや報道機関への情報提供等を通じて、社会に発信するとともに、報道内容及び報道状況を法人本部に随時報告する。

１．３ 国際交流等に関する事項

①－１ 諸外国に「日本型高等専門学校教育制度（KOSEN）」の導入

支援を展開するにあたっては、各国の日本国大使館や独立行政法人国際協力機構（JICA）等の関係機関との組織的・戦略的な連携の下に、相手国と連携・協議しつつ、その要請及び段階等に応じた支援に取り組む。

①－２　モンゴルにおける「KOSEN」の導入支援として、モンゴルの自助努力により設立された３つの高等専門学校を対象として、教員研修、教育課程の助言、学校運営向上への助言等の支援を実施する。

①－３　タイにおける「KOSEN」の導入支援として、以下の支援を実施する。

・令和元年５月に開校したKOSEN-KMITL及び令和２年６月に開校したKOSEN-KMUTTを対象として、日本の高専と同等の教育の質となるよう、日本の高専教員を常駐させ、教員研修、教育課程への助言、学校運営向上への助言等の支援を実施する。

・タイのテクニカルカレッジにおいて日本型高等専門学校教育を取り入れて設置された５年間のモデルコースを対象として、教員研修、教育課程への助言、学校運営向上への助言等の支援を実施する。

①－４　ベトナムにおける「KOSEN」の導入支援として、以下の支援を実施する。

・ベトナム政府の日本型高等専門学校教育制度導入に向けた取組への協力を実施する。

・ベトナムの教育機関において日本型高等専門学校教育を取り入れて設置されたモデルコースを対象として、教員研修や教育課程への助言、学校運営向上への助言等の支援を実施する。

①－５　リエゾンオフィスを設置している国以外への「KOSEN」の導入支援として、政府関係者の視察受入及び法人本部との

意見交換等を通じて、「KOSEN」についての正しい理解の浸透を図る。

② 「KOSEN」の導入支援に係る取組は、各国立高等専門学校の協力のもと、学生及び教職員が実践的な研修等に参画する機会を得て、国際交流の機会としても活用し、「KOSEN」の海外展開と国立高等専門学校の国際化を一体的に推進する。

③－１ 学生が海外で活動する機会を後押しする体制の充実のため、以下の取組を実施する。

・「日本型高等専門学校教育制度（KOSEN）」の導入支援対象校やこれまで学生交流協定を締結している海外教育機関を中心として単位認定制度の整備や単位互換協定の締結を推進する。【再掲】

・海外の教育機関との包括的な協定の締結などにより、組織的に海外留学やインターンシップ、学生交流を推進する。【再掲】

③－２ 学生の英語力、国際コミュニケーション力の向上や海外に積極的に飛び出すマインドを育成する取組を実施する国立高等専門学校への重点的な支援を行う。【再掲】

③－３ 「トビタテ！留学 JAPAN」プログラムをはじめとする外部の各種奨学金制度等の情報を収集するとともに、学生が積極的に活用できるよう促すことで、学生の国際会議や海外留学等の機会の拡充を図る。【再掲】

④－１ 外国人留学生の受入れを推進するため、以下の取組を実施する。

・諸外国の在日本国大使館等への広報活動を実施する。【再掲】

・ホームページの英語版コンテンツの充実や説明会等の機会を通じ、高等専門学校教育の特性や魅力について情報発信を強化する。【再掲】

・重点３ヵ国及び周辺諸国における広報活動の実施や情報発信の強化にあたっては、リエゾンオフィスの活用を中心に実施する。

④－２　日タイ産業人材育成協力イニシアティブに基づく、本科１年次からの留学生の受入を実施する。また、KOSEN-KMITL 及び KOSEN-KMUTT から本科３年次への留学生の受入を実施する。

⑤　法人本部は、教員や学生の国際交流の際には、文部科学省が定める「大学における海外留学に関する危機管理ガイドライン」に準じた危機管理措置を講じて、海外旅行保険に加入させる等の安全面への配慮を行う。

各国立高等専門学校においては、外国人留学生の学業成績や資格外活動の状況等の的確な把握や適切な指導等の在籍管理に取り組むとともに、法人本部において定期的に在籍管理状況の確認を行う。

２．業務運営の効率化に関する事項

２．１　一般管理費等の効率化

高等専門学校設置基準により必要とされる最低限の教員の給与費相当額及び各年度特別に措置しなければならない経費を除き、運営費交付金を充当して行う業務については、中期目標の期間中、毎事業年度につき一般管理費（人件費相当額を除く。）については３％、その他は１％の業務の効率化を図る。

なお、毎年の運営費交付金額の算定については、運営費交付金債務残高の発生状況にも留意する。

２．２　給与水準の適正化

職員の給与水準については、国家公務員の給与水準を十分考慮し、当該給与水準について検証を行い、適正化に取り組むととも

に、その検証結果や取組状況を公表する。

２．３　契約の適正化

業務運営の効率性及び国民の信頼性の確保の観点から、随意契約の適正化を推進し、契約は原則として一般競争入札等によることとする。

さらに、引き続き「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について（平成 27 年５月 25 日総務大臣決定）」に基づく取組を着実に実施することとし、「調達等合理化計画」の実施状況を含む入札及び契約の適正な実施については、監事による監査を受けるとともに、財務諸表等に関する監査の中で会計監査人によるチェックを要請する。また、「調達等合理化計画」の実施状況をホームページにより公表する。

３．予算（人件費の見積もりを含む。）、収支計画及び資金計画

３．１　戦略的な予算執行・適切な予算管理

理事長のリーダーシップのもと、各国立高等専門学校における教育上の自主性や強み・特色などの機能強化を後押しするため、予算配分方針をあらかじめ定め、各国立高等専門学校に周知する等、透明性・公平性を確保した予算配分に努める。

また、各国立高等専門学校のアクティビティに応じた戦略的な予算配分にあたっては、以下の取組等を実施する。

・法人本部は、各国立高等専門学校の情報発信機能を強化するため、報道機関等との関係構築に取り組むとともに、社会への情報発信に積極的に取り組む国立高等専門学校のインセンティブとなるよう、アクティビティに応じて、校長裁量経費を配分する措置を講じる。

独立行政法人会計基準の改訂等により、運営費交付金の会計処理として、業務達成基準による収益化が原則とされたことを踏まえ、引き続き、収益化単位の業務ごとに予算と実績を管理する。

３．２ 外部資金、寄附金その他自己収入の増加

社会連携活動の推進等を通じ、共同研究、受託研究等を促進し、外部資金の獲得の増加を図る。また、卒業生が就職した企業、同窓会等との交流を図り、寄附金の獲得につながる取組みを推進する。

さらに、法人本部及び各国立高等専門学校のホームページにおける寄附案内ページの改修や寄附者にとって利便性の高い決済手段の導入等により、寄附金の募集方法の改善を図る。

３．３ 予算

別紙１

３．４ 収支計画

別紙２

３．５ 資金計画

別紙３

４．短期借入金の限度額

４．１ 短期借入金の限度額

156 億円

４．２ 想定される理由

運営費交付金の受入れの遅延及び事故の発生等により緊急に必要

となる対策費として借入することが想定される。

５．不要財産の処分に関する計画

５．１以下の重要な財産について、速やかに現物を国庫に納付する。

①苫小牧工業高等専門学校

錦岡宿舎団地（北海道苫小牧市明徳町四丁目 327 番 236）4,492.10 ㎡

②八戸工業高等専門学校

中村団地（青森県八戸市大字田面木字中村 60 番）5,889.43 ㎡

③福島工業高等専門学校

下平窪団地(福島県いわき市平下平窪字鍛冶内 30 番 2､30 番 7)1,502.99 ㎡

桜町団地（福島県いわき市平字桜町 4 番 1）480.69 ㎡

④長岡工業高等専門学校

若草町 1 丁目団地（新潟県長岡市若草町一丁目 5 番 12）276.36 ㎡

⑤沼津工業高等専門学校

香貫宿舎団地（静岡県沼津市南本郷町 569 番、570 番）287.59 ㎡

⑥香川高等専門学校

勅使町団地（香川県高松市勅使町字小山 398 番 20）5,975.18 ㎡

⑦有明工業高等専門学校

平井団地（熊本県荒尾市下井手字丸山 768 番 2）288.66 ㎡

宮原団地（福岡県大牟田市宮原町一丁目 270 番）2,400.54 ㎡

正山 71 団地（福岡県大牟田市正山町 71 番 2）284.31 ㎡

⑧旭川工業高等専門学校

春光町団地（北海道旭川市春光一条九丁目 31 番）460.85 ㎡

⑨舞鶴工業高等専門学校

大波団地（京都府舞鶴市字大波上小字滝ケ浦 1112 番）453.90 ㎡

⑩呉工業高等専門学校

広団地（広島県呉市広中新開三丁目 18160 番 1、18160 番 2、18161 番、

18169 番 1）3,990.22 ㎡

⑪徳山工業高等専門学校

御弓町団地（山口県周南市大字徳山字上御弓丁 4197 番 1）1,321.37 ㎡

周南住宅団地（山口県周南市周陽三丁目 21 番 2）1,310.32 ㎡

⑫熊本高等専門学校

平山宿舎団地（熊本県八代市平山新町字西新開 3142 番 1）2,773.00 ㎡

新開宿舎団地（熊本県八代市新開町参号 3 番 94）1,210.26 ㎡

⑬都城工業高等専門学校

年見団地（宮崎県都城市年見町 34 号 7 番）2,249.79 ㎡

⑭鹿児島工業高等専門学校

東真孝団地（鹿児島県霧島市隼人町眞孝字東眞孝 169 番 3）8,466.59 ㎡

５．２ 以下の不要財産について、譲渡又は現物を国庫に納付する。

①函館工業高等専門学校

湯川町団地（北海道函館市湯川町 2 丁目 40 番 2）2,118.70 ㎡

梁川町団地（北海道函館市梁川町 13 番 10）912.75 ㎡

②奈良工業高等専門学校

六条団地（奈良県奈良市六条一丁目 697 番 1、770 番）5,478.05 ㎡

③香川高等専門学校

木太町団地（香川県高松市木太町字川西 1990 番 4、2012 番 2、2013 番）1,139.61 ㎡

昭和町団地（香川県高松市昭和町一丁目 202 番、203 番 1）1,074.37 ㎡

④北九州工業高等専門学校

徳力団地（福岡県北九州市小倉南区山手 1 丁目 876 番 178、186、191、203、226）7,306.37 ㎡

６．重要な財産の譲渡に関する計画

以下の重要な財産について、公共の用に供するため、売却により譲渡し、その売却収入を整備費用の財源とする。

①津山工業高等専門学校

沼団地（岡山県津山市沼字大加美 551 番）29.73 ㎡

②鹿児島工業高等専門学校

国見団地（鹿児島県霧島市隼人町真孝字国見 1460 番 1）200.54 ㎡

７．剰余金の使途

決算において剰余金が発生した場合には、教育研究活動の充実、学生の福利厚生の充実、産学連携の推進などの地域貢献の充実及び組織運営の改善のために充てる。

８．その他主務省令で定める業務運営に関する事項

８．１ 施設及び設備に関する計画

①－１ 「国立高専機構施設整備５か年計画 2021」（令和 3 年 3 月決定）及び「国立高等専門学校機構インフラ長寿命化計画（個別施設計画）2018」（平成 31 年 3 月決定）に基づき、新しい時代にふさわしい国立高等専門学校施設の機能の高度化や老朽施設の改善などの整備を推進し、施設マネジメントに取り組む。

①－２ 施設の非構造部材の耐震化については、引き続き、計画的に対策を推進する。

② 学生及び教職員を対象に、「実験実習安全必携」を配付するとともに、安全衛生管理のための各種講習会を実施する。

③ 科学技術分野への男女共同参画を推進するため、女子学生の利用するトイレ等の設置やリニューアルなど、修学・就業上の環境整備を計画的に推進する。

８．２ 人事に関する計画

（１）方針

教職員の積極的な人事交流を進め、多様な人材の育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し資質の向上を図るため、以下の取組等を実施する。

① 課外活動、寮務等の見直しとして、外部人材やアウトソーシング等の活用を促進する。

② 教員の戦略的配置のための教員人員枠の再配分を行う。また、国立高等専門学校幹部人材育成のための計画的な人事交流を行う。

③ 若手教員確保のため、教員人員枠の弾力化を行う。

④－１ 専門科目担当教員の公募において､応募資格の一つとして、博士の学位を有する者を掲げることを原則とするよう、各国立高等専門学校に周知する。【再掲】

④－２ クロスアポイントメント制度の実施を推進する。【再掲】

④－３ ライフステージに応じた柔軟な勤務時間制度や同居支援プログラム等の取組を実施する。

また、女性研究者支援プログラムなどの実施により女性教員の働きやすい環境の整備を進める。【再掲】

④－４ 外国人教員を積極的に採用した国立高等専門学校への支援を行う。【再掲】

④－５ シンポジウム、研修会等を通じて、男女共同参画やダイバーシティに関する意識啓発を図る。

⑤ 教職員の積極的な人事交流を進め、多様な人材育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し資質の向上を推進する。

（２）人員に関する指標

常勤職員について、その職務能力を向上させつつ業務の効率化を

図り、適切な人員配置に取り組むとともに、事務の IT 化等により中期目標期間中の常勤職員の抑制に努める。

８．３ 情報システムの適切な整備・管理及び情報セキュリティについて

情報システムの適切な整備及び管理並びに情報セキュリティの確保を目的として、以下の事項を進める。

① 法人が設置する情報戦略推進本部を法人のプロジェクト管理組織（PMO）として強化し、最高情報責任者（CIO）・最高情報セキュリティ責任者（CISO）を中心とした情報システムの整備・管理体制を確立する。

② 法人の DX（デジタルトランスフォーメーション）に持続的に取り組むため、各国立高等専門学校の情報担当者を対象とした研修を進め、人材確保を図る。

③ 「政府機関等のサイバーセキュリティ対策のための統一基準群」に基づき制定する法人のサイバーセキュリティポリシー対策規則等に則り、法人が行う情報セキュリティ監査及び内閣サイバーセキュリティセンター（NISC）が実施する NISC 監査の結果を評価し必要な対策を講じる。

④ 全教職員の情報セキュリティの意識向上を図るため、情報セキュリティ教育（e-learning）及びインシデント対応訓練等を実施する。また、管理職を対象とした情報セキュリティトップセミナーなど、職責等に応じて必要となる情報セキュリティ教育を計画的に実施する。

⑤ 複雑化する情報セキュリティリスクに対応するために、最高情報セキュリティ責任者（CISO）及び各国立高等専門学校の有識者からなる情報戦略推進本部情報セキュリティ部門が連携し、今後の情報セキュリティ対策等を進める。

⑥　国立高等専門学校機構 CSIRT（高専機構 CSIRT）が中心となり、各国立高等専門学校にインシデント内容及びインシデント対応の情報共有を行うとともに、初期対応徹底のために「すぐやる３箇条」の周知を継続して行い、情報セキュリティインシデントの予防及び被害拡大を防ぐための啓発を実施する。

８．４ 内部統制の充実・強化

①－１　理事長のリーダーシップのもと、機構としての迅速かつ責任ある意思決定を実現するため、必要に応じ機動的に、WEB 会議システムを活用した役員会の開催を行う。

①－２　役員懇談会や校長・事務部長会議その他の主要な会議や各種研修等を通じ、法人としての課題や方針の共有化を図る。

①－３　学校運営及び教育活動の自主性・自律性や各国立高等専門学校の特徴を尊重するため、各種会議や、理事長と各国立高等専門学校校長との面談を通じ、各国立高等専門学校の意見等を聞く。

②－１　法人全体の共通課題に対する機構のマネジメント機能を強化するため、理事長と各国立高等専門学校校長との面談等を実施する。

②－２　法人本部が作成した、コンプライアンス・マニュアル及びコンプライアンスに関するセルフチェックリストの活用や、各国立高等専門学校の教職員を対象とした階層別研修等により教職員のコンプライアンスの向上を行う。

②－３　事案に応じ、法人本部と国立高等専門学校が十分な連携を図り、速やかな情報の伝達・対策などを行う。

③　これらを有効に機能させるために、内部監査及び各国立高等専門学校の相互監査については、時宜を踏まえた監査項目の見直しを行い、発見した課題については情報を共有し、速やかに対応を行う。また、内部監査等の結果を監事に報告するとともに、監事を

支援する職員の配置などにより効果的に監査が実施できる体制とするなど監事による監査機能を強化する。なお、監事監査結果について随時報告を行う。

④　平成 23 年度に策定した「公的研究費等に関する不正使用の再発防止策」の確実な実施を各国立高等専門学校に徹底させるとともに、必要に応じ本再発防止策を見直す。加えて、全国立高等専門学校の研究担当責任者を対象とした WEB 会議の開催や各国立高等専門学校において研究費の適切な取扱いに関する注意喚起等を行う。

⑤　各国立高等専門学校において、機構の中期計画及び年度計画を踏まえ、個別の年度計画を定める。また、その際には、各国立高等専門学校及び各学科の特性に応じた具体的な成果指標を設定する。

（別紙1）

令　和　４　年　度　予　算

（単位：百万円）

区分	教育に関する事項	社会連携に関する事項	国際交流に関する事項	法人共通	合計
収入					
運営費交付金	61,748	0	970	1,658	64,376
施設整備費補助金	16,375	0	0	0	16,375
独立行政法人大学改革支援・学位授与機構施設費交付金	222	0	0	0	222
船舶建造費補助金	4,547	0	0	0	4,547
自己収入	13,612	0	0	54	13,666
授業料及び入学料検定料収入	13,179	0	0	0	13,179
雑収入	433	0	0	54	487
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	6,236	537	90	0	6,863
計	102,740	537	1,061	1,712	106,050
支出					
業務費	75,414	0	970	1,658	78,042
教育研究経費	64,554	0	970	0	65,524
うち　人件費	51,016	0	748	0	51,764
物件費	13,538	0	222	0	13,761
一般管理費	10,859	0	0	1,658	12,518
うち　人件費	8,061	0	0	942	9,002
物件費	2,798	0	0	717	3,515
施設整備費	21,145	0	0	0	21,145
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	6,236	537	90	0	6,863
計	102,794	537	1,061	1,658	106,050

※端数処理により合計金額が一致しない場合がある。

（別紙2）

令 和 4 年 度 収 支 計 画

（単位：百万円）

区　　分	教育に関する事項	社会連携に関する事項	国際交流に関する事項	法人共通	合計
費用の部					
経常費用	91,708	537	1,087	1,785	95,117
業務費	91,690	537	1,087	1,784	95,098
教育研究経費	19,758	0	688	214	20,660
受託研究費等	6,236	527	90	0	6,853
役員人件費	54	0	0	57	111
教員人件費	38,270	5	231	0	38,506
職員人件費	20,926	4	54	1,032	22,017
一般管理費	2,941	0	7	403	3,352
減価償却費	3,505	0	16	78	3,599
財務費用	17	0	0	1	18
収益の部					
経常収益	91,708	537	1,087	1,785	95,117
運営費交付金収益	60,487	0	970	1,658	63,115
授業料収益	10,828	0	0	0	10,828
入学料収益	954	0	0	0	954
検定料収益	304	0	0	0	304
受託研究等収益	5,331	460	77	0	5,868
寄附金収益	795	76	13	0	884
施設費収益	1,181	0	0	0	1,181
雑益	433	0	0	54	487
資産見返運営費交付金等戻入	2,043	0	16	24	2,083
資産見返補助金等戻入	735	0	0	0	735
資産見返寄附金戻入	285	1	0	0	285
資産見返物品受贈額戻入	1	0	0	0	1
特許権仮勘定見返運営費交付金等戻入	8	0	0	0	8
賞与引当金見返りに係る収益	3,874	0	11	48	3,932
退職給付引当金見返りに係る収益	4,450	0	0	2	4,452
純損失	0	0	0	0	0
前中期目標期間繰越積立金取崩し額	0	0	0	0	0
総利益	0	0	0	0	0

※端数処理により合計金額が一致しない場合がある。

（別紙3）

令 和 4 年 度 資 金 計 画

（単位：百万円）

区　　分	教育に関する事項	社会連携に関する事項	国際交流に関する事項	法人共通	合計
資金支出	121,309	537	1,061	1,712	124,619
業務活動による支出	79,913	376	1,059	1,678	83,025
投資活動による支出	21,987	162	1	34	22,184
財務活動による支出	841	0	0	0	841
翌年度への繰越金	18,569	0	0	0	18,569
資金収入	121,309	537	1,061	1,712	124,619
業務活動による収入	81,596	537	1,061	1,712	84,905
運営費交付金による収入	61,748	0	970	1,658	64,376
授業料及び入学料検定料による収入	13,179	0	0	0	13,179
受託研究等収入	5,331	460	77	0	5,868
寄附金収入	897	77	13	0	987
その他の収入	440	0	0	54	494
投資活動による収入	21,145	0	0	0	21,145
施設費による収入	21,145	0	0	0	21,145
前年度よりの繰越金	18,569	0	0	0	18,569

※端数処理により合計金額が一致しない場合がある。

統 合 報 告 書

独立行政法人国立高等専門学校機構
鳥羽商船高等専門学校

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

鳥羽商船高等専門学校は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

令和５年３月

目次

法人の中期目標 1

本校の原点とビジョン 2-5

１．概要 6-9

２．データでみる学生の受け入れ 10-12

３．データでみる教育の質保証 13-16

４．教育等環境整備と学生への支援 17-22

５．広報、産学連携・他機関や地域との連携 23-26

６．データでみる財務状況 27

７．データでみる学生の活躍 28

法人の中期目標

当法人は、国立高等専門学校を設置・運営し、実践的・創造的技術者を養成し、社会構造・産業構造の変化に応じた国立高等専門学校の教育実施体制を整備し、実践的・創造的な技術者を育成するとともに、諸外国のニーズに応じた、我が国特有の教育制度である“日本型高等専門学校教育制度”の導入支援に取り組むため、各国立高等専門学校が有する強み・特色を生かしつつ、法人本部がガバナンスの強化を図ることにより、主に以下の三つの目標を実施し、我が国が誇る高等教育機関としての国立高等専門学校固有の機能を充実強化します。中期目標期間は、平成 31 年 4 月 1 日から令和 6 年 3 月 31 日までの 5 年間です。

（1）**教育**に関する目標 実験・実習・実技を通じて早くから技術に触れさせ、技術に興味・関心を高めた学生に科学的知識を教え、さらに高い技術を理解させるという特色ある教育課程を通し、製造業をはじめとする様々な分野において創造力ある技術者として将来活躍するための基礎となる知識と技術、リベラルアーツ、さらには生涯にわたって学ぶ力を確実に身に付けさせることができるように、高専の教育実施体制を整備し、実践的・創造的な技術者を育成していきます。

（2）**社会連携**に関する目標 各高専が立地している地域の特性を踏まえた産学連携を活性化させ、地域課題の解決に資する研究を推進するとともに、高専における共同研究などの成功事例等を地域社会に還元し、広く社会に公開していきます。 地域共同テクノセンター等を活用して、地域を中心とする産業界や地方公共団体との共同研究・受託研究への積極的な取組を促進するとともに、その成果の知的資産化に努めます。

（3）**国際交流**に関する目標 各国の日本国大使館や独立行政法人国際協力機構（JICA）等の関係機関と組織的・戦略的に連携し、「日本型高等専門学校教育制度（KOSEN）」の正しい理解を得つつ、海外における導入支援と高専の国際化を一体的に推進します。 学生が積極的に海外へ飛び立つ機会を拡充するとともに、教員や学生の国際交流を安全面に十分な配慮をしつつ、積極的に推進します。 学業成績や資格外活動の状況等の的確な把握や適切な指導等の在籍管理に取組みつつ、国際交流の中で優秀な留学生を適切に受け入れます。

（4）その他 （1）～（3）の目標を達成するため、マネジメント改革（財務構造、人事マネジメント、働き方改革、情報セキュリティ等）を確立します。

本校の原点

校祖　近藤真琴翁

伊勢志摩国立公園にあって伊勢市に隣接し、歴史的にも水軍の拠点、水運の要衝で知られる鳥羽市池の浦に立地する本校は、校祖近藤真琴翁が明治８年（1875 年）９月に芝新銭座二番地（現在の東京都港区浜松町）に航海測量習練所（後の商船黌）として創基し、分校として、明治 14 年（1881 年）８月 20 日に三重県鳥羽町に鳥羽商船黌として創立されました。その後、私立、市立、県立などの変遷を経て、昭和 42 年（1967 年）６月に**国立鳥羽商船高等専門学校（国立鳥羽商船高専）**となりました。 来る令和７年（2025 年）９月には、創基 150 周年・高専創立 60 周年記念事業を計画しており、持続的に学校の施設整備や環境整備、国際交流や学生の修学支援等に資する基金の開設とともに委員会のもと作業部会が活動を開始しております。

創立以来、本校は我が国の産業界の変化に対応して順次学科の新設・改組を行い、平成 17 年４月には本科に加えて専攻科として海事システム学専攻、及び、生産システム工学専攻が設置されました。本科は、商船学科、情報機械システム工学科の２学科体制に移行しています。 卒業生・修了生は、**令和４年９月**で **7,841** 名**（令和５年３月 7,927 名）**となり、海運・海事産業、情報、機械など、我が国の産業界に技術者を輩出し、多くの産業の発展に活躍しています。

ビジョン

海運や物流産業の様相は、常に国際政治や経済社会の縮図です。新型コロナウィルス感染症の世界的な蔓延が SDGs に至る超スマート社会（Society5.0）への変革の起爆剤となって、社会経済は、気候変動と環境変化、国際社会が織りなす紛争などの影響を受けて大きく変動しています。これらの変化は、情報通信はもとより、海運、物流、ロジスティクスに対する人々の関心を大きく高めました。あらゆる産業でデジタルトランスフォーメーション（ＤＸ）が着実に進みつつあり、政府の 2023 年年頭所感では、グリーントランスフォーメーション（GX）、DX、スタートアップ、イノベーションの４つのコンセプトが示されています。前者２つは特に成長分野とされ、本校の船舶運航はじめ海事・海洋産業に人材を輩出する商船学科と情報機械システム工学科こそ、今、社会から望まれている必要な学科です。

便利になった反面、情報を適切に利活用できて、共有するシステムをもっているかいないか、もっていても有効に組織内で機能しているかで環境の格差が生じており、教育の現場においても例外ではありません。一方では、対面でのコミュニケ―ションの重要性も再認識されました。便利さとともに、“わきまえなければならないエシックス（倫理）”の問題もあらためて社会で顕在化しています。本校では教職員と学生が一体となって学校の生活環境の質の向上に努めていきます。

海洋基本法にもとづき５年ごとに策定される海洋基本計画、来る第４期では、脱炭素・DX に対応した海洋産業の競争力強化、ゼロエミッション船の導入、カーボンニュートラルポートの形成、また、自律運航船の実用化や港湾の電子化、さらには、洋上風力発電など再生エネルギーの利活用、資源探査に必要な水中ロボットの持続的な開発などに社会の関心が集まっています。

本校では、「人づくりを通じて海づくり：海事・海洋 DX、情報や機械のシステム産業と地域経済に貢献するマリンリゾート・コアキャンパスの創成（令和３年８月校長より法人理事長に提出済）」に向けて、練習船「新鳥羽丸」の構想、今後の施設・環境整備にかかるキャンパスマスタープラン（CMP）の構成、混住型国際寮の検討などを進めており、創基 150 年を迎える 2025 年を礎に世代や国境を越えたキャンパス、自然災害にもレジリエントなキャンパス整備に努めていきます。

鳥羽商船高専公式 YOUTUBE

商船学科と海事システム専攻

商船学科（5.5 年、准学士の称号授与）と**専攻科海事システム専攻（2 年　学士（商船学）の学位取得可）**を擁しており、商船系高専 4 校とともに特別の使命を持っています。周りを海に囲まれ世界第 6 位の EEZ をもつ日本は、海上輸送によって資源を海外から輸入し、生産技術やシステム構築により、製品を輸出して経済を発展させてきました。最近は、技術移転により、多くの生産拠点が海外に移り、製品も輸入量が輸出量を上回る時代へと変化していますが、日本の貿易物資の 99 %以上（重量ベース）が「船」で運ばれています。また、内航海運も貨物輸送では重要な役割を担っています。商船高専は、我が国の物流を支える最新で高度な技術を習得した海事技術者、海技士資格をもつ海のスペシャリスト、海洋立国を支えるグローバルに活躍できる人材を育成するという点において重要な使命を持っています。特に海運業界は、GHG 排出削減に向けた代替燃料への転換などの環境問題、自動運航船や洋上風力発電などへの事業展開など急速な技術革新とともにおおきく変貌しています。活躍する舞台、求められる能力も船上のみならず、先進技術の展開や海運にかかる総合的スキルを活かしたマネジメント力まで大きな期待が寄せられています。

https://youtu.be/gMkY3H2qEMs

「鳥羽商船高等専門学校 学生会　練習船鳥羽丸 PV ～鳥羽丸のすべて～」

※2021 年 12 月 5 日に開催された第 56 回海学祭配信

情報機械システム工学科と生産システム工学専攻

平成 31 年(2019 年)に**電子機械工学科及び制御情報工学科を改組し、情報機械システム工学科(5 年、准学士の称号授与)を開設**し、令和４年度は電子機械工学科及び制御情報工学科の第５学年と新学科の第４学年までの学生が在籍しています。**専攻科生産システム工学専攻（２年、学士（工学）の学位取得可）には、本校はじめ高専の本科を卒業して進学した学生が**在籍しています。新学科入学後は、プログラミングを始めとする工学基礎を学び、基盤となる「情報」「電気電子」「機械」について順に学習し、上級学年では自らの個性や特性に合わせて「専門性」「志向性」を決定するオーダーメイド型カリキュラムを提供します。

https://drive.google.com/file/d/1M8NM9JExAQpG-87n7OKgwkpxDv5hWfkz/view?usp=sharing

地域課題を解決する PBL（Project Based Learning）チームに学年通貫で 1 年生から所属し、机上の学習に留まらず、地域産業や文化を理解し工学的な解決法を提案できる実践的技術者を目指します。地域や社会と一体となったコミュニティ型の教育を導入しています。本科を卒業して准学士の称号をもって就職、大学３年次編入、また専攻科に進んだ人はさらに 2 年間修学し、学位（工学）の取得が可能です。

経済のグローバル化、機械や電気電子、情報産業技術の高度化、さらには新型コロナウィルス感染症の影響やデジタルトランスフォーメーション（DX）が加速的に急進展する現在、国の教育基本振興基本計画の今後の目的としても、超スマート社会の実現に向かうイノベーションに対応するため、数理データサイエンス・AI、ロボット等の分野での「実践的・創造的な技術者の育成と起業精神の充実」や「社会実装教育」、「地域への貢献」、「国際化の推進」が要請されています。情報機械システム工学科はソフトとハードを結ぶ教育を基盤にそれらの要請に応えます。

１． 概要

□教育理念

進取・礼譲・質実剛健

□教育目標

1. **人間性豊かな教養人となること**
2. **創造性豊かな技術者となること**
3. **国際性豊かな社会人となること**

アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

学科共通

礼儀正しく、他人を思いやる心を持った人

将来、技術者や科学者を目指す人

自らの夢に向かって自主的に行動できる人

商船学科

海や船に興味がある人

学ぶことが好きで自ら考えて行動できる人

将来、海事技術者として世界で活躍したい人

情報機械システム工学科

他人を思いやる心を持ち、自主的に行動できる人

基礎学力を有し、ものづくりに興味がある人

コミュニケーション能力を有し、国際社会で活躍したい人

専攻科

専門分野に関する開発能力の向上を目指す人

複合的視点で社会的問題を捉えることのできる人

国際的な感覚を持ち自律した技術者を目指す人

ディプロマ・ポリシー（卒業・修了認定の方針）

商船学科

物流の国際化と船舶の技術革新に適応した船舶の運航技術者として活躍できる専門知識と技術を習得した人材および海事関連産業で活躍できる人材を育成する。

情報機械システム工学科

情報機械システム工学科は、情報工学、電気電子工学、機械工学を基盤とし、学生自身の個性に応じたカリキュラムを選択することで、地域に貢献し日本の産業を支える実践的技術者としての専門知識・技術を身に付けることを目標とする。

専攻科

本校の専攻科は以下に示す到達目標を掲げ、さらに各専攻においても特色ある教育目標を掲げている。定められた能力を身に付けた学生に修了を認定する。

(A) 専門分野におけるより高度な開発・創造能力を持った技術者となること

(B) 複合的視点から物事を考え解決する能力を持った技術者となること

(C) 国際的な感覚を持ち自律した技術者となること

カリキュラム・ポリシー抜粋（教育課程編成・実施の方針）

商船学科

５年半の学修フェーズを「基礎フェーズ」「応用フェーズ」の２つに大別する。各フェーズは学内における学習や実習による「席上課程」と大型練習船における乗船実習における乗船実習による「実習課程」を含む。学生は基礎フェーズで自分の適性を見極めた後に「航海コース」または「機関コース」を選択する。応用フェーズでは各コースの専門的な学修と長期の大型練習船における乗船実習を行い実践的かつ幅広い学習を進める。

情報機械システム工学科

５年間の学修フェーズを「スタートアップ」「基礎フェーズ」「応用フェーズ」の３つに大別し、「スタートアップ」では情報機械システム工学科で学修する概要を理解するとともに論理的思考能力を育成し、「基礎フェーズ」において、体験型の実習を通じて共通基盤となる技術要素に触れる。４・５年生の「応用フェーズ」においては、自らが専門とする学修分野として「専門性ユニット」から１分野を必須選択とし、自らの将来就く職種に沿った「志向性ユニット」を選択することで、個々の個性に応じたオーダーメイドカリキュラムを提供する。一方で、１年生から５年生までの混合型の地域連携 PBL を配置し、それぞれの立場において到達すべき技量、立ち振る舞いについて体験を重ね、成長を促すこととした。

専攻科

商船学、機械工学、電気電子工学、情報工学の専門分野における、より高度な開発・創造能力の修得のための科目、複合的視点から物事を考え解決する能力を持つための科目、国際的な感覚を持ち自律した技

術者となるための科目を配置して教育を行う。

アセスメントポリシー

評価の段階	入学時（アドミッション・ポリシー）	在学中（カリキュラム・ポリシー）	卒業時（ディプロマ・ポリシー）
学校全体	入試倍率 入学時アンケート	留年・中途退学者数 卒業生・修了生アンケート	就職率・進学率 卒業生・修了生アンケート 就職先・進学先の一覧 専攻科の学位取得状況
学科・専攻	学科・専攻の各入試倍率	進級者数 単位取得状況 外部テスト（TOEIC,CBT 等） 専攻科の外部発表	卒業・修了要件達成状況 専攻科の特別研究予稿集
科目		授業アンケート シラバス	

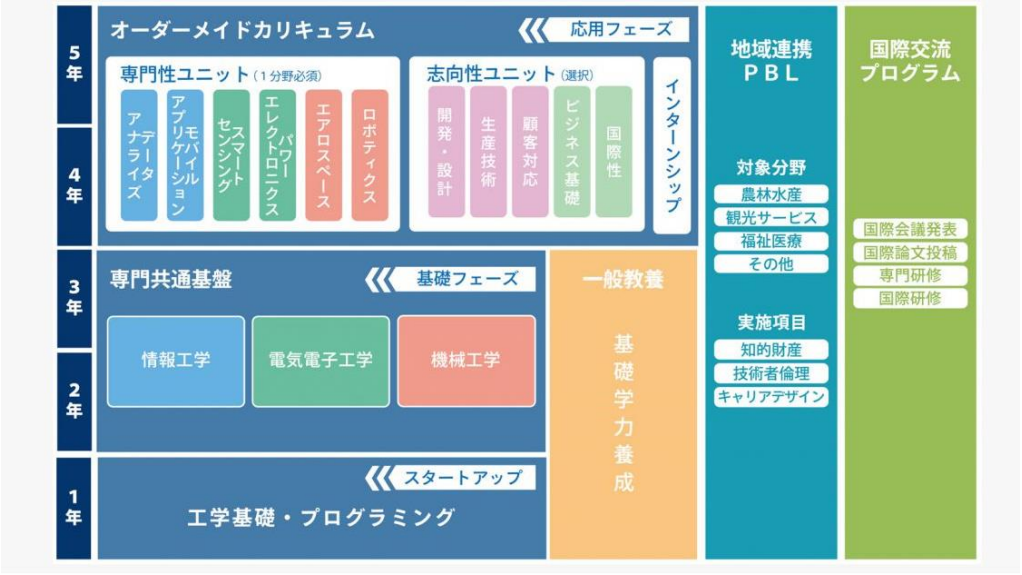
□学科

商船学科（定員 40 名）

３級海技士の資格を取得して外国航路や内航の航海士、機関士をめざす学科です。

情報機械システム工学科（定員 80 名）

情報、電気、機械の各分野の基礎知識を有しつつ、各自の専門性を持つ技術者をめざす学科です。



地域と連携した課題解決による技術者育成

地域連携PBL(Project Based Learning)として、漁業・農業・観光業を対象として工学による課題解決を通じて技術者としての素養を高めるとともに地域産業を理解し活性化を目指します。

専攻科（海事システム学専攻：定員４名、生産システム工学専攻：定員８名）

商船学科や情報機械システム工学科を卒業した後、高度な専門性を持つ技術者をめざす学科です。

□教職員　（2023.3.1 現在）

教育職員					事務職員等			合計
校長	教授	准教授	講師	助教	部課長	係長等	一般職員等	
1	25	24 うち2は海事職	0	3 うち1は海事職	2	11	30	96
53 うち3は海事職					43			

２．データでみる学生の受け入れ

本校の入試制度（H31 から変更）

1.推薦選抜

①特別推薦

出願資格：2・3 年生の評定の総計が 72 以上、かつ 2・3 年生の全科目 3 以上

出願書類：志望理由書、校長推薦書

選抜方法：書類選考、面接

②一般推薦

出願資格：2・3 年生の評定の総計が 62 以上、かつ 2・3 年生の全科目 3 以上

出願書類：志望理由書、校長推薦書

選抜方法：書類選考、作文、面接

2.体験学習選抜（商船学科のみ）

出願資格：2・3 年生の全科目 3 以上

出願書類：志望理由書

選抜方法：書類選考、体験学習、作文、面接

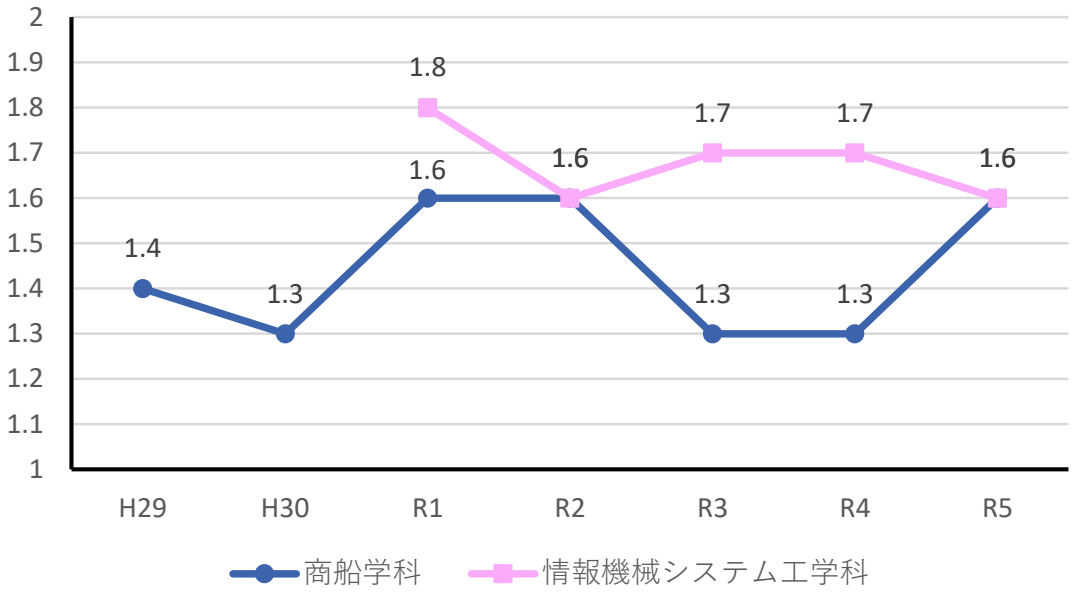
3.学力検査選抜

出願資格：評定による制限なし

選抜方法：５科目（数学、英語、理科、社会、国語）の試験

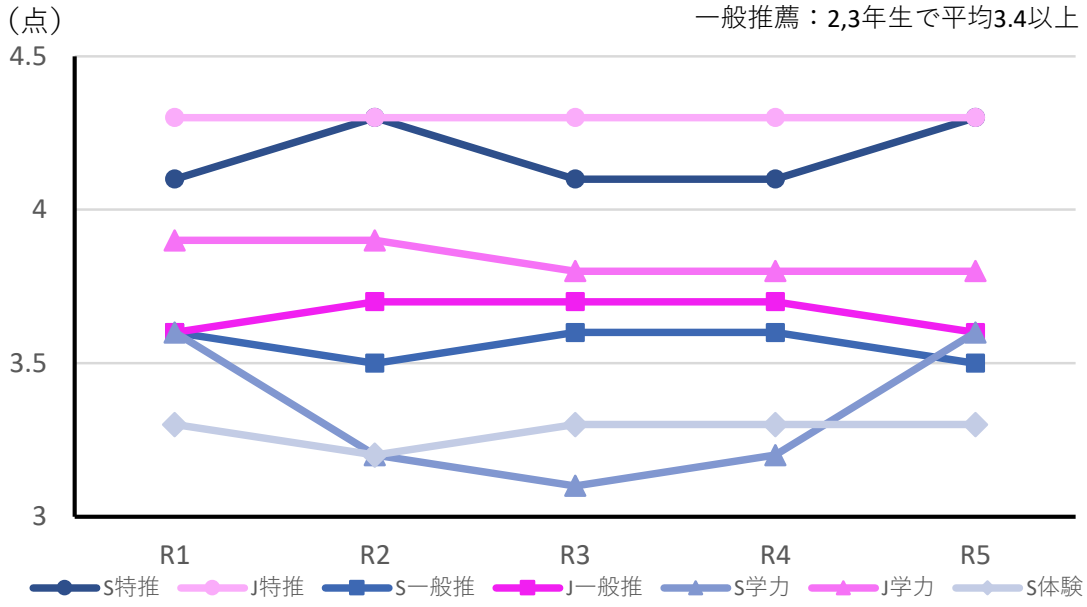
※推薦と体験で定員の 85%まで充足可能

志願者倍率

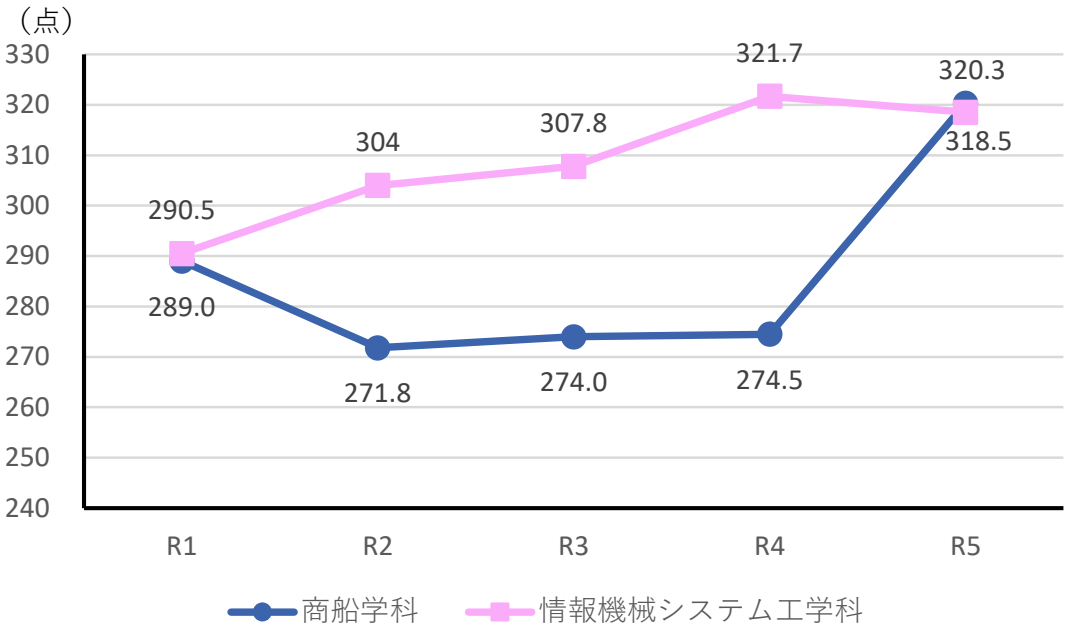


合格者の調査書評定平均

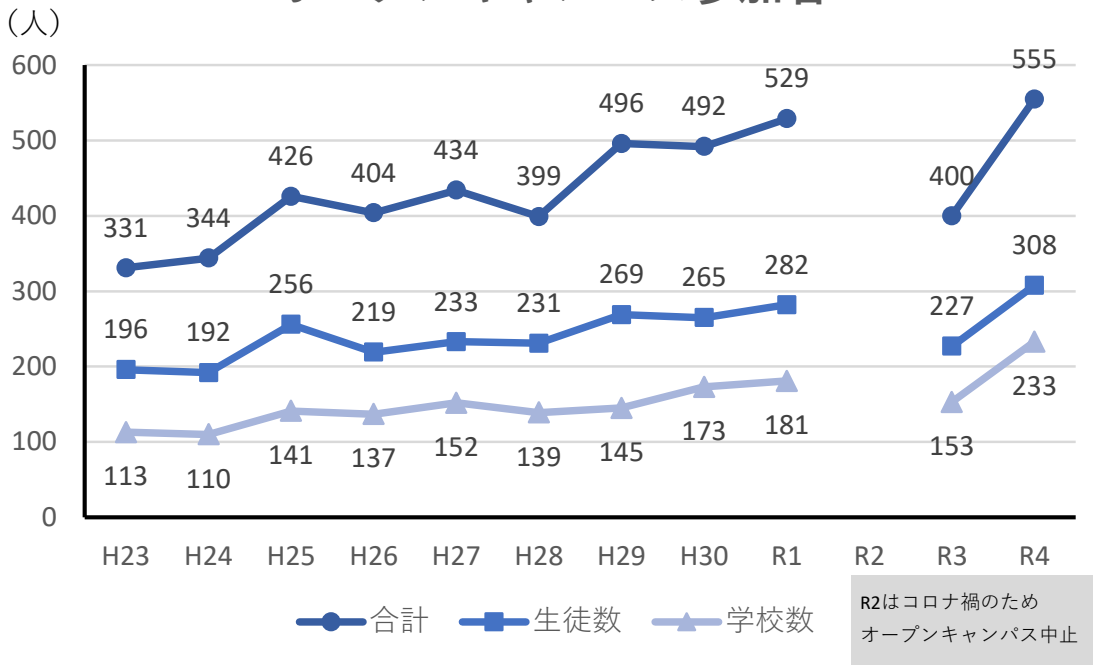
特別推薦：2,3年生で平均4.0以上
一般推薦：2,3年生で平均3.4以上



合格者の学力検査成績（平均）

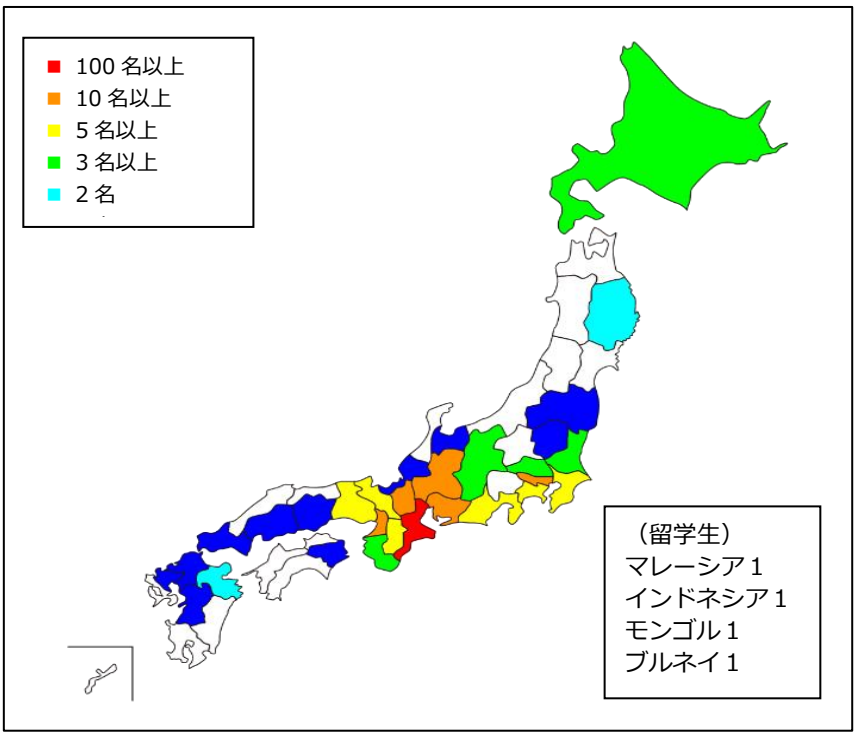


オープンキャンパス参加者

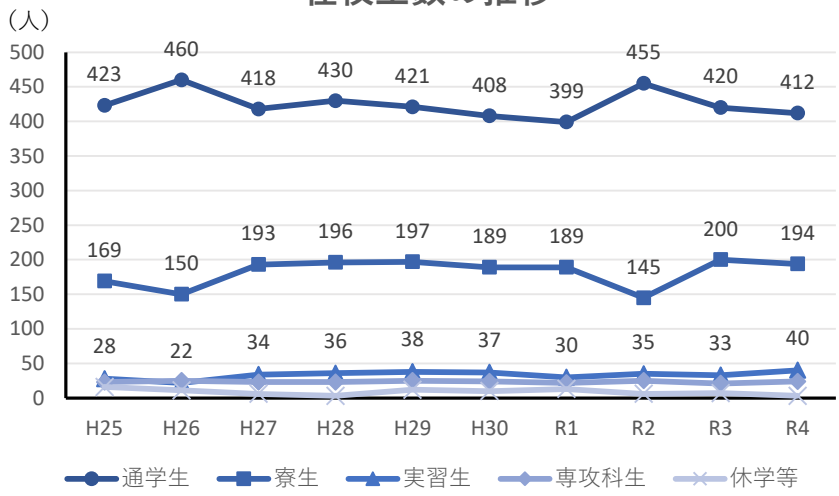


3．データでみる教育の質保証

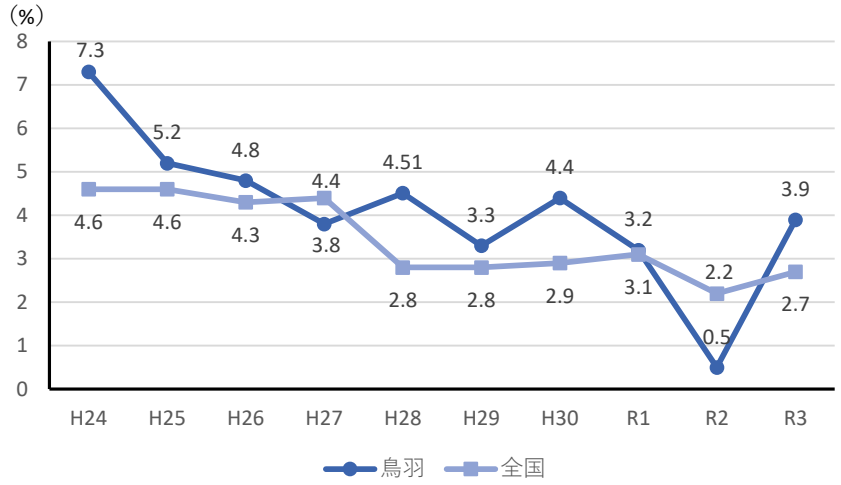
都道府県別在校生分布（R4 年度）



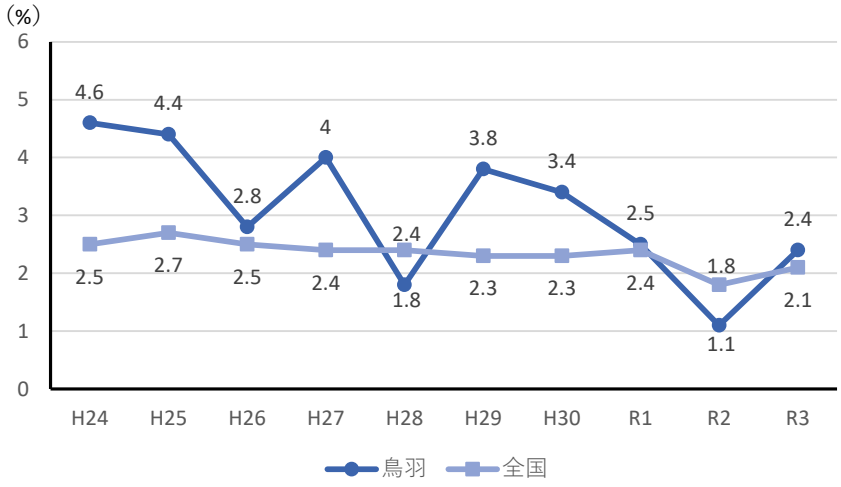
在校生数の推移



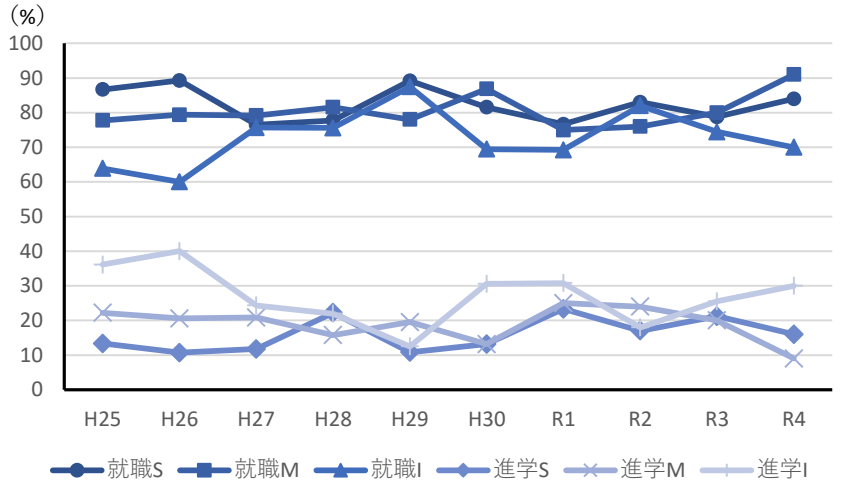
原級留置率



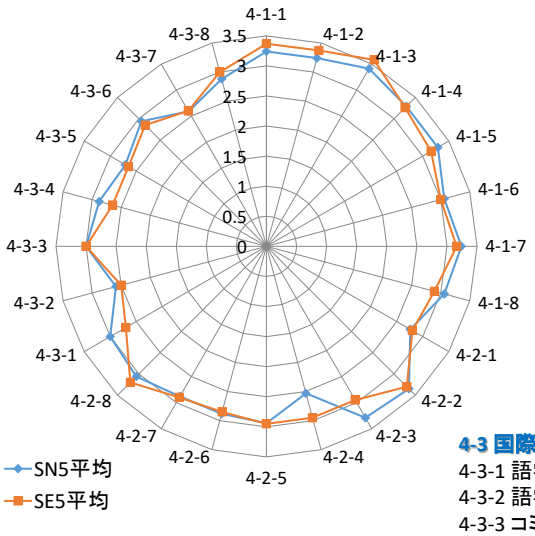
退学率



就職・進学率



商船学科卒業生（令和4年9月卒業）の教育目標達成度

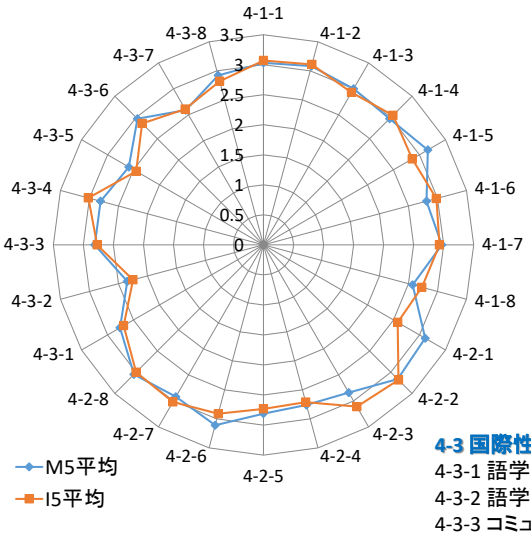


4-1 人間性と教養（平均3.2）
4-1-1 一般常識
4-1-2 判断力
4-1-3 礼儀
4-1-4 思いやり
4-1-5 協調性
4-1-6 積極性
4-1-7 責任感
4-1-8 リーダーシップ

4-2 創造性（平均3.0）
4-2-1 基礎学力
4-2-2 専門知識
4-2-3 専門的技術力
4-2-4 発想力
4-2-5 計画力
4-2-6 論理的思考力
4-2-7 課題発見・解決能力
4-2-8 意欲・粘り強さ

4-3 国際性（平均2.8）
4-3-1 語学力（日本語）
4-3-2 語学力（英語）
4-3-3 コミュニケーション能力
4-3-4 プレゼンテーション能力
4-3-5 国際的な視野
4-3-6 探求心
4-3-7 発信力
4-3-8 状況把握力

工業系学科卒業生（令和4年3月卒業）の教育目標達成度



4-1 人間性と教養（平均3.0）
4-1-1 一般常識
4-1-2 判断力
4-1-3 礼儀
4-1-4 思いやり
4-1-5 協調性
4-1-6 積極性
4-1-7 責任感
4-1-8 リーダーシップ

4-2 創造性（平均2.9）
4-2-1 基礎学力
4-2-2 専門知識
4-2-3 専門的技術力
4-2-4 発想力
4-2-5 計画力
4-2-6 論理的思考力
4-2-7 課題発見・解決能力
4-2-8 意欲・粘り強さ

4-3 国際性（平均2.7）
4-3-1 語学力（日本語）
4-3-2 語学力（英語）
4-3-3 コミュニケーション能力
4-3-4 プレゼンテーション能力
4-3-5 国際的な視野
4-3-6 探求心
4-3-7 発信力
4-3-8 状況把握力

卒業生進路等

商船学科、海事システム学専攻

日本郵船（株）、川崎汽船、共栄マリン（株）、NS ユナイテッド海運（株）、シュクユタンカー（株）、中央海運（株）、オフショア・エンジニアリング（株）、ENEOS オーシャン（株）、鹿児島船舶（株）、東京汽船（株）、井本商運（株）、ECL エージェンシー（株）、上野トランステック（株）、イイノガストランスポート（株）、NS ユナイテッド海運（株）、前川製作所、NX 海運（株）、日本クルーズ客船（株）、コスモ海運（株）他、

国立大学法人東京海洋大学、国立大学法人神戸大学、鳥羽商船高専専攻科　他

電子機械工学科

関西電力（株）、中部電力（株）、東京電力ホールディングス（株）、三菱電機プラントエンジニアリング（株）、三菱電機エンジニアリング（株）、三菱電機ビルソリューション、東海旅客鉄道（株）、ダイキンエアテクノ（株）、東京ガスネットワーク（株）、日本オーチスエレベータ（株）、三菱電機メカトロニクスエンジニアリング（株）、村田機械（株）、美和ロック（株）、NEC ネッツエスアイ（株）、浜松ホトニクス（株）、（株）半導体エネルギー研究所、旭ダイヤモンド工業（株）、キャノンマーケティングジャパン（株）他

国立大学法人長岡科学技術大学、国立大学法人豊橋科学技術大学、鳥羽商船高専専攻科

制御情報工学科　他

出光興産（株）、富士電機（株）、日本原子力発電（株）、日東電工（株）、（株）NTT ファシリティーズ、（株）エヌ・ティエムイー、シンフォニアテクノロジー（株）、（株）前川製作所、村田機械（株）、メタウォーター（株）、ソフトバンク（株）、KDDI エンジニアリング（株）、（株）トヨタシステムズ、中部電力パワーグリッド（株）、NEC ネッツエスアイ（株）、（株）UL Japan、パナソニックインダストリー（株）、キクカワエンタープライズ（株）、（株）アルプス技研他

モンゴル国立科学技術大学、国立大学法人長岡科学技術大学、国立大学法人豊橋科学技術大学、鳥羽商船高専専攻科　他

生産システム工学専攻

サントリー（株）、パナソニック（株）他

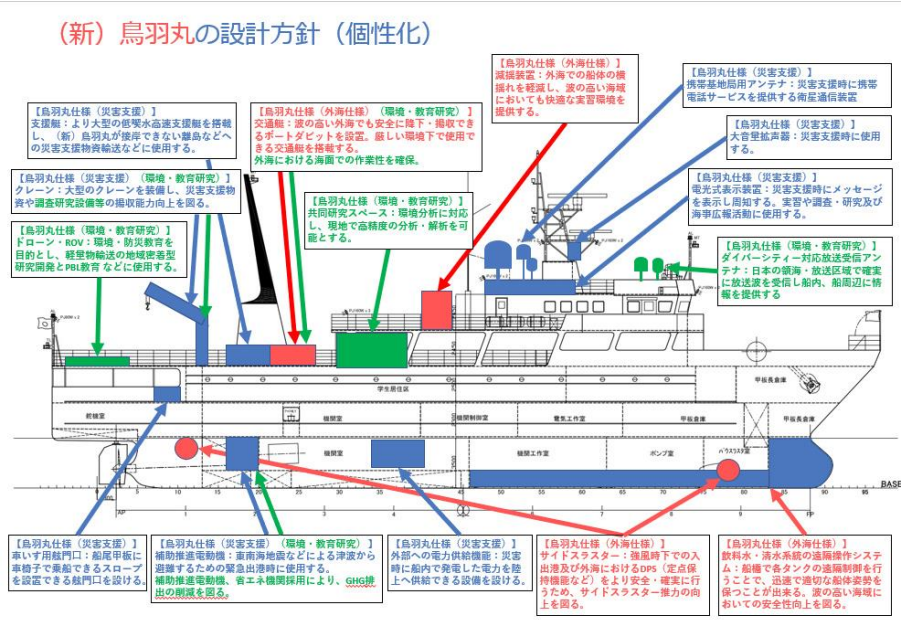
４．教育等環境整備と学生への支援

□教育等環境整備

・練習船「鳥羽丸」の代船建造（令和４年度二次補正予算措置）

→災害支援機能を有する練習船の建造

船舶法令対応、女性乗組や感染症、災害支援に配慮した安全・安心な教育訓練環境の実現



独立行政法人国立高等専門学校機構 鳥羽商船高等専門学校

代船建造検討委員会鳥羽丸WG作成（要求時）

・基幹・環境整備（桟橋）（令和５年度概算要求）

→新鳥羽丸の配備に対応した災害支援機能を有する新浮桟橋およびライフラインの整備

・学内共用スペースの確保　　（固定化の解除）

→GX, DX, スタートアップ、イノベーションの時代に対応した学内施設環境整備

・リジリエントな教育研究等学校活動環境の整備

□災害支援機能を有する練習船の配備（Ｒ４補正、Ｒ５補正）

（携帯基地局の船上設置、拡声器、電光表示、車いす、支援艇の配備）

□災害支援機能を有する浮き桟橋の整備（Ｒ５当初、Ｒ６当初）

（４m通路確立による、災害プッシュ輸送４トンロング車輌の進入可）

□国際寮・浴室・ボイラー整備（Ｒ６概算要求）と宿泊地区のエリア防災機能の強化

□学生への支援

・第４次産業革命を促進するプログラマ育成と地域活性モデル（**平成 29 年**“KOSEN4.0”イニシアティブ採択事業）

・国立高専における次世代の海洋人材の育成に関する協議会（**平成 30 年度**~次世代の海洋人材の育成事業）（継続中）

・「とる」から「つくる」へ農林水産業の DX 推進プロジェクト（**令和４年度**文部科学省科学技術人材育成事業-高専発！「Society 5.0 型未来技術人財」育成事業）「GEAR5.0 未来技術の社会実装教育の高度化（採択分野：農林水産）」に全国高専の中核拠点校として採択

・海洋・海事産業を対象とした全校での PBL 実践による DX 推進人材の育成（**令和４年度**文部科学省デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業 DX をけん引する高度専門人材育成事業）

・文部科学省**令和４年度**二次補正-高等専門学校スタートアップ教育環境整備（応募中）

・国際寮（多文化交流生活寮および浴室・ボイラー施設整備）（要求準備中）

この事業では、鳥羽商船高等専門学校において国際寮を新設する。「多文化交流生活寮（Multi-Cultural Exchange Dormitory、略称 MELD）」というコンセプトを掲げ、国際寮の意味合いをさらに掘り下げ、留学生に生活の場を提供するにあたって、生活様式や宗教的慣習など多様な文化的要素に応えるための施設を備え、国境を越えて活躍する人材育成のコモンズとなる生活寮を設置する。女子寮との併設を計画しており、女子留学生の受け入れに向けてより積極的に取り組む。MELD の特色としては、多文化生活寮として留学生のみならず、受け入れるチューター等の日本人学生との混住寮として交流を深化し、協学する機能を持った施設になることが挙げられる。高専生の特色である、個々の寮生の成長背景となる年齢や出身の多様性、文化的側面に応え協調性も図ることで、多角的な視野を育

みながら、ポストコロナや世代を超えた幅広い生活様式を持った学生の受け入れ、自立心を養い、生涯の友を得られる修養の場の実現が可能になる。

・各種奨学金受給状況（人数）

	R2 前期	R2 後期	R3 前期	R3 後期	R4 前期	R4 後期
JASSO 給付奨学金	42	43	48	49	45	42
JASSO 第一種奨学金	21	19	18	17	19	17
JASSO 第二種奨学金	3	6	8	7	5	4
海技教育財団奨学金	20	14	15	14	16	13
外航日本人船員奨学金	23	18	19	16	22	16

・鳥羽商船高専創基 150 周年・高専創立 60 周年記念事業基金（学生支援計画等）

本校は、令和 7 年(2025 年)に本校の母体となる航海測量習練所の創基から起算し、150 周年の記念すべき年となります。同年には、練習船鳥羽丸の新造船の竣工も計画されております。又、令和 9 年(2027 年)には高専設置 60 周年を迎えます。これらの年を記念するため式典を挙げ、本校の栄光ある足跡を回顧し、卒業生・修了生、及び、関係各方面の各位と喜びを分かち合いますとともに、母校の輝かしい将来の展望とその実現を期するため、独立行政法人国立高等専門学校機構 鳥羽商船高等専門学校創基 150 周年・高専創立 60 周年記念事業基金を設立致してこの事業を一層有意義なものに致します。

このため、「独立行政法人国立高等専門学校機構 鳥羽商船高等専門学校創基 150 周年・高専創立 60 周年記念事業委員会」を組織し、記念行事、及び、記念事業を計画し推進することと致しました。

１．募金の目的　創基 150 周年記念基金の創設

（１）記念行事等実施経費　**（２）学生の修学支援（３）教育研究支援（４）地域貢献支援**

（５）その他事業

・キャリア教育支援

本校は、就職活動が外的要因に左右されないように、入学時から一貫したキャリア教育プログラムを配置することで対応している。本校のキャリア教育は、学年毎の授業カリキュラムと学年横断型の支援事業から構成されている。本校では、就職活動は 4 年次のインターシップから始まると捉えており、3 年次からインターシップ先を選ぶためのプログラムを設定している。以下の STEP3(2)校内就職支援セミナーは、原則 3 年生以上を対象としているが低学年からの参加も可能としている。同セミナーのパンフレットは電子化されており、全学年で閲覧可能となっている。求人情報についても、Web で全学年が検索できるように対応している。また、リモート面接、リモートインターシップ対策として Zoom を用いたプログラムも実践している。

STEP1 社会人基礎力養成（1、2 年生、授業カリキュラム）

(1)一般基礎教育 1（1 年生、メンタルヘルス、スマホ、コミュニケーションスキル、他）

(2)一般基礎教育 2（2 年生、社会人基礎力、コミュニケーションスキル、他）

STEP2 就職力養成（3～5 年生、授業カリキュラム）

(1)キャリアデザイン 1（3 年生、自己分析を中心としたプログラム）

(2)キャリアデザイン 2（4 年生、企業分析を中心としたプログラム）

(3)インターンシップ（4 年生、単位化）

(4)キャリアデザイン 3（5 年生、就活支援を中心としたプログラム）

STEP3 実践力養成（3、4 年生、専攻科 1 年生、学年横断型支援事業）

(1)人材広告企業連携 WEB 講座（11 月、適性検査、就活動向講座、面接講座）

(2)校内就職支援セミナー（12 月、100 社を越える採用実績のある企業が参加）

(3)人材広告企業就職セミナー（マイナビ、学研、メディア総研）

・いじめ防止のためのコミュニケーション・スキルアップ支援とリテラシー教育

本校は、いじめ防止の啓発活動を、コミュニケーション・スキルアップ支援と情報リテラシー教育の両面から対応している。

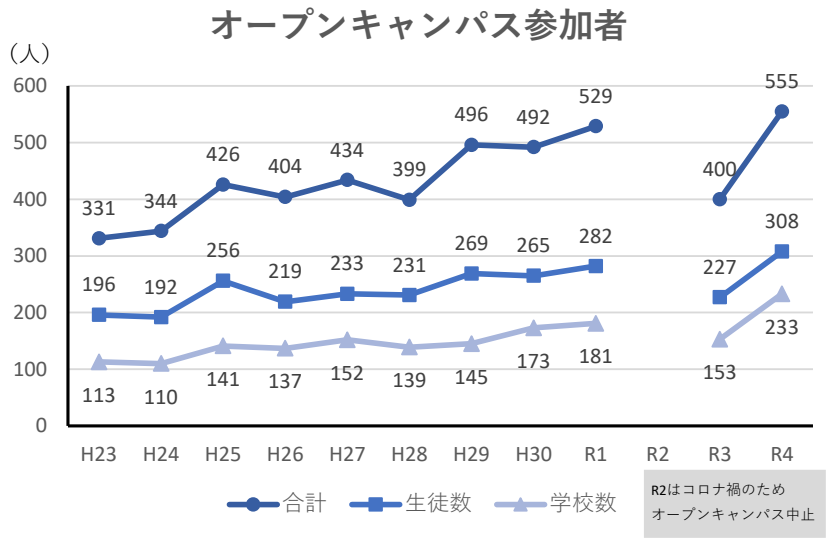
いじめ防止教育は、学生の SNS を含むコミュニケーションの円滑化に関する学びが、SDGs のゴールである「ジェンダー平等を実現しよう」「パートナーシップで目標を達成しよう」について考え、「他人の個性を認め尊重する」ことの実践に繋がることを目指してい

る。本校ではいじめ防止週間を、6 月、10 月、12 月に設け、学生主事、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーが、いじめ防止の視点で SNS を含むコミュニケーションについて講話、およびアンケート調査を行っている。特に、1 年生については、入学前説明会や、新入生オリエンテーションのグループワークを通じ、SNS を含むコミュニケーションにおけるトラブルの防止、対応方法を学ぶ機会を設けている。1、2 年生を対象とした社会人基礎力養成のための授業科目（一般基礎教育 1、2）においても、SNS の利用方法に関する啓発教育を行っている。また、学校学年横断型教育として、鈴鹿高専と連携してリモート環境で、ピアサポーター養成トレーニングを開催し、スクールカウンセラーの指導によるグループワークを通じ、SNS を含むコミュニケーショントラブルの予防学習を行っている。

情報リテラシー教育は、入学時の情報メディア教育センターによる情報倫理ガイドラインの説明を実施している。さらに、令和 3 年度に引き続き本年度においても本科 1 年生を対象に三重県警察本部サイバー犯罪対策課の方に講演を依頼し、インターネット上への顔写真のアップロードや LINE でのやり取りで実際に起きたトラブルを取り上げ、学生たちへ個人情報の取扱いや一度インターネット上に情報を上げてしまうと簡単に消すことはできないといった SNS での肖像権侵害等の内容について講演を行った。

5．広報、産学連携・他機関や地域との連携

・入試広報-オープンキャンパス



PR イベント	実数
春季学生募集巡回 PR（6～7 月）	県内中学校　149 校
秋季学生募集巡回 PR（10～11 月）	県内中学校　145 校 県外中学校　132 校
Web 学校説明会（7 月・10 月）	30 組
Web 入試相談会（7 月～11 月）	11 組
学科個別の相談会（10 月～11 月）	商船学科　練習船体験乗船　24 組
中学校主催「進路説明会」（6～11 月）	19 校
高専機構主催「国公立私立合同説明会」 （6 月 東京、7 月 大阪）	
公開講座「サイテクランド in 鳥羽商船高専」　（7～8 月）	小中学生 130 名
商船系高専 5 校合同進学ガイダンス（オンライン）（8 月）	
学習塾対象学校説明会(10 月)	19 名
NPO 法人故郷の海を愛する会主催事業の協賛(10 月・12 月)	10 月：33 名　12 月：33 名
受験相談会(12 月)	19 名
三重県 3 高専合同説明会（7 月・10 月）	
高専機構主催「KOSEN FAIR 2022」（オンライン） （10 月・11 月）	

・産学連携・他機関や地域との連携

本校では、「三重県の伊勢志摩地域の特徴的な産業（１次産業・３次産業）を支援し、業務の効率化、魅力あるコンテンツの制作に寄与する地域貢献活動を推進する」事を目標に掲げている。そのため、地元の人では気付きにくい地域の特色を県外のみならず国外の学生視点からより魅力的なものにするために 1 階に設置するラーニングコモンスペースを活用することで実施していく。

□海のシリコンバレー「伊勢志摩海洋教育研究アライアンス」協定

三重県と包括連携協定を締結しました伊勢志摩海洋教育研究アライアンス協定締結式および海のシリコンバレー シンポジウムに出席しました。　令和４年１０月１日

海のシリコンバレーは、鳥羽を中心とした伊勢志摩地域に海に関わる地方公共団体、高等教育機関、公的研究機関、地元企業が立地し、全国で希なインフラ環境のことがあることを受け、鳥羽市長が提唱しているものです。

□鳥羽商船高等専門学校と三重県との包括的連携に関する協定

三重県と包括連携協定を締結しました。　令和４年８月３１日

令和４年８月31日（水）に三重県庁において、三重県産業の振興や地域の活性化に貢献する人材を育成するとともに、地域課題に迅速かつ適切に対応し、活力のある個性豊かな地域社会の形成、発展に寄与することを目的に、三重県と包括連携協定を締結いたしました。

三重県とは従前から、農林水産業の振興に関することなどで連携した取り組みを実施していましたが、協定締結を機に防災・減災、スマート技術、DXの推進など一層連携を強化して取組を進めていきます。

（連携・協力事項）
（1）学生の県内への就職に関すること
（2）農林水産業の振興に関すること
（3）災害時の対応に関すること
（4）教育の充実に関すること
（5）観光の振興に関すること
（6）その他、地域の活性化及び地域課題の解決に資すること

□鳥羽商船高等専門学校と中電シーティーアイとの包括連携に関する協定

□三重県における海洋 DX 研究開発・導入の促進に係る産学官連携協定

□鳥羽商船高等専門学校と鳥羽市との包括連携に関する協定

□伊勢市産業支援センター、鈴鹿高専との産学官連携に関する協定

AI や IoT などの急速な技術の進展により社会が激しく変化し、多様な課題が生じている今日、文系・理系といった枠にとらわれず、様々な情報を活用しながらそれを統合し、課題の発見・解決や社会的な価値の創造に結び付けていく資質・能力の育成、STEAM（Science, Technology, Engineering, Mathematics, Arts）教育が求められています。本校は皇學館大學と包括連携するとともに、教員と学生を地元の小中学校に派遣して出前授業などを行っています。また、三重県とも包括連携協定を締結しています。これからも、人と社会の Well-being の向上に資する、「地域と世界の両方で活躍する、科学的思考を身に着けた高度の技術者の育成」に注力していきます。

そのような人材育成や教育研究の推進に資するべく鳥羽商船高専産業連携協力会が設立されており、産学官金連携の大きな推進力となっています。

令和４年度　鳥羽商船高専連携協力会 役員等名簿

独立行政法人国立高等専門学校機構
鳥羽商船高等専門学校

会長　菊川　厚（キクカワエンタープライズ株式会社 代表取締役社長）
副会長　西村　譲治（協同海運株式会社 代表取締役）

理事　菅沼　延之（名古屋メッキ工業株式会社　代表取締役、鳥羽商船同窓会　会長）
理事　福武　章夫（伊勢湾フェリー株式会社 取締役社長）
理事　川邉　浩史（美和ロック株式会社 代表取締役社長）
理事　平野　新一（シンフォニアテクノロジー株式会社　代表取締役社長）
理事　江崎　隆夫（株式会社鳥羽ヤンマー 代表取締役）
理事　和泉　充（鳥羽商船高等専門学校　校長）
理事　江崎　修央（鳥羽商船高等専門学校　教授　校長補佐・研究主事）

監事　神山　大輔（株式会社マスヤグループ本社　執行役員）
監事　三浦　宣昭（伊勢湾フェリー株式会社 業務部専任部長）

顧問　松田　音壽（鳥羽商工会議所　会頭）
顧問　永富　洋一（鳥羽磯部漁業協同組合　代表理事組合長）
顧問　鈴木　英敬（衆議院議員）
顧問　中村　欣一郎（鳥羽市長）
顧問　伊藤　友仁（鳥羽商船高等専門学校　教授　副校長・教務主事）
顧問　坂牧　孝規（鳥羽商船高等専門学校　教授　副校長・学生主事）
顧問　橋爪　仙彦（鳥羽商船高等専門学校　教授　副校長・寮務主事）
顧問　白石 和章（鳥羽商船高等専門学校 教授 校長補佐・情報教育メディアセンター長）

事務局長（兼務）　江崎　修央（鳥羽商船高等専門学校　教授　校長補佐・研究主事）
事務局次長　水野　英昭（鳥羽商船高等専門学校　総務課課長補佐）
幹事長　吉岡　宰次郎（鳥羽商船高等専門学校　准教授 研究主事補）
幹事　窪田　祥朗　（鳥羽商船高等専門学校　教授　研究主事補）
幹事　深見　佳代　（鳥羽商船高等専門学校　准教授 研究主事補）
幹事　清重　康司　（鳥羽商船高等専門学校　技術長）

鳥羽商船高専連携協力会事業概要

年間スケジュール（予定）

４月　役員会
・会計報告、実施報告、実施計画　起案

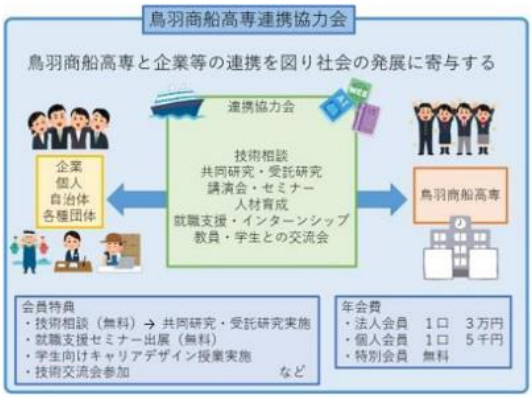
５月　総会、研究事例報告
・理事会での立案事項の承認、学校及び会員企業等からの話題提供

９月から１１月　連携協力会サロン（研究会）
・発表会後に軽食・名刺交換会

１２月　就職支援セミナー（９月案内開始）
・学校での企業紹介イベント

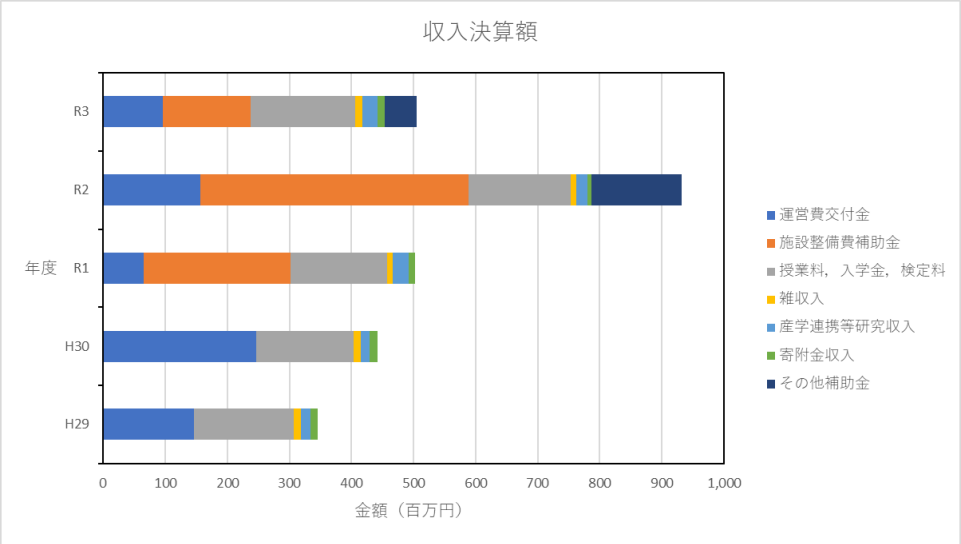
３月　鳥羽商船高専フォーラム
・連携協力会での実施事例、学校取り組み内容、学生取り組み内容などの報告

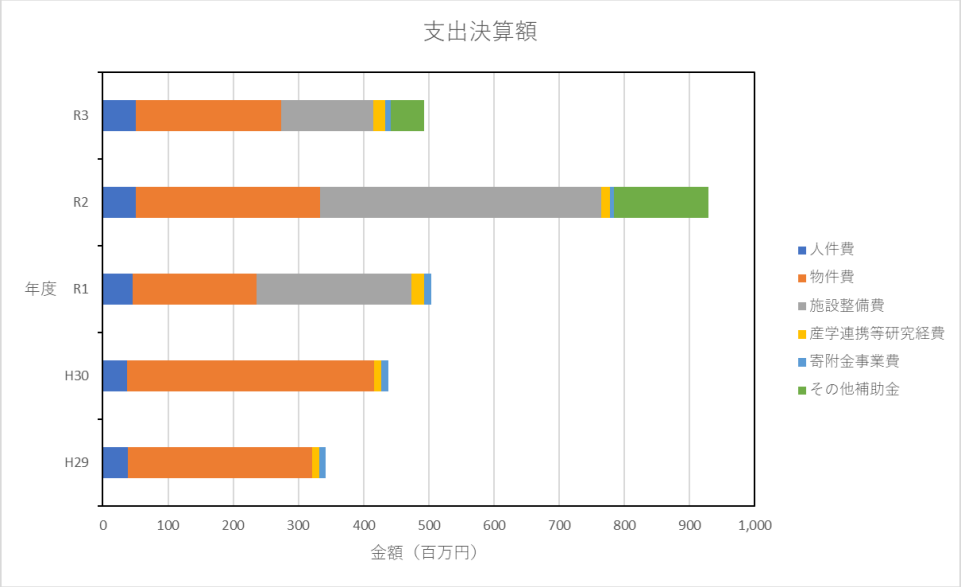
随時　技術相談、共同研究・受託研究実施、学生向け授業等



伊勢市産業支援センター、鈴鹿高専との産学官連携に関する協定（H21 年 1 月 22 日）
鈴鹿高専との相互の連携協力及び共同事業の推進に関する協定（H22 年 3 月 17 日）
豊橋技術科学大学と岐阜工業高等専門学校、沼津工業高等専門学校、豊田工業高等専門学校、鳥羽商船高等専門学校、鈴鹿工業高等専門学校との教育研究交流に関する協定書（H23 年 7 月 1 日）
三重県工業研究所との連携協力に関する協定書調印（H30 年 1 月 16 日）
和歌山工業高等専門学校と鳥羽商船高等専門学校間における包括連携に関する協定書（H30 年 3 月 27 日）
鳥羽市との包括協定締結（H30 年 3 月 28 日） GIGA スクール運営支援　市内小中学校への ICT サポート 農業向け灌水システム構築支援、ゴミ分別サイト更新 市職員との課題解決オンライン会議
KDDI・KDDI 総合研究所との包括連携協定（R2 年 11 月 17 日）
三重県における海洋 DX 研究開発・導入の促進に係る産学官連携（R3 年 3 月 16 日）
中電 CTI との包括連携協定（R4 年 1 月 14 日）
皇學館大学と包括連携協定（R4 年 6 月 24 日）
三重県との包括的連携に関する協定（R4 年 8 月 31 日）
海のシリコンバレー「伊勢志摩海洋研究アライアンス」協定（R4 年 10 月 1 日）
ローカル 5G を活用した AI 画像認識によるブリ養殖の効率化に向けた実証（R4 年度）
三重県を代表機関とする「スマート農業技術の開発・実証プロジェクト」参画
三重県農林水産部からの受託研究 AI・ICT 技術の導入による魚類養殖用疾病早期発見システムの開発
志摩市沿岸域海況ドローン調査を実施
みえスマート水産業研究会　会長
公開講座 ビー玉スターリングエンジン、ことばのイメージとグローバルについて、英語高速学習（中 1 で英検 3 級へ）、おもしろ理科実験、IchigoJam でマイコンプログラミング、光を知り、使い、役立てる (天体望遠鏡を作ってみよう＆レーザー加工機でモノ作り)、レーザー加工機を用いたアクリルスタンド作成、 3 D CAD, 3 D プリンタ、プログラミング体験講座、はじめての IoT 入門 ハンズオン講座（一般向け）、機械学習入門（画像分類）（一般向け）
出前授業 県内伊勢志摩地区小学校 3 校、・県内伊勢志摩地区中学校 2 校
NPO 法人故郷の海を愛する会 潮騒の神島に渡り、伊良湖水道見学と神島の自然観察 もうすぐクリスマス、遊んで学ぼう。商船学校の歴史と船と海の話

６．データでみる財務状況





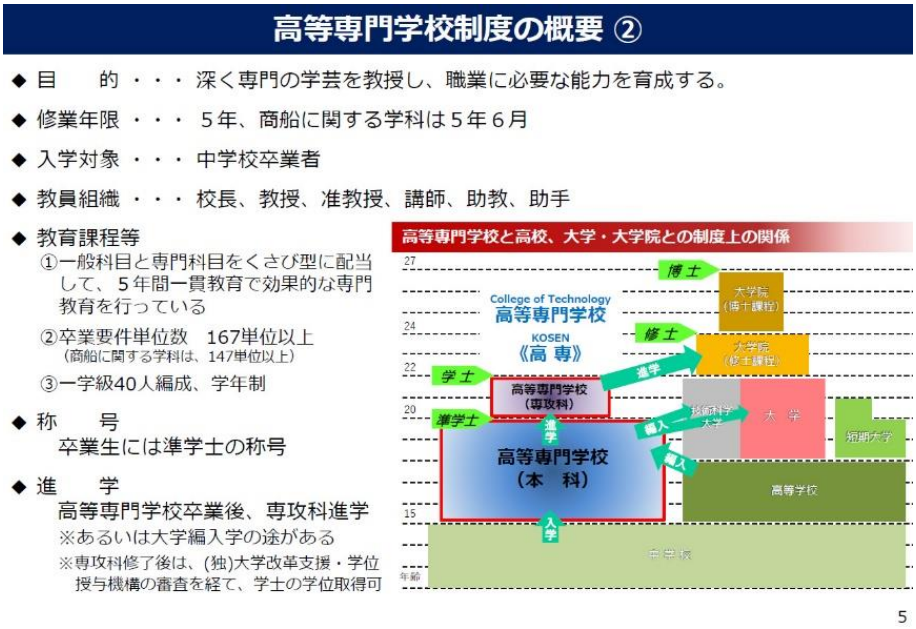
7．データでみる学生の活躍

2022年度　学生の活躍記事（本校HP）

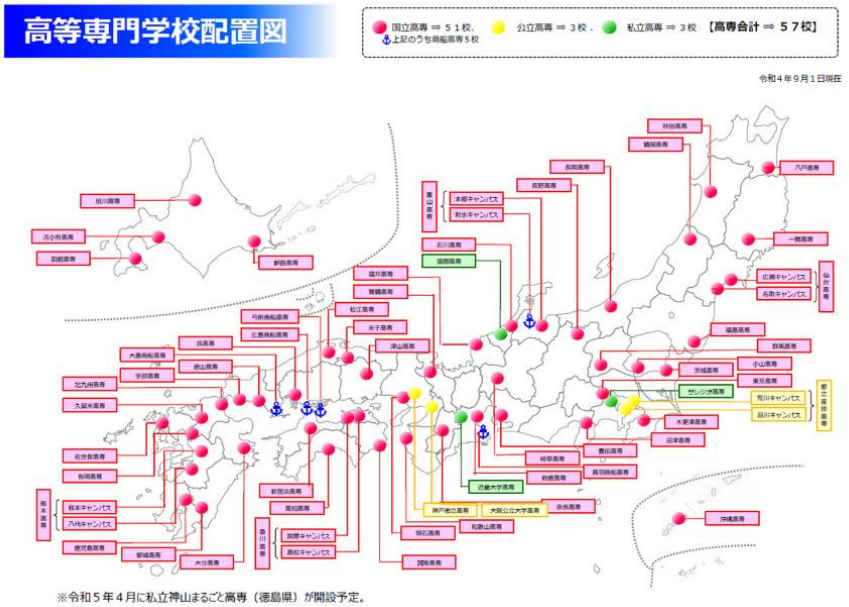
No.	日　付	記事タイトル	対象学生	備　　考
1	2023.2.10	観光甲子園でグランプリ受賞！	情報機械システム工学科	
2	2023.2.1	パソコン甲子園・GCON2022の受賞報告会を実施	情報機械システム工学科	
3	2023.2.1	キャンパスベンチャーグランプリ中部大会で奨励賞を受賞	情報機械システム工学科	
4	2023.1.27	第11回高校・高専気象観測機器コンテスト受賞チームが鳥羽市長を表敬訪問しました	制御情報工学科 情報機械システム工学科	
5	2023.1.4	令和４年度日本水産学会中部支部大会において本校学生が優秀発表賞を受賞	専攻科	
6	2022.11.10	パソコン甲子園2022のモバイル部門でベストアイデア賞を受賞！	情報機械システム工学科	
7	2022.11.10	GNSS・QZSSロボットカーコンテスト2022のオンライン部門で審査員特別賞を受賞	電子機械工学科	
8	2022.10.26	本校学生が「ROV設計製作セミナー」に参加	情報機械システム工学科	
9	2022.10.26	第33回高専プロコンにて特別賞を受賞	情報機械システム工学科	
10	2022.10.26	高専ロボコン2022東海北陸地区大会デザイン賞＆特別賞受賞	電子機械工学科 情報機械システム工学科	
11	2022.7.27	第57回全国商船高等専門学校漕艇大会を開催しました	カッター部	
12	2022.7.27	インターハイに少林寺拳法部が出場	少林寺拳法部	
13	2022.6.20	WiCON2021にて本校学生が海洋SDGs大賞を受賞	制御情報工学科 情報機械システム工学科	
14	2022.6.3	本校学生が三重県環境整備事業協同組合主催の「次世代とともに考える閉鎖性海域」にて発表を行いました	制御情報工学科 情報機械システム工学科	
15	2022.6.3	DCON2022出場学生が校長先生へ結果報告を行いました	制御情報工学科	
16	2022.5.26	2022女子学生エンパワーメント研修への参加報告	商船学科 情報機械システム工学科	
17	2022.4.12	AIビジネス創出アイデアコンテストで人工知能技術コンソーシアム会長賞を受賞！	制御情報工学科 情報機械システム工学科	

15 歳からの年月をかけて、志をもった学び続ける人を求め、育てます。

高専（KOSEN）は創設当初は中堅技術者の養成を目的に創設されましたが、時代の変化と社会の要請に応え、15 歳の中学卒業生を受け入れる本科 5 年（商船学科は 5.5 年）の通貫の教育の先には、FAST TRACK としての産業界への就職のみならず国立大学等への大学 3 年次編入、専攻科進学、さらには大学院進学などの多様な進路を示しながら、実践性と創造性を備えた地域と世界の両方で活躍する、科学的思考を身に着けた高度の技術者の育成に努めています。技術創造立国を支えている高専卒業生たちのめざましい活躍は、15 歳からの早期専門教育が実証するところです。



5



6

独立行政法人国立高等専門学校機構　鳥羽商船高等専門学校

517-8501 三重県鳥羽市池上町 1-1 TEL 0599-25-8000 FAX 0599-25-8016

NATIONAL INSTITUTE OF TECHNOLOGY, TOBA COLLEGE

1-1, Ikegami-cho, Toba-shi, Mie-ken 517-8501, JAPAN

日本語　　ENGLISH

2023 年（令和 5 年）3月

内部資料（部外秘）

キャンパスマスタープラン 2022

～人間性、創造性、国際性豊かな人材の育成を目指して～

令和５年３月

独立行政法人国立高等専門学校機構
鳥羽商船高等専門学校

内部資料（部外秘）

目　次

Ⅰ．学校紹介と沿革　・・・・・・・・・・　1

Ⅱ．施設整備の基本方針
Ⅱ-1　教育理念と教育目標　・・・・・・・・・・　2
Ⅱ-2　施設整備の基本方針　・・・・・・・・・・　3
Ⅱ-3　基本方針の具体的施策　・・・・・・・・・・　4

Ⅲ．キャンパスの現状
Ⅲ-1　施設概要　・・・・・・・・・・　10
Ⅲ-2　老朽化の現状と課題　・・・・・・・・・・　11
Ⅲ-3　耐震化の現状　・・・・・・・・・・　12
Ⅲ-4　バリアフリー化の現状と課題　・・・・・・・　13
Ⅲ-5　インフラストラクチャーの現状と課題　・・・　14
Ⅲ-6　近年の整備状況　・・・・・・・・・・　15

Ⅳ．キャンパス計画
Ⅳ-1　ゾーニング計画　・・・・・・・・・・　16
Ⅳ-2　キャンパス動線計画　・・・・・・・・・・　17
Ⅳ-3　今後の整備計画　・・・・・・・・・・　20

表紙の写真
① 鳥羽丸ワークショップ「伊勢湾・三河湾スナメリ観察クルーズ」
②Imagine Cup 2015世界大会出場（マイクロソフト社主催）
③学園祭「海学祭」
④公開講座「サイテクランド2014in鳥羽商船」

内部資料（部外秘）

学校紹介

独立行政法人国立高等専門学校機構 鳥羽商船高等専門学校は、校祖近藤真琴翁が明治８年（1875年）９月14日に芝新銭座二番地（現在の東京都港区浜松町）に航海測量習練所（後の商船黌）として創基し、分校として、明治14年（1881年）8月20日に三重県鳥羽町に鳥羽商船黌として創立されました。その後、私立、市立、県立などの変遷を経て、昭和42年（1967年）6月に国立鳥羽商船高等専門学校となりました。
創立以来、我が国の産業界の変化に対応して順次学科の新設・改組を行い、平成17年4月には専攻科海事システム学専攻、及び、生産システム工学専攻が設置されました。令和元年（2019年）には、現在のように商船学科、情報機械システム工学科の２学科体制となりました。

沿　　革

明治 08. 09. 14　東京に航海測量習練所が創基される
明治 14. 08. 20　東京攻玉社分校、鳥羽商船黌開校
明治 26. 03.　攻玉社の都合により一時閉鎖
明治 28. 10. 04　東海商船学校と改称、再興
明治 32. 08. 17　鳥羽町立鳥羽商船学校となる
明治 44. 04. 01　三重県立鳥羽商船学校となる
大正 06. 01. 25　練習帆船「あまき」（バーク型３００総トン・補助機関付き）竣工
昭和 14. 08. 19　官立（文部省直轄）鳥羽商船学校となる
昭和 17. 01. 01　逓信省に移管される
昭和 18. 11. 01　運輸通信省所管となる
昭和 20. 05. 19　運輸省所管となる
昭和 26. 04. 01　文部省所轄鳥羽商船高等学校となる
昭和 26. 10. 04　創立70周年記念式典を挙行
昭和 35. 03. 31　練習船初代「鳥羽丸」（鋼船56.52トン）建造

昭和 42. 06. 01　鳥羽商船高等専門学校となる
　航海学科40名、機関学科40名、計80名の入学定員となり、昭和42年度入学生が高専１期生となる

昭和 43. 04. 10　高専第１回入学式（２期生）を挙行
昭和 44. 04. 01　機関学科1学級増により学生入学定員は航海学科40名、機関学科80名、計120名となる
昭和 45. 03. 14　練習船二代「鳥羽丸」（鋼船325.67トン）建造
昭和 45. 04. 01　事務部制実施により庶務課及び会計課設置
昭和 47. 09. 30　高専第１回卒業証書授与式を挙行
昭和 48. 04. 01　事務部に学生課設置
昭和 56. 11. 01　創基百周年記念式典を挙行
昭和 60. 04. 01　機関学科を分離改組し、機関学科40名、電子機械工学科40名となる
　開学以来初めて女子学生の入学を許可し、航海学科3名、電子機械工学科3名、計6名の女子学生が入学
　全寮制を基本として、一部について自宅又は親戚等からの通学を許可
昭和 61. 07. 26　商船教育創始１１０周年を記念する会を挙行、郵政省より同記念切手が発行される
昭和 63. 04. 01　航海学科及び機関学科を改組し、商船学科40名、制御情報工学科40名となり、本校は商船学科、電子機械工学科、制御情報工学科の３学科計120名となった
平成 02. 03. 08　電子機械工学科第１回卒業証書授与式を挙行
平成 02. 04. 01　全学全寮制を廃止し、1､2年生全寮制となる
平成 03. 04. 08　留学生、編入学生の受け入れを開始。
平成 05. 03. 10　制御情報工学科第１回卒業証書授与式を挙行
平成 06. 04. 01　1､2年生全寮制を廃止し､商船学科1､2年生全寮制となる
平成 06. 08. 19　練習船三代「鳥羽丸」（鋼船244トン）建造
平成 12. 11. 20　職員宿舎竣工
平成 13. 11. 09　創基120周年記念式典を挙行

平成 16. 04. 01　独立行政法人国立高等専門学校機構鳥羽商船高等専門学校

平成 17. 04. 01　専攻科設置（海事システム学専攻４名、生産システム工学専攻８名）
平成 18. 04. 01　商船学科の全寮制を廃止　任意寮となる
平成 19. 03. 14　4号館(専攻科棟)竣工
平成 19. 03. 26　専攻科　生産システム工学専攻　第１回修了証書授与式を挙行
平成 19. 09. 19　専攻科　海事システム学専攻　第１回修了証書授与式を挙行
平成 20. 08. 26　シンガポールポリテクニック、シンガポールマリタイムアカデミーと教育、学術に関する国際交流協定を締結
平成 22. 04. 02　21代校長に東京海洋大学名誉教授　藤田稔彦が就任
平成 22. 11. 24　ハワイ大学カウアイコミュニティーカレッジと教育、学術に関する国際交流協定を締結
平成 26. 03. 11　イスタンブル工科大学と教育、学術に関する国際交流協定を締結
平成 27. 04. 01　22代校長に独立行政法人高等専門学校機構理事　鈴鹿工業高等専門学校長　新田 保次が併任
平成 29. 04. 01　23代校長に神戸大学名誉教授　林　祐司が就任
令和 01. 04. 01　電子機械工学科、制御情報工学科を改組し、商船学科40名、情報機械システム工学科80名の２学科体制となる
令和 03. 04. 01　24代校長に東京海洋大学名誉教授　和泉　充が就任

校祖　近藤真琴（一八三二～一八八六）

鳥羽藩の蘭学者で、幕末、蘭学を志し、数理や航海・測量術、兵学を学んだ。文久三年（一八六三）攻玉塾を興し、海軍兵学校入学志願者を養成したほか、長く海軍兵学校の教官を努め、日本海軍の創設に尽力した。また、世に先駆けて、陸地測量や商船教育、幼年・女子教育などを行ない、福沢諭吉、新島襄などとともに、明治六大教育家の一人とされている。先生が詠んだ和歌に「とつ国のみやまの石を砥となして大和島根の玉みがかなむ」があり「攻玉」の精神が詠われている。

内部資料（部外秘）

1.教育理念

進取・礼譲・質実剛健

2.教育目標

(1) 人間性豊かな教養人となること

幅広い教養と知性を身につけ、判断力があり、礼儀正しく、かつ思いやりのある人間を目指す。

(2) 創造性豊かな技術者となること

確かな基礎学力と専門知識を身につけ、進取の気性と不屈の精神を備えた技術者を目指す。

(3) 国際性豊かな社会人となること

国際感覚とコミュニケーション能力を身につけ、広い視野と行動力を備えた社会人を目指す。

鳥羽商船高専のシンボルマーク

船舶で航海に使用する羅針盤の八方位を形どったものをイメージしている。

鳥羽商船高等専門学校　校旗

内部資料（部外秘）

1.施設整備の基本方針について

本校の教育理念・教育目標に基づいて、施設整備の基本方針を策定し、キャンパスの長期的な整備を見据えて、総合的かつ統一的に再生し、教育研究活動の向上発展を可能とする優れた環境の創出を行うために示したものである。なお、機構本部の中期目標･中期計画にも反映することから5年ごとに方針等の見直しを行うことを原則とする。

施設整備の基本方針

- **開かれた高等専門学校の実現**
- **基盤となる教育・研究施設の充実**
- **国際化推進となる施設の拡充**

2.教育目標との関連性

教育目標

(1)人間性豊かな教養人となること
幅広い教養と知性を身につけ、判断力があり、礼儀正しく、かつ思いやりのある人間を目指す。

(2)創造性豊かな技術者となること
確かな基礎学力と専門知識を身につけ、進取の気性と不屈の精神を備えた技術者を目指す。

(3)国際性豊かな社会人となること
国際感覚とコミュニケーション能力を身につけ、広い視野と行動力を備えた社会人を目指す。

施設整備の基本方針

- **開かれた高等専門学校の実現**
  - ・人間性・安全性(高齢者・身障者)に配慮した施設環境の整備
  - ・社会的資産としての高専施設の開放
- **基盤となる教育・研究施設の充実**
  - ・既存施設改修による老朽化防止対策
  - ・インフラストラクチャーの基本的機能の整備
  - ・学内共用スペースの確保　　（固定化の解除）
- **国際化推進となる施設の拡充**
  - ・感性豊かで国際的に活躍できる人材の育成・意欲的に修学できる学習環境の整備
  - ・留学生への教育及び寄宿舎等環境の充実整備

参考：戦略的なキャンパスマスタープランづくりの手引き
平成22年3月　文部科学省大臣官房文教企画部計画課整備計画室

内部資料（部外秘）

➢ 開かれた高等専門学校の実現

・人間性・安全性(高齢者・身障者)に配慮した施設環境の整備

→校舎１号館改修、学生課棟（自助努力検討中）

高専キャンパスは、時代とともに変化する様々な社会的要請や利用する学生、研究者のニーズに応えるとともに、安全な教育研究環境であることが重要であり、年次計画を策定しバリアフリー化の推進を図る。

・社会的資産としての高専施設の開放

→産学連携施設の拡充（R3鳥羽商船高専連携協力会設立とＲ７創基150周年・高専創立60周年記念事業、同窓会創立100周年記念事業等にかかる同窓会との連携推進）

一般市民の知的ニーズや教育ニーズに対する教育機会の提供を行い、高専の保有する知的・施設資源を幅広く社会に還元していく。また、必要に応じて、産学連携による共用研究室等の拡充を図る。

・これまでのキャンパス整備と近年の気候変動や社会情勢をふまえて下図に示すように、７つの海をはじめとする世界と地域で活躍する人材育成を持続的に推進するため、海事・海洋をはじめとする産業界や地域産業等と共創するマリンリゾートコアキャンパスのコンセプトが提案された。

令和４年８月　校長-理事長ヒヤリング校長提出
鳥羽商船高専における学校経営・課題対応図

独立行政法人国立高等専門学校機構 鳥羽商船高等専門学校
鳥羽商船高等専門学校は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

各高専の課題

1．防減災・備災に対応した校内施設・環境の整備
2．教育の質保証と優秀な教職員の確保
3．情報セキュリティ、情報倫理の徹底と入試等広報活動の強化
4．就学支援体制の強化、男女共同参画とキャリア支援の強化
5．基金による資金力の強化、外部資金による教育研究力の向上

中長期的要因

1．留学生/女子学生寮室の不足、学生募集に影響、県内15歳人口の減少
2．担任をもつことに対する教員意識、教員個々の活動の評価への期待
3．学生と保護者に向けたきめ細かな対応、「誰一人取り残さない」教育の質保証と必要な配慮が求められている。
4．留学生、女性教員や学生の確保、異なる多様な人々が、個性を活かし協働することで新たな価値の創造へ
5．入学から就職まで、卒業後まで学科・学年通貫のキャリア支援が必要
6．海事・物流産業はじめ本校に強くかかわる産業の変革期

短期的要因

1．感染症の対応による遠隔授業の整備が充実された。
2．課外活動を含む学校活動の質的回復期
3．保護者と学生の東南海・南海地震や津波への不安 （奨学後援会総会）
4．寮生の寮と帰省先、通学生の家庭を含むトータルセキュリテイ
5．寮務や事務部門等にわたる残業慢性化
6．新学科学年進行と専攻科カリキュラム
7．グローバル教育推進における海外派遣と留学生招聘のリカバリー

学校の強み「All鳥羽」で取り組む「Only ONE」

人づくりを通じて海づくり、海事、情報と機械の次世代産業と地域経済に貢献する
マリンリゾート・コアキャンパス

誰一人取り残さない-SDGsに貢献するマリン・キャンパス
練習船、寮や課外活動等の施設整備をコアとする学生と地域が共生する「鳥羽商船モデル」
NIT-TOBA COLLEGEは海のシリコンバレー地域構想と共創
地域社会に溶け込むキャンパスタウンデザイン、地域・建築デザインの工学を擁する芝浦工業大学等との連携開始

教職学協働を通じたSociety 5.0型未来技術人財、次世代海事人材の育成、複数担任など学年と学科通貫の学生支援

□**同窓会や連携協力会と協働**、産学官金連携体制充実と地域共創を通じた卒業・修了学生、鳥羽の**ブランディング**
□尖った**２学科・専攻科体制の充実**、学科横断のコースの検討
□土地の有効利用、多様な人々が個性を活かし協働する**混住型国際学生寮（多文化交流生活寮）**、**校舎地区や艇庫の東海・東南海・南海地震、津波への対応**、**レジリエントキャンパス鳥羽**
□教育力と研究力の強化と教員個人の教育研究や課外活動の評価
□情報セキュリティとポータルサイトによる保護者から「**見える**」環境構築　小中学生への海やICT、DXへのいざない、中学校訪問から就職支援まで、生涯キャリア支援
□**練習船代船建造、浮き桟橋架け替え**、（仮称）、**船舶運航センター創設**教育機関と連携強化（**皇學館大學との包括連携によるSTEAM教育の推進、鈴鹿医療科学大学との情報交換開始**）
□**基金のファンドレイジング**で奨学金やグローバル教育の充実へ

内部資料（部外秘）

➢ 基盤となる教育・研究施設の充実

15歳の中学卒業生を受け入れる本科5年（商船学科は5.5年）の通貫の教育の先には、FAST TRACKとしての産業界への就職のみならず国立大学等への大学３年次編入、専攻科進学、さらには大学院進学などの多様な進路を示しながら、実践性と創造性を備えた地域と世界の両方で活躍する、科学的思考を身に着けた高度の技術者の育成に努めています。

商船学科と海事システム学専攻

商船系高専４校とともに特別の使命を持っています。周りを海に囲まれ世界第6位のEEZをもつ日本は、海上輸送によって資源を海外から輸入し、生産技術やシステム構築により、製品を輸出して経済を発展させてきました。海運業界は、GHG排出削減に向けた代替燃料への転換などの環境問題、自動運航船や洋上風力発電などへの事業展開など急速な技術革新とともにおおきく変貌しています。活躍する舞台、求められる能力も船上のみならず、先進技術の展開や海運にかかる総合的スキルを活かしたマネジメント力まで大きな期待が寄せられています。

情報機械システム工学科と生産システム工学専攻

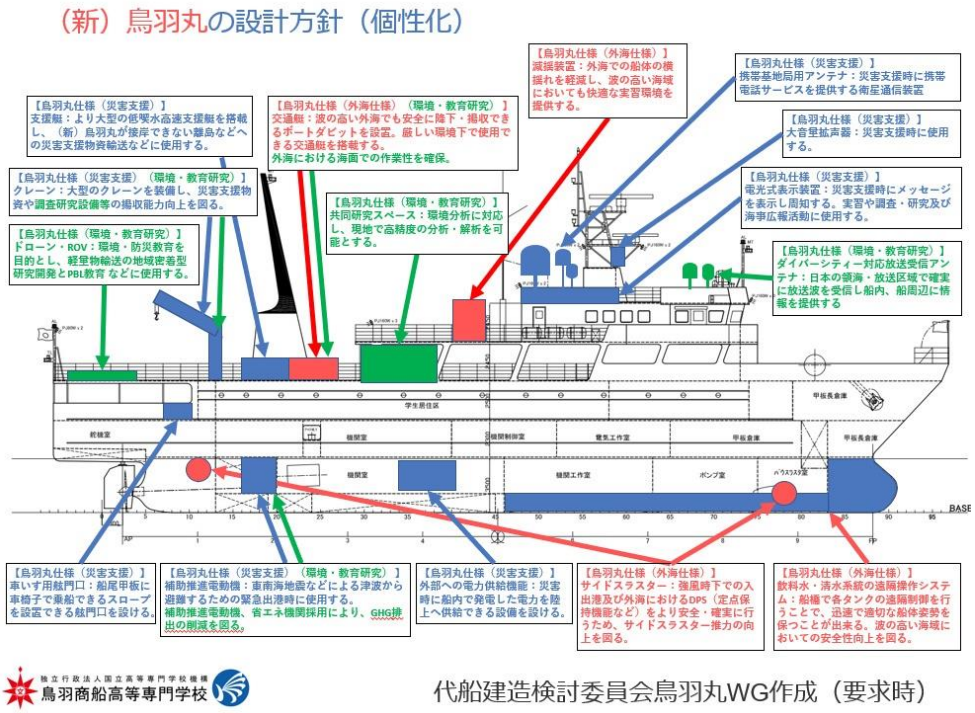
経済のグローバル化、機械や電気電子、情報産業技術の高度化、新型コロナウィルス感染症の影響やデジタルトランスフォーメーション（DX）が加速的に急進展する現在、国の教育基本振興基本計画の今後の目的として、超スマート社会の実現に向かうイノベーションに対応するため、数理データサイエンス・AI、ロボット等の分野での「実践的・創造的な技術者の育成と起業精神の充実」や「社会実装教育」、「地域への貢献」、「国際化の推進」が要請されています。

ソフトとハードを結ぶ教育を基盤にそれらの要請に応えるための整備を進める。

・練習船「鳥羽丸」の代船建造（令和４年度二次補正予算措置）

→災害支援機能を有する練習船の建造

船舶法令対応、女性乗組や感染症、災害支援に配慮した安全・安心な教育訓練環境の実現



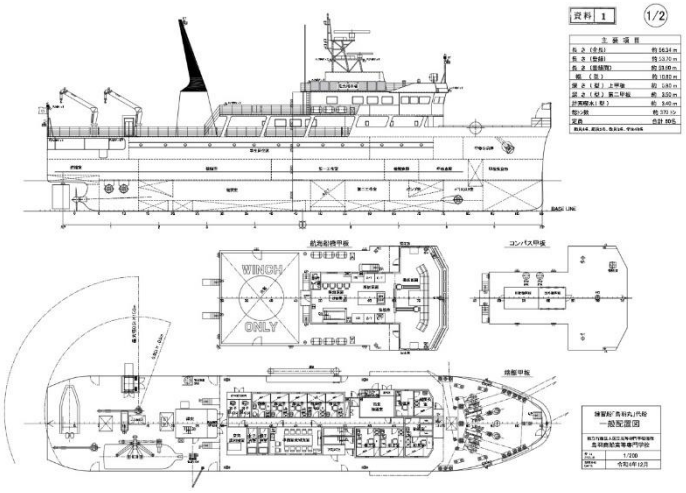
代船建造検討委員会鳥羽丸WG作成（要求時）

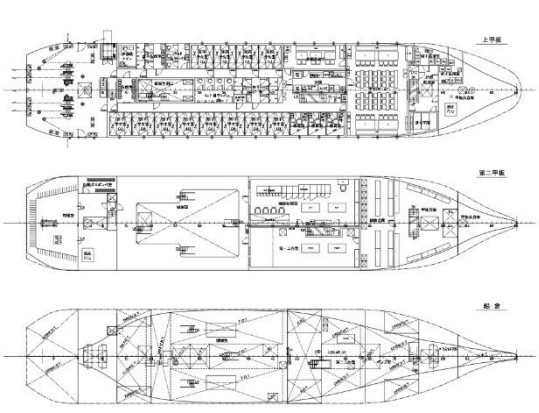
内部資料（部外秘）

本校商船学科の教育方針は，物流の国際化と船舶の技術革新に適応した船舶の運航技術者として活躍できる専門知識と技術を習得した人材および海事関連産業で活躍できる人材を育成することであり、これまでステークホルダーからのニーズに応えるべく、時代の変化に応じた海事教育を実施してきた。５年ごとに策定される海洋基本計画、来る第４期では、脱炭素・DX に対応した海洋産業の競争力強化、ゼロエミッション船の導入、カーボンニュートラルポートの形成、また、自律運航船の実用化や港湾の電子化が期待されている。さらに、慢性的なエネルギー問題を抱える我が国は、洋上風力や再生可能エネルギーの利用、資源探査水中ロボットの持続的な開発などに社会の関心が集まっている。これらのニーズ、技術革新に応える人材育成が本校の使命である。

日本における海運界は混乗船化が進み、自律運航船など陸上支援業務が重要となってきている現在、日本人船員に要求される資質は、多岐に及んでいる。なかでも、士官としてコミュニケーション能力、リーダーシップを発揮できる能力が要求されており、ジェネリックスキルの育成とともに、理論のみならず実践的な技術の習得、船舶運航に精通する人材の養成が学校教育においては必須である。また、三級海技士資格を保有する航海士、機関士としての資質を備えた実践力のある人材を育成するためには、最新技術を習得し、かつ、理論に基づき実機での操作を体得できる教育システムが必要である。

練習船鳥羽丸は、理論のみならず、実習を通して実機を操作しながら先端的、実践的な技術を習得でき、また、座学では学べないジェネリックスキルの強化、船舶職員としての資質育成に大きく寄与するものである。本船は、最新で高度な海洋関連技術を習得した海事技術者、海技士資格を有した優秀な海のスペシャリスト、国際感覚を身につけたグローバルに活躍できる人材、これらすべての育成を担う練習船である。そのため、教育設備、研究設備、居住設備、安全性及び環境性能のすべてに優れた船体構造・仕様であることが求められる。さらに、近年の情勢を鑑み、船室の感染症対策をはじめ、支援物資搭載スペースの確保、非常用電源供給、水支援、簡易な医療機器の搭載など、各種災害支援機能の充実が求められている。また、本船は、本校学生の実習、訓練に用いると同時に、海事思想の普及、地域貢献、社会貢献にも寄与するものである。





内部資料（部外秘）

・基幹・環境整備（桟橋）（令和５年度概算要求）

→新鳥羽丸の配備に対応した災害支援機能を有する新浮桟橋およびライフラインの整備

・既存施設改修：老朽化改修から機能の高度化へ

→校舎１号館・3号館等・環境整備

学生が利用する教育･研究ゾーンの施設、学科改組やカリキュラムに対応した多様な授業に対応するフレキシブルなスペースへと改修し、基盤となる教育・研究施設の充実を図る。図書館改修により、メディアホール、クリエイテイブラボ等のＤＸに対応した講義・演習が実現できる施設整備が措置された。津波対応を考慮しながらデジタル、グリーンの成長分野の人材育成に対応する整備充実を図る。

・インフラストラクチャーの基本的機能の持続的整備

→空調機器設備改修・照明器具のLED化・トイレ整備

維持管理上、冷暖房設備の老朽化対策、照明器具のLED化、トイレ整備（和式から洋式化等）を優先的に実施、機能改修を持続的に行う。また、情報化に伴う電気容量の不足などの屋内のインフラについては、老朽化防止対策と同様に教育・研究ゾーン、交流ゾーンの施設から優先的に概算要求し、教育・研究施設の充実を図る。

・学内共用スペースの確保　　（固定化の解除）

→GX, DX, スタートアップ、イノベーションの時代に対応した学内施設環境整備

令和４年度補正予算の高等専門学校スタートアップ教育環境整備等による環境整備を行いつつ、所要の学内施設整備を検討集約して優先的に学内共用スペースの確保を検討し、見直しを図る。

内部資料（部外秘）

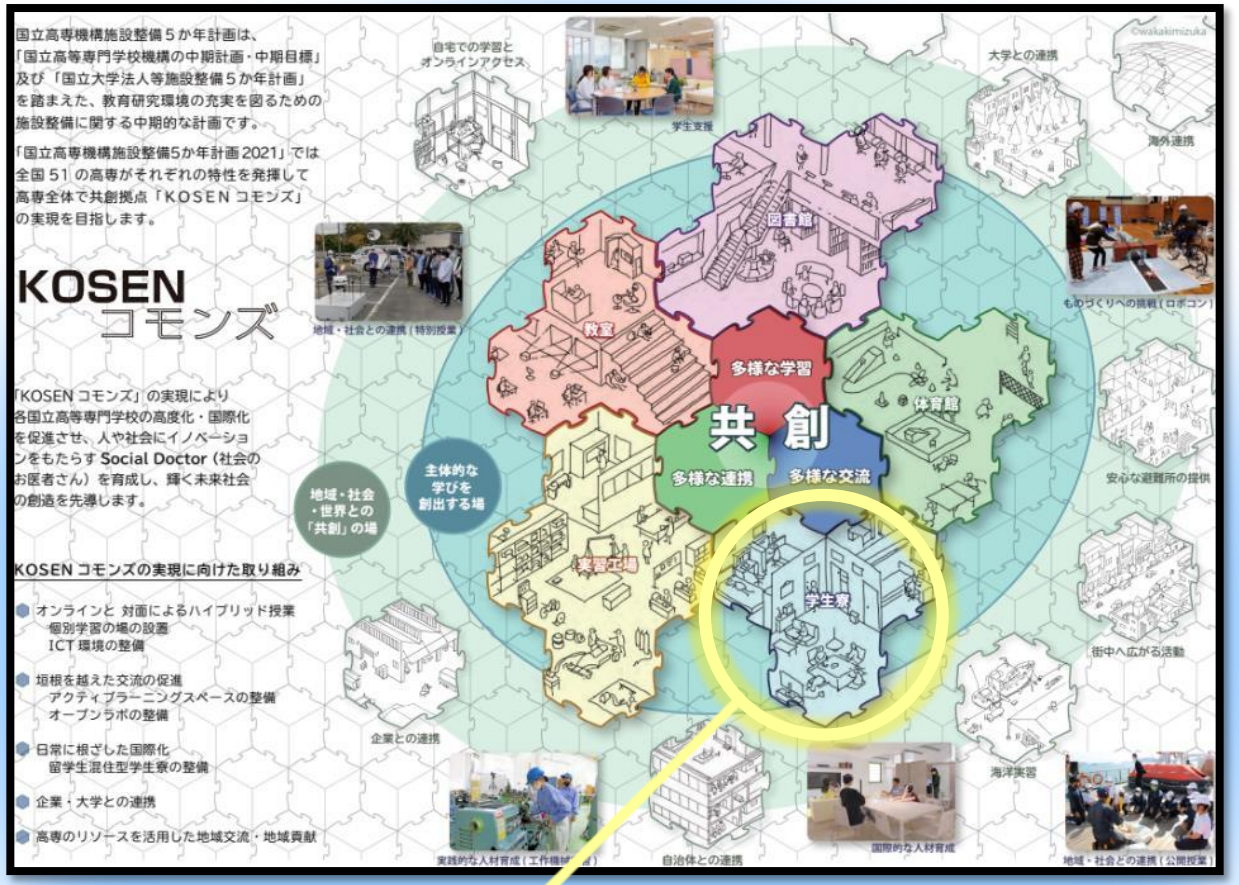
➢ 国際化推進となる施設の拡充

・感性豊かで国際的に活躍できる人材の育成・意欲的に修学できる学習環境の整備

池上町団地の寮地区、桟橋・艇庫地区の整備について、防災・備災、国際交流・地域交流など学生支援の場を整備し、学習・研究・国際交流・地域交流棟等の活性化を図る。

・留学生への教育及び寄宿舎等環境の充実整備

特に、留学生寄宿舎・交流スペース等を優先的に充実整備を図る。また、留学生寄宿舎にあわせて浴室、ボイラー室、食堂の環境設備を行い、日本人学生と留学生が日常的に交流できるスペースを整備することで、国際感覚を身につけるとともに異文化の相互理解、語学力やコミュニケーション能力の育成を推進する。



寄宿舎エリアの整備により
新たな共創拠点の拡充

＊人材育成
鳥羽から全国、世界へ羽ばたくグローバルエンジニアや外航船員の育成拠点として

＊国際交流
寮生だけでなく通学生も含め，男女混住かつ国際交流できるラーニングスペースの整備

＊地域貢献
国内外の学生視点での地域魅力発信、地域の特徴的な産業を支援し、魅力あるコンテンツ製作に寄与する地域貢献活動を推進

当該ページ概算要求中（未決定）のため外部への公表は行わない

鳥羽商船高等専門学校　多文化交流生活寮（寄宿舎）の新営整備

◘ 暁寮の現状の課題

- ✓ 留学生受入れキャパシティの不足＋日本人学生と生活動線が分離
- ✓ 寮の定員不足による留学生チューターの入居不可
- ✓ 専攻科生の入寮不可、経済的事情による進学断念
- ✓ 理系就職への進路希望をもった女子学生の増加
- ✓ 三重県北部や県外からの学生が増加、**近年60名程度の新入生が入寮希望**

→ 従来のA棟とB棟のみの定員（男子160名、女子40名）では今後本校での教育を期待する需要にこたえられない。

◘ 暁寮新寮の概要

- ✓ 鉄筋コンクリート造3階建ての**多文化交流施設と居住施設の集合体**
- ✓ 定員66名（女子52名、男子14名）暁寮計300名定員を達成（男子：248名 女子52名）

→ 女子学生向け設備の充実化（浴室の移設整備、拡大）

- ✓ ラーニングコモンズや集会室といった交流拠点

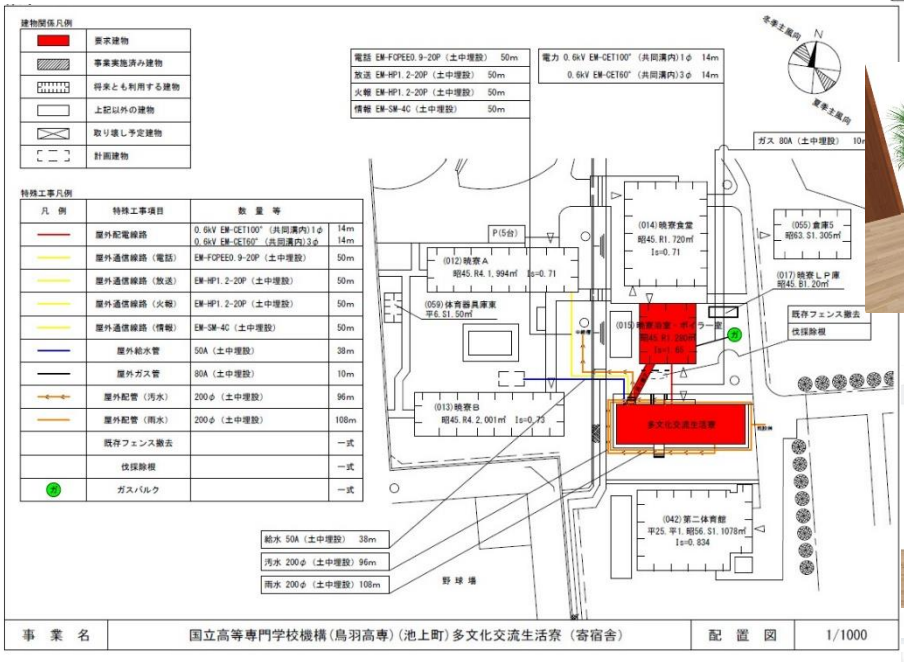
男子混住区画、女子混住区画ともテラス的な開かれた交流スペースにより留学生と日本人学生の交流機会を確保

暁寮新棟整備にともない、浴室棟を改修し女子浴室を移設整備、拡大

ラーニングコモンズと集会室
日本語授業や国際交流イベントなどを実施
寮生と通学生、日本人と留学生が共同で集える憩いの場を整備

◘ 暁寮新寮完成後の「鳥羽商船」

- ✓ 全国から鳥羽に集まり、地域を、日本を、そして世界をけん引する人材を輩出するグローバルエンジニアや外航船員の育成拠点
- ✓ ラーニングコモンズを活用した県内外、国内外の学生視点での地域魅力発信拠点
- ✓ 三重県の伊勢志摩地域の特徴的な産業を支援し、業務の効率化、魅力あるコンテンツ制作に寄与する地域貢献活動を推進する拠点



外観、交流スペースのイメージパース

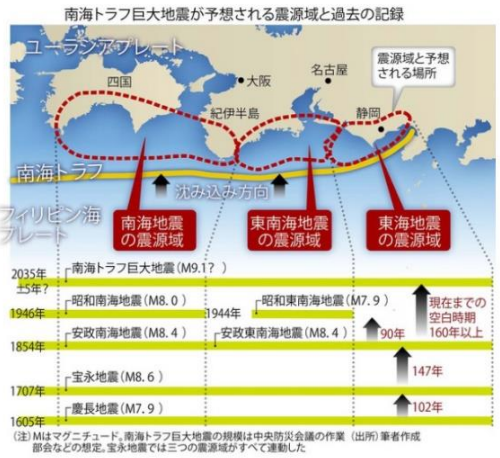
内部資料（部外秘）

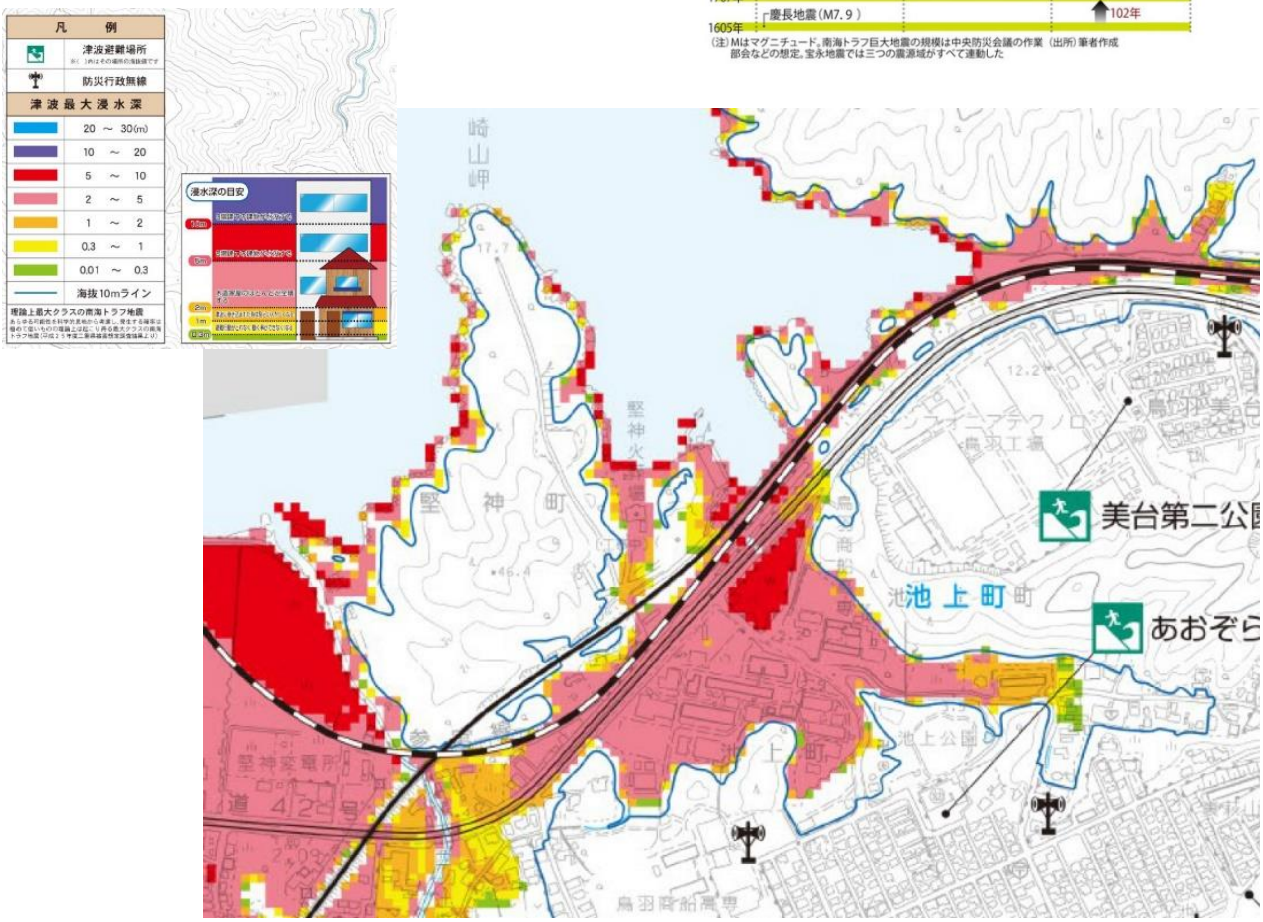
➢ 備災・防災・被災への対応

校内キャンパスの強靭化（RESILIENCY)を高めること、東南海地震によって想定されている津波浸水は、おおよそ７mまで40分ほどで到達するとされ、11分で１mの水位上昇が述べられている。

（南海トラフの巨大地震モデル検討会第二次報告

平成24年8月29日）





鳥羽市津波ハザードマップ　2022年07月08日
https://www.city.toba.mie.jp/soshiki/kikikanri/gyomu/anzen_anshin/bosai/hazardmap/2825.html

・レジリエントな教育研究等学校活動環境の整備

■災害支援機能を有する練習船の配備（Ｒ４補正、Ｒ５補正）

（携帯基地局の船上設置、拡声器、電光表示、車いす、支援艇の配備）

■災害支援機能を有する浮き桟橋の整備（Ｒ５当初、Ｒ６当初）

（４m通路確立による、災害プッシュ輸送４トンロング車輌の進入可）

■国際寮・浴室・ボイラー整備（Ｒ５概算要求）と宿泊地区のエリア防災機能の強化

内部資料（部外秘）

池上町団地

設置年度　昭和４２年度
敷地面積　100,952㎡
建築面積　13,870㎡
延べ面積　27,826㎡
用途地域　第１種中高層住居専用地域

鳥羽２丁目団地

設置年度　昭和３６年度
敷地面積　10,992㎡
建築面積　866㎡
延べ面積　1,129㎡
用途地域　第2種中高層住居専用地域

学校の規模（令和５年３月　現在）

学生数(定員)

商　船　学　科	２００名
電子機械工学科	４０名
制御情報工学科	４０名
情報機械システム工学科	３２０名
計（学生数）	**６００名**

専攻科(定員)

海事ｼｽﾃﾑ学専攻	８名
生産ｼｽﾃﾑ工学専攻	１６名
計（専攻科）	**２４名**

教職員

教育職員	５３名
事務職員等	４３名
計（教職員）	**９６名**

航空写真（平成22年4月撮影）　※令和５年３月現在では旧白菊寮高層棟は撤去済

内部資料（部外秘）

池上町団地の全延べ面積28,955㎡のうち、経年35年以上の建物延べ面積が22,043㎡であり、約76.1%を占めている。そのうち、未改修面積は4,926㎡であり全建物延べ面積の約17%となっている。

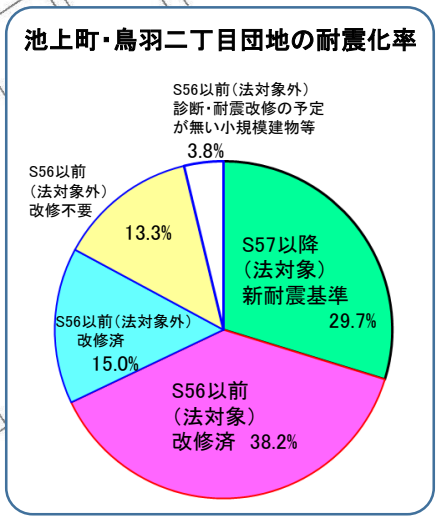
概算要求及び営繕要求等の整備により順次改修されて老朽施設の再生は、進んでいるが、他にも老朽施設は残っており、今後、教育研究基盤施設の再生に向け、今後もこれら施設の再生は、重要な課題であり優先順位を整理して要求していく。

区分	経過年数	建築年	延べ面積（㎡）	割合（%）	大規模改修歴のある建物面積（㎡）	割合（%）	未改修面積（㎡）	割合（%）
	45年以上	昭和52年以前	18,958	65.5%	17,117	59.1%	1,841	6.4%
	35～44年	昭和53～62年	3,085	10.7%	0	0.0%	3,085	10.7%
	26～34年	昭和63～平成8年	3,487	12.0%	915	3.2%	2,572	8.8%
	0～25年	平成9年以降	3,425	11.8%	0	0.0%	3,425	11.8%
合　計			**28,955**	**100.0%**	**18,032**	**62.3%**	**10,923**	**37.7%**

※外部改修のみは除く。

内部資料（部外秘）

「建築物の耐震改修の促進に関する法律」により、耐震診断及び耐震改修の努力義務が課せられており（階数が3以上、かつ、床面積の合計が1,000㎡以上）、文部科学省では、「学校施設耐震化推進指針」文部科学省大臣官房文教施設部（平成15年7月）に基づいて耐震化（Is値0.7以上）を推進している。本校では、改修予定の無い小規模建物を除くすべての建物（全体としては96.2%）が耐震化を完了させている。

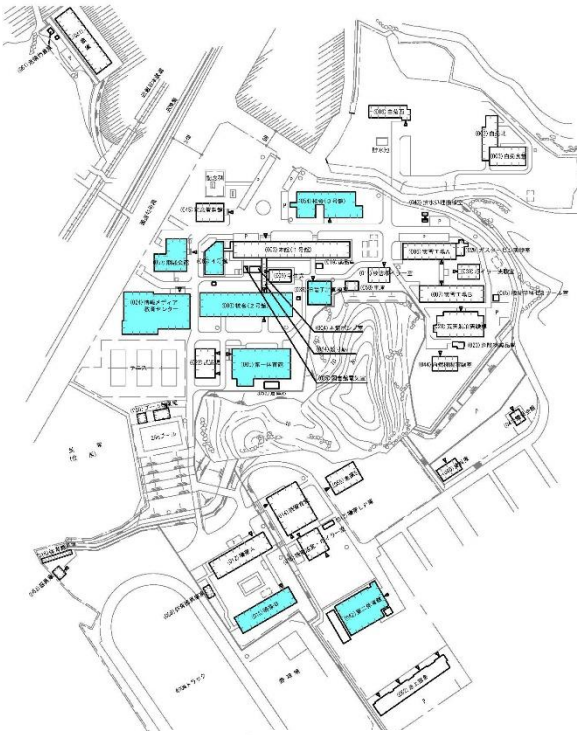


96.2%耐震化完了

内部資料（部外秘）

本校では、高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー法）における建築物移動等円滑化基準に基づき、特定建築物の努力義務として主な施設のバリアフリー化を推進しているところである。課題として学内全体で考えると、教育・研究ゾーンの中枢である校舎（１号館）は、学生の利用頻度も非常に高いにも関わらず未整備な状況にあり、今後優先順位を決めてバリアフリー化の推進を図る。

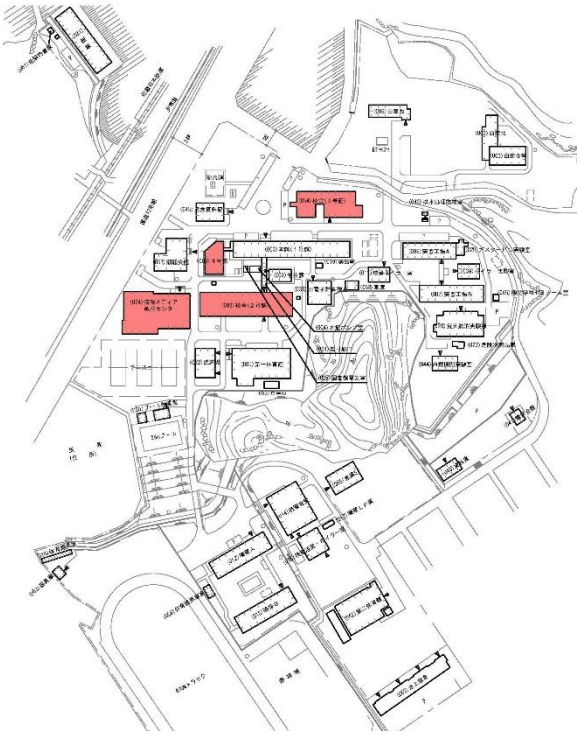
多目的トイレ設置場所



凡例

多目的トイレ設置建物

昇降機設置場所



凡例

エレベーター設置建物

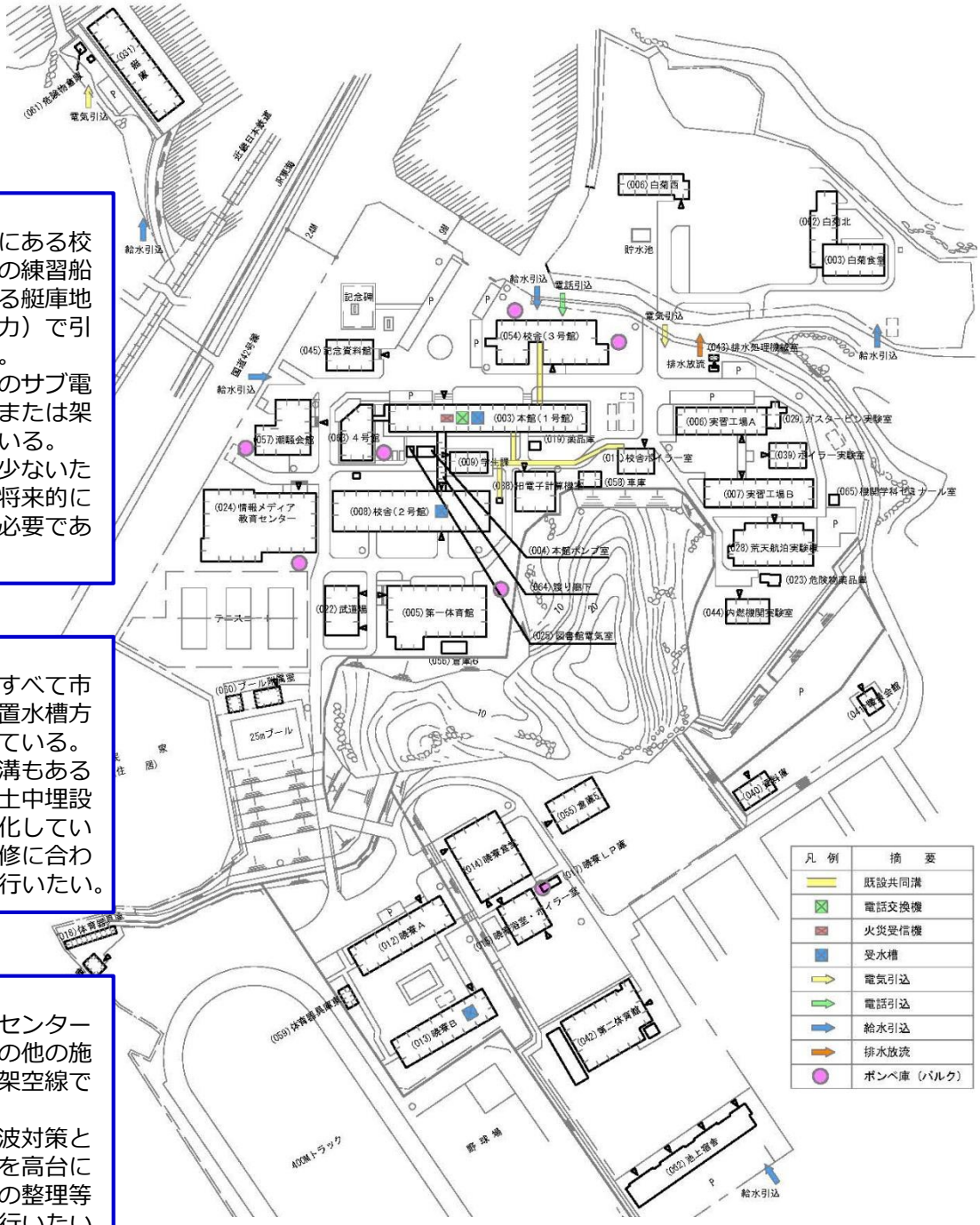
多目的トイレ整備
情報メディア教育センター
Ｒ２年度

エレーベーター増築
校舎３号館
Ｈ３０年度

多目的トイレ改修
校舎（３号館）
Ｈ２９年度

エレーベーター整備
校舎４号館
Ｈ１９年度

内部資料（部外秘）



電気設備

受電は、団地東側にある校舎ボイラー棟と北側の練習船鳥羽丸の停泊している艇庫地区に高圧（業務用電力）で引き込みを行っている。

構内には、２ヶ所のサブ電気室があり、共同溝または架空線で配電を行っている。

本校は、共同溝が少ないため埋設配管も多く、将来的には、共同溝の整備が必要である。

給水設備

本団地の給水は、すべて市水を利用しており高置水槽方式で各校舎に供給している。

構内は、一部共同溝もあるが、配管の多くは、土中埋設されており、経年劣化している部分は、大規模改修に合わせて改修し、整備を行いたい。

情報通信設備

情報メディア教育センターを中心に各校舎、その他の施設へと共同溝または架空線で通信を行っている。

ライフラインの津波対策として中心となる施設を高台に移す、通信ケーブルの整理等の改修をし、整備を行いたい。

電話設備

電子デジタル交換機（容量256回線）による内線電話（ダイヤルイン）を使用している。

今後、電話の増設並びにデータ通信等の急速な普及により、回線の不足が見込まれ、整備が必要とされる。

空調設備

本団地は、GHPの空調を主とし、校舎は集中管理を行っている。まだ改修が行われていない箇所、経年で更新時期の来ているもの、室の使用用途の変更等により新たに空調が必要となった室等を改修に合わせて古いEHPから高効率のEHPまたはGHPに整備を行いたい。

ガス設備（プロパン）

本団地は、プロパンガスによりガスの供給を行っている。

団地内には、７ヶ所のボンベ庫（バルク）などから各校舎等に供給している。構内の配管は、全て土中埋設されており、経年劣化している部分は、大規模改修に合わせて、樹脂管等に改修し、整備を行いたい。

内部資料（部外秘）

池上町団地及び鳥羽２丁目団地ともに下記の通り、必要面積を超過しており整備率が100%を超えているため、新築などの面積増は、国際寮整備を除き、見込めない状況である。今後の整備としては、主に既設建物を改修し、近年のニーズにあった施設整備を推進していく必要がある。

近年では、情報メディア教育センター（図書館）、ライフライン整備（排水設備）、実習工場Ａ棟・Ｂ棟、荒天航泊実験棟などが改修された。今後は、教育･研究ゾーンの建物改修を中心に予算要求を行い、施設整備の推進を図る。

近年の主な施設整備

◆暁寮Ｂ棟１・２階　【令和元年度部分改修】
◆暁寮Ｂ棟３・４階　【令和２年度部分改修】

◆情報メディア教育センター（図書館）　【令和２年度全面改修】

◆実習工場Ａ棟・Ｂ棟　【令和３年度全面改修】

◆荒天航泊実験棟　【令和４年度全面改修】

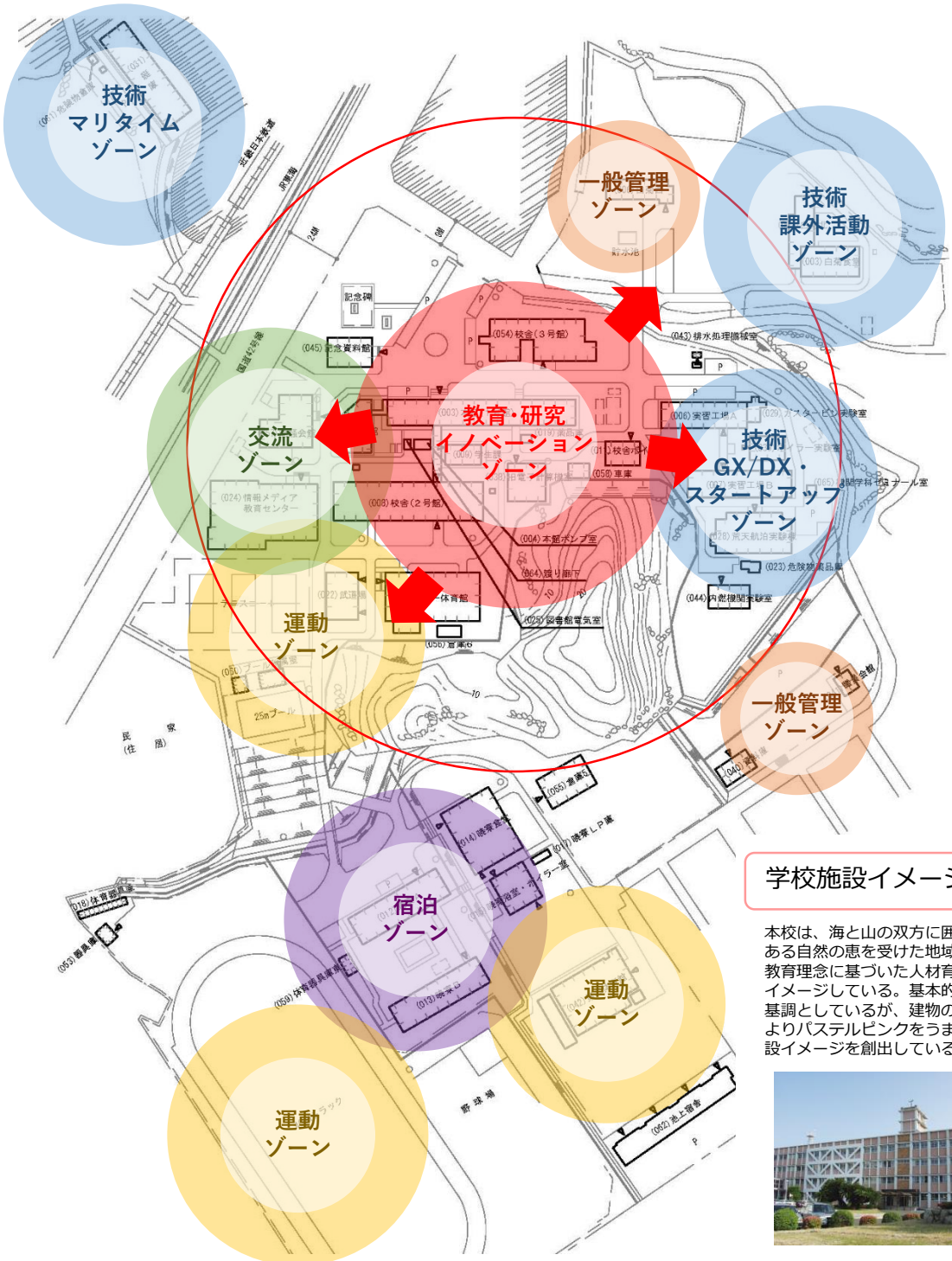
内部資料（部外秘）

■建物ゾーニング図（イメージ図）

池上町団地を明確な用途ごとに６つのゾーニングで構成し、学生を中心としたキャンパス整備として「教育・研究ゾーン」を中心にそれぞれのゾーンを配置されている。

「教育・研究ゾーン」は、主に校舎棟、「技術ゾーン」は、実習工場等、船舶も所有していることから海に面した場所の２箇所に配置されている。「交流ゾーン」は、情報メディア教育センター（図書館）、福利厚生施設となり、将来的には、産学連携施設も視野に入れて考える。また、高台にある「宿泊ゾーン・運動ゾーン」は、寮や運動場、体育館であるが、有事の際の避難場所としても役割も担っている。

キャンパス内の緑化について、景観形成の観点から、緑地、樹木をうまく利用したサスティナブルな環境づくりに配慮する。



学校施設イメージカラーのコンセプト

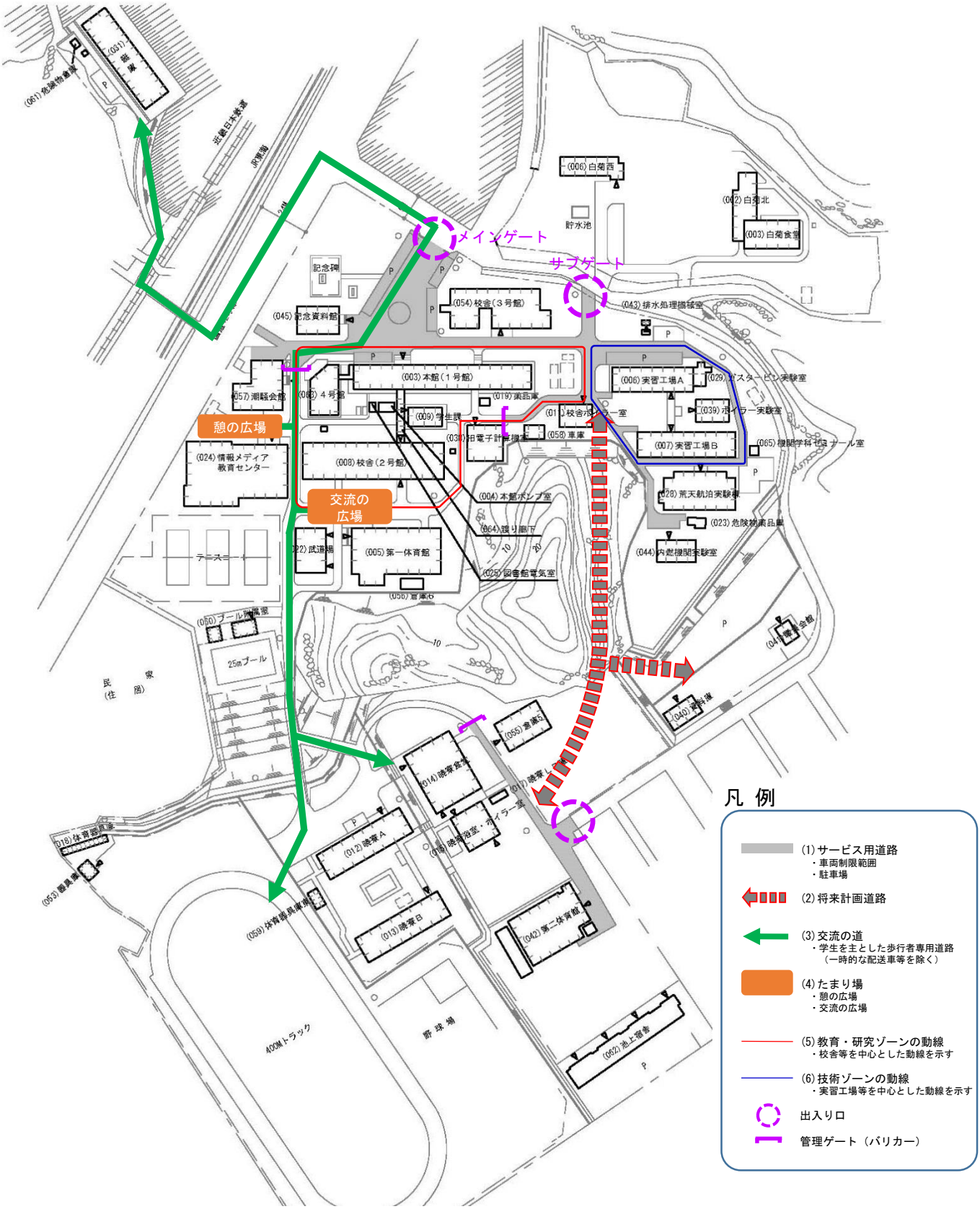
本校は、海と山の双方に囲まれ、起伏に富み美しく躍動感ある自然の恵を受けた地域にある。その豊かな自然の中で教育理念に基づいた人材育成を目指す輝きある学校施設をイメージしている。基本的には、「パステルピンク」を色彩基調としているが、建物の柱型をホワイト系にすることによりパステルピンクをうまく引き立て全体的に輝きある施設イメージを創出している。

F25-90A(日本塗装工業会)

F07-70F(日本塗装工業会)
DIC-467p(大日本印刷近似色)

内部資料（部外秘）

主な動線として、ゾーニング計画から教育・研究ゾーンの動線（赤線）、技術ゾーンの動線（青線）により構成されており、将来的には、海抜17mの宿泊ゾーンと将来計画道路として結ぶことも検討している。また、安全･安心なキャンパス環境の創出のためにサービス用道路に車両制限を設けて、車両動線と主な学生の動線（交流の道）とを学内で大局的に区分させる。



内部資料（部外秘）

（1）サービス用道路について

車と歩行者の動線を分けることによって、歩行者主体の空間を整備することが可能となり、安心・安全なキャンパス環境の創出することができる。構内は、制限速度20km以下の走行とし、主に駐車場を含む正面玄関廻りから搬出入の多い実習工場全体のエリアを自動車の走行可能エリアと定める。（グレー色部分）ただし、教育・研究ゾーンの動線では、施錠式バリカー等で規制を行い、必要に応じて出入りすることとする。

バリカー規制(イメージ写真)

（2）将来計画道路（避難経路）について

この将来計画道路は、高台にある暁寮や津波避難指定場所である第二体育館と結ぶ重要な道路として位置づけおり、東海地震・東南海・南海地震による有事の際には、避難経路として大きな役割を果たすこととなる。

現在、キャンパスの外を迂回して登っている自動車の行き来をキャンパス内で移動が出来るように、森の東側の荒れた林縁を整理して新たに車道を設置する。

将来計画道路
（避難経路）

将来計画道路(イメージ写真)

（3）交流の道について

歩行者主体の空間として確立し、教育・研究ゾーン（校舎棟）、交流ゾーン（図書館、潮騒会館）、運動ゾーン（体育館、運動場）、たまり場を結んでいる。

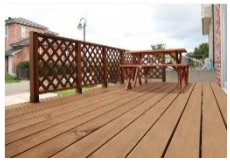
この動線を歩道として整備することにより、誘発的に学生の交流を活発化させ、感性豊かなコミュニケーション能力を育成させる場を創出する。

交流の道(イメージ写真)

（4）たまり場について

オープンスペースとしてさまざまな背景を有する学生などの交流を促し、感性豊かなコミュニケーション能力を育成させるたまり場として、「交流の道」に沿って２つのスペースを配置している。

・憩の広場は、潮騒会館食堂と同調させ、普段は、カフェテラスや軽音楽などのセッションができるようなスペースとして利用し、学園祭や発表会では、屋外用ステージとして使用できるように考える。



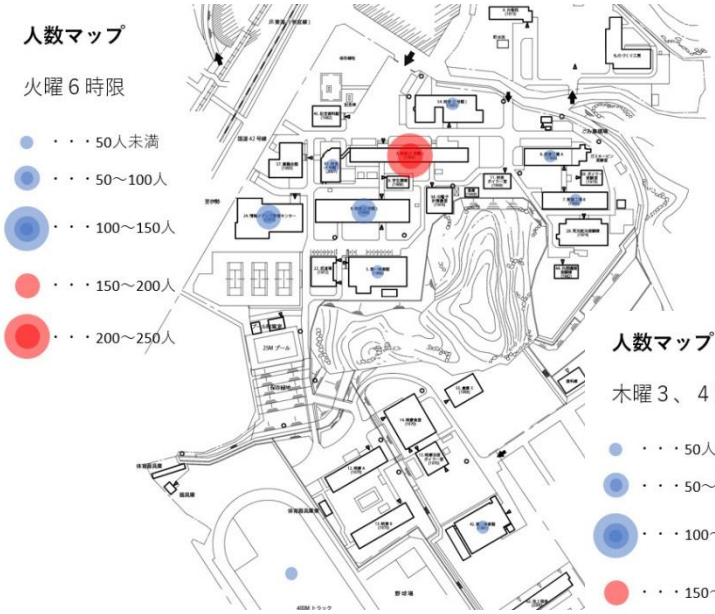
憩の広場(イメージ写真)

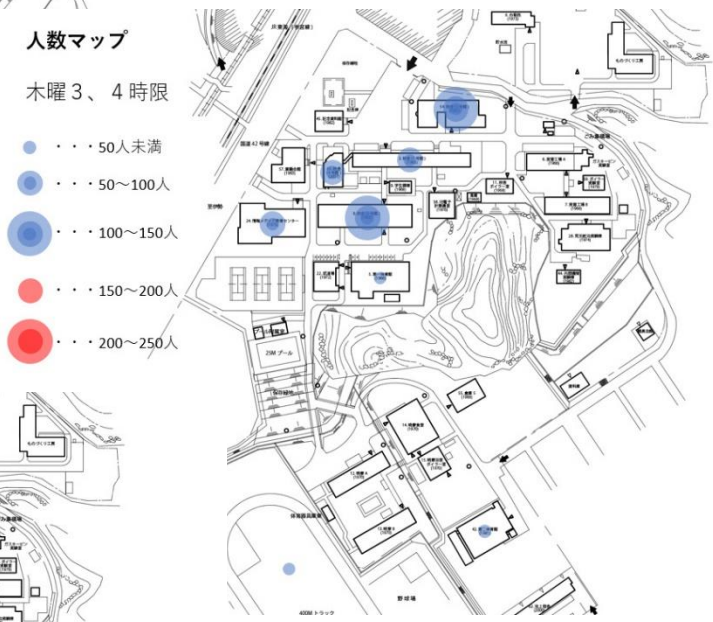
・交流の広場は、図書館、テニスコート、体育館、校舎などの中心部分に位置し、必然と交流が行われる場所であり、主に休憩所、クラブや　サークルのミーティングなどにも利用もできるように考える。

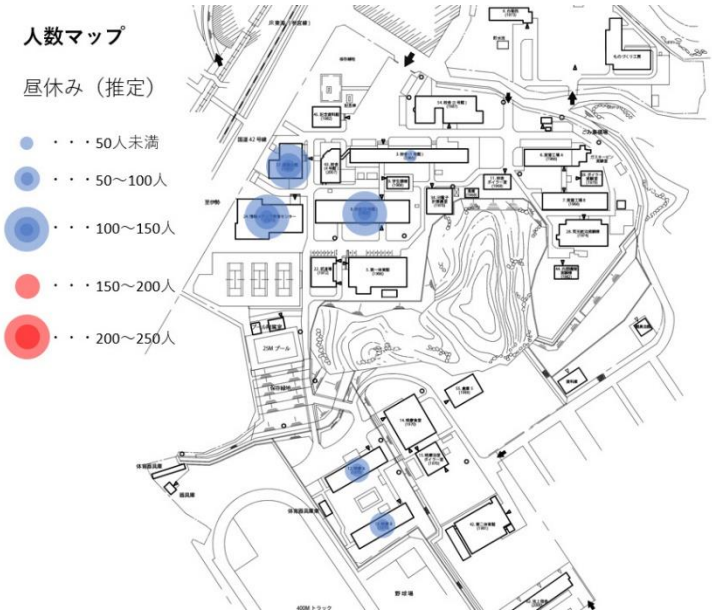
交流の広場(イメージ写真)

内部資料（部外秘）

（５）動線の現状と今後の展望　（協力：学校法人芝浦工業大学建築学部小菅瑠香准教授研究室）







動線の現状調査（一例抜粋）

令和４年度に学校法人芝浦工業大学建築学部小菅瑠香准教授研究室の協力のもと、それぞれのエリアに、いつ、どの程度の人の動きがあるか、現状の動線把握のため、調査を行った。

調査の結果を踏まえ、今後の整備計画に活用し、利用頻度の高い施設から改修を検討していく。

また、建物の整備だけでなく、動線状況による防災道路の整備等を計画、国土強靭化に取り組んだリスクマネジメントに対応する。

１／２００　模型

内部資料（部外秘）

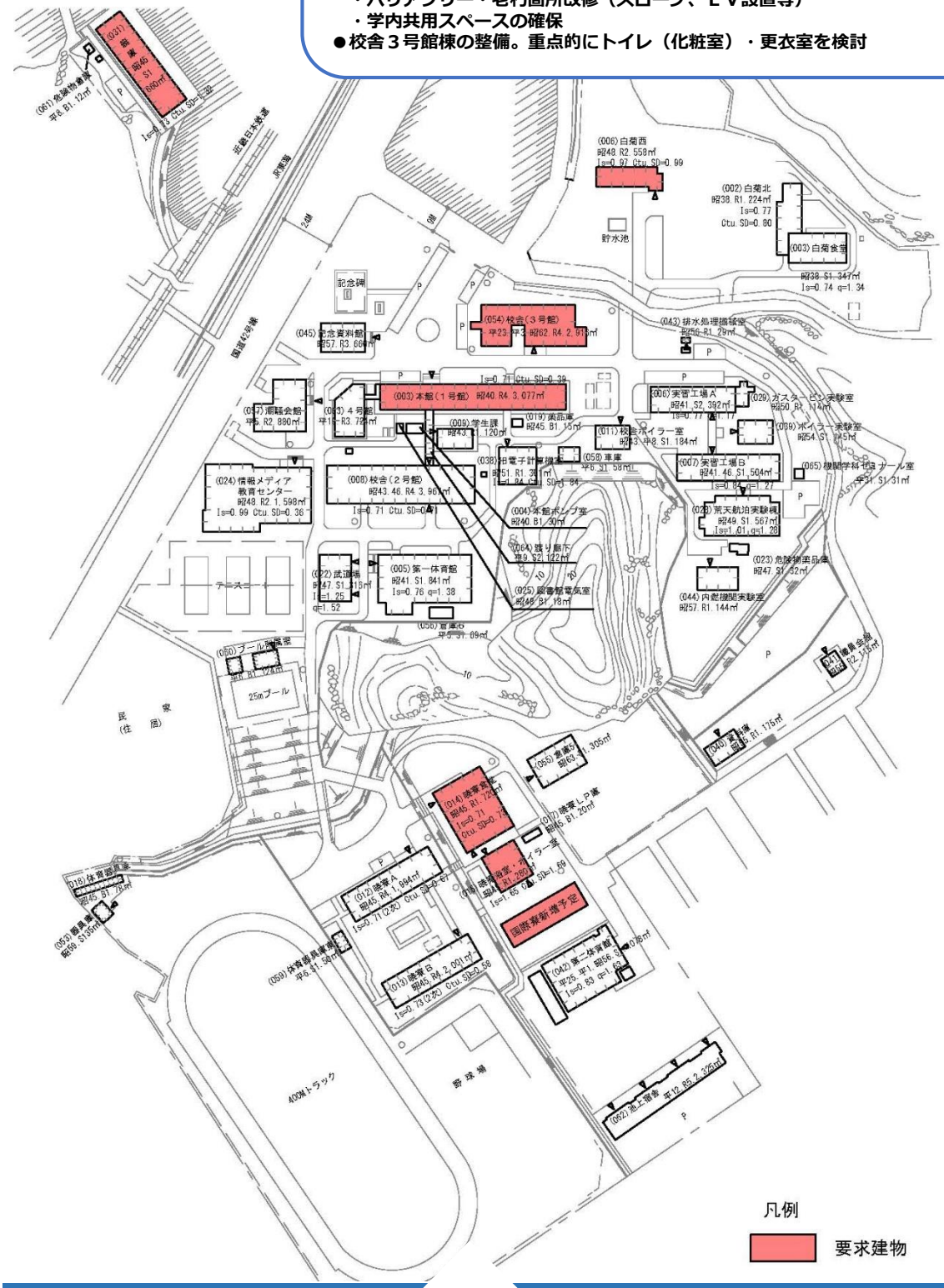
整備計画の基本方針に基づき、教育・研究ゾーンから優先的に改修を行い、基盤となる教育・研究施設の充実を図っていく。白菊西改修と校舎1号館改修は継続検討していく。

多文化交流生活寮（国際寮）を始め、校舎3号館等、内容の見直しを行い、今後、優先順位を決めてゆく。

整備予定の練習船鳥羽丸、浮桟橋ついては、維持管理計画を策定していく。

要 求 建 物

- **●白菊西改修～マリンリゾートコアキャンパスのエントランス白菊地区のコアとなる～**
  - **・当該地区のPFIによる福利厚生施設整備を含めた有効利活用を構想**
  - **・学生の課外活動棟として機能、校舎1号館の事務機能の集約も将来的な視野で検討**
  - **・駐車スペースの整備**
- **●校舎1号館改修**
  - **・学生課の集約・総務課との一体化、展示講義室等整備の機能改修**
  - **・バリアフリー・老朽箇所改修（スロープ、ＥＶ設置等）**
  - **・学内共用スペースの確保**
- **●校舎３号館棟の整備。重点的にトイレ（化粧室）・更衣室を検討**



内部資料（部外秘）

将来計画図

津波被害を考慮し、
・キャンパスへのメインアプローチを南の高台側とする。
・学生の滞在時間が長い教室棟を高台に近づけ、避難経路を明確にする。
・メインスロープから遠い実験棟側にも、高台への通路を計画する。

山崩れの危険性を考慮し、
・崩れる可能性のあるエリアに建物を置かない計画とする。

※　図は大まかな施設配置を提案するものであり、
建物寸法・形状について提案するものではない。

作成　芝浦工業大学建築学部小菅瑠香研究室

内部資料（部外秘）

百周年記念館と百周年記念碑

百周年記念碑

「百年を守護の青峯山青し」

昭和56年建立

山口誓子

【問い合わせ先】　独立行政法人国立高等専門学校機構
鳥羽商船高等専門学校　総務課施設係
〒517-8501　三重県鳥羽市池上町１番１号
TEL：0599-25-8024　FAX：0599-25-8026
E-mail:soumu-sisetu@toba-cmt.ac.jp

目　次
C O N T E N T S

02	教育理念・教育目標	Educational Philosophy and Mission
03	校旗・校歌	College Flag and College Song
04	沿　革	History
07	歴代校長	Past Presidents
07	名誉教授	Professors Emeriti
08	組　織	Organization
09	役職員及び教職員数	Administration and Staff
10	学　科	Departments
10	一般教育科	General Education Department
15	商船学科	Maritime Technology Department
19	電子機械工学科	Electronic Mechanical Engineering Department
21	制御情報工学科	Information and Control Engineering Department
23	※情報機械システム工学科	Department of Informatics and Mechanical Engineering
26	専攻科	Advanced Course
29	公開講座	Open Class
30	出前授業	Lectures on Demand
31	学生数	Number of Students
32	入学状況	Students Admitted
33	卒業者・修了者	Graduates
34	練習船等	Training Ships
35	図書館	Library
36	テクノセンター	Technical Resource Center
37	情報メディア教育センター	Information Media Center
37	学生相談室・カウンセラー室	Student Counseling Room and Counselor's Office
38	グローバル教育推進室	Office for Promotion of Global Education
39	福利施設「潮騒会館」	Welfare Facility “Shiosai Hall”
39	学　寮	Dormitory
40	学生会	Student Council
41	収入支出決算額	Finances
41	外部資金受入状況	External Funding
42	施　設	Facilities
43	校内配置図	Campus Map
44	位置と環境	Location and Environment

※平成31年から、工学系の電子機械工学科と制御情報工学科を改組し、同年4月入学生より、従来の3学科から商船学科と情報機械システム工学科の2学科となった。
Both of the engineering department named Electronic Mechanical Engineering Department Information and Control Engineering Department, were reorganized in 2019, and as a result, two departments of Maritime Technology Department and Department of Informatics and Mechanical Engineering are organized in place of the previous three departments since April of 2019.

教育理念 ● Educational Philosophy ●

進取・礼譲・質実剛健

Enterprising Spirit, Courtesy, Simplicity & Fortitude

校長　和泉　充

President
Izumi Mitsuru

教育目標 ● Mission ●

1. **人間性豊かな教養人となること**
   Aiming to Be a Well Educated Person with a Rich Sense of Humanity
2. **創造性豊かな技術者となること**
   Aiming to Be an Engineer with a Creative Mind
3. **国際性豊かな社会人となること**
   Aiming to Be a Member of Society with Good International Sense

商船学科の教育目標

物流の国際化と船舶の技術革新に適応した船舶の運航技術者として活躍できる専門知識と技術を習得した人材および海事関連産業で活躍できる人材を育成する。

電子機械工学科の教育目標

機械技術と電子技術および情報技術を融合した電子機械（メカトロニクス）に関する専門知識と技術を身に付けた実践的技術者を養成する。

制御情報工学科の教育目標

制御情報工学（情報応用システム・組み込みシステムに関する工学）における実践的技術者としての専門知識と技術を身につける。

情報機械システム工学科の教育目標

情報工学、機械工学、電気電子工学を基盤とし、個性に応じた専門知識と技術を身に付けた実践的技術者を育成する。

専攻科の教育目標

専攻科は高等専門学校における教育の基礎の上に高度の専門的学術を教授し、専門領域の幅を拡大すると共に、国際的感覚と広い視野を持って研究・技術開発能力、創造能力を発揮できる実践的専門技術者を育成することを目的とする。

Educational Mission of the Maritime Technology Department

To produce students who have acquired the expertise and technical proficiency to succeed as ship operating engineers, who are well adapted to internationalization of logistics and innovations in ship technology, and who can succeed in maritime related industries.

Educational Mission of the Electronic Mechanical Engineering Department

To produce students who have acquired expertise in mechatronics, which combines mechanical, electronic, and information technology.

Educational Mission of the Information and Control Engineering Department

To produce students who have acquired professional knowledge and technical skills as practical engineers in the technical applied network system and embedded computer system fields.

Educational Mission of the Department of Informatics and Mechanical Engineering

To produce students who have acquired individual-oriented professional knowledge and technical skills based on information engineering, mechanical engineering, and electrical and electronic engineering.

Educational Mission of the Advanced Course

The Advanced Course at our college is a continuation of the regular course curriculum, and aims to provide a highly professional education and extend their specialized fields. Moreover, it intends to train practical and professional engineers who have international minds and broad perspectives and can show their research and development capabilities and creativities.

校旗 ● College Flag ●

校歌 ● College Song ●

校 歌（商船高等学校以降）

楠井　栄八郎 作詞
植村　　茂 作曲

1．紫匂ふ朝熊の高嶺
　緑さやかに大空澄みて
　情もすがし若人我等
　かをる伝統輝く歴史
　礎かたきこの学舎に
　ああ攻玉の訓仰がむ

2．潮の香高き錦が浦辺
　握る櫓櫂に力はみちて
　生命ぞあふる海の子我等
　吹きちる飛沫わきたつ血潮
　茜かがよふ水平線に
　ああ旭日の光望まむ

3．船路もはるか大わたつみの
　八重のしき波荒潮たぎり
　心ははずむ海鳥我等
　とびたつ羽音とどろく怒涛
　力たゆまぬ若き翼に
　ああ海運の基定めむ

沿　革

明治 8. 9	航海測量習練所開設	Sep.1875	Navigation Surveying Training Center opened
明治14. 8.20	東京攻玉社分校、鳥羽商船黌開校	Aug.20,1881	Founded as branch school of Kogyokusha in Tokyo.
明治26. 3	攻玉社の都合により一時閉鎖	Mar.1893	Temporarily closed.
明治28.10. 4	東海商船学校	Oct.4,1895	Tokai Mercantile Marine School.
明治32. 8.17	鳥羽町立鳥羽商船学校	Aug.17,1899	Toba Municipal Mercantile Marine School.
明治44. 4. 1	三重県立鳥羽商船学校	Apr. 1,1911	Mie Prefectural Toba Mercantile Marine School.
昭和14. 8.19	官立（文部省直轄）鳥羽商船学校	Aug.19,1939	Toba National Mercantile Marine School under Ministry of Education.
昭和17. 1. 1	逓信省に移管	Jan.1,1942	The authorities concerned are Ministry of Post and Telecommunication.
昭和20. 5.19	運輸省所管	May.19,1945	The authorities concerned are Ministry of Transport.
昭和26. 4. 1	文部省所轄鳥羽商船高等学校	Apr.1,1951	Toba Mercantile Marine School under Ministry of Education.
昭和26.10. 4	創立70周年記念式典を挙行	Oct.4,1951	Celebrated the 70th anniversary.
昭和37. 3.28	白菊南竣工	Mar.28,1962	Shiragiku domitory（south）completed.
昭和38. 3.29	白菊北竣工	Mar.29,1963	Shiragiku domitory（north）completed.
昭和40. 5.25	1号館（校舎）竣工	May.25,1965	No.1 building completed.
昭和41. 3.10	第1体育館竣工	Mar.10,1966	1st gymnasium completed.
昭和41. 3.10	実習工場竣工	Mar.10,1966	Factory completed.
昭和42. 6. 1	鳥羽商船高等専門学校 昭和42年度入学の航海学科40名、機関学科40名、計80名は高専1期生となる	Jun.1,1967	Toba National College of Maritime Technology. Nautical Course students（40）and Marine Engineering Course students（40）who entered in 1967 are enrolled as students of 1st grade of the college.
昭和43. 4.10	高専1回入学式（2期生）を挙行	Apr.10,1968	The first entrance ceremony（2nd class）of college.
昭和43.11.30	2号館（校舎）竣工	Nov.30,1968	No.2 building completed.
昭和43.11.30	校舎ボイラ室竣工	Nov.30,1968	Boiler for school buildings completed.
昭和43.11.30	学生課室竣工	Nov.30,1968	Student Affairs Division completed.
昭和44. 4. 1	機関学科1学級増により学生入学定員は航海学科40名、機関学科80名、計120名となる	Apr.10,1969	Fixed number of entrants ; Nautical Course（40）and Marine Engineering Course（80）.
昭和45. 3.27	艇庫竣工	Mar.27,1970	Boat-house completed.
昭和45. 3.27	暁寮竣工	Mar.27,1970	Akatsuki domitory completed.
昭和45. 4. 1	事務部制実施により庶務課及び会計課設置	Apr.1,1970	General Affairs Division and Finance Division set up.
昭和46.12.27	京浜会館竣工	Dec.27,1971	Keihin Kaikan completed.
昭和47. 3. 4	武道場竣工	Mar.4,1972	Martial Arts dojo.
昭和47. 9.30	高専第1回卒業証書授与式を挙行	Sep.30,1972	The first graduation ceremony of the college.
昭和48. 3.27	図書館竣工	Mar.27,1973	Library completed.
昭和48. 3.27	白菊西竣工	Mar.27,1973	Shiragiku domitory（west）completed.
昭和48. 4. 1	事務部に学生課設置	Apr.1,1973	Student Affairs Division set up.
昭和49. 3.25	荒天航泊実験室竣工	Mar.25,1974	Experimental water tank with wind tunnel laboratory completed.
昭和50. 9.30	ガスタービン実験室竣工	Sep.30,1975	Gas turbine laboratory completed.

沿　革

昭和51. 2.25	電子計算機室竣工	Feb.25,1976	Electronic computer center completed.
昭和54. 2.26	ボイラ実験室竣工	Feb.26,1979	Boiler laboratory completed.
昭和55. 3.15	職員会館竣工	Mar.15,1980	Rest house completed.
昭和55. 3.18	資料庫竣工	Mar.18,1980	Storehouse completed.
昭和56. 3.31	第2体育館竣工	Mar.31,1981	2nd gymnasium completed.
昭和56.11. 1	創基100周年記念式典を挙行	Nov.1,1981	Centennial anniversary of the College.
昭和57. 3.19	内燃機関実験棟竣工	Mar.19,1982	Internal combustion engine laboratory completed.
昭和57. 4.30	百周年記念資料館竣工	Apr.30,1982	Centennial Memorial Hall completed.
昭和60. 4. 1	機関学科を分離改組し、航海学科40名、機関学科40名、電子機械工学科40名となる　開学以来初めて女子学生の入学を許可し、航海学科3名、電子機械工学科3名、計6名の女子学生が入学　全寮制を基本として、一部について自宅又は親戚等からの通学を許可	Apr.1,1985	Nautical Department (40), Marine Engineering Department (40), and Electronic Mechanical Engineering Department (40). First female students in college history are allowed to enroll ; three for Navigation Department and three for Electronic Mechanical Engineering Department. Daily commuting students are also admitted.
昭和61. 7.26	商船教育創始110周年を記念する会を挙行　郵政省より同記念切手が発行される	Jul.26,1986	The 110th anniversary of mercantile marine education held here and postal commemoration stamps issued by the Ministry of Postal Services.
昭和62. 3.30	3号館(校舎)竣工	Mar.30,1987	No.3 building completed.
昭和63. 4. 1	航海学科及び機関学科を改組し、商船学科40名、電子機械工学科40名、制御情報工学科40名となる	Apr.1,1988	Maritime Technology Department (40), Electronic Mechanical Engineering Department (40), and Information and Control Engineering Department (40).
平成 2. 3. 8	電子機械工学科第1回卒業証書授与式を挙行	Mar.8,1990	The first graduation ceremony of the Electronic Mechanical Engineering Department.
平成 2. 4. 1	全学年全寮制を廃止し、1、2年生全寮制となる	Apr.1,1990	Residential college system abolished. Freshmen and sophomores only required to live in dormitories.
平成 3. 4. 8	留学生、編入学生の受入れを開始、電子機械工学科3年に留学生1人、同4年に編入学生2人を受入れる	Apr.8,1991	Foreign students and high-school graduates allowed to enroll. Foreign students enrolled in the 3rd grade of Electronic Mechanical Engineering Department and 2 high-school graduates in the 4th grade of the same department.
平成 5. 3.10	制御情報工学科第1回卒業証書授与式を挙行	Mar.10,1993	The first graduation ceremony of the Information and Control Engineering Department.
平成 5. 7. 1	潮騒会館竣工	Jul.1,1993	Shiosai Hall completed.
平成 6. 4. 1	1、2年生全寮制を廃止し、商船学科1、2年生全寮制となる	Apr.1,1994	Residential college system for freshmen and sophomores abolished. Freshmen and sophomores of Maritime Technology Department only required to live in the dormitory.
平成 6. 8.19	練習船鳥羽丸竣工	Aug.19,1994	College Training Ship "Toba Maru" completed.
平成12.11.20	職員宿舎竣工	Nov.20,2000	Staff housing completed.
平成13.11. 9	創基120周年記念式典を挙行	Nov.9,2001	The 120th anniversary of the College.
平成14. 4. 1	総合情報センターを設置	Apr.1,2002	Information Education Center established.
平成16. 4. 1	独立行政法人国立高等専門学校機構鳥羽商船高等専門学校	Apr.1,2004	National Institute of Technology, Toba College.

沿　　革

平成17. 4. 1	専攻科設置（海事システム学専攻、生産システム工学専攻）	Apr.1,2005	The Advanced Course established.（Maritime System Major, Production System Engineering Major）
平成18. 4. 1	商船学科の1･2年の全寮制を廃止し、全科全学年任意入寮制となる	Apr.1,2006	Residential college system for freshmen and sophomores of Maritime Technology Department abolished. Dormitory now optional for all students.
平成19. 3.14	4号館（専攻科棟）竣工	Mar.14,2007	No.4 building completed.
平成19. 3.26	専攻科　生産システム工学専攻 第1回修了証書授与式を挙行	Mar.26,2007	The first graduates of the Production System Major.
平成19. 9.19	専攻科　海事システム学専攻 第1回修了証書授与式を挙行	Sep.19,2007	The first graduates of the Maritime System Major.
平成20. 8.26	シンガポールポリテクニック、シンガポールマリタイムアカデミーと教育、学術に関する国際交流協定を締結	Aug.26,2008	International Academic and Educational Exchange Agreement with Singapore Maritime Academy at Singapore Polytechnic concluded.
平成22. 4. 1	テクノセンターを設置	Apr.1,2010	Technical Resource Center established.
平成22.11.29	ハワイ大学カウアイコミュニティーカレッジと教育、学術に関する国際交流協定を締結	Nov.29,2010	International Academic and Educational Exchange Agreement with the University of Hawaii Kauai Community College concluded.
平成26. 3.11	イスタンブール工科大学と教育、学術に関する国際交流協定を締結	Mar.11,2014	International Academic and Educational Exchange Agreement with Istanbul Technical University concluded.
平成30. 8. 1	皇太子殿下行啓　本校をご視察される	Aug.1,2018	The Crown Prince visited Toba College
平成31. 4. 1	電子機械工学科及び制御情報工学科を改組し、情報機械システム工学科80名となる	Apr.1,2019	Department of Informatics and Mechanical Engineering (80) after reorganizing Electronic Mechanical Engineering Department and Information and Control Engineering Department.
令和3. 4. 1	24代校長に東京海洋大学名誉教授和泉充が就任	Apr.1,2021	24th President Mitsuru Izumi.
令和3. 4. 1	図書館と総合情報センターを情報メディア教育センターに再編統合	Apr.1,2021	The library and the Information Education Center re-organized into the Information Media Center
令和3. 6. 5	創立140周年記念行事として皇太子殿下行啓記念碑除幕式を挙行	Jun.5,2021	The unveiling ceremony of the monument held for the visit of the Crown Prince as the event commemorating the 140th anniversary of the foundation of Toba College

鳥羽丸　Training Ship “Toba Maru”

本館（１号館）　Main Building

鳥羽丸船橋　Toba Maru Navigation Bridge

● Past Presidents ●

歴代校長

初代校長 1st	近藤真琴 Kondo Makoto	明治14.10～明治19.9
2代校長 2nd	近藤基樹 Kondo Motoki	明治19.9～明治26.3
3代校長 3rd	山内万寿治 Yamanouchi Masuji	明治28.10～明治32.7
4代校長 4th	角利助 Sumi Risuke	明治32.8～明治38.3
5代校長 5th	鶴田丘一 Tsuruta Kyuichi	明治38.3～大正2.8
6代校長 6th	正戸為太郎 Shodo Tametaro	大正2.9～大正7.8
7代校長 7th	北村鑅三郎 Kitamura Kozaburo	大正7.8～大正13.12
8代校長 8th	金岡孫三 Kaneoka Magozo	大正13.12～昭和2.12
9代校長 9th	矢野馬吉 Yano Umakichi	昭和2.12～昭和14.8
10代校長 10th	富岡外雄 Tomioka Soto	昭和14.8～昭和20.7
11代校長 11th	大脇泰次 Owaki Yasuji	昭和20.8～昭和36.3
12代校長 12th	村野謙二 Murano Kenji	昭和36.4～昭和42.5
13代校長 13th	小谷信市 Kotani Shinichi	昭和42.6～昭和46.3
14代校長 14th	谷川英一 Tanikawa Eiichi	昭和46.4～昭和54.4
15代校長 15th	山門豊文 Yamakado Toyofumi	昭和54.4～昭和59.4
16代校長 16th	矢島澄夫 Yajima Sumio	昭和59.4～平成元.9
校長事務代理	長尾行雄 Nagao Yukio	平成元.9～平成元.11
17代校長 17th	手塚俊一 Tezuka Shunichi	平成元.12～平成8.3
18代校長 18th	飯島幸人 Iijima Yukito	平成8.4～平成12.3
19代校長 19th	佐藤修臣 Sato Shushin	平成12.4～平成17.3
20代校長 20th	山田猛敏 Yamada Taketoshi	平成17.4～平成22.3
21代校長 21st	藤田稔彦 Fujita Toshihiko	平成22.4～平成27.3
22代校長 22nd	新田保次 Nitta Yasutsugu	平成27.4～平成29.3
23代校長 23rd	林祐司 Hayashi Yuji	平成29.4～令和3.3
24代校長 24th	和泉充 Izumi Mitsuru	令和3.4～

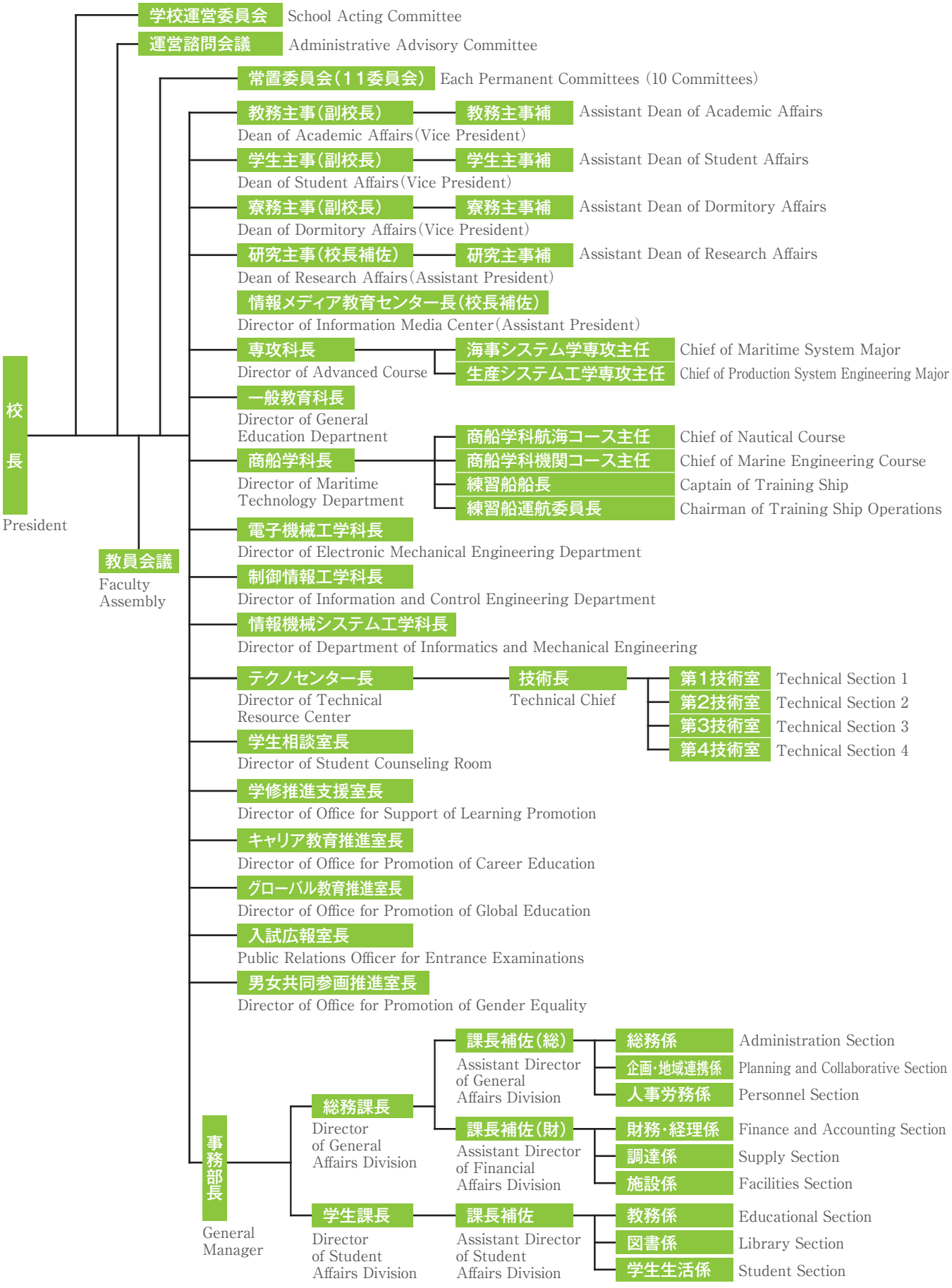
● Professors Emeriti ●

名誉教授

坂平吾 Saka Heigo	平成4.4.1～
落合弘明 Ochiai Hiroaki	平成5.4.1～
手塚俊一 Tezuka Shunichi	平成8.4.1～
長谷川和雄 Hasegawa Kazuo	平成8.4.1～
大西俊男 Onishi Toshio	平成9.4.1～
野口弘明 Noguchi Hiroaki	平成11.4.1～
飯島幸人 Iijima Yukito	平成12.4.1～
田中豊穣 Tanaka Toyonori	平成14.4.1～
舟橋三雄 Funahashi Mitsuo	平成15.4.1～
原田秀己 Harada Hideki	平成17.4.1～
大岩紘 Oiwa Hiroshi	平成19.4.1～
前島学 Maeshima Manabu	平成20.4.1～
名城紘昭 Nashiro Hiroaki	平成20.4.1～
山田猛敏 Yamada Taketoshi	平成22.4.1～
佐藤宗男 Sato Muneo	平成24.4.1～
水野逸夫 Mizuno Itsuo	平成25.4.1～
永野重隆 Nagano Shigetaka	平成25.4.1～
伊藤政光 Ito Masamitsu	平成26.4.1～
藤田稔彦 Fujita Toshihiko	平成27.4.1～
伊藤文雄 Ito Fumio	平成27.4.1～
廣地武郎 Hirochi Takero	平成28.4.1～
新田保次 Nitta Yasutsugu	平成29.4.1～
大石哲男 Oishi Tetsuo	平成29.4.1～
岸川良蔵 Kishikawa Ryozo	平成31.4.1～
石田邦光 Ishida Kunimitsu	平成31.4.1～
鏡ますみ Kagami Masumi	令和2.4.1～
林祐司 Hayashi Yuji	令和3.4.1～
攪上平之介 Kakuage Heinosuke	令和3.4.1～
冨澤明 Tomizawa Akira	令和3.4.1～

（就任順、敬称略、故人を除く）

組　　織


学校運営委員会 School Acting Committee
運営諮問会議 Administrative Advisory Committee
常置委員会（11委員会） Each Permanent Committees（10 Committees）
教務主事（副校長） Dean of Academic Affairs（Vice President）
教務主事補 Assistant Dean of Academic Affairs
学生主事（副校長） Dean of Student Affairs（Vice President）
学生主事補 Assistant Dean of Student Affairs
寮務主事（副校長） Dean of Dormitory Affairs（Vice President）
寮務主事補 Assistant Dean of Dormitory Affairs
研究主事（校長補佐） Dean of Research Affairs（Assistant President）
研究主事補 Assistant Dean of Research Affairs
情報メディア教育センター長（校長補佐） Director of Information Media Center（Assistant President）
校長 President
専攻科長 Director of Advanced Course
海事システム学専攻主任 Chief of Maritime System Major
生産システム工学専攻主任 Chief of Production System Engineering Major
一般教育科長 Director of General Education Department
商船学科長 Director of Maritime Technology Department
商船学科航海コース主任 Chief of Nautical Course
商船学科機関コース主任 Chief of Marine Engineering Course
練習船船長 Captain of Training Ship
練習船運航委員長 Chairman of Training Ship Operations
教員会議 Faculty Assembly
電子機械工学科長 Director of Electronic Mechanical Engineering Department
制御情報工学科長 Director of Information and Control Engineering Department
情報機械システム工学科長 Director of Department of Informatics and Mechanical Engineering
テクノセンター長 Director of Technical Resource Center
技術長 Technical Chief
第1技術室 Technical Section 1
第2技術室 Technical Section 2
第3技術室 Technical Section 3
第4技術室 Technical Section 4
学生相談室長 Director of Student Counseling Room
学修推進支援室長 Director of Office for Support of Learning Promotion
キャリア教育推進室長 Director of Office for Promotion of Career Education
グローバル教育推進室長 Director of Office for Promotion of Global Education
入試広報室長 Public Relations Officer for Entrance Examinations
男女共同参画推進室長 Director of Office for Promotion of Gender Equality
事務部長 General Manager
総務課長 Director of General Affairs Division
課長補佐（総） Assistant Director of General Affairs Division
総務係 Administration Section
企画・地域連携係 Planning and Collaborative Section
人事労務係 Personnel Section
課長補佐（財） Assistant Director of Financial Affairs Division
財務・経理係 Finance and Accounting Section
調達係 Supply Section
施設係 Facilities Section
学生課長 Director of Student Affairs Division
課長補佐 Assistant Director of Student Affairs Division
教務係 Educational Section
図書係 Library Section
学生生活係 Student Section

役職員及び教職員数

役職員 Administration Staff

令和4年5月1日現在

校長 President	和泉　充 Izumi Mitsuru
副校長(総務・教務担当)教務主事 Vice President (General affairs/ Educational affairs) Dean of Academic Affairs	伊藤友仁 Ito Tomohito
副校長(学生支援・厚生補導担当)学生主事 Vice President (Student support / Welfare guidance) Dean of Student Affairs	坂牧孝規 Sakamaki Takanori
副校長(寮務・国際担当)寮務主事 Vice President (Dormitory/ International affairs) Dean of Dormitory Affairs	橋爪仙彦 Hashizume Norihiko
校長補佐(研究、産学・地域連携担当)研究主事 Assistant President (Research,industry and academia,and Regional collaboration) Dean of Research Affairs	江崎修央 Ezaki Nobuo
校長補佐(サイバーセキュリティ担当)情報メディア教育センター長 Assistant President (Cyber security) Director of Information Media Center	白石和章 Shiraishi Kazuaki
事務部長 Secretary General	小林正幸 Kobayashi Masayuki
総務課長 Director of General Affairs Division	小林正幸 Kobayashi Masayuki
学生課長 Director of Student Affairs Division	國枝和代 Kunieda Kazuyo
商船学科長 Director of Maritime Technology Department	窪田祥朗 Kubota Sachio
商船学科航海コース主任 Chief of Nautical Course	鈴木　治 Suzuki Osamu
商船学科機関コース主任 Chief of Marine Engineering Course	窪田祥朗 Kubota Sachio
電子機械工学科長 Director of Electronic Mechanical Engineering Department	山下晃司 Yamashita Koji
制御情報工学科長 Director of Information and Control Engineering Department	溝口卓哉 Mizoguchi Takuya
情報機械システム工学科長 Director of Department of Informatics and Mechanical Engineering	出江幸重 Izue Yukishige
一般教育科長 Director of General Education Department	西川雅堂 Nishikawa Masataka
専攻科長 Director of Advanced Course	林　浩一 Hayashi Koichi
海事システム学専攻主任 Chief of Maritime System Major	小川伸夫 Ogawa Nobuo
生産システム工学専攻主任 Chief of Production System Engineering Major	林　浩一 Hayashi Koichi
テクノセンター長 Director of Technical Resource Center	江崎修央 Ezaki Nobuo
学生相談室長 Director of Student Counseling Room	鎌田功一 Kamada Koichi
練習船運航委員長 Chairman of Training Ship Operations	齊心俊憲 Saishin Toshikazu
学修推進支援室長 Director of Office for Support of Learning Promotion	伊藤友仁 Ito Tomohito
キャリア教育推進室長 Director of Office for Promotion of Career Education	坂牧孝規 Sakamaki Takanori
グローバル教育推進室長 Director of Office for Promotion of Global Education	亀谷知宏 Kameya Tomohiro
入試広報室長 Public Relations Officer for Entrance Examinations	澤田圭樹 Sawada Keijyu
男女共同参画推進室長 Director of Office for Promotion of Gender Equality	中平　希 Nakahira Megumi

教職員数 Staff

令和4年5月1日現在

教育職員 Teaching Staff					事務職員等 Administrative Staff			合計 Total
校長 President	教授 Professors	准教授 Associate Professors	講師 Lecturers	助教 Assistant Professors	部課長 Directors	係長等 Chiefs	一般職員等 General Staff	
1	25	25	0	3	2	15	26	97
54					43			

係長等には課長補佐、技術専門職員を含む
Assistant Director and Technical Staff are counted among the chiefs.

一般教育科 General Education Department

高等専門学校は、高度な専門的知識と技術を身につけた技術者を養成することを目的としています。

このような技術者は、その専門的分野に関する知識や技術とともに、高い教養と創造力、国際性、協調性に富んだ豊かな人間性が求められます。

一般教育科は、技術者としての基本的な資質と専門科目を学ぶための基礎学力を養うことを目的としています。

本校学生は、人文･社会系科目、自然科学系科目、保健体育、芸術及び外国語という広い分野にわたって、高等学校のレベルから大学の教養課程のレベルまで、5年間の一貫教育のもとで履修します。

The aim of Institute of Technology is to teach students to become proficient technical experts with high expertise and skills.
Students are strongly encouraged to acquire a high level of education, complete with a deep sense of humanity, creativity, cooperativeness, and international outlook, as well as the technical knowledge of their own specialized fields.
Our General Education Department's goal is to strengthen students' qualities as engineers, and to provide them with the fundamental academic abilities necessary to learn their major fields.
Students study a wide range of subjects such as humanities, social and natural sciences, physical education, arts, and foreign languages under the continuous five-year education system.

授業風景
Class Scenery

Ｌ・Ｌ 授業
Language Laboratory

● 教育目標 Educational goals

1．健康で教養豊かな社会生活を送るための基礎的な力を培う。

To cultivate basic skills to have a healthy and cultured social life.

2．専門科目を学ぶための基礎的な力を培う。

To cultivate basic skills to study specialized subjects.

3．多様な文化に目を向け、国際社会で活躍できる基礎的な力を培う。

To cultivate basic skills to be active in the international community while appreciating a diversity of cultures.

授業風景
Class Scenery

●教員　Teaching Staff

職名　Status	学　位　Degree	氏　名　Name	主な担当科目　Teaching Subjects
教　授 Professor	博士（理　学）　D. Sc.	澤　田　圭　樹 Sawada　Keijyu	化　　学　Chemistry
〃	修士（英文学）　M. A.	鈴　木　　聡 Suzuki　Satoshi	英　　語　English
〃	修士（文　学）　M. A.	豊　田　尚　子 Toyota　Naoko	国　　語　Japanese
〃	博士（文　学）　Ph. D	中　平　　希 Nakahira　Megumi	歴　　史　History
〃	博士（理　学）　D. Sc.	西　川　雅　堂 Nishikawa　Masataka	数　　学　Mathematics
〃	修士（学校教育学）　M. Ed.	橋　爪　仙　彦 Hashizume　Norihiko	英　　語　English
〃	修士（体育学）　M. Ph.	山　田　英　生 Yamada　Hideo	保健・体育　Health & Physical Education
准教授 Associate Professor	修士（体育学）　M. Ph.	重　永　貴　博 Sigenaga　Takahiro	保健・体育　Health & Physical Education
〃	博士（理　学）　D. Sc.	田　中　秀　幸 Tanaka　Hideyuki	数　　学　Mathematics
〃	博士（文　学）　Ph. D	ニコルソン ショーン チャールズ Nicholson　Sean　Charles	英　　語　English
〃	修士（法　学）　LL. M.	柾　山　　剛 Hashiyama　Takeshi	英　　語　English
〃	博士（経済学）　D. Ec.	深　見　佳　代 Fukami　Kayo	現代社会　Contemporary Society
〃	博士（理　学）　D. Sc.	山　中　郷　史 Yamanaka　Satoshi	物　　理　Physics
助　教 Assistant Professor	博士（理　学）　D. Sc.	朴　　佳　南 Park　Kanam	数　　学　Mathematics
嘱託教授 Part-time Professor	工学修士　M. Eng.	冨　澤　　明 Tomizawa　Akira	物　　理　Physics

●非常勤講師　Part-time Teaching Staff

氏　名　Name		主な担当科目　Teaching Subjects
勝　田　好　洋	Katsuda　Yoshihiro	国　　語　Japanese
竹　内　幸　弘	Takeuchi　Yukihiro	国　　語　Japanese
熱　田　幸　嗣	Atsuta　Koji	数　　学　Mathematics
谷　口　光　詞	Taniguchi　Mitsushi	数　　学　Mathematics
東　　直　彦	Azuma　Naohiko	法　　学　Law
世古口　祐　子	Sekoguchi　Yuko	書　　道　Calligraphy
中　村　利　郎	Nakamura　Toshiro	美　　術　Fine Arts
野　中　洋　子	Nonaka　Yoko	音　　楽　Music
ウッズ・ディビッド	Woods　David	英　会　話　English Conversation
フィリップ キム	Philip　Kim	英　会　話　English Conversation
太　田　慶　子	Ota　Keiko	日本語教育　Japanese for Foreigners

●教育課程 Curriculum

平成31年度以降入学生 Students admitted since 2019

商船学科 Maritime Technology Department

		授業科目 Subjects		学修単位 Learning Credits	単位数 Credits	学年配当 Credits Grade 1年 1st	2年 2nd	3年 3rd	4年 4th	5年 5th	備考 Note
必修科目	人文・社会	国語1	Japanese 1		2	2					
		国語2	Japanese 2		2		2				
		国語3	Japanese 3		2			2			留学生を除く
		歴史1	History 1		2	2					
		歴史2	History 2		2		2				
		現代社会	Contemporary Society		2			2			留学生を除く
		日本語教育1	Japanese for Foreigners 1		2			2			留学生のみ
		日本語教育2	Japanese for Foreigners 2		2			2			留学生のみ
	自然科学	基礎数学1	Elementary Mathematics 1		2	2					
		基礎数学2	Elementary Mathematics 2		2	2					
		基礎数学3	Elementary Mathematics 3		2	2					
		基礎数学4	Elementary Mathematics 4		2		2				
		微分積分1	Differential and Integral Calculus 1		2		2				
		微分積分2	Differential and Integral Calculus 2		2			2			
		代数・幾何1	Algebra and Geometry 1		2		2				
		代数・幾何2	Algebra and Geometry 2		2			2			
		物理1	Physics 1		2	2					
		物理2	Physics 2		2		2				
		理科総合	General Science		2		2				
		化学	Chemistry		2			2			
	保健・体育	保健体育1	Health & Physical Education 1		2	2					
		保健体育2	Health & Physical Education 2		2		2				
		保健体育3	Health & Physical Education 3		2			2			
	芸術	書道	Calligraphy		2	2					1科目選択
		美術	Fine Arts								
		音楽	Music								
	外国語	English Communication 1	English Communication 1		2	2					
		English Communication 2	English Communication 2		2	2					
		English Communication 3	English Communication 3		2		2				
		English Communication 4	English Communication 4		2		2				
		English Expression 1	English Expression 1		2	2					
		English Expression 2	English Expression 2		2		2				
		Level Up English 1	Level Up English 1		2			2			
		Level Up English 2	Level Up English 2		2			2			
		英語1	English 1		1				1		
		英語2	English 2		1					1	
		英語3	English 3		1					1	
		英語4	English 4		1					1	
		一般基礎教育1	Basic General Education 1		2	2					
		一般基礎教育2	Basic General Education 2		1		1				
	小計		Sub-total		67	24	23	16	1	3	
選択科目	人文・社会	国語表現	Japanese Expression	○	2				2		
		文学概論	Introduction to Japanese Literature	○	2					2	
		国際関係論	International Relations	○	2				2		
		社会政策論	Social Policy	○	2					2	
		法学	Law	○	2					2	
		日本語教育3	Japanese for Foreigners 3	○	2				2		留学生のみ
		日本語教育4	Japanese for Foreigners 4	○	2					2	留学生のみ
	自然科学	応用科学1	Applied Science 1	○	2				2		
		応用科学2	Applied Science 2	○	2					2	
	保健体育	スポーツ健康学実習1	Practice of Sport & Health 1		1				1		
		スポーツ健康学実習2	Practice of Sport & Health 2		1					1	
	開設選択科目単位数合計		Total of Establishment Elective Subjects		16	0	0	0	7	9	留学生は 4年9単位 5年11単位
	※）選択科目単位数		Credits for Optional Subjects		8以上	0	0	0	8以上		
合計			Total		75以上	24	23	16	12以上		
特別教育活動			Extracurricular Activities		3	1	1	1			

※）選択科目単位数に、鳥羽商船高等専門学校以外の教育施設等における学修等に関する規則別表２に揚げる技能審査の単位数を加算することが出来る。なお、技能審査が単位認定された学年を問わず選択科目の修得単位に含めるものとする。

情報機械システム工学科　Curriculum（Department of Informatics and Mechanical Engineering）

授業科目 Subjects				学修単位 Learning Credits	単位数 Credits	学年配当 Credits Grade 1年 1st	2年 2nd	3年 3rd	4年 4th	5年 5th	備考 Note
必修科目	人文・社会	国語 1	Japanese 1		2	2					
		国語 2	Japanese 2		2		2				
		国語 3	Japanese 3		2			2			留学生を除く
		歴史 1	History 1		2	2					
		歴史 2	History 2		2		2				
		現代社会	Contemporary Society		2			2			留学生を除く
		日本語教育 1	Japanese for Foreigners 1		2			2			留学生のみ
		日本語教育 2	Japanese for Foreigners 2		2			2			留学生のみ
	自然科学	基礎数学 1	Elementary Mathematics 1		2	2					
		基礎数学 2	Elementary Mathematics 2		2	2					
		基礎数学 3	Elementary Mathematics 3		2	2					
		基礎数学 4	Elementary Mathematics 4		2		2				
		微分積分 1	Differential and Integral Calculus 1		2		2				
		微分積分 2	Differential and Integral Calculus 2		2			2			
		代数・幾何 1	Algebra and Geometry 1		2		2				
		代数・幾何 2	Algebra and Geometry 2		2			2			
		物理 1	Physics 1		2	2					
		物理 2	Physics 2		2		2				
		理科総合	General Science		2		2				
		化学	Chemistry		2			2			
	保健・体育	保健体育 1	Health & Physical Education 1		2	2					
		保健体育 2	Health & Physical Education 2		2		2				
		保健体育 3	Health & Physical Education 3		2			2			
	芸術	書道	Calligraphy		2	2					1科目選択
		美術	Fine Arts								
		音楽	Music								
	外国語	English Communication 1	English Communication 1		2	2					
		English Communication 2	English Communication 2		2	2					
		English Communication 3	English Communication 3		2		2				
		English Communication 4	English Communication 4		2		2				
		English Expression 1	English Expression 1		2	2					
		English Expression 2	English Expression 2		2		2				
		Level Up English 1	Level Up English 1		2			2			
		Level Up English 2	Level Up English 2		2			2			
		一般基礎教育 1	Basic General Education 1		2	2					
		一般基礎教育 2	Basic General Education 2		1		1				
	開設単位数合計		Total of Establishment Subjects		63	24	23	16	0	0	
選択科目	志向性ユニット	コミュニケーションスキル	Communication Skills	○	2				2		生顧
		プレゼンテーションスキル	Presentation Skills	○	2				2		生顧
		国際関係論	International Relations	○	2				2		生ビ国
		社会政策論	Social Policy	○	2					2	生
		経済学	Economics	○	2				2		顧ビ
		法学	Law	○	2					2	顧
		応用科学 1	Applied Science 1	○	2				2		開
		応用科学 2	Applied Science 2	○	2				2		開
		総合英語 1	Advanced English 1	○	2				2		国
		総合英語 2	Advanced English 2	○	2				2		国
		総合英語 3	Advanced English 3	○	2					2	国
		総合英語 4	Advanced English 4	○	2					2	国
		応用数学 1	Applied Mathematics 1	○	2				2		開
		応用数学 2	Applied Mathematics 2	○	2				2		開
		応用数学 3	Applied Mathematics 3	○	2					2	開
		応用数学 4	Applied Mathematics 4	○	2					2	開
		ビジネス基礎	Foundation of Business	○	2				2		ビ
		工業簿記	Industrial Bookkeeping	○	2				2		ビ
		日本語教育 3	Japanese for Foreigners 3	○	2				2		留学生のみ
		日本語教育 4	Japanese for Foreigners 4	○	2					2	留学生のみ
		スポーツ健康学実習 1	Practice of Sport & Health 1		1				1		
		スポーツ健康学実習 2	Practice of Sport & Health 2		1					1	
	開設選択科目単位数合計		Total of Establishment Elective Subjects		38	0	0	0	25	13	留学生は 4年27単位 5年15単位
	※）選択科目単位数		Credits for Optional Subjects		12以上	0	0	0	12以上		
合計			Total		75以上	24	23	16	12以上		
特別教育活動			Extracurricular Activities		3	1	1	1			

志向性ユニットの備考欄はユニットの略称。開は開発・設計、生は生産技術、顧は顧客対応、ビはビジネス基礎、国は国際性の略。

※）選択科目単位数に、鳥羽商船高等専門学校以外の教育施設等における学修等に関する規則別表２に揚げる技能審査の単位数を加算することが出来る。なお、技能審査が単位認定された学年を問わず選択科目の修得単位に含めるものとする。

平成30年度以降入学生　Students admitted since 2018

電子機械工学科・制御情報工学科　Electronic Mechanical Engineering Department・Information and Control Engineering Department

授業科目 Subjects				学修単位 Learning Credits	単位数 Credits	学年配当 Credits Grade 1年 1st	2年 2nd	3年 3rd	4年 4th	5年 5th	備考 Note
必修科目	人文・社会	国語総合1	Comprehensive Japanese 1		2	2					
		国語総合2	Comprehensive Japanese 2		2		2				
		国語総合3	Comprehensive Japanese 3		2			2			留学生を除く
		歴史1	History 1		2	2					
		歴史2	History 2		2		2				
		現代社会	Contemporary Society		2			2			留学生を除く
		日本語教育1	Japanese for Foreigners 1		2			2			留学生のみ
		日本語教育2	Japanese for Foreigners 2		2			2			留学生のみ
	自然科学	基礎数学1	Elementary Mathematics 1		2	2					
		基礎数学2	Elementary Mathematics 2		2	2					
		基礎数学3	Elementary Mathematics 3		2	2					
		微分積分1	Differential and Integral Calculus 1		2		2				
		微分積分2	Differential and Integral Calculus 2		2		2				
		微分積分3	Differential and Integral Calculus 3		2			2			
		代数・幾何1	Algebra and Geometry 1		2		2				
		代数・幾何2	Algebra and Geometry 2		2			2			
		物理1	Physics 1		2	2					
		物理2	Physics 2		2		2				
		理科総合	General Science		2		2				
		化学基礎	Basic Chemistry		2			2			
	保健・体育	保健体育1	Health & Physical Education 1		2	2					
		保健体育2	Health & Physical Education 2		2		2				
		保健体育3	Health & Physical Education 3		2			2			
	芸術	書道	Calligraphy		2	2					1科目選択
		美術	Fine Arts								
		音楽	Music								
	外国語	English Communication 1	English Communication 1		2	2					
		English Communication 2	English Communication 2		2	2					
		English Expression 1	English Expression 1		2	2					
		English Communication 3	English Communication 3		2		2				
		English Communication 4	English Communication 4		2		2				
		English Expression 2	English Expression 2		2		2				
		総合英語1	Advanced English 1		2			2			
		総合英語2	Advanced English 2		2			2			
		一般基礎教育1	Basic General Education 1		2	2					
		一般基礎教育2	Basic General Education 2		1		1				
	小計		Sub-total		63	24	23	16	0	0	
選択科目	人文・社会	国語表現	Japanese Expression	○	2				2		
		文学概論	Introduction to Japanese Literature	○	2				2		
		哲学	Philosophy	○	2				2		
		社会科学概論	Introduction to Social Science	○	2				2		
		法学	Law	○	2					2	
		日本語教育3	Japanese for Foreigners 3	○	2				2		留学生のみ
		日本語教育4	Japanese for Foreigners 4	○	2					2	留学生のみ
	自然科学	理科応用1	Advanced Science 1	○	2				2		
		理科応用2	Advanced Science 2	○	2				2		
	保健体育	スポーツ健康学実習1	Practice of Sport & Health 1		1				1		
		スポーツ健康学実習2	Practice of Sport & Health 2		1					1	
	外国語	英語1	English 1		1				1		
		英語2	English 2		1				1		
		英語3	English 3		1					1	
		英語4	English 4		1					1	
	開設選択科目単位数合計		Total of Establishment Elective Subjects		20	0	0	0	15	5	留学生は 4年17単位 5年7単位
	選択科目単位数		Credits for Optional Subjects		12以上	0	0	0	12以上		
合計			Total		75以上	24	23	16	12以上		
特別教育活動			Extracurricular Activities		3	1	1	1			

※）選択科目単位数に、鳥羽商船高等専門学校以外の教育施設等における学修等に関する規則別表２に揚げる技能審査の単位数を加算することが出来る。なお、技能審査が単位認定された学年を問わず選択科目の修得単位に含めるものとする。

商船学科 Maritime Technology Department

●航海コース Nautical Course

航海コースは、船長、航海士を養成するコースです。

船長、航海士は、貴重な人命と莫大な財産である船や高価な積荷を安全に、かつ経済的に目的地に送り届ける重要な任務をもっています。したがって、このような任務を十分に全うできる高度な技術を身につけるための教育を行っています。

The Nautical Course is for Deck Officers and Captains.
They are ultimately responsible for lives on board, vessels, and the safe and economical conveyance of very valuable cargo to its destination.
This course offers programs to meet such responsibilities sufficiently.

●機関コース Marine Engineering Course

機関コースは、機関長、機関士を養成するコースです。

機関長、機関士は、エンジンの運転と保守を行い、補助機関、その他船内のあらゆる機械に精通した技術者でなければなりません。したがって、このような職務を全うできる高度な技術を身につける教育を行っています。

The Marine Engineering Course is for Engineering Officers and Chief Engineers.
They must be skillful marine engineers with a thorough knowledge of main engines, auxiliaries, and other mechanical aspects of ships.
This course offers programs to meet such skills sufficiently.

操船シミュレータ
Ship Maneuvering Simulator

回流水槽実験装置
Circulating Water Channel Laboratory

エンジンシミュレータ
Engine Simulator

●大型練習船実習 Plactice on Large Training Ships with Japan agency of Maritime Education and Training for Seafarers

商船学科は独立行政法人海技教育機構の練習船や海運会社の船舶で延べ1年の大型練習船実習を行います。

海技教育機構における大型練習船実習では遠洋航海（ハワイ、シンガポール方面など）も行います。

Students of the Maritime Technology Department spend one year doing practical training as apprentices on large training ships with the Japan agency of Maritime Education and Training for Seafarers for Independent Administrative Institutions or international shipping companies. Apprentices practice long distance navigation under the instructors of the ships.

日本丸 Nihon Maru

銀河丸 Ginga Maru

●教員　Teaching Staff

航海コース　Nautical Course

職名 Status	学　位 Degree	氏　名 Name	主な担当科目 Teaching Subjects	
教　授 Professor		片岡 高志 Kataoka Takashi	海事国際法 International Maritime Laws 海事法規 Maritime Law	海運政策論 Maritime Policy
〃	博士(工学) D. Eng.	鈴木 治 Suzuki Osamu	操船論 Ship Handling 船舶通信概論 Communications	貿易物流論 Trade Logistics
准教授 Associate Professor	博士(工学) D. Eng.	鎌田功一 Kamada Koichi	船舶設計論 Ship Design 基礎力学 Basic Mechanics	基礎統計学 Basic Statistics
〃	博士(海事科学) D.MSc.	北村健一 Kitamura Kenichi	地文航海学 Terrestrial Navigation 天文航海学 Celestial Navigation	運送保険論 Transportation Insurance
〃	博士(工学) D. Eng.	小島智恵 Kojima Chie	船舶安全論 Shipping Safety 航海法規 Navigational Laws	航海実務 Knowledge for Ocean Officers
〃		齊心俊憲 Saishin Toshikazu	航海概論 Introduction to Navigation 商船学演習 Exercises in Mercantile Science	運用学実験 Maritime Labs
〃	博士(工学) D. Eng.	山田智貴 Yamada Tomoki	基礎船舶工学 Basic Ship Engineering 航海気象学 Nautical Meteorology	環境科学論 Environmental Science
〃	修士(工学) M. Eng.	吉田南穂子 Yoshida Nahoko	航海システム論 Instrumental Systems 測位システム論 Positioning Systems	航海実務 Knowledge for Ocean Officers

機関コース　Marine Engineering Course

職名 Status	学　位 Degree	氏　名 Name	主な担当科目 Teaching Subjects	
教　授 Professor	博士(工学) D. Eng.	伊藤友仁 Ito Tomohito	応用数学1・2 Applied Mathematics 1・2 応用先端材料 Applied Advanced Materials	舶用機関学実験2 Maritime Technology Labs 2
〃	博士(工学) D. Eng.	小川伸夫 Ogawa Nobuo	情報リテラシー1・2 Information Literacy 1・2 制御論 Control Theory	計測制御工学1・2 Measurements and Control Engineering 1・2
〃	博士(工学) D. Eng.	窪田祥朗 Kubota Sachio	電気電子理論 Electric and Electronics 電気機器学1・2 Electrical Machinery and Apparatuses 1・2	電力応用工学 Electric Power Applications
〃	博士(工学) D. Eng.	嶋岡芳弘 Shimaoka Yoshihiro	機関概論 Introduction to Engineering 舶用補助機関学1・2 Marine Auxiliary Machineries 1・2	設備機械 Engineering Technology and Equipments
准教授 Associate Professor		大野伸良 Ono Nobuyoshi	機関実務 Basic Duty of Marine Engine 舶用機関学実験1・2 Maritime Technology Labs1・2	練習船実習3・4 On Board Training 3・4
〃	博士(工学) D. Eng.	小田真輝 Oda Masaki	機械製図1・2 Mechanical Drawing 1・2 工業材料学 Materials of Machines	トライボロジー Tribology
〃	博士(工学) D. Eng.	広瀬正尚 Hirose Masataka	海技実習 Seamanship Training 応用数学1・2 Applied Mathematics 1・2	燃料・潤滑工学 Fuel Lubricating Engineering
〃	修士(工学) M. Eng.	渡辺幸夫 Watanabe Yukio	熱力学 Thermodynamics 蒸気機関学1・2 Steam Engines 1・2	流体力学 Hydrodynamics
助　教 Assistant Professor		山野武彦 Yamano Takehiko	舶用機関学実験1 Maritime Technology Labs 1 舶用機関学実験2 Maritime Technology Labs 2	海技実習 Seamanship Training

練習船　Teaching Staff of Training ship

職名 Status		氏　名 Name
准教授 Associate Professor	船長 Captain	齊心俊憲 Saishin Toshikazu
〃	機関長 Chief Engineer	大野伸良 Ono Nobuyoshi
助　教 Assistant Professor	一等機関士 First Engineer	山野武彦 Yamano Takehiko

●非常勤講師　Part-time Teaching Staff

氏　名 Name	主な担当科目 Teaching Subjects
今井康之 Imai Yasuyuki	内燃機関学1 Internal Combustion Engines 1 内燃機関学2 Internal Combustion Engines 2
ウッズ・ディビッド Woods David	航海英語 Navigational English 機関英語 English Marine Engineering
境善行 Sakai Yoshiyuki	地文航海学 Terrestrial Navigation

●教育課程 Curriculum

平成31年度以降入学生 Students admitted since 2019

		授業科目 Subjects	学修単位 Learning Credits	単位数 Credits	学年別配当 Credits Grade 1年 1st	2年 2nd	3年 3rd	4年 4th	5年 5th	備考 Note
共通必修科目		航海概論 Introduction to Navigation		2	2					
		機関概論 Introduction to Engineering		2	2					
		電気電子理論 Electric and Electronics		2		2				
		基礎船舶工学 Basic Ship Engineering		2		2				
		情報リテラシー1 Information Literacy 1		1	1					
		情報リテラシー2 Information Literacy 2		1		1				
		基礎力学 Basic Mechanics		2		2				
		応用数学1 Applied Mathematics 1		1		1				
		応用数学2 Applied Mathematics 2		1			1			
		キャリアデザイン1 Career Design 1		1			1			
		キャリアデザイン2 Career Design 2		1				1		
		キャリアデザイン3 Career Design 3		1					1	
		海技実習 Seamanship Training		2	2					
		商船学演習 Exercises in Mercantile Science		1		1				
		練習船実習1 On Board Training 1		1	1					
		練習船実習2 On Board Training 2		1		1				
		卒業研究 Graduation Research		6					6	
		小計 sub-total		28	8	10	2	1	7	
コース必修科目	航海コース	航海システム論 Instrumental Systems		2			2			
		測位システム論 Positioning Systems	○	2				2		
		地文航海学 Terrestrial Navigation		2			2			
		天文航海学 Celestial Navigation	○	2				2		
		操船論 Ship Handling		2			2			
		航海気象学 Nautical Meteorology		2			2			
		輸送安全学 Safty Cargo Operation		2			2			
		航海法規 Navigational Laws		2			2			
		海事法規 Maritime Laws	○	2				2		
		海運政策論 Maritime Policy	○	2					2	
		船舶通信論 Radio Communication	○	2					2	
		海運実務論 Maritime Business	○	2					2	
		機関実務 Basic duty of Marine Engine	○	2					2	
		運用学実験 Maritime Labs		3			3			
		航海学実験 Navigational Labs		2				2		
		練習船実習3 On Board Training 3		1			1			
		練習船実習4 On Board Training 4		2					2	
		小計 sub-total		34	0		16	8	10	
	機関コース	計測制御工学1 Measurements and Control Engineering 1		2			2			
		舶用補助機関学1 Marine Auxiliary Machineries 1		1			1			
		舶用補助機関学2 Marine Auxiliary Machineries 2	○	2				2		
		電気機器学1 Electrical Machinery and Apparatuses 1		1			1			
		電気機器学2 Electrical Machinery and Apparatuses 2	○	2					2	
		内燃機関学1 Internal Combustion Engines 1		2			2			
		内燃機関学2 Internal Combustion Engines 2	○	2				2		
		燃料・潤滑工学 Fuel Lubricating Engineering		1			1			
		蒸気機関学1 Steam Engines 1		2			2			
		蒸気機関学2 Steam Engines 2	○	2					2	
		熱力学 Thermodynamics		1			1			
		流体力学 Hydrodynamics	○	2				2		
		機械製図1 Mechanical Drawing 1		2			2			
		工業材料学 Materials of Machines	○	2					2	
		機関学実務 Duty of Marine Engine	○	2					2	
		舶用機関学実験1 Maritime Technology Labs 1		3			3			
		舶用機関学実験2 Maritime Technology Labs 2		2				2		
		練習船実習3 On Board Training 3		1			1			
		練習船実習4 On Board Training 4		2					2	
		小計 sub-total		34	0	0	16	8	10	

授業科目 Subjects				学修単位 Learning Credits	単位数 Credits	学年別配当 Credits Grade 1年 1st	2年 2nd	3年 3rd	4年 4th	5年 5th	備考 Note
※選択科目	共通選択科目		情報処理 Introduction to Computers		2					2	
			海事英語 Maritime English	○	2				2		
			船舶通信概論 Introductory Ship Communications	○	2				2		
			貿易物流論 Logistics Business		2					2	
			特別講義 Advanced Lecture	○	1					1	
			インターンシップ Internship		1					1	
			船舶設計論 Ship Design	○	2					2	
	コース選択科目	航海コース	航海実務 Knowledge for Ocean Officers	○	2				2		履修必須
			航海英語 Navigational English	○	2					2	
			船舶安全論 Shipping Safety	○	2				2		
			基礎統計学 Basic Statistics	○	2					2	
			表現技法 Writing and Presentation	○	2					2	
			海事国際法 International Maritime Laws	○	2					2	
			運送保険論 Transportation Insurance	○	2					2	
			環境科学論 Environmental Science	○	2					2	
			危機管理論 Risk Management	○	2					2	
		機関コース	機械製図2 Mechanical Drawing 2	○	2				2		
			機関英語 English Marine Engineering	○	2					2	
			計測制御工学2 Measurements and Control Engineering 2	○	2					2	
			トライボロジー Tribology	○	2					2	
			制御論 Control Theory	○	2					2	
			応用先端材料 Applied Advanced Materials	○	2					2	
			熱輸送工学 Heat Transfer Conditions	○	2					2	
			設備機械 Engineering Technology and Equipments	○	2					2	
			電力応用工学 Electric Power Applications	○	2					2	
	開設科目単位数合計 Total Number of Credits for Offered Subjects				30	0	0	0	航海8 機関6	航海22 機関24	
必修	専門科目単位数合計 Total Number of Credits for Special Subjects				62	8	10	18	9	17	
	一般科目単位数合計 Total Number of Credits for General Subjects				67	24	23	16	1	3	
選択	専門開設科目単位数合計 Total Number of Credits for Offered Special Subjects				30	−	−	−	航海8 機関6	航海22 機関24	
	一般開設科目単位数合計 Total Number of Credits for Offered General Subjects				16	−	−	−	7	9	卒業要件 （一般選択8単位以上）
修得単位数 Total Number of Acquired Credits					147以上	32	33	34			
						119以上					
						147以上（一般科目75以上・専門科目62以上）					
大型練習船実習 Practice on Training Ship with National Institute for Sea Training					上記単位数以外に12月実施する ＃） Under a Separate Curriculum						

＃)大型練習船実習12月のうち、後期長期実習については、やむを得ない事由がある場合は別に定める措置をとることができる。
※は、開設しないこともある。

電子機械工学科

Electronic Mechanical Engineering Department

電子機械工学科は、製造技術の基礎となる機械工学と、機械を制御する電気・電子工学の両方の専門的知識及び技術を身につけた技術者を養成することを目的としています。

したがって、現在のメカトロニクス時代に対応するため、強度計算、エネルギー変換、材料及び機械製作等の機械工学の基礎知識の上に、計測･制御、電気･電子工学や情報の基礎的知識をもたせ、機械装置や電子制御装置をシステムとして設計・製図、管理する能力を与えることをねらいとした教育を行います。

卒業後は、主に機械産業、電気電子産業、自動車産業及び情報処理産業で活躍しています。

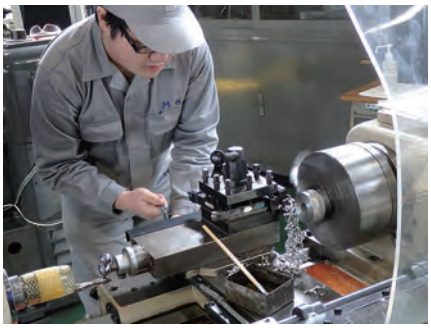
The Electronic Mechanical Engineering Department is designed to equip students with sound theoretical and practical knowledge and techniques in the areas of mechanical engineering, electric and electronic engineering.

To meet the needs of the mechatronics (mechanism + electronics) era, fundamental knowledge of metrology and control, electric and electronic engineering, and information processing will be taught, in addition to the fundamental knowledge of mechanical engineering such as strength calculation, energy conversion, and materials, so students will be competent for designing, manufacturing, and managing systems of machinery and electronic controller.

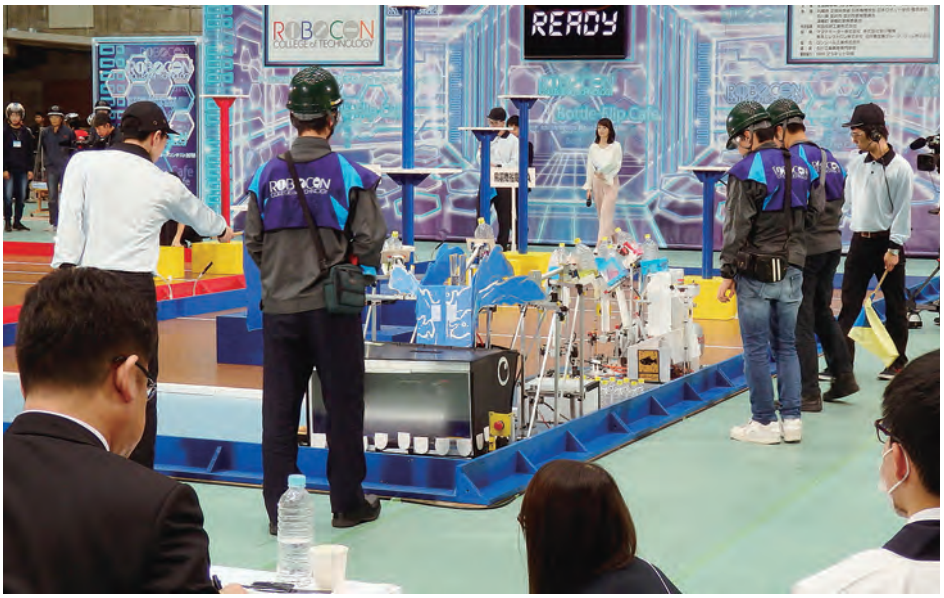
Students are mainly active in the machine electric, electronic, automobile, and information processing industries after graduation.

電子回路実習
Electronic Circuits Training

機械工学実験実習
Experiment of Mechanical Engineering



機械加工実習
Mechanical Processing Training



高専ロボコン
Robot Contest

●教育課程 Curriculum

平成27年度以降入学生 Students admitted since 2015

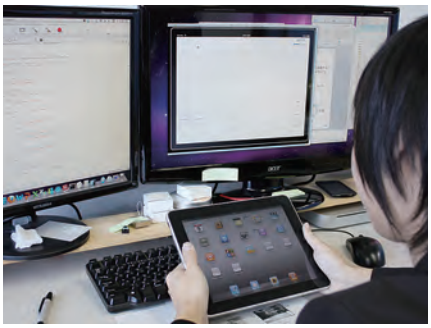
授業科目 Subjects			学修単位 Learning Credits	単位数 Credits	学年別配当 Credits Grade 1年 1st	2年 2nd	3年 3rd	4年 4th	5年 5th	備考 Note
専門必修科目		工学リテラシ Engineering Literacy		2	2					
		電気電子基礎 Basic Electric and Electronics Engineering		2	2					
		情報工学基礎 Basic Computer Engineering		2	2					
		機械工学基礎 Basic Mecanical Engineering		2	2					
		電気電子工学 Electrical and Electronic Engineering		2		2				
		プログラミング Programming		2		2				
		工学数理基礎1 Basic Engineering Mathematics 1		2		2				
		電気回路 Electric Circuits		2			2			
		電子回路 Electronic Circuits	○	2				2		
		計測工学 Instrumentation Engineering		2			2			
		マイコン工学 Microcomputer Engineering		2			2			
		工学数理基礎2 Basic Engineering Mathematics 2		2			2			
		キャリアデザイン1 Career Design 1		1			1			
		創造実験1 Project Based Learning 1		3			3			
		制御工学 Control Engineering	○	2				2		
		電気機器 Electrical Instruments	○	2				2		
		応用数学1 Applied Mathematics 1	○	2				2		
		応用数学2 Applied Mathematics 2	○	2				2		
		キャリアデザイン2 Career Design 2		1				1		
		創造実験2 Project Based Learning 2		3				3		
		電力工学 Power Electronics Engineering	○	2					2	
		工業英語 Technical English	○	2					2	
		キャリアデザイン3 Career Design 3		1					1	
		工学実験 Experiments of Engineering		3					3	
		卒業研究 Graduation Research		8					8	
		機械製図 Mechanical Drawing		2		2				
		機械工学演習 Practice of Mechanical Engineering		2		2				
		機械設計 Mechanical Design		2			2			
		工業力学 Industrial Dynamics		2			2			
		材料力学 Strength of Materials		2			2			
		機械工作法 Machine Work	○	2				2		
		小計(31科目) Sub-total (31 subjects)		68	8	10	18	16	16	
モデル必修科目	機械系	機構学 Mechanism	○	2				2		※電気電子系は選択科目として受講可能
		流体力学 Fluid Mechanics	○	2				2		
		機械力学 Machine Dynamics	○	2				2		
		熱力学 Thermodynamics	○	2					2	
		材料学 Material Science	○	2					2	
		設計製図 Mechanical Design and Drawing	○	2					2	
		応用ロボット工学 Applied Robotics	○	2					2	
		小計(7科目) Sub-total (7 subjects)		14	0	0	0	6	8	
	電気電子系	組込みシステム工学 Embedded System Engineering	○	2				2		※機械系は選択科目として受講可能
		組込みソフトウエア工学 Embedded Software Engineering	○	2				2		
		電磁気学 Electromagnetics	○	2				2		
		ロボットシステム工学 Robot System Engineering	○	2					2	
		センサ応用システム Applied Sensor System	○	2					2	
		制御応用システム Applied Control System	○	2					2	
		電子物性 Electronic Material Properties	○	2					2	
		小計(7科目) Sub-total (7 subjects)		14	0	0	0	6	8	
選択科目		ネットワークプログラミング Network System Programing	○	2				2		
		ITシステム工学 IT Systems Engineering	○	2				2		
		データベース Database	○	2				2		
		ネットワークシステム Network System Engineering	○	2					2	
		ソフトウエア工学 Software Engineering	○	2					2	
		モバイルシステム Mobile Systems	○	2					2	
		数値計算法 Numerical Computation	○	2					2	
		小計(7科目) Sub-total (7 subjects)		14	0	0	0	6	8	
		特別講義1 Special Lecture 1	○	2				2		
		特別講義2 Special Lecture 2	○	2					2	
		インターンシップ1 Internship Practice 1		1				1		
		インターンシップ2 Internship Practice 2		1				1		
		小計(4科目) Sub-total (4 subjects)		6	0	0	0	4	2	
専門		必修科目単位数合計 Total Compulsory Subjects		82	8	10	18	22	24	
		選択科目単位数合計 Total Elective Subjects		34	0	0	0	16	18	
一般		開設科目単位数合計 Total Number of Credits for Offered Subjects		90 83	24	23	16	17 15	10 5	上段は平成27・28年度入学生、下段は平成29・30年度入学生
		修得科目単位数合計 Total Number of Acquired Credits		75以上	24	23	16	12以上		
修得単位数 Total Number of Acquired Credits				167以上	32	33	34			
					130以上					
					167以上（一般科目75以上・専門科目82以上）					

制御情報工学科

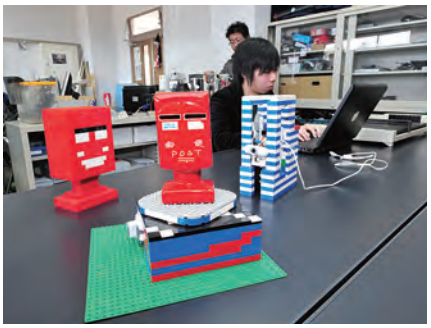
Information and Control Engineering Department

制御情報工学科では、情報応用システムや組込みシステムに対応できる技術者を育成することを目的としています。低学年では、コンピュータプログラミングや電気電子工学などの工学基礎科目と国語や社会などの一般教養科目を履修します。上級生になるに従って、情報応用システムや組込みシステムに関する高い専門性を持つ分野での技術や知識を習得します。英語についてはグローバル人材育成のためにさまざまなレベルの海外研修プログラムも提供しています。また、PBL（Project Based Learning）による実践的技術者教育にも力を入れており、学外コンテンストへの参加や、地域のためのアプリ開発なども行っております。

The Information and Control Engineering Department aims to produce computer engineers who are highly capable in the applied system or embedded computer system fields. For the first three years, we provide basic engineering programs such as computer programming, electronic engineering, as well as general subjects such as Japanese, social studies, and mathematics. For the final two years, we provide highly professional engineering knowledge in the applied information technology and embedded computer system fields. We offer various levels of overseas English training programs to foster human resources, and conduct practical engineer training programs for students through PBL (Project Based Learning). Our department also develops new computer software for the local community and competes in many contests off campus.



iPad アプリの開発
Development of an iPad Application



LEGO ロボットの開発
Development of a LEGO Robot

U-22プログラミングコンテスト
U-22 Programming Contest

全国高専プログラミングコンテスト
Kosen Programming Contest

●教育課程 Curriculum

平成27年度以降入学生 Students admitted since 2015

授業科目 Subjects			学修単位 Learning Credits	単位数 Credits	学年別配当 Credits Grade 1年 1st	2年 2nd	3年 3rd	4年 4th	5年 5th	備考 Note
専門必修科目		工学リテラシ Engineering Literacy		2	2					
		電気電子基礎 Basic Electric and Electronic Engineering		2	2					
		情報工学基礎 Basic Computer Engineering		2	2					
		機械工学基礎 Basic Mechanical Engineering		2	2					
		電気電子工学 Electric and Electronic Engineering		2		2				
		プログラミング Computer Programming		2		2				
		工学数理基礎1 Basic Engineering Mathematics 1		2		2				
		電気回路 Electric Circuits		2			2			
		電子回路 Electronic Circuits		2			2			
		計測工学 Instrumentation Engineering		2			2			
		マイコン工学 Microcomputer Engineering		2			2			
		工学数理基礎2 Basic Engineering Mathematics 2		2			2			
		キャリアデザイン1 Career Design 1		1			1			
		創造実験1 Project Based Learning 1		3			3			
		制御工学 Control Engineering	○	2				2		
		電気機器 Electric Appliance	○	2				2		
		応用数学1 Applied Mathematics 1	○	2				2		
		応用数学2 Applied Mathematics 2	○	2				2		
		キャリアデザイン2 Career Design 2		1				1		
		創造実験2 Project Based Learning 2		3				3		
		電力工学 Power Electronics	○	2					2	
		工業英語 Technical English	○	2					2	
		キャリアデザイン3 Career Design 3		1					1	
		工学実験 Engineering Experiment		3					3	
		卒業研究 Graduation Research		8					8	
		情報工学 Computer Engineering		2		2				
		電気情報実習 Electric and Computer Practice		2		2				
		アルゴリズムとデータ構造 Algorithm and Data Structure		2			2			
		情報ネットワーク Computer Networks		2			2			
		情報数学 Computer Mathematics	○	2				2		
		コンピュータシステム Computer Systems	○	2				2		
		小計(31科目) Sub-total (31 subjects)		68	8	10	18	16	16	
モデル必修科目	電気電子系	組込みシステム工学 Embedded System Engineering	○	2				2		※情報系は選択科目として受講可能
		組込みソフトウエア工学 Embedded Software Engineering	○	2				2		
		電磁気学 Electromagnetism	○	2				2		
		ロボットシステム工学 Robot System Engineering	○	2					2	
		センサ応用システム Applied Sensor Systems	○	2					2	
		制御応用システム Applied Control Systems	○	2					2	
		電子物性 Electronic Material Properties	○	2					2	
		小計(7科目) Sub-total (7 subjects)		14	0	0	0	6	8	
	情報系	ネットワークプログラミング Network System Programming	○	2				2		※電気電子系は選択科目として受講可能
		ITシステム工学 IT System Engineering	○	2				2		
		データベース Databases	○	2				2		
		ネットワークシステム Network System Engineering	○	2					2	
		ソフトウエア工学 Software Engineering	○	2					2	
		モバイルシステム Mobile Systems	○	2					2	
		数値計算法 Numerical Computation	○	2					2	
		小計(7科目) Sub-total (7 subjects)		14	0	0	0	6	8	
選択科目		機構学 Mechanism	○	2				2		
		流体力学 Fluid Mechanics	○	2				2		
		機械力学 Machine Dynamics	○	2				2		
		熱力学 Thermodynamics	○	2					2	
		材料学 Material Science	○	2					2	
		設計製図 Mechanical Design and Drawing	○	2					2	
		応用ロボット工学 Applied Robotics	○	2					2	
		小計(7科目) Sub-total (7 subjects)		14	0	0	0	6	8	
		特別講義1 Special Lecture 1	○	2				2		
		特別講義2 Special Lecture 2	○	2					2	
		インターンシップ1 Internship Practice 1		1				1		
		インターンシップ2 Internship Practice 2		1				1		
		小計(4科目) Sub-total (4 subjects)		6	0	0	0	4	2	
専門		必修科目単位数合計 Total Compulsory Subjects		82	8	10	18	22	24	
		選択科目単位数合計 Total Elective Subjects		34	0	0	0	16	18	
一般		開設科目単位数合計 Total Number of Credits for Offered Subjects		90 83	24	23	16	17 15	10 5	上段は平成27・28年度入学生、下段は平成29・30年度入学生
		修得科目単位数合計 Total Number of Acquired Credits		75以上	24	23	16	12以上		
修得単位数 Total Number of Acquired Credits				167以上	32	33	34			
					130以上					
					167以上（一般科目75以上・専門科目82以上）					

情報機械システム工学科 Department of Informatics and Mechanical Engineering

情報機械システム工学科は、情報工学を主分野とし、機械工学を理解した上で、それらをつなぐ電気電子工学の3つの分野について専門的知識及び技術を身につけた技術者の養成を目的としています。

低学年ではプログラミングに加え、3つの分野の工学基礎・専門共通基盤を学習します。高学年では自らの個性に合わせて「専門性」と「志向性」を決定するオーダーメイド型カリキュラムを提供します。

1年次から地域課題を解決するPBL（Project Based Learning）チームに所属し、机上の学習に留まらず、地域産業や文化を理解し工学的な解決法を提案できる実践的技術者を育成します。また、グローバル人材育成のためにさまざまなレベルの海外研修プログラムも提供しています。

Department of informatics and Mechanical Engineering aims to produce engineers who have acquired professional knowledge and technical skills in the three fields of information engineering as the main field, then after understanding mechanical engineering, and electrical and electronic engineering as the bridge between these two fields.

At the early years, they study the basic engineering and technical common base of the three fields as well as programming. At the late years, an custom-made style curriculum is provided to decide their own “expertise” and “intention” in accordance with their individualities. The students belong to PBL (Project Based Learning) team to solve regional issues from the first college year, and are trained to be practical engineers who not only study in their classrooms but also can suggest its techinical solution while understanding their regional industries and culture. Besides, a various levels of overseas programs will be provided to develop global human resources.

実験実習（PBL）
Experimental training (PBL)

実験実習（PBL）
Experimental training (PBL)

授業風景
Class Scenery

● 教員 Teaching Staff

職名 Status	学位 Degree	氏名 Name	主な担当科目 Teaching Subjects
教授 Professor	博士（情報科学） D. ISc.	出江 幸重 Izue Yukishige	マイコン工学 Microcomputer Engineering
			古典制御 Classical Control
			工学リテラシ Engineering Literacy
〃	工学修士 M. Eng.	伊藤 立治 Ito Tatsuji	工学実験 Engineering Experiments
			工業英語 Technical English
			特別講義1 Special Lecture 1
〃	博士（工学） D. Eng.	江崎 修央 Ezaki Nobuo	情報工学基礎 Foundation of Computer Science
			モバイルシステム Mobile Systems
			ビジネス基礎 Foundation of Business
〃	博士（工学） D. Eng.	北原 司 Kitahara Tsukasa	電気電子工学 Electric and Electronic Engineering
			電気電子基礎 Basic Electric and Electronic Engineering
			電力工学 Power Electronics
〃	工学修士 M. Eng.	古森 郁尊 Komori Fumitaka	工学実験 Engineering Experiments
			電力工学 Power Electronics Engineering
			機能材料 Functional Materials

教　授 Professor	博　士 （工学） D. Eng.	坂牧孝規 Sakamaki Takanori	工学実験 Engineering Experiments
			ソフトウエア工学 Software Engineering
			情報数学 Computer Mathematics
〃	博　士 （工学） D. Eng.	白石和章 Shiraishi Kazuaki	情報工学３ Computer Engineering 3
			AI Artificial Intelligence
			ネットワークシステム Network System Engineering
〃	博　士 （工学） D. Eng.	西山延昌 Nishiyama Nobumasa	電気電子回路 Electric and Electronic Circuits
			電気電子基礎 Basic Electric and Electronic Engineering
			キャリアデザイン１ Carrer Design 1
〃	博　士 （工学） D. Eng.	林　浩一 Hayashi Koichi	材料力学１ Strength of Materials 1
			機械力学１ Machine Dynamics 1
			機械加工実習 Mechanical Machining Practice
〃	博　士 （理学） D. Sc.	溝口卓哉 Mizoguchi Takuya	数値計算法 Numerical Computation
			工学数理基礎１ Basic Engineering Mathematics 1
			工学数理基礎２ Basic Engineering Mathematics 2
〃	博　士 （工学） D. Eng.	宮崎　孝 Miyazaki Takashi	組込みシステム工学 Embedded System Engineering
			応用ロボット工学 Applied Robotics
			制御応用システム Applied Control Systems
〃	工学博士 D. Eng.	山下晃司 Yamashita Koji	電磁気学 Electromagnetics
			計測工学 Instrumentation Engineering
			工学実験 Engineering Experiments
准教授 Associate Professor	博　士 （工学） D. Eng.	亀谷知宏 Kameya Tomohiro	熱流体力学１ Thermo and Fluid Dynamics 1
			熱力学 Thermodynamics
			工業力学１ Engineering Mechanics 1
〃	博　士 （理学） D. Sc.	児玉謙司 Kodama Kenji	工業力学２ Engineering Mechanics 2
			機械加工実習 Mechanical Machining Practice
			PBL２ Project Based Learning 2
〃	博　士 （工学） D. Eng.	近藤正樹 Kondo Masaki	工学リテラシ Engineering Literacy
			WEBアプリケーション Web Application Development
			データベース Database
〃	博　士 （工学） D. Eng.	中井一文 Nakai Kazufumi	電気電子回路 Electric and Electronic Circuits
			PBL２ Project Based Learning 2
			工業簿記 Industrial Bookkeeping
〃	博　士 （工学） D. Eng.	藤井正光 Fujii Masamitsu	電気電子工学 Electric and Electronic Engineering
			情報工学１ Computer Engineering 1
			計測工学 Instrumentation Engineering
〃	博　士 （工学） D. Eng.	増山裕之 Masuyama Hiroyuki	工業英語 Technical English
			デジタル信号処理 Digital Signal Processing
			PBL２ Project Based Learning 2
〃	博　士 （工学） D. Eng.	守山　徹 Moriyama Toru	材料学 Material Science
			機械工作法 Machine Work
			機械加工実習 Mechanical Machining Practice
〃	博　士 （工学） D. Eng.	吉岡宰次郎 Yoshioka Saijiro	材料力学２ Strength of Materials 2
			機械製図 Mechanical Drawing
			機械工学基礎 Basic Mechanical Engineering
〃	博　士 （工学） D. Eng.	脇坂　賢 Wakisaka Ken	マイコン工学 Microcomputer Engineering
			キャリアデザイン２ Carrer Design 2
			情報工学１ Computer Engineering 1
助　教 Assistant Professor	博　士 （工学） D. Eng.	中古賀　理 Nakakoga Satoshi	プログラミング１ Programming 1
			プログラミング２ Programming 2
			PBL１ Project Based Learning 1
嘱託教授 Part-time Professor		攪上平之介 Kakuage Heinosuke	機械加工基礎 Basic Mechanical Machining
			機械製図 Mechanical Drawing
			PBL２ Project Based Learning 2

●教育課程 Curriculum

情報機械システム工学科 Department of Informatics and Mechanical Engineering

授業科目 Subjects			学修単位 Learning Credits	単位数 Credits	学年別配当 Credits Grade					備考 Note
					1年1st	2年2nd	3年3rd	4年4th	5年5th	
必修科目		学科概論 Introduction to Engineering		1	1					
		工学リテラシ Engineering Literacy		2	2					
		情報工学基礎 Foundation of Computer Science		1	1					
		プログラミング1 Programming 1		1	1					
		プログラミング2 Programming 2		1			1			
		情報工学1 Computer Engineering 1		1		1				
		情報工学2 Computer Engineering 2		1		1				
		情報工学3 Computer Engineering 3		1			1			
		WEBアプリケーション Web Application Development		1			1			
		電気電子基礎 Basic Electric and Electronic Engineering		1	1					
		電気電子工学 Electric and Electronic Engineering		2		2				
		電気電子回路 Electric and Electronic Circuits		2			2			
		機械工学基礎 Basic Mecanical Engineering		1	1					
		機械加工基礎 Basic Mechanical Machining		2		2				
		工業力学1 Engineering Mechanics 1		1			1			
		材料学 Material Science		1			1			
		機械製図 Mechanical Drawing		1			1			
		機械加工実習 Mechanical Machining Practice		1			1			
		マイコン工学 Microcomputer Engineering		1			1			
		計測工学 Instrumentation Engineering		2			2			
		工学数理基礎1 Basic Engineering Mathematics 1		1			1			
		工学数理基礎2 Basic Engineering Mathematics 2		1			1			
		キャリアデザイン1 Carrer Design 1		2			2			
		キャリアデザイン2 Carrer Design 2		2				2		
		PBL1 Project Based Learning 1		1	1					
		PBL2 Project Based Learning 2		2		2				
		PBL3 Project Based Learning 3		2			2			
		PBL4 Project Based Learning 4		4				4		
		PBL5 Project Based Learning 5		4					4	
		情報数学 Computer Mathematics	○	2				2		
		ネットワークシステム Network System Engineering	○	2				2		
		システム工学 System Engineering	○	2					2	
		古典制御 Classical Control	○	2				2		
		材料力学1 Strength of Materials 1	○	2				2		
		機械力学1 Machine Dynamics 1	○	2				2		
		熱流体力学1 Thermo and Fluid Dynamics1	○	2				2		
		機械設計 Mechanical Design	○	2					2	
		工作法 Machine Processing	○	2					2	
		技術者倫理 Ethics for Engineers	○	2					2	
		卒業研究 Graduation Research		8					8	
		小計 Sub-total		72	8	8	18	18	20	
選択科目	※専門性ユニット	AI Artificial Intelligence	○	2				2		デモ
		デジタル信号処理 Digital Signal Processing	○	2				2		デス
		センサネットワーク Sensor Networks	○	2					2	デモス
		ビッグデータ解析 Big Data Analytics	○	2					2	デ
		数値計算法 Numerical Computation	○	2					2	デ
		モバイルプログラミング Mobile Application Development	○	2				2		モ
		画像処理 Image Processing	○	2				2		モ
		サーバー管理 Server Management	○	2					2	モ
		組込みシステム工学 Embedded System Engineering	○	2				2		ス
		回路設計 Circuit Design	○	2					2	ス
		センサ応用システム Applied Sensor Systems	○	2					2	スロ
		機能材料 Functional Materials	○	2				2		パエ
		電磁気学 Electromagnetism	○	2				2		パ
		電力工学 Power Electronics	○	2					2	パ
		電気機器 Electrical Instruments	○	2					2	パ
		生産工学 Production Engineering	○	2					2	パエ
		材料力学2 Strength of Materials 2	○	2				2		エロ
		機械工作法 Machine Work	○	2				2		エ
		熱流体力学2 Thermo and Fluid Dynamics 2	○	2					2	エ
		工業力学2 Engineering Mechanics 2	○	2				2		ロ
		機械力学2 Machine Dynamics 2	○	2					2	ロ
		現代制御 Modern Control	○	2					2	ロ
	共通	特別講義1 Special Lecture 1	○	2				2		
		特別講義2 Special Lecture 2	○	2					2	
		インターンシップ Internship Practice		2				2		
		小計 Sub-total		50	0	0	0	24	26	
専門		必修科目単位数合計 Total Compulsory Subjects		72	8	8	18	18	20	
		選択科目単位数合計 Total Elective Subjects		50	0	0	0	24	26	
一般		開設科目単位数合計 Total Number of Credits for Offered Subjects		101	24	23	16	25	13	
		修得科目単位数合計 Total Number of Acquired Credits		75以上	24	23	16	12以上		
修得単位数 Total Number of Acquired Credits				167以上	32	31	34			
					130以上					
					167以上（一般科目75以上・専門科目82以上）					

※専門性ユニットのうち1分野すべて履修すること。
ユニットの備考欄はユニットの略称。デはデータアナライズ、モはモバイルアプリケーション、スはスマートセンシング、パはパワーエレクトロニクス、エはエアロスペース、ロはロボティクスの略。

専攻科 Advanced Course

本校の専攻科は、本科における教育の上に、さらに高度な専門教育を教授し、専門分野における、より高度な開発・創造能力と複合的視点から物事を考えて解決する能力を持ち、国際的な感覚のある自律した技術者を育成することを目的にしています。

本校では商船学科を基礎とする「海事システム学専攻」と、電子機械工学科と制御情報工学科を基礎とする「生産システム工学専攻」の2専攻を設置しています。

専攻科を修了した学生は四年制大学卒業と同等と認められ、学士（商船学）または学士（工学）の学位取得が可能となります。修了後は企業への就職だけではなく、大学院修士課程への進学も可能となります。

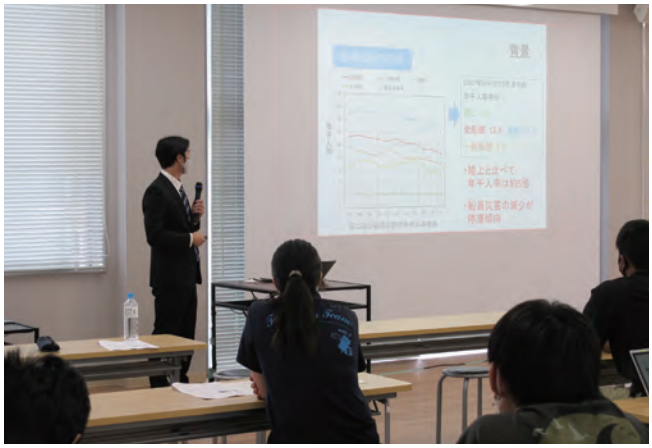
The Advanced Course at our college is a continuation of the regular course curriculum, and aims to provide a highly professional education for our students' future careers. Moreover, it strives to train independent, internationally minded engineers who have developmental and creative capabilities in their specialized fields and can see things from a complex point of view in order to solve problems.

The Advanced Course consists of the Maritime Technology department-based "Maritime System Major" and the Information Control and the Mechatronics-based "Production System Engineering Major".

Students who complete the requisite course credits are recognized as being equivalent to those who have finished 4 years of university education, and are awarded a bachelor's degree in Maritime Technology or Engineering. After graduation, further research in a master's course at another university, or the obtainment of a position in a company are possible future career paths.

4号館（専攻科棟）
No 4 Building (Advanced Course Building)

ＰＢＬ実験室
PBL Laboratory



研究発表会
Research Presentation

●教育課程 Curriculum

海事システム学専攻 Maritime System Major

授業科目 Subjects				単位数 Credits	学年別配当 Credits Grade 1年 1st 秋期	1年 1st 春期	2年 2nd 秋期	2年 2nd 春期	備考 Note
一般科目	一般	○現代英語A	Contemporary English A	1	1				
		○現代英語B	Contemporary English B	1		1			
		○英会話A	English Conversation A	1	1				
		○英会話B	English Conversation B	1		1			
		日本文化論	Japanese Culture	2				2	
		社会科学特論	Advanced Course on Social Science	2			2		
	一般科目 開設単位 小計		Sub-total of Established General Education	8	2	2	2	2	
	一般科目 修得単位		Sub-total of Achievement in General Education	6以上 (6 and over)					
専門科目	専門共通科目	解析学	Analysis	2			2		
		線形代数	Linear Algebra	2	2				
		確率論	Probability Theory	2		2			
		数値解析	Numerical Analysis	2				2	
		テクニカルライティング	Technical Writing	2	2				
		破壊工学	Fracture Engineering	2			2		
		流体工学	Fluid Engineering	2				2	
		先端材料工学	Advanced Engineering Materials	2		2			
		画像情報処理	Digital Image Processing	2	2				
		環境化学	Environmental Chemistry	2		2			
		生体工学	Bioengineering	2			2		
	専門共通科目 開設単位数		Sub-total of Established Common Technical Subjects	22	6	6	6	4	
	専門共通科目 修得単位		Sub-total of Achievement in Common Technical Subjects	16以上 (16 and over)					
	専門専攻科目	○海事システム学特別研究Ⅰ	Maritime System Research Ⅰ	5	2	3			
		○海事システム学特別研究Ⅱ	Maritime System Research Ⅱ	5			3	2	
		○海事システム学実験Ⅰ	Maritime System Experiments Ⅰ	3	1	2			
		○海事システム学実験Ⅱ	Maritime System Experiments Ⅱ	3			1	2	
		海事システム学特別実習	Maritime System Internship Practice	2		2			
		航法システム論	Navigation Systems	2	2				
		海事輸送安全学	Maritime Transport on Safety	2				2	
		海事教育システム学	Maritime Affairs Education Systems	2			2		
		海事通信工学	Maritime Communication Engineering	2				2	
		海上交通工学	Marine Traffic Engineering	2	2				
		船舶抵抗推進論	Ship Resistance and Propulsion	2	2				
		材料設計工学	Materials Design Engineering	2		2			
		蒸気動力システム工学	Steam Power System Engineering	2	2				
		原動機システム工学	Engine System Engineering	2			2		
		冷凍空調工学	Refrigeration and Air Conditioning	2		2			
		機械要素	Machine Element	2		2			
		船用電機システム工学	Advanced Marine Electrical Systems	2				2	
		船舶システム制御工学	Marine Control Systems	2			2		
		コンピューター制御	Computer Control	2				2	
		マルチメディア工学	Multimedia Engineering	2			2		
		海洋環境科学	Marine Environmental Science	2		2			
	専門専攻科目 開設単位数		Sub-total of Established Major Technical Subjects	50	11	15	12	12	
	専門専攻科目 修得単位		Sub-total of Achievement in Major Technical Subjects	40以上 (40 and over)					
	専門科目 開設単位 小計		Sub-total of Established Technical Subjects	72	17	21	18	16	
	専門科目 修得単位		Sub-total of Achievement in Technical Subjects	56以上 (56 and over)					
一般・専門科目 開設単位 合計			Total of Established General Education and Technical Subjects	80	19	23	20	18	
一般・専門科目 修得単位 合計			Total of Achievement in General Education and Technical Subjects	62以上 (62 and over)					

(注) 1．○印は必修科目
2．別に定める放送大学等での科目を修得した場合、その単位のうち16単位を上限とし、修得単位に含めることができる。
3．専門科目(海事システム学特別研究、海事システム学実験、海事システム学特別実習は除く)は隔年授業とすることができる。

生産システム工学専攻　Production System Engineering Major

授業科目 Subjects				単位数 Credits	学年別配当 Credits Grade 1年 1st 前期	1年 1st 後期	2年 2nd 前期	2年 2nd 後期	備考 Note
一般科目	一般	○現代英語Ⅰ	Contemporary English Ⅰ	1	1				
		○現代英語Ⅱ	Contemporary English Ⅱ	1		1			
		○英会話Ⅰ	English Conversation Ⅰ	1	1				
		○英会話Ⅱ	English Conversation Ⅱ	1		1			
		日本文化論	Japanese Culture	2			2		
		社会科学特論	Advanced Course on Social Science	2				2	
	一般科目 開設単位 小計		Sub-total of Established General Education	8	2	2	2	2	
	一般科目 修得単位		Sub-total of Achievement in General Education	6以上 (6 and over)					
専門科目	専門共通科目	解析学	Analysis	2		2			
		線形代数	Linear Algebra	2				2	
		確率論	Probability Theory	2			2		
		数値解析	Numerical Analysis	2	2				
		テクニカルライティング	Technical Writing	2				2	
		破壊工学	Fracture Engineering	2		2			
		流体工学	Fluid Engineering	2	2				
		先端材料工学	Advanced Engineering Materials	2			2		
		画像情報処理	Digital Image Processing	2				2	
		環境化学	Environmental Chemistry	2			2		
		生体工学	Bioengineering	2		2			
	専門共通科目 開設単位数		Sub-total of Established Common Technical Subjects	22	4	6	6	6	
	専門共通科目 修得単位		Sub-total of Achievement in Common Technical Subjects	16以上 (16 and over)					
	専門専攻科目	○生産システム工学特別研究Ⅰ	Production System Research Ⅰ	5	2	3			
		○生産システム工学特別研究Ⅱ	Production System Research Ⅱ	5			3	2	
		○生産システム工学特別演習Ⅰ	Production System Seminar Ⅰ	1		1			
		○生産システム工学特別演習Ⅱ	Production System Seminar Ⅱ	1			1		
		○生産システム工学実験Ⅰ	Production System Experiments Ⅰ	2	1	1			
		○生産システム工学実験Ⅱ	Production System Experiments Ⅱ	2			1	1	
		生産システム工学特別実習	Production System Internship Practice	2	2				
		材料設計工学	Materials Design Engineering	2	2				
		生産システム工学	Production System Engineering	2				2	
		振動工学	Vibration Engineering	2			2		
		内燃システム工学	Internal Combustion Engines	2		2			
		オートマトン理論	Automata	2	2				
		電子物性工学	Solid-State Electronics	2				2	
		機能素子工学	Electronic Function Device Engineering	2		2			
		光伝送工学	Optical Transmission Engineering	2	2				
		電機システム工学	Applied Electrical Machinery Systems	2			2		
		システム制御	Control Engineering	2			2		
		ロボット制御工学	Robot Control Engineering	2				2	
		アルゴリズム論	Algorithms	2	2				
		数理計画法	Mathematical Programming	2		2			
		情報ネットワーク技術	Information Networking Technology	2				2	
		デジタル信号処理	Digital Signal Processing	2			2		
		マルチメディア工学	Multimedia Engineering	2		2			
	専門専攻科目 開設単位数		Sub-total of Established Major Technical Subjects	50	13	13	13	11	
	専門専攻科目 修得単位		Sub-total of Achievement in Major Technical Subjects	40以上 (40 and over)					
	専門科目 開設単位 小計		Sub-total of Established Technical Subjects	72	17	19	19	17	
	専門科目 修得単位		Sub-total of Achievement in Technical Subjects	56以上 (56 and over)					
一般・専門科目 開設単位 合計			Total of Established General Education and Technical Subjects	80	19	21	21	19	
一般・専門科目 修得単位 合計			Total of Achievement in General Education and Technical Subjects	62以上 (62 and over)					

(注) 1．○印は必修科目
2．別に定める放送大学等での科目を修得した場合、その単位のうち16単位を上限とし、修得単位に含めることができる。
3．専門科目(生産システム工学特別研究、生産システム工学特別演習、生産システム工学実験、生産システム工学特別実習は除く)は隔年授業とすることができる。

公 開 講 座

専門的、総合的な教育機能を生涯学習に反映させるため毎年公開講座を開設し、地域社会の人々に広く活用してもらう機会を提供しています。

We establish open classes to reflect the specialized and comprehensive aspects of lifelong education. We provide community people with the chance to make use of them.

●令和4年度　公開講座　Open Classes 2022

	講 座 名 Course	期　間 Days	受講対象者 Trainee	募集人数 Number
サイテクランドin鳥羽商船 Sci-Tech Land in Toba College	船員の仕事 in 鳥羽商船(鳥羽クルーズ) Work of seafarers in Toba College	7月23日(土) July 23	中学生 Junior High School Students	20
	ビー玉 スターリングエンジン Marble Sterling Engine	7月30日(土) July 30	小学5年生～中学3年生 5th Graders of Elementary School - 3rd Graders of Junior High School	10
	ことばのイメージとグローバルについて About the Images of Words and the Global	8月6日(土) August 6	中学生～一般 Junior High School Students - the Citizens	30
	英語高速学習(中1で英検3級へ) English Rapid Learning (To the 3rd Grade of Eiken in the 1st Grade of Junior High School)	8月8日(月) August 8	中学1年生 1st Grade of Junior High School	10
	おもしろ理科実験 Interesting Science Experiment	8月19日(金) August 19	中学生 Junior High School Students	20
	IchigoJamでマイコンプログラミング MicroComputer Programming with IchigoJam	8月19日(金)・20日(土) August 19.20	小学生 Elementary School Students	各20
	光を知り、使い、役立てる(天体望遠鏡を作ってみよう & レーザー加工機でモノづくり) Knowledge, Use, and Utilization of Light (Making an Astronomical Telescope & Making Things with a Laser Processing Machine)	8月24日(水) 9:00～12:00･14:00～17:00 August 24	小学生 Elementary School Students	各20
	レーザー加工機を用いたアクリルスタンド作成 Creating an Acrylic Stand using a Laser Processing Machine	8月25日(木) August 25	中学生 Junior High School Students	8
	光を知り、使い、役立てる(天体望遠鏡を作ってみよう & レーザー加工機でモノづくり) Knowledge, Use, and Utilization of Light (Making an Astronomical Telescope & Making Things with a Laser Processing Machine)	8月26日(金) 9:00～12:00･14:00～17:00 August 26	中学生 Junior High School Students	各20
	3D CAD，3Dプリンタ 3D CAD, 3D printer	8月27日(土) August 27	小学生高学年～中学生 Upper Graders of Elementary School - Junior High School Students	5
	サイバーセキュリティ体験学習 Cyber Security Learning Experience	12月4日(日) December 4	中学生 Junior High School tudents	10
機械学習入門(画像識別) Introduction to Machine Learning (Image Identification)		10月31日(月) October 31	一般・企業向け For Citizens and Businesses	20
機械学習入門(回帰分析) Introduction to Machine Learning (Regression Analysis)		10月31日(月) October 31	一般・企業向け For Citizens and Businesses	20
はじめてのIoT入門ハンズオン講座 First IoT introductory Hands-On Course		令和5年2月3日(金) February 3	一般 the Citizens	5
実習工場・鳥羽丸見学紹介 Introduction and Tour of the Training Factory & Tobamaru		未定	一般 the Citizens	数名 A few
イベント等のライブ配信基礎講座 Live Distribution of Basic Courses, such as Events		未定	一般(中・高・高専生可) the Citizens (Junior High School / High School / College Students Allowed)	4
Zoomブレイクアウトルームを用いたセミナー運営基礎講座 Seminar Management Basic Course using Zoom Breakout Room		未定	一般(高専生可) the Citizens (College Students Allowed)	4
"新入社員･船に詳しくない技術者"のためのふね講座(航海編、機関編、通信編) Ship Courses for the New Emploees and for the Engineers unfamilar with Ships (Nagivation, ngineering, and Radio Operating Courses)		未定	一般技術者 General Engineers	数名 A few
小学校の先生のための「海運」解説講座 Explanatory Course on Maritime Traffic for Elementary School Teachers		未定	小学校教諭・講師 Elemantary School teachers & Lecturers	数名以上 Several

●令和４年度　その他

ＪＭＵ津造船所見学と鳥羽商船高専の練習船で体験航海 Observing JMU Tsu Shipyard and Experiential Sailing on Board the Training Ship of National Intitute of Technology, Toba College	8月3日(水) August 3	小中学生 Elementary and Junior High School Students	40
みえアカデミックセミナー Mie Academic Seminar	8月26日(金) August 26	一般 the Citizens	
遊んで学ぼう。商船学校の歴史と船と海の話 Let's Study while Playing: Story of Maritime School Hisotry, Ships and Sea	12月10日(土) December 10	小中学生 Elementary and Junior High School Students	30

出 前 授 業

本校では、小・中学校における教育を支援し、地域連携による貢献をする事を目的に、出前授業を実施しています。希望される授業を、「出前授業一覧」から選んで、お申し込みいただくと本校教員が出向いて出前授業を開講します。

Our college conducts “lectures on demand” for the purpose of contributing to local communities,and by supporting educational activities in elementary and junior high schools. The students may choose any course from lectures on our demand list, and our teaching staff will visit and conduct the lecture at junior school.

●令和４年度　出前授業

■ 体 験 型 学 習　Experience-Based Study

講 座 名　Course	対　象　Object	担 当 学 科　Department
IchigoJamでマイコンプログラミング MicroComputer Programming with IchigoJam	小学生 Elementary School Students	情報機械システム工学科 Department of Informatics and Mechanical Engineering
機械学習入門(画像識別) Introduction to Machine Learning (Image Identification)	企業 Business	情報機械システム工学科 Department of Informatics and Mechanical Engineering
機械学習入門(回帰分析) Introduction to Machine Learning (Regression Analysis)	企業 Business	情報機械システム工学科 Department of Informatics and Mechanical Engineering
Scratch(スクラッチ)でプログラミング Programming with Scratch	小学生 Elementary School Students	情報機械システム工学科 Department of Informatics and Mechanical Engineering
プログラミング学習環境の作り方を教えます Teaching How to Create a Programming Learning Environment	中学生 Junior High School Students	情報機械システム工学科 Department of Informatics and Mechanical Engineering

■ 教 養 講 座　Culture Course

講 座 名　Course	対　象　Object	担 当 学 科　Department
"新入社員・船に詳しくない技術者"のためのふね講座(航海編、機関編、通信編) Ship Courses for the New Emploees and for the Engineers unfamilar with Ships (Nagivation, Engineering, and Radio Operating Courses)	一般技術者 General Engineers	商船学科 Maritime Technology Department
小学校の先生のための「海運」解説講座 Explanatory Course on Maritime Traffic for Elementary School Teachers	小学校教諭・講師 Elemantary School teachers & Lecturers	商船学科 Maritime Technology Department

学 生 数

学生数 Number of Students

令和4年5月1日現在

学科 Department ＼ 区分 Classification		定員 Fixes Number	第1学年 1st	第2学年 2nd	第3学年 3rd	第4学年 4th	第5学年 5th	実習課程 Training	計 Total
商船学科 Maritime Technology Department	航海コース Nautical	40	42 (9)	43 (10)	〔0〕 21 (4)	〔0〕 20 (3)	〔0〕 13 (1)	〔0〕 21 (3)	〔0〕 225 (36)
	機関コース Marine Engineering				〔0〕 17 (2)	〔0〕 14 (1)	〔0〕 14 (2)	〔0〕 20 (1)	
電子機械工学科 Electronic Mechanical Engineering Department		40					〔0〕 44 (4)		〔0〕 44 (4)
制御情報工学科 Information and Control Engineering Department		40					〔1〕 43 (11)		〔1〕 43 (11)
情報機械システム工学科 Department of Informatics and Mechanical Engineering		80	80 (21)	92 (24)	〔1〕 82 (16)	〔2〕 83 (13)			〔3〕 337 (74)
計 Total		120	122 (30)	135 (34)	〔1〕 120 (22)	〔2〕 117 (17)	〔1〕 114 (18)	41 (4)	〔4〕 649 (125)

専攻科 Advanced Course

令和4年5月1日現在

学科 Department ＼ 区分 Classification	定員 Fixes Number	第1学年 1st	第2学年 2nd	計 Total
海事システム学専攻 Maritime System Major	4	6 (0)	1 (0)	7 (0)
生産システム工学専攻 Production System Engineering Major	8	9 (0)	8 (0)	17 (0)
計 Total	12	15 (0)	9 (0)	24 (0)

(　　)は女子学生数内訳
Number of female students
〔　　〕は留学生数内訳
Number of overseas students

在学生出身者県別内訳 Number of Students by Home Address

令和4年5月1日現在

県別 Prefecture ＼ 学科 Department	商船学科 Maritime Technology Department	電子機械工学科 Electronic Mechanical Engineering Department	制御情報工学科 Information and Control Engineering Department	情報機械システム工学科 Department of Informatics and Mechanical Engineering	海事システム学専攻 Maritime System Major	生産システム工学専攻 Production System Engineering Major	計 Total
三重 Mie	89	40	41	307	2	14	493
愛知 Aichi	31			10	1		42
岐阜 Gifu	9	1		1	1		12
静岡 Shizuoka	6						6
神奈川 Kanagawa	6			2			8
東京 Tokyo	9		1	1			11
埼玉 Saitama	3						3
大阪 Osaka	22	1		2	1		26
京都 Kyoto	6	1		1			8
奈良 Nara	5			4			9
兵庫 Hyogo	7				1		8
和歌山 Wakayama	2					1	3
滋賀 Shiga	5			4		1	10
その他の県 Others	25	1		2	1	1	30
マレーシア（留学生） Malaysia				1			1
インドネシア（留学生） Indonesia				1			1
モンゴル（留学生） Mongolia			1				1
ブルネイ（留学生） Bruneian				1			1
計 Total	225	44	43	337	7	17	673

入 学 状 況

入学志願者数及び入学者数　Number of Applicants and Students Admitted

令和4年5月1日現在

学科 Department / 年度別 Year	志願者数 Applicants	入学者数 Entrants	入学者内訳 Departments			競争率 Competition
			商船学科 S		電子機械工学科 M	制御情報工学科 I	
			航海コース N	機関コース E			
平成 25 (2013)	233	126	43		40	43	1.9
平成 26 (2014)	223	130	42		46	42	1.9
平成 27 (2015)	186	123	40		41	42	1.6
平成 28 (2016)	199	134	44		45	45	1.7
平成 29 (2017)	192	128	41		41	46	1.6
平成 30 (2018)	216	118	38		40	40	1.8
平成 31 (2019)	217	122	42		情報機械システム工学科 J 80		1.8
令和　2 (2020)	205	126	41		85		1.7
令和　3 (2021)	204	128	43		85		1.7
令和　4 (2022)	186	120	40		80		1.6

S：Maritime Technology Department　　N：Nautical Course　　E：Marine Engineering Course
M：Electronic Mechanical Engineering Department　　I：Information and Control Engineering Department
J：Department of Informatics and　Mechanical Engineering

専攻科　Advanced Course

令和4年5月1日現在

年度別 Year	専攻別 Major	志願者数 Applicants	入学者数 Entrants	競争率 Competition
平成 30 (2018)	海事システム学専攻(10月入学) Maritime System Major	—	—	—
	生産システム工学専攻 Production System Engineering Major	8	8	1
平成 31 (2019)	海事システム学専攻(10月入学) Maritime System Major	3	3	0.8
	生産システム工学専攻 Production System Engineering Major	10	10	1.3
令和　2 (2020)	海事システム学専攻(10月入学) Maritime System Major	4	3	1.0
	生産システム工学専攻 Production System Engineering Major	11	10	1.4
令和　3 (2021)	海事システム学専攻(10月入学) Maritime System Major	7	5	1.8
	生産システム工学専攻 Production System Engineering Major	8	8	1
令和　4 (2022)	海事システム学専攻(10月入学) Maritime System Major	7	3	1.8
	生産システム工学専攻 Production System Engineering Major	23	9	2.9

入学式
Entrance Ceremony

卒業者・修了者

卒業者・修了者数　Number of Graduates

学科 Department		令和3年度 2021	累計 Total
商船学科 Maritime Technology Department	航海コース Nautical	18	2,617
	機関コース Marine Engineering	15	2,788
電子機械工学科 Electronic Mechanical Engineering Department		37	1,086
制御情報工学科 Information and Control Engineering Department		46	1,098
海事システム学専攻 Maritime System Major		2	36
生産システム工学専攻 Production System Engineering Major		10	171
計 Total		128	7,796

商船学科累計には航海学科、機関学科卒業生を含む

卒業式　Graduation Ceremony

卒業者・修了者の進路　Branches of Industry of Employment　（令和3年度 2021）

区分 Division	学科 Department		商船学科 Maritime Technology Department	電子機械工学科 Electronic Mechanical Engineering Department	制御情報工学科 Information And Control Engineering Department	海事システム学専攻 Maritime System Major	生産システム工学専攻 Production System Engineering Major	計 Total
進学 Entrance	大学・高専専攻科編入学・大学院 Transfer to specialized course in college or to university Graduate school		7	10	12	0	0	29
就職 Employment	公務員 Office Holder		0	0	0	0	0	0
	運輸・通信業 Transportation Communication Industry	海上 Marine	24	0	0	2	0	26
		陸上 Land	1	2	3	0	0	6
	情報通信業 Information Communication		0	1	7	0	3	11
	一般機械製造業 General Instruments Industry		0	5	0	0	0	5
	電気・情報通信機械製造業 Electric Instruments Industry		0	6	2	0	0	8
	輸送用機器製造業 Transportation Facilities Industry		0	3	0	0	0	3
	その他製造業 Other Manufacturing Industry		0	1	5	0	2	8
	電気・ガス・水道業 Electricity, gas, water service industry		0	1	0	0	0	1
	サービス業 Service Industry		1	5	7	0	4	17
	上記以外 None of the above		0	3	8	0	1	12
その他 Others			0	0	2	0	0	2
計 Total			33	37	46	2	10	128

※就職の分類は総務省、日本標準産業分類に基づく。

練 習 船 等

●鳥羽丸　Toba Maru

船　　型 Type	長船首楼甲板型　Long Forecastle Decker
船　　種 Vessel Kind	汽船第４種船　No.4 Steam Ship
航 行 区 域 Plying Limit	近海　Greater Coastal Area
主 要 寸 法 Principal Particulars	全長 Length　40.00m、 幅 Breadth　8.00m、 深さ Depth　3.30m
総 ト ン 数 Gross Tonnage	244.00トン
主　機　関 Main Engine Type	4サイクルディーゼル　1300PS×370RPM　１基 Four Cycle Diesel Engine
最 大 速 力 Maximum Speed	13.80　ノット　Knots
航 続 距 離 Endurance	2300　海里　NM
定　　員 Capacity	乗組員 Officers & Crew　9名(職員4名・部員5名) 教　員 Instructors　3名 学　生 Students　44名　　計 Total　56名
竣 工 年 月 日 Date Built	平成6年8月19日　Aug.19,1994

●あさま　Asama

船　　種 Vessel Kind	汽船(F.R.P) Steam Ship (F.R.P)
総 ト ン 数 Gross Tonnage	14トン
主　機　関 Main Engine Type	ボルボペンタ 331kw (450PS)×2 VOLVO PENTA
竣 工 年 月 日 Date built	平成16年3月30日　Mar.30,2004

鳥羽丸　Toba Maru

●あけぼの　Akebono

船　　種 Vessel Kind	汽船(F.R.P) Steam Ship (F.R.P)
総 ト ン 数 Gross Tonnage	2トン
主　機　関 Main Engine Type	ヤンマーディーゼル72馬力×1 YANMAR Diesel Engine 72PS×1
竣 工 年 月 日 Date built	平成5年3月26日　Mar.26,1993

あさま　Asama

●しらぎく　Shiragiku

船　　種 Vessel Kind	汽船(F.R.P) Steam Ship (F.R.P)
型　　式 Type	全閉囲型救命艇　Totally-Enclosed Life Boat
主　機　関 Main Engine Type	ヤンマーディーゼル24.3kW×1 YANMAR Diesel Engine 24.3kW×1
竣 工 年 月 日 Date built	平成30年3月28日　Mar.28,2018

■カッター　Cutters　6隻
■伝 馬 船　Lighters　2隻
■そ の 他　Others　2隻

図 書 館

図書館は鉄筋2階建て、1階は閲覧室・書庫・メディアホールがあり、2階はマルチラボ・クリエイティブラボがあります。

Our library is located in a two-storied ferro-concrete building equipped with reading room, library, and media hall on the first floor, and multi lab and creative lab on the second floor.

蔵書数 Collection of Books

令和4年4月1日 As of April,1,2022

区分 Classification	図書 Books		
	和書 Japanese	洋書 Foreign	合計 Total
総記 General Works	6,578	171	6,749
哲学 Philosophy	2,363	17	2,380
歴史 History	7,863	72	7,935
社会科学 Social Sciences	9,985	271	10,256
自然科学 Natural Science	13,244	749	13,993
技術 Technology	25,956	1,002	26,958
産業 Industry	3,163	123	3,286
芸術 The Arts	3,945	27	3,972
言語 Language	4,292	3,125	7,417
文学 Literature	15,864	180	16,044
合計 Total	93,253	5,737	98,990

雑誌 Periodicals

和雑誌 Japanese	36種類
洋雑誌 Foreign	0種類
計 Total	36種類

視聴覚資料 Audio Resources

DVD	396
CD	976
計 Total	1,372

開館時間 Hours

曜日 Day	通常期間 Regular Hours	学生休業期間 Vacation Hours
月～金曜日 Monday to Friday	午前9時30分～午後6時 9:30－18:00	午前9時30分～午後5時 9:30－17:00
土曜日 Saturday	午前9時30分～午後0時30分 9:30－12:30	閉館 Closed

施設 Facilities

面積 Floor Space	閲覧室 248㎡ 書庫 285㎡ Reading Room 248㎡ Stacks 285㎡
座席数 Seats	54席（AV、パソコンコーナーを含む） 54 seats
閲覧室 Reading Room	新刊図書、辞書、雑誌、文庫本、新書、英文多読図書、コミック、CD New Books, Dictionaries, Magazines, Paperbacks, Paperback Pocket Editions, English Extensive Reading Books, Comics, CDs
開架書庫 Open Library	専門図書、一般図書、参考図書、郷土資料 Professional Books, General Books, Reference Books, Local Materials
閉架書庫 Close Library	保存図書、寄贈資料、研究紀要、卒論製本、雑誌バックナンバー Save Books, Donated Materials, Research Bulletins, Graduation Theses, Back Numbers of Magazines
保存書庫 Preservation Library	雑誌製本、保存図書 Binding Magazine, Save Books
AVブース AV Booths	2台
パソコン Computers	3台

テクノセンター

テクノセンターは、4つの部門からなり、それぞれの業務内容は下記の通りです。

Technical Resource Center consists of 4 divisions, each duty of which is described as follows.

技術支援部門 Technical Supporting Section

授業・実験実習の支援のほか、ロボットコンテスト・プログラミングコンテストなどの課外活動支援を行います。

In addition to supporting lessons and experimental practice, we support extracurricular activities such as robot contests and programming contests.

地域連携部門 Regional Collaboration Section

地元企業からの技術相談に対応したり、地域連携のためのセミナー開催や地域活動の支援を行います。

We respond to technical consultation from local companies, hold seminars for community collaboration and support regional activities.

研究支援部門 Research Supporting Section

科学研究費をはじめとする外部資金獲得の支援のほか、企業等との共同研究・受託研究支援を行います。

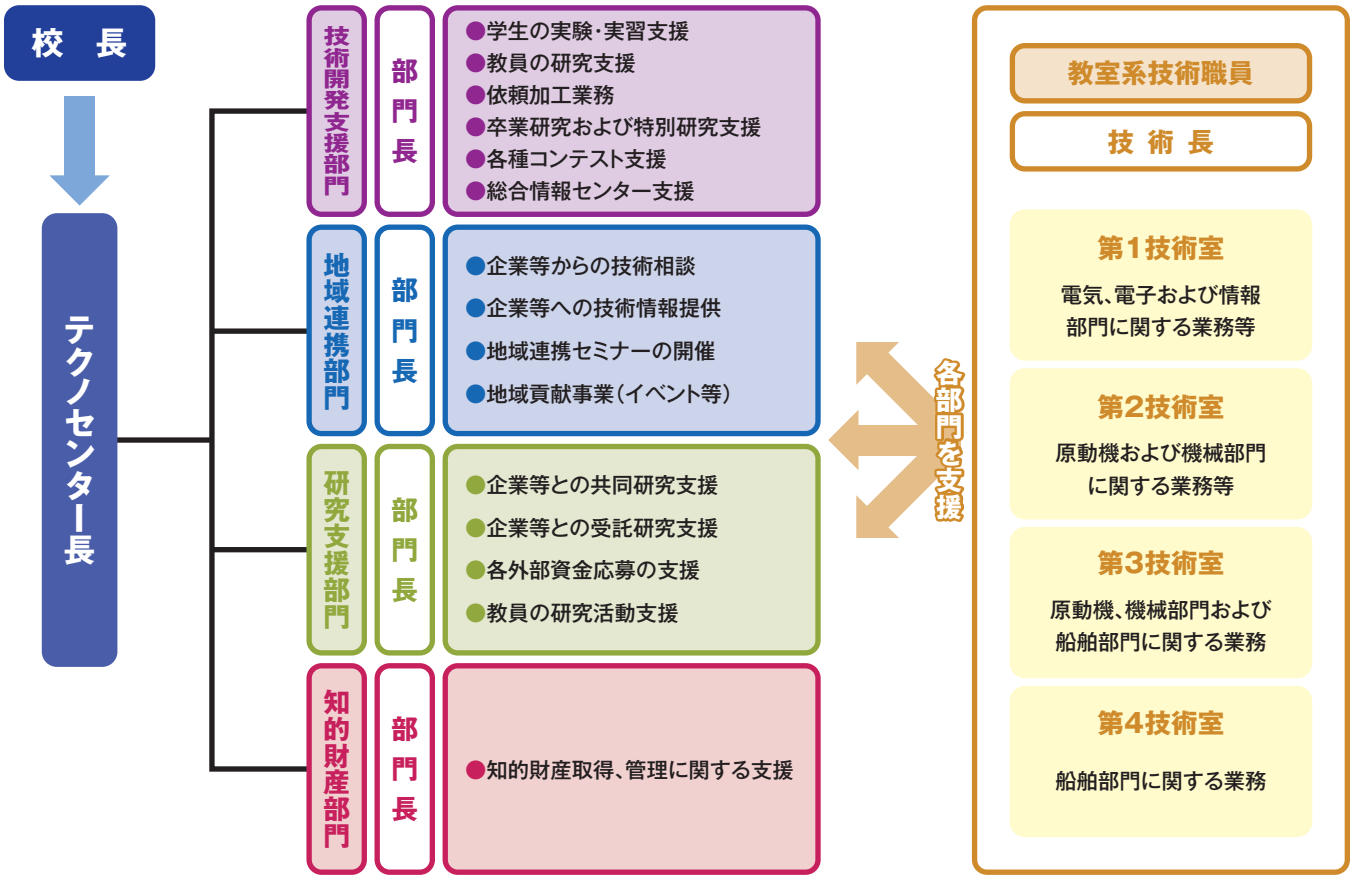
In addition to supporting external funds including scientific research funds, we also support joint research and contract research with companies and others.

知的財産部門 Intellectual Property Section

知的財産の取得、管理に関する支援を行います。

We make supports for acquiring and managing intellectual property.

●テクノセンターの組織と業務 Organization and Business of Technical Resource Center



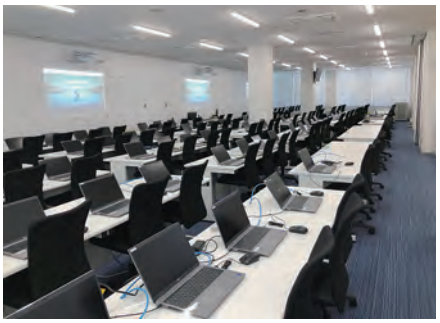
● Information Media Center ●

情報メディア教育センター

● 情報・教育部門　Information and Education Section

情報メディアセンターでは、基幹ネットワークの管理、各種アカウントの発行、遠隔授業やテレワークの推進、セキュリティ関連教育等、様々な業務を行っています。学生は、教育用ラップトップPCやその他を利用して、プログラミング、人工知能、IoT等の最新の技術について学ぶことができます。

The Information and Media Center of the school performs a variety of tasks such as managing the backbone network, issuing accounts, providing support related to remote classes, conducting telework-related education, and security-related education. Students can learn about technologies such as programming, artificial intelligence, and the Internet of Things by using educational laptops and others.



情報メディア教育センター管理端末台数	
・メディアラボ1,2 ラップトップPC	105台 (49台+53台、 サーバ室3台)
・クリエイティブラボ内 貸出ラップトップPC	14台
・ラーニングコモンズ ラップトップPC	3台

その他総合情報センター管理対象	
・大判プリンタ	1台(管理室)

● 図書部門　Information and Education Section

図書部門については、図書館を参照してください。

For more information about the library department, please refer to the library.

● 事務情報部門　Office Work Information Section

事務情報部門では、事務部サーバ運用管理、グループウェア運用管理、事務部パソコン維持管理等を行っています。

The Office Work Information Section administrates the office server, groupware, and personal computers in the office work division.

● Student Counseling Room and Counselor's Office ●

学生相談室・カウンセラー室

本校では、学生が充実した学校生活が送れるように学生相談室とカウンセラー室を設置しています。家族や友達にはなかなか話せないことや、どうしたらよいのかわからなくなってしまった時、学生相談室に来てください。学生相談室には相談員が10時15分より16時45分まで常駐しています。カウンセラー室では月1回精神科医が、毎週1回臨床心理士が来室し、学生からの様々な相談に応じています。さらに、月2回スクールソーシャルワーカーが来室し、学生の学校生活のサポートを行います。また、学生相談室の各学科の教員は教員室で相談を受け付けています。専門家や教員の連携のもと、学業や対人関係、メンタルヘルスなどについて、それぞれの学生のケースに応じた対応を行っています。

Our college institutes a school counseling system and a counselor's office for students to lead a healthy and productive school life. Students can visit these rooms to talk about what they cannot disclose to their family or friends, or when they are not sure what they should do. The student counseling room's staff works from 10:15 to 16:45 of Monday to Friday . And at the counselor's office, consultations for students are conducted by a psychiatrist once a month, and by clinical psychologists once a week. In addition, a school social worker supports students' school life twice a month. Teachers from each department work as members of the student counseling room and are willing to listen to students' concerns in their offices. In cooperation with the mental specialists and teachers, various student matters such as studies, human relations, mental health, and other problems will be consulted on a case-by-case basis.

グローバル教育推進室

グローバル教育推進室は、本校の国際化に向けた取り組みを拡大、推進するために設立されました。本校に滞在している留学生の支援を含めた、校内の国際交流事業を一元的に掌握し、本校全学生の学校生活をより充実したものにすることを目指します。

本推進室の主な活動は、本校学生をグローバルな視点をもつ社会人に育てることです。そのために異文化を学べるプロジェクトや、異なる背景をもつ人々と交流できるプロジェクトの開発に取り組んできました。さらにより多くの学生が世界に目を向けることができるように、従来の国際交流プログラムに加え、他の団体や機関と協力しながら新規プログラムの導入もはかっていきます。

The Office for Promotion of Global Education is established to expand international projects and to promote the internationalization of National Institute of Technology, Toba College. We aim to make all the students spend more challenging and fruitful campus life by unifying all the international issues of our college; including support system for international students.

The main activity of this office is to support our students to become decent grown-ups with international perspective. Toward this purpose, we have developed some programs to learn different cultures or to communicate with people with different backgrounds. In addition to these programs, we will develop new programs by cooperating with other organizations and institutions in order to get more students interested in the global society.

MELキャンプ
MEL Camp

KCC国際インターンシップ
KCC International Internship

SMA鳥羽丸実習
SMA Toba Maru Training

● 令和４年度国際交流プログラム　Schedules of the International Programs 2022

事　業 Programs		派 遣 先 Destinations	日　程 Schedules
SMA鳥羽丸トレーニング	SMA Toba Maru Training	鳥羽 Toba	未定　NYD
日タイ高校生ICTフェア	Thailand-Japan Students ICT Fair	タイ Thailand	12月　December
MELキャンプ	MEL Camp	シンガポール Singapore	未定　NYD
KCC国際インターンシップ	KCC International Internship	アメリカ合衆国 ハワイ州カウアイ島 Kauai, Hawaii, USA	未定　NYD
ＳＰプロジェクト	SP Project	鳥羽 Toba	未定　NYD

● Welfare Facility “Shiosai Hall” ●

福利施設「潮騒会館」

「潮騒会館」は学生及び教職員の福利厚生を目的とした施設で、鉄筋2階建て、2階は保健室・多目的研修室・学生相談室等があり、1階は食堂・ホール等があります。

“Shiosai Hall” is one of the welfare facilities for both students and staff. This two-storied concrete building is equipped with a dining room and a hall on the first floor, and a health center, multipurpose room and counseling room on the second floor.

潮騒会館
“Shiosai Hall”

食堂
Dining Room

多目的研修室
Multipurpose Room

● Dormitory ●

学　　寮

本校の学寮は、任意寮制であり、入寮許可制をとっています。

寮は、「暁寮」と呼ばれ、A棟とB棟からなります。A棟は主に低学年の学生と女子1～5年生が、B棟には主に高学年の学生と留学生が入っています。

寮での団体生活の中での責任と規律ある生活を通し、友愛、協調、自立の精神を備えた有為な学生を育てることを目標としています。

Our dormitory has an optional entrance system, granting permission to the students who are willing to live in the dormitory.
Our dormitory is named “Akatsuki”, consisting of A and B buildings. The former is used for the students of the 1st to the 3rd grades and for the female students of all the grades, while the latter is mainly for the male students of the 4th and the 5th grades and for the international students.
Experiences of responsibility and discipline in their dormitory life will help the students develop their fellowship, cooperation, and independence, which are desirable qualities for the promising students.

暁寮
“Akatsuki” Dormitory

食堂
Cafeteria

寮室　Room

● 寮監　Dormitory Supervisor

職　名　Status	氏　名　Name
特命助教 Specially Appointed Assistant Professor	川　端　幸　夫 Kawabata Yukio

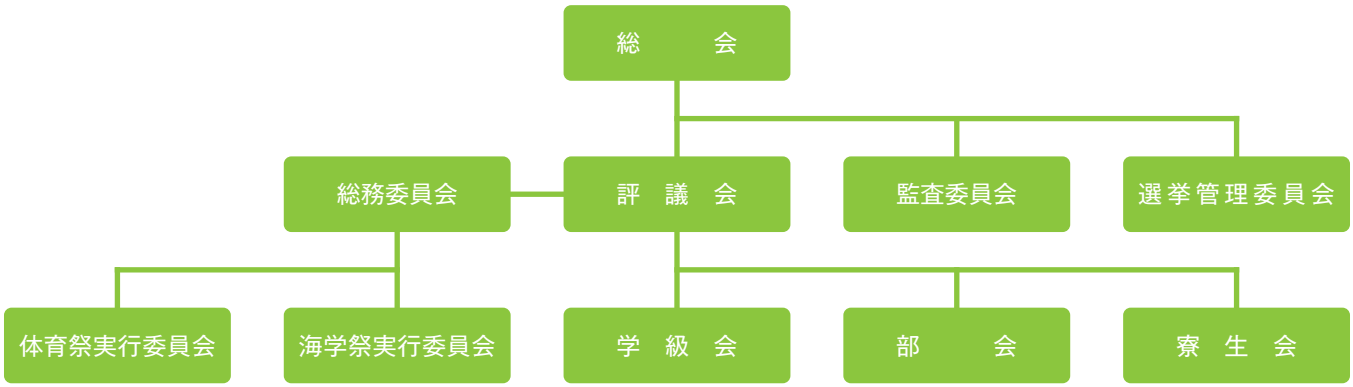
学 生 会

学生会の目標

学生会は、学校の指導のもとに学生の自発的な活動を通じて、その人間形成を助長し、学生生活の充実と良い校風の樹立をはかり、本校の教育目標の達成に資することを目的としています。

The aim of Student Council is to help students carry out the mission of the college by trying to make their college life fruitful and by creating a good college tradition through their own autonomous activities under the guidance of college staff.

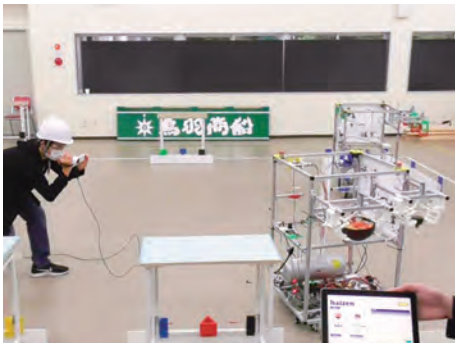
海学祭　“KAIGAKU” festival



体 育 部		文 化 部	同 好 会
陸上競技部 柔道部 剣道部 サッカー部 バレーボール部 卓球部 ソフトテニス部 バスケットボール部	バドミントン部 水泳部 少林寺拳法部 カッター部	写真部 ESS部 吹奏楽部 文芸部 ロボコン部	ラグビー同好会 軽音同好会 ｅスポーツ同好会 ダンス同好会 模型同好会 野球同好会 競技プログラミング同好会 學藝同好会

カッター部
Cutter Club

少林寺拳法部
Shorinji Kempo Club



ロボコン部
Robot Contest Club

● Finances ●

収入支出決算額（令和3年度　2021）

収入決算額　Revenue

（単位：千円）(Shown in thousand yen)

区分 Classification	決算額 Settled Accounts	比率 %
運営費交付金 Operating Grants	95,736	19.0
施設整備費補助金 Subsidy for Facility and Maintenance	141,687	28.0
授業料，入学金，検定料 Tuition Fees, Entrance Fees, Exam Fees	167,866	33.2
雑収入 Miscellaneous	10,871	2.2
産学連携等研究収入※ Research Revenue	25,453	5.0
寄附金収入 Contributions	12,379	2.5
その他補助金 Other Grants	51,170	10.1
計 Total	505,162	100.0

※産学連携等研究収入には、間接経費（他機関への移管分除く）を含む。

支出決算額　Expenditure

（単位：千円）(Shown in thousand yen)

区分 Classification	決算額 Settled Accounts	比率 %
人件費 Personnel Expenses	51,318	10.4
物件費 Non-Personnel Expenses	222,481	45.0
施設整備費 Facilities	141,687	28.7
産学連携等研究経費 Research Expenses	18,227	3.7
寄附金事業費 Contributions	9,443	1.9
その他補助金 Other Grants	51,170	10.3
計 Total	494,326	100.0

● External Funding ●

外部資金受入状況（令和3年度　2021）

科学研究費補助金採択　Grants-in-Aid for Scientific Research

（単位：円）(Shown in yen)

研究種目 Category	件数 Number of Projects	金額 Budget	直接経費 Direct expense	間接経費 Indirect expence
若手研究（B） Grant-in-Aid for Young Scientists (B)	1	0	0	0
感圧及び感温特性を有した機能性３Ｄ模型の作製法の開発				
若手研究（B） Grant-in-Aid for Young Scientists (B)	1	0	0	0
女性医師支援策の有効性の検証と今後の課題分析　～女性専門医の地理的・診療科的偏在～				
基盤研究（C） Granst-in-Aid for Scientific Research (C)	1	1,040,000	800,000	240,000
高品質ミカン安定栽培に資する深層強化学習かん水技術開発				
基盤研究（C） Granst-in-Aid for Scientific Research (C)	1	1,430,000	1,100,000	330,000
空気流入による減衰力可変型粒状体ダンパーに関する研究				
奨励研究 Grant-in-Aid for Encouragement of Scientists	1	0	0	0
情報系主体学生がモノづくりをはじめてみたくなるデジタルファブリケーション環境構築				
挑戦的研究（萌芽） Grant-in-Aid for Challenging Research (Exploratory)	1	1,560,000	1,200,000	360,000
“みちびき”を含むGNSS衛星電波の物体反射を利用した土砂災害発生検知システム				
基盤研究（C） Granst-in-Aid for Scientific Research (C)	1	1,950,000	1,500,000	450,000
実機関をベースとした舶用機関シミュレータの開発と訓練方法に関する研究				
基盤研究（C） Granst-in-Aid for Scientific Research (C)	1	2,210,000	1,700,000	510,000
海技技術者養成における船舶動揺に対する生体適応能力のサイバニクス診断制御				
奨励研究 Grant-in-Aid for Encouragement of Scientists	1	440,000	440,000	0
ソナー(探知機)と水中ドローンを駆使した伊勢湾海域の地形及び測量の高精度調査研究				
国際共同研究強化（B） Fund for the Promotion of Joint International Research(Fostering Joint International Research (B))	1	520,000	400,000	120,000
海上交通管理の持続可能性に配慮したVTSオペレータのための意思決定支援システム				
基盤研究（B） Grants-in-Aid for Scientific Research (B)	1	910,000	700,000	210,000
次世代低ＧＷＰ作動媒体による船舶機関の低温排熱回収熱交換器の熱設計および最適化				
基盤研究（B） Grants-in-Aid for Scientific Research (B)	1	390,000	300,000	90,000
瞳孔径を指標とした認知世界の変容				
基盤研究（B） Grants-in-Aid for Scientific Research (B)	1	260,000	200,000	60,000
船位決定時における作業手順の機序解明と海事教育の技術評価手法に関する開発				
合計 Total	13件	10,710,000	8,340,000	2,370,000

共同研究　Cooperative Research

（単位：円）(Shown in yen)

研究種目 Category	件数 Number of Projects	金額 Budget	直接経費 Direct expense	間接経費 Indirect expence
日本とトルコにおける海上交通の安全管理に関する研究	1	0	0	0
ダイバーシチ方式による船舶におけるテレビ放送の受信状況の改善	1	0	0	0
溶接ラインの作業時間見える化に関する研究	1	990,000	900,000	90,000
フレキシブルセンサを用いた海中及び気中モニタリング	1	390,000	300,000	90,000
振動触覚プローブ刺激に対する瞳孔反応を用いた感情推定	1	144,000	144,000	0
合計 Total	5件	1,524,000	1,344,000	180,000

受託事業　Commissioned Business

（単位：円）(Shown in yen)

研究種目 Category	件数 Number of Projects	金額 Budget	直接経費 Direct expense	間接経費 Indirect expence
AIやIoTによる、人材育成も可能なスマート獣害対策の技術開発と、多様なモデル地区による地域への適合性実証研究	1	3,800,000	3,420,000	380,000
通年対応型のスマート水管理による農村地域の減災･生物多様性保全機能向上の実証	1	1,565,000	1,565,000	0
合計 Total	2件	5,365,000	4,985,000	380,000

受託研究　Commissioned Research

（単位：円）(Shown in yen)

研究種目 Category	件数 Number of Projects	金額 Budget	直接経費 Direct expense	間接経費 Indirect expence	受託料 commission
磯焼け領域のウニの低侵襲の採捕・蓄養の持続可能なサービスシステムの構築試験	1	2,999,000	2,307,000	692,000	0
熱交換器検査技術の全自動化を可能にする電磁非破壊検査法の提案	1	2,990,000	2,300,000	690,000	0
化学的安定性を有するピロリン酸塩の薄膜化とそれを電解質に用いた低温（<200℃）作動可能な高効率燃料電池の開発	1	780,000	600,000	180,000	0
AI・ICT技術やドローンによる藻場の分布や変化等の情報を「見える化」するシステムの改良とモデル地区での実証試験	1	991,290	763,290	228,000	0
魚類養殖場に試験設置するAI・ICT技術搭載自動給餌システムの開発	1	505,950	389,950	116,000	0
沿岸域海況ドローン調査	1	150,000	115,000	35,000	0
ROV搭載型電磁気非破壊検査技術による海中送水管の寿命診断技術の開発	1	4,329,000	3,765,000	564,000	0
クロロフィル・水温センサ搭載のIoT海洋観測器による牡蠣養殖支援	1	2,190,000	1,991,000	199,000	0
ローカル5Ｇを活用した操船支援情報の提供および映像監視による港湾内安全管理の取組み	1	0	0	0	0
相差街歩きアプリの開発	1	500,000	350,000	150,000	0
合計 Total	10件	15,435,240	12,581,240	2,854,000	0

寄附金等受入※　Grants and Endowments

（単位：円）(Shown in yen)

研究種目 Category	件数 Number of Projects	金額 Budget	直接経費 Direct expense	間接経費 Indirect expence
研究助成	5	3,750,000	3,653,000	97,000
教育助成	85	10,310,000	10,310,000	0
合計 Total	90件	14,060,000	13,963,000	97,000

※公募による研究助成金受入分含む。

施　　設

敷地　Site

令和４年度

区　　分　Division	敷地面積　Area（㎡）
校　舎　敷　地　Building Site	50,076
寄　宿　舎　敷　地　School Dormitory Site	17,926
屋　外　運　動　場　敷　地　Athletic Fields Site	24,290
職　員　住　宅　敷　地　Staff Housing Site	3,241
そ　の　他　敷　地　Others	16,411
合　　計　Grand Total	111,944

建物　Buildings

令和４年度

建　物　名	延面積　（㎡）
校　舎　等　School Building	14,461
本　館（１号館）　Main Building	3,077
校　舎（２号館）　No.2 Building	3,967
校　舎（３号館）　No.3 Building	2,916
４　号　館　No.4 Building	724
実　習　工　場　Factory	896
荒天航泊実験棟　Experimental Water Tank with Wind Tunnel Laboratory	567
ガスタービン実験室　Gas Turbine Laboratory	114
ボイラー実験室　Boiler Laboratory	145
内燃機関実験棟　Internal Combustion Engine Laboratory	144
旧電子計算機室　Ex-Electronic Computer Center	301
艇　庫　Boat-house	660
資　料　庫　Storehouse	175
校舎ボイラー室　Boiler for School Buildings	184
学　生　課　Student Affairs Division	120
そ　の　他　Others	471
情報メディア教育センター　Information Media Center	1,598
潮　騒　会　館　Shiosai Hall	880
ものづくり工房　Manufacturing Workshop	571
旧　白　菊　寮　“Shiragiku” Dormitory	558
職　員　会　館　Visitors' Accomodation	115
記　念　資　料　館　Centennial Memorial Hall	660
体　育　施　設　Gymnasiums	2,772
第一体育館　1st Gymnasium	841
第二体育館　2nd Gymnasium	1,078
武　道　場　Martial Arts Dojo	316
柔　道　場　Judo Dojo	250
そ　の　他　Others	287
寄　宿　舎　Dormitory	5,015
暁　寮　A　Akatsuki Dormitory A	1,994
暁　寮　B　Akatsuki Dormitory B	2,001
暁寮食堂　Akatsuki Dormitory Dining Room	720
暁寮浴室　Akatsuki Dormitory Bathing Room	280
そ　の　他　Others	20
職　員　宿　舎　Faculty Residence	2,325
合　　計　Grand Total	28,955

本館（１号館）　Main Building

校舎（３号館）　No.3 Building

４号館　No.4 Building

実習工場　Factory

記念資料館　Centennial Memorial Hall

第１体育館　1st Gymnasium
武道場　Martial Arts Dojo

校内配置図

① 本館（1号館）
Main Building

② 校舎（2号館）
No.2 Building

③ 校舎（3号館）
No.3 Building

④ ４号館
No.4 Building

⑤ 情報メディア教育センター
Information Media Center

⑥ 記念資料館
Centennial Memorial Hall

⑦ 旧電子計算機室
Ex－Electronic Computer Center

⑧ 第一体育館
1st Gymnasium

⑨ 第二体育館
2nd Gymnasium

⑩ 武道場
Martial Arts Dojo

⑪ 柔道場
Judo Dojo

⑫ 潮騒会館
Welfare Facilities

⑬ プール
Swiming Pool

⑭ 実習工場
Factory

⑮ 荒天航泊実験棟
Experimental Water Tank With Wind Tunnel Laboratory

⑯ 内燃機関実験棟
Internal Combustion Engine Laboratory

⑰ ボイラ実験室
Boiler Laboratory

⑱ 排水処理機械室
Waste Water Disposal Plant

⑲ 艇庫
Boat-house

⑳ 鳥羽丸
Training Ship “Toba Maru”

㉑ 職員会館
Visitors' Accomodation

㉒ 資料庫
Storehouse

㉓ 暁寮
“Akatsuki” Dormitory

㉔ ものづくり工房
Manufacturing Workshop

㉕ 旧白菊寮
“Shiragiku” Dormitory

㉖ 職員宿舎
Faculty Residence

位 置 と 環 境

本校は伊勢志摩国立公園の中心鳥羽市にあります。この地は、真珠で世界に名を馳せた御木本幸吉の出生地、真珠発祥の地であり、古くは九鬼水軍の本拠地でもあります。学校の前面には、波静かな池の浦を、後ろには伊勢志摩スカイラインが縦走する朝熊岳(標高555m)を控え自然豊かな環境にあります。

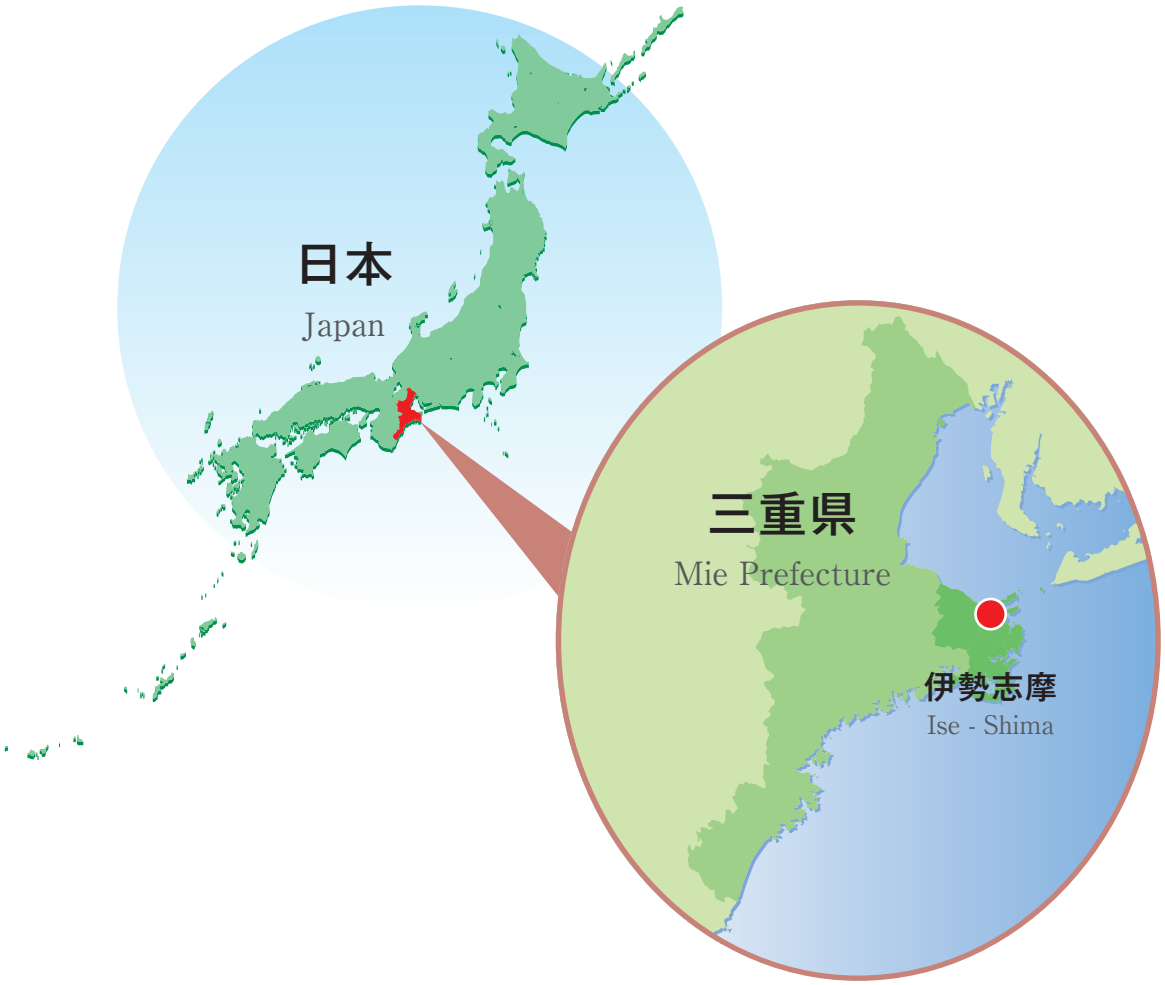
また、交通は至便で、名古屋、大阪方面から、近畿日本鉄道を利用すれば約2時間で鳥羽に来ることができます。観光地としても有名な当地は、伊勢神宮、二見ヶ浦とあいまって年中観光客の絶えることがありません。

National Institute of Technology, Toba College is located in the central part of Ise-Shima National Park. Toba is famous for being the birthplace of Mikimoto Kokichi, the inventor of world-famous cultured pearls, and is also known as the home ground of Kuki Suigun, an ancient pirate group. The campus is surrounded by rich nature, with the calm inlet of Ikenoura in front and Mt. Asama(555 meters high), along which is a toll road called "Ise-Shima Skyline", behind.

The campus is easily accessed by Kinki-Nippon Railways from Nagoya or Osaka in approximately two hours. Toba and other famous sightseeing spots around this area, such as Ise Grand Shrines and Futamigaura, attract a lot of tourists throughout the year.

Location of Our College

本 校 の 位 置



Directions To National Institute of Technology, Toba College

本校までの交通案内

● 電車でお越しの場合

中部国際空港
↓ 名鉄快速特急 約30分
JR・近鉄名古屋駅
↓ 近鉄特急 約１時間35分 ＪＲ快速 約１時間40分

近鉄京都駅
↓ 近鉄特急 約２時間15分

関西国際空港
↓ 南海特急 約40分
難　　波
↓ 近鉄特急 約２時間

JR・近鉄鳥羽駅
↓ 近鉄普通・急行 約３分
近鉄池の浦駅
↓ 徒歩 約10分
本校（鳥羽商船高等専門学校）

※ＪＲ・近鉄「鳥羽駅」よりタクシー利用約５分（２km）

● 車でお越しの場合

名 古 屋
↓ 約２時間（145km）

京　　都
↓ 約２時間15分（170km）

大　　阪
↓ 約３時間（200km）

本校（鳥羽商船高等専門学校）

独立行政法人国立高等専門学校機構
鳥羽商船高等専門学校 https://www.toba-cmt.ac.jp

学校だより

Vol.94
2022
WINTER

令和４年12月発行　鳥羽商船高等専門学校
広報・公開委員会「広報誌専門部会」
三重県鳥羽市池上町1番1号　TEL 0599-25-8013

漕艇大会優勝

ロボコンデザイン賞・特別賞受賞

プロコン特別賞受賞

●校長挨拶
●新任教職員紹介
●学科等の紹介
●就職・進学
●学生の活躍
●インターンシップ
●クラブ紹介
●乗船実習
●学生寮
●国際交流プログラム
●学生会活動
●教員の活躍
●学校通信

校長挨拶

伊勢志摩国立公園にあって伊勢市、志摩市に隣接し、歴史的にも水軍の拠点、水運の要衝で知られる鳥羽市池の浦に立地する本校は、校祖近藤真琴翁が明治８年（１８７５年）９月に芝新銭座二番地（現在の東京都港区浜松町）に航海測量習練所（後の商船黌）として創基し、分校として、明治14年（１８８１年）８月20日に三重県鳥羽町に鳥羽商船黌として創立、変遷を経て、昭和42年（１９６７年）６月に国立鳥羽商船高等専門学校（高専）となり、２００４年に独立行政法人国立高等専門学校機構の傘下となって現在に至っています。来る令和７年（２０２５年）９月には、創基１５０周年・高専創立60周年記念事業を計画しており、持続的に学校の施設整備や環境整備、国際交流や学生の修学支援等に資する基金の開設とともに作業部会が活動を開始しております。卒業生・修了生は、令和４年９月で７，８３４名となり、海運・海事産業、情報、機械など、我が国の産業界に技術者を輩出し、多くの産業の発展に活躍しています。

本校の尖った２学科を取り巻く産業の状況について触れます。まず、海運や物流産業の様相は、常に国際政治や経済社会の縮図です。新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延がＳＤＧｓの実現に至る超スマート社会（Society50）への変革を加速して、社会経済は、気候変動と環境変化、国際社会が織りなす紛争などの影響を受けて大きく変動しています。これらの変化は、情報通信はもとより、海運、物流、ロジスティクスに対する人々の関心を大きく高めました。海運・海事産業は、総合物流産業、社会インフラ事業に展開しており、人材として求められる能力も船上のみならず、先進技術の展開や海運にかかる総合的スキルを活かしたマネジメント力まで変化しています。

また、情報や機械システム産業はもとより、あらゆる産業でデジタルトランスフォーメーション（ＤＸ）が着実に進みつつあり、地域と都市の双方の豊かさを調和させるデジタル田園都市国家構想が内閣府により提唱されています。私たちはWell-beingをひたすら追求する社会のひとつの段階に至ったといえます。便利になった反面、情報を適切に管理、利活用できて、共有するシステムをもっているか否か、もっていても有効に組織内で機能しているかで環境の大きな格差が生じており、教育の現場においても例外ではありません。一方では、対面でのコミュニケーションの重要性も再認識されました。便利さとともに、〝わきまえなければならないエシックス（倫理）〟の問題もあらためて社会で顕在化しています。

新型コロナウイルスによる感染症との闘いは続いており、一人ひとりが、科学的に思考し、感染のリスクを減らす効果的な行動を引き続き心がける必要があります。たとえば、マスク会食とは、食事中いつもマスクをはずして良いということではないことは明白です。

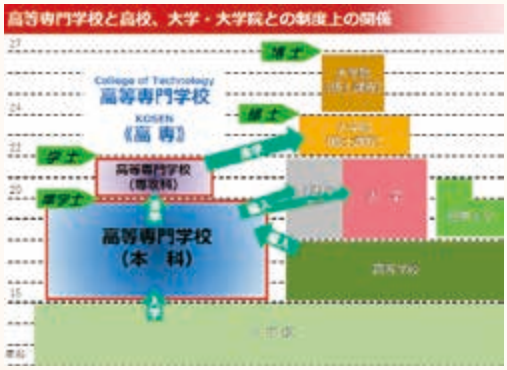
海洋基本法にもとづき5年ごとに策定される海洋基本計画、来る第４期では、脱炭素・ＤＸに対応した海洋産業の競争力強化、ゼロエミッション船の導入、カーボンニュートラルポートの形成、また、自律運航船の実用化や港湾の電子化、さらには、洋上風力発電など再生エネルギーの利活用、資源探査に必要な水中ロボットの持続的な開発などに社会の関心が集まっています。本校では、「人づくりを通じて海づくり：海事・海洋ＤＸ、情報や機械のシステム産業と地域経済に貢献するマリンリゾート・コアキャンパスの創成（令和３年８月校長より法人に提出）」に向けて、練習船「新鳥羽丸」と浮き桟橋の整備充実の構想、施設・環境整備にかかるキャンパスマスタープラン（ＣＭＰ）の構成、混住型国際寮の検討などを進めており、創基１５０年を迎える２０２５年を新たな起点とし世代や国境を越えたキャンパス、自然災害にもレジリエントなキャンパスの整備に努めていきます。

これからの人材育成や教育研究の推進に資するべく鳥羽商船高専連携協力会が設立されており、産学官金連携の大きな推進力となっています。

事業経費導入の点では、国の「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業ＤＸをけん引する高度専門人材育成事業」に採択、さらには令和４年度に至り、「GEAR5.0未来技術の社会実装教育の高度化（採択分野：農林水産）「とる」から「つくる」へ農林水産業のＤＸ推進プロジェクト」に採択、全国高専の中核拠点校として体制構築が進められています。教育面では、従来からの海事人材育成の取り組みに加えて、外航・内航船員・海技者として、また情報機械システム産業を担うにふさわしい英語の語学力の向上をめざしてさらなる取り組みを進めます。

ＡＩやＩｏＴなどの急速な技術の進展により社会が激しく変化し、多様な課題が生じている今日、文系・理系といった枠にとらわれず、様々な情報を活用しながらそれを統合し、課題の発見・解決や社会的な価値の創造に結び付けていく資質・能力の育

校長　和泉　充



※人事
令和４年４月１日より
副校長と校長補佐を以下としました。

副校長（総務・教務担当）
教務主事　伊藤（友）教授
副校長（学生支援・厚生補導担当）
学生主事 坂牧教授
副校長（寮務・国際担当）
寮務主事　橋爪教授
校長補佐（研究、産学・地域連携担当）
研究主事　江崎教授
校長補佐（サイバーセキュリティ担当）
情報メディア教育センター長　白石教授

https://www.youtube.com/watch?v=gMkY3H2qEMs

鳥羽商船高等専門学校 学生会　鳥羽丸PV
～鳥羽丸のすべて～　2021年12月5日に開催された第56回海学祭にて配信

https://www.toba-cmt.ac.jp/kyouryokukai/

鳥羽商船高専産業連携協力会

成、STEAM（Science, Technology, Engineering, Mathematics, Arts）教育が求められています。本校は皇學館大學と包括連携するとともに、教員と学生を地元の小中学校に派遣して出前授業などを行っています。また、練習船「鳥羽丸」の代船建造や浮き桟橋の整備を契機に、地域とのさらなる共創をめざして三重県と包括連携協定を締結したところです。これからも、人と社会のWell-beingに資する、「地域と世界の両方で活躍する、科学的思考を身に着けた高度の技術者の育成」に注力していきます。このためには、三重県内にとどまらず、ひろく国内外からの入学、留学に対応する必要があり、教育と修養の場である学生寮「暁寮」に国際寮（多文化交流生活寮）の整備は必要不可欠です。

令和4年度は、対面とオンラインの効用を活用しながら、保護者懇談会、奨学後援会総会、高専体育大会、漕艇大会などが次々と学校行事が開催実施されています。学生会・海学祭・鳥羽丸実行委員会製作の鳥羽丸PVもリリースされています。どうか益々の本校学生と教職員の活動へのご理解とご支援をお願い致します。

進取・礼譲・質実剛健を理念とする本校入学式では、他人を思いやり、志をたて進むよう話をしています。温かくも特徴ある、尖った一面をもつ高専として、SDGsのためのSociety5.0の超スマート社会への変革を意識し、物流のグローバリゼーションやIoTの浸透により進化する情報と機械がおりなす産業社会で活躍する、海洋立国を支える国際感覚を身につけたグローバルに活躍できる人材、海上輸送を支える高度な技術を習得した海事技術者、海技士資格を有した優秀な海のスペシャリスト、地域産業の創出や地域社会の持続可能な未来にも貢献できる実践的産業人材の育成を進めます。

新任教職員紹介

情報機械システム工学科　准教授
児玉　謙司

情報機械システム工学科に着任しました。

１５０年の歴史と伝統を誇る学校で共に切磋琢磨できること、光栄に思います。

約25年前、高専に入学しました。

純然たる男子学級でした。

古文の授業では、恋愛の和歌の解説に皆狼狽。

音楽の時間では、コロナでもないのに窓を開けろと先生は毎回絶叫。他、詳細は授業の合間に。

つまり、学問を修めるということは大変険しい道のりであるということです。

学生の皆様には、友と笑いながら、技術革新の荒波をサーファーのように乗りこなす技術者に成長して頂きたいと思います。

一般教育科　助教
朴　佳南

この度、一般教育科の助教として赴任いたしました朴佳南です。

担当科目は数学です。非線形の方程式である（離散）パンルヴェ方程式について研究をしています。

学部は教育学部でした。そこで学び得た経験を活かし、丁寧な指導を心がけますので、どうぞよろしくお願いいたします。

寮監
川端　幸夫

今年度、暁寮寮監に採用となりました、川端幸夫です。出身は三重県伊勢市で、今年の3月まで伊勢市の消防職員でした。

私にとって寮監として学生の成長を見守ることは大変光栄なことであり、伝統ある鳥羽商船で勤務できることを誇りに思っています。

私には教育現場での経験はありませんが、前職の経験を生かして学生が安心安全な寮生活を送れるよう、全力でサポートしたいと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。

事務部長
小林　正幸

このたび事務部長に着任しました小林正幸です。どうぞよろしくお願いいたします。

出身は、福井県です。よって、特技は福井弁を話すことです。高専勤務は、石川高専、富山高専、福井高専に次いで4校目になります。東海地方は初めてです。暖かくて過ごしやすいですが、思っていたより雨が多いとも感じました。

短いお付き合いとなりますが、今後も組織マネジメント力を鍛えて、私なりに努めてまいりますので、皆様の暖かいご支援とご協力をお願い申し上げます。

総務課課長補佐
前田　剛

5月1日に総務課総務課長補佐に配属になりました前田剛といいます。よろしくお願いします。さて、鳥羽商船は目の前に伊勢湾が広がっていますが、海だけではなく、学校の近くには朝熊山があり、朝熊山登山を気楽に行けるんです。しかも、鳥羽側の山道は、そこそこ険しいので気楽に非現実な冒険が楽しめます。山に慣れていない人は、朝熊、神宮側がすごく整備されていますので、そちら側がおすすめです。山好きな方は一度挑戦してください。

調達係長
喜多村　勝代

令和4年4月1日付けで総務課調達係長として赴任しました喜多村と申します。

3月まで三重大学で勤務していました。鳥羽商船への赴任は2回目で、前回は、平成15年から3年間、当時の人事係で勤務していました。ちょうど国から独立行政法人に移行する時期でした。大変だったはずですが、なぜか苦労した記憶があまり残っていません。

長い間国立学校の事務職員として働いていますが、調達の仕事は初めてです。何卒よろしくお願いします。

人事労務係主任
堀川　洋平

本年4月1日付で総務課人事労務係に赴任いたしました堀川と申します。

出身は志摩市で民間企業経験後、3月までは三重大学で勤務しており、学務系や契約担当にて病院医療機器等の調達業務を行っていました。

大学と高専との違いや、高専ならではの良さを感じ毎日刺激のある日々を送らせていただいております。

微力ではございますがご支援をさせていただきたく存じますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

財務・経理係員
増井　康太

今年度4月1日付けで総務課・財務・経理係に採用された増井康太と申します。

出身は日本三大喧嘩祭りとして有名なだんじり祭りのある大阪府岸和田市です。昨年度の3月まで大阪市内の公立学校で事務職員として働いていました。

現在は、財務・経理係所属のため教員や学生の皆様と関わる機会が少ないと思いますが鳥羽商船高専のために尽力していきたいと考えていますのでご指導宜しくお願い致します。

商船学科の紹介

商船学科長　窪田　祥朗

商船学科は、三級海技士の第一種養成施設として、航海士、機関士といった船舶職員を養成する学科です。三級海技士（機関）の第一種養成施設は、東京海洋大学、神戸大学、海技大学校、海上保安大学校、水産大学校と本校を含む5高専だけです。

本校に入学した商船学科の学生は、士官候補生であることを肝に銘じて、日々精進してもらいたいと思います。商船学科は、他の商船系高専と協働で海洋人材の育成に関するプロジェクトを推し進めています。これは、商船学科の学生が船社へ入社後に必要な技能を着実に身につけてもらい、海事技術者として有用な人材になってもらうことを目的としています。プロジェクトでは、グローバル力向上、技術革新に対応した教材開発、キャリア教育の実施、業界関係者との意見交換を基軸に事業を展開しています。グローバル力向上については本校が主担当で、2号館2階のグローバル教育拠点にて商船系高専5校を繋いだオンライン英語講座を開講しています。ぜひ、英会話力up、TOEICスコアupのために利用してください。

令和6年度末には新しい練習船が誕生する予定です。現在、新しい練習船を建造するための準備を急ピッチで進めています。現在の鳥羽丸に比べ全長は約1・5倍と大型化し、情報統合型ブリッジを採用するとともに、太平洋を航行するための減揺装置や研究観測機器を装備するなど最新機器を導入予定です。また、推進方式は、ディーゼルエンジンによる機械推進だけでなく、電動機による電気推進も備わります。全学で利用しますので、是非研究などで活用してもらえればと思っています。商船学科の学生は、実習に利用するとともに活きた教材として大いに活用してください。

情報機械システム工学科の紹介

情報機械システム工学科長　出江　幸重

情報機械システム工学科は、電子機械工学科（定員40名）と制御情報工学科（定員40名）の2学科から学科改組により2019年4月に誕生しました。定員80名大括りの1学科2クラスとして学生を受け入れ、来年度で完成年度となります。情報機械システム工学科はいくつかの特徴を持っていますが、その中の一つが1～5年生までが参加するPBL（Project Based Learning）教育です。PBLは「問題解決型学習」や「課題解決型学習」などと訳される勉強方法であり、学生が自ら問題を見つけ、その問題を自ら解決する能力を身に付ける学習法のことです。

情報機械システム工学科では1年生後期から5年生までPBLという授業があります。1～2学年では、主としてある程度定められた問題設定でのPBLを実施したり、PBLを行うための基礎技術（電気・機械設計、マイコンプログラム等）の習得を行います。3～5年生のPBLでは基本的に縦割り班でのプロジェクト活動を行っています。3年生以上では、「学外コンテスト出場」または「地域貢献PBL」を原則必須としています。テーマの中には農業や水産に関するもの、地域の活性化につながる取り組み、企業で実施に活用できるシステム構築等、多岐にわたります。専攻科の特別研究や5年生の卒業研究とリンクした内容もあります。これらの活動を通じて学生たちは、チームとして問題を解決するための知識や技術を身に着けられるように取り組んでいます。

一般教育科の紹介

一般教育科長　西川　雅堂

高等専門学校での教育は、高度な専門知識と技術を身に着けた技術者を養成することを目的としています。そこで一般教育科の教育課程は、技術者としての基本的な資質を身に着けるとともに、専門科目の土台となる基礎学力を身につけさせるため、人文・社会系科目、自然科学系科目、外国語、保健体育や芸術といった基礎科目を通じて高等学校から大学の教養課程のレベルまで5年間で履修します。

また、一般教育科でのキャリア教育として「一般基礎教育」を1・2年生で設置しています。1年生では高専での学修活動に向けたオリエンテーションや中学校の内容の復習なども計画されています。さらにはコミュニケーション能力の向上や現代人としての視野を広めるため、外部講師を呼んで様々な講演を開催しています。今年度は次にあげるような講演が企画されています。「ライフプランを考える」（日本ＦＰ協会）、「日本国憲法と弁護士の仕事」（三重県弁護士会）、「性教育」、「スマホ・ケータイ安全教室」（ＫＤＤＩ）、「金融リテラシー講座」（百五銀行）、「デートＤＶ防止啓発講座」（鳥羽市子育て支援室）など。

一般教育科では数学科において榎本先生が他高専に異動され、新たに朴先生が赴任されました。新しい風を吹き込んでくれることを期待しています。一般教育科の教員総勢15名（再雇用1名含）で学生の皆さんの充実した学校生活をサポートしていきます。学生の皆さんには、未来の技術者として、何を求められているかを考えながら学習してください。また本校での学びの環境を存分に生かしていただきたいと思います。

ニコルソン先生による英語授業

専攻科の紹介

専攻科長　林　浩一

高等専門学校の本科を卒業した後の進学先の一つとして、専攻科があります。本校の専攻科には、商船学を学ぶ海事システム学専攻と、情報工学、電気電子工学、機械工学を学ぶ生産システム工学専攻の、二つの専攻が設けられており、海事システム学専攻は商船学科の卒業生、生産システム工学専攻は主に工業系学科の卒業生を受け入れています。両専攻ともに2年間の課程を修了し、大学改革支援・学位授与機構の審査に合格することで、大学卒業者と同じく学士の学位を取得することができます。そのため専攻科は、本科生の進学先として大学編入学とよく比較されます。専攻科も大学も、本科で学んだことよりも更に広く深い知識や技術を学ぶことに変わりはありませんが、専攻科では1年生からの2年間、本科で行う卒業研究を含めると連続して3年間研究室に所属し、研究に取り組めることが大きな特徴として挙げられます。またその間専攻科の学生は、研究室に所属する本科学生のリーダーとしての役割も期待されており、大学生よりも一足早く、様々な経験を得る機会があります。今年度の専攻科は、これまでに両専攻においていくつかの研究発表会を開催してきました。いずれも多くの教職員が聴講する中で専攻科学生が自分の研究成果について発表を行うとともに、活発な質疑応答や意見交換があり、有意義な発表会となりました。

商船学科　機関コースの就職・進学状況について

商船学科長兼機関コース主任
窪田　祥朗

令和4年9月の商船学科機関コースの卒業生は20名で、進路は進学が5名、就職が15名でした。就職は、海上就職が13名、陸上就職が2名となっています。今年度の卒業生は進学希望が多く、進学から就職へ切り替えた学生もいました。就職に関しては、ほぼ第一希望の会社へ就職しており、第一希望が叶わなかったとしてもほとんどの学生が第二希望に就職しています。

就職活動は、4年生の3月から本格的に始まりますが、それまでに希望する職種、会社を絞り込むことが重要です。キャリアデザインの授業で「仕事」に対する意識を高め、希望する進路に進めるように準備していってください。また、4年生の夏休みにはインターンシップへ参加して、希望する会社の方々に自身の魅力をアピールしておくことも大事です。インターンシップや会社訪問をすることで、人事担当者や働いている方々への印象が良くなります。ぜひ、行動してください。

商船学科　航海コースの就職・進学状況について

商船学科航海コース主任
鈴木　治

令和5年9月卒業予定の商船学科5年生の就職活動は、練習船「日本丸」乗船中の4年生2月、複数の企業のwebによる会社説明会から始まりました。

感染症対応のため乗船実習は3月下旬までとなり、短い春休み中の会社訪問等を経て、新学期、採用試験と続きました。結果、進学が3割、7割が就職となっています。なお、インターンシップは、これまでとは形態を変えて再開されるようになっています。

コロナ禍でweb会議システム（Teams, Zoom等）を利用する機会も増えていますが、会社からの連絡は電子メールや学生への直接の携帯電話で行われます。

今年の学生は、履歴書の書き方や会社との連絡など、一般的な「コミュニケーション」能力が必要な場面で苦労しています。携帯電話・電子メールを使って、初対面の相手とどのように意思疎通を行うか、十分に使いこなした上で就職活動に臨むことが必要でしょう。

電子機械工学科の就職・進学状況について

電子機械工学科長
山下　晃司

今年度の電子機械工学科5年生は44名です。このうち、6名が単位を修得して9月に卒業した学生であり、4名が10月に入社、1名が来年の4月に入社が内定しています。また、現在1名は就職活動中です。来年3月卒業予定の学生38名のうち、5名が進学を、33名が就職を希望し、それぞれの進路に向けて活動を行ってきました。進学希望者のうち、豊橋技術科学大学が2名、本校専攻科が1名、専門学校が1名の進路が決まっており、1名が現在も活動中です。また、就職希望者のうち、3名が県内に、28名が県外への就職が決まっており、11月末の現在で2名が学校推薦で就職活動中です。

本年度の就職は、企業の募集意欲は旺盛ですが、企業と学生希望とのマッチングを厳しく見る傾向が強くなっています。また、学生の希望としては、電気・ガス・水道や鉄道や公共施設関連の製造・管理企業など、インフラ関連企業への希望が多くなっています。これは、3年来のコロナ事態の影響もあり、安定した企業を希望するとともに、人々の生活を支えることの大切さを強く実感したことによると思われます。

自分の将来像を明確にして進路を決定するには、社会状況の変化に気を配るとともに、自分の興味ややりがいを深く見つめることが必要です。そのために、授業や課外活動、地域社会への参加など、日々の滑動に真摯に向き合い、実際に行動して自分と社会に対する理解を深めていってほしいと思います。

制御情報工学科の就職・進学状況について

制御情報工学科長
溝口　卓哉

制御情報工学科5年生は43名が在籍し、就職希望者が29名（内 女10）、進学希望者が14名（内 女1）です。10月末現在で、40名（就職27、進学13）の進路が確定しています。就職先が県内（またはその可能性が大）の学生は5名（内 女2）で、昨年度（11名（内 女8））と比べて少なくなっています。進学先の内訳は、大学が7名（豊橋技科大4、長岡技科大2、モンゴル国立科学技術大1）、本校専攻科が6名となっています。

就職では、1社目の受験での合格者が18名、就職先決定時期は2月1名、3月2名、4月14名、5月2名、6月3名、7月4名、9月1名となり、約6割の学生の就職先が4月までに決定しています。各企業の採用試験の開始時期も早くなってきていて、それに対応した準備も必要になってきていると考えられます。

専攻科の進路について

専攻科長
林　浩一

本校の海事システム学専攻は、9月に1名の学生が修了し、希望する海運会社に就職しました。また生産システム工学専攻は、現時点で6名の学生が、それぞれが学んできたことを生かすことができる、家電メーカーや生産設備メーカー等の企業から内定をいただいています。

一方で就職活動を控えた生産システム工学専攻の1年生は、多くの学生が夏季インターンシップに参加し、その内容を発表会で紹介しました。インターンシップに関してはコロナ禍の影響もあり、オンライン開催や中止とする企業もあり、希望する企業に行くことができなかった学生もいたようですが、夏に続き、秋・冬のインターンシップへの積極的な参加を呼びかけていくことを考えています。

令和４年３月及び令和４年９・10月卒業生進路先一覧（順不同）　令和４年10月31日現在

商船学科

●**就職先**　ショクユタンカー㈱、共栄マリン㈱、中央海運㈱、第一中央内航㈱、ENEOSオーシャン㈱、イーグルシップマネージメント㈱、東京汽船㈱、井本商運㈱、川崎汽船㈱、鹿児島船舶㈱、上野トランステック㈱、日本郵船㈱、オフショア･エンジニアリング㈱、ECLエージェンシー㈱、大窯汽船㈱、日本クルーズ客船㈱、㈱辰巳商会、津軽海峡フェリー㈱、㈱前川製作所、NSユナイテッド海運㈱、コスモ海運㈱、如月汽船㈱、イイノガストランスポート㈱、協同海運㈱、内海曳船㈱

●**進学先**　鳥羽商船高等専門学校専攻科、東京海洋大学海洋工学部、神戸大学海洋政策科学部

電子機械工学科

●**就職先**　㈱メンバーズ、㈱トノックス、旭ダイヤモンド工業㈱、東海旅客鉄道㈱、旭電器工業㈱、シンフォニアテクノロジー㈱、東海交通機械㈱、日本オーチス・エレベータ㈱、パナソニック㈱ライフソリューションズ社、パナソニックシステムソリューションズジャパン㈱、廣瀬精工㈱、ダイキン工業㈱、㈱タマディック、ムラテックCCS㈱、ニプロファーマ㈱、ダイキンエアテクノ㈱、㈱高津製作所、富士ソフト㈱、㈱UL Japan、万能工業㈱、関西電力㈱、㈱きんでん、アイリスオーヤマ㈱、日本オーチス・エレベータ㈱、愛知機械工業㈱、奥地建産㈱、関西保温工業㈱

●**進学先**　鳥羽商船高等専門学校専攻科、豊橋技術科学大学、長岡技術科学大学、山口東京理科大学

制御情報工学科

●**就職先**　㈱メンバーズ、東海旅客鉄道㈱、旭電器工業㈱、ニプロファーマ㈱、ダイキンエアテクノ㈱、アイリスオーヤマ㈱、㈱LIXIL、㈱NTTフィールドテクノ、盛徳海運建設㈱、㈱エクシオモバイル、メタウォーター㈱、クオリティソフト㈱、エイジェックグループ、サントリースピリッツ㈱、エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ㈱、松阪ケーブルテレビ・ステーション㈱、ムラテック販売㈱、旭タンカー㈱、㈱アイ・シー・エス、㈱百五銀行、CTCテクノロジー㈱、㈱ファインディックス、㈱FIXER、㈱ユーテック、シンフォニアエンジニアリング㈱、㈱ファインディックスソリューション、富士フイルムビジネスイノベーションジャパン㈱、万協製薬㈱、㈱ZTV、美和ロック㈱、エース設計産業㈱

●**進学先**　鳥羽商船高等専門学校専攻科、豊橋技術科学大学、長岡技術科学大学、京都工芸繊維大学

令和４年３月及び令和４年９月専攻科修了生進路先一覧（順不同）　令和４年9月30日現在

海事システム学専攻

●**就職先**　NX海運㈱

生産システム工学専攻

●**就職先**　㈱UL Japan、㈱日立ビルシステム、第一工業製薬㈱、㈱ハイマックス、富士通クラウドテクノロジーズ㈱、㈱エヌ・ティ・ティ ネオメイト、キヤノンシステムアンドサポート㈱、㈱ネオジャパン、パナソニック㈱インダストリアルソリューションズ社、㈱エヌ・ティ・ティ エムイー

インターンシップ先 企業一覧（順不同）　令和４年9月30日現在

商船学科

ENEOSオーシャン㈱、日本郵船㈱、川崎汽船㈱、㈱商船三井

専攻科（生産システム工学専攻）

ソフトバンク㈱、旭化成㈱、東京ガスネットワーク㈱、サントリーホールディングス㈱、㈱イシダ、京セラコミュニケーションシステム㈱、㈱日立ビルシステム、ENEOS㈱、国際ケーブル・シップ㈱、日本車輌製造㈱、サグリ㈱、NECネッツエスアイ㈱

情報機械システム工学科

Daigasグループ、NECファシリティーズ㈱、村田機械㈱、アイリスオーヤマ㈱、㈱クボタ 枚方製造所、㈱エヌ・ティ・ティ・ロジスコインフォメーションサービス、池上通信機㈱、㈱タマディック、花王㈱ 和歌山工場、旭化成㈱、キクカワエンタープライズ㈱、㈱スターシステム、フジテック㈱、メタウォーター㈱、ザイマックスグループ、三菱電機ビルソリューションズ㈱、美和ロック㈱、トーテックアメニティ㈱、㈱jig.jp、㈱村田製作所 八日市事業所、㈱トノックス、㈱百五銀行、㈱ハイマックス、㈱UL Japan、日本オーチス・エレベータ㈱、関西電力送配電㈱ 東海電力本部、ムラテックCCS㈱、中部電力㈱、㈱アイエスイー、富士電機㈱、㈱NTT-ME、㈱メンバーズ、第一工業製薬㈱、コニカミノルタジャパン㈱、京セラコミュニケーションシステム㈱、CTCテクノロジー㈱、三菱電機メカトロニクスエンジニアリング㈱、東芝インフラシステムズ㈱、ダイキン工業㈱、スズキ㈱、オークマ㈱、㈱NTTフィールドテクノ、キャノンマーケティングジャパン㈱、㈱ニコン、ENEOS㈱、大日精化工業㈱、㈱FIXER、アイング㈱、日本放送協会（NHK）、キリンビバレッジ㈱、東海旅客鉄道㈱、富士フィルムビジネスイノベーション㈱、豊橋技術科学大学

学生の活躍

AIビジネス創出アイデアコンテスト2022で会長賞受賞

制御情報工学科5年
西山　琳

2021年12月から2月にかけて行われたAIビジネス創出アイデアコンテスト2022において「野菜のサステイナブルスマート農業」というシステムを提案し、二位相当の「人工知能技術コンソーシアム会長賞」を受賞しました。AIを使用した野菜の需要予測や店頭での在庫管理、消費者に向けたアプリの提供で生産者・販売者・消費者の悩みを解消し持続可能な農業の実現を目的としています。

需要の高いサービスを考えるだけでなく経営者目線でお金や顧客の流れを理解することはとても難しく締切日までミーティングを重ねました。また自身が主体となって参加するコンテストは初めてでしたが、私を支えてくれたチームメンバーには大変感謝しています。

「DCON2022」で第6位と企業賞受賞

制御情報工学科5年
栗田　ちはる

私たちは4月28・29日に開催された「DCON2022」で定置網漁師を支援する作品「seenet」について発表し、第6位と企業賞を受賞しました。

DCONは、技術審査とビジネスプレゼンにより、企業評価額を算出し順位が決定します。本番では企業評価額3億円の評価をいただきました。

ビジネスプランなど初めて考えることが沢山あり、楽しみながら取り組むことができました。本番までに何度も現場へ行き、定置網漁を体験したり、漁師さんにヒアリングを行い、進めていきました。

これからも継続して取り組み、水産業を盛り上げていきたいです。応援してくださった方々、ありがとうございました。

高専ワイヤレスIoTコンテスト2021を通して

制御情報工学科5年
井上　仁

私たちは高専ワイヤレスIoTコンテスト2021において、地元のカキ養殖を支援するシステムを提案し、1年間にわたって開発・実証を行いました。このシステムは、地元企業と開発した海洋観測機から養殖場所の海象データを計測することで、カキの状態を推測し、LINE BotやWebサイトによって、養殖業者の方々にカキが危険な状態になっていることを知らせます。また、過去の海象データをグラフ化し、研究者などが分析を行うことでよりよい養殖環境が作られていくと考えています。本コンテストでは、私たちの提案したシステムが海洋SDGs大賞を受賞しました。今後も地元の水産業の手助けとなるようなシステムを開発し、課題解決や環境改善などに取り組んでいきたいです。

全国高等学校総合体育大会 少林寺拳法 競技大会の振り返りと今後

情報機械システム工学科3年
西井　崚人

私たち少林寺拳法部は7月28日から31日にかけて高知県に赴き、全国高等学校総合体育大会少林寺拳法競技大会に出場しました。入賞は逃し、残念な結果になってしまいましたが、入賞を志し、日頃から先輩方や顧問の先生にご指導ご鞭撻を賜り、チームで築き上げた成果を遺憾なく大会で発揮できた経験は、部活動のみならず今後の人生の展望において非常に有用な材料になると感じています。これもすべて、私たちが大会に出場するまで支えてくださった皆様のおかげです。次は私たちが後輩たちに受け継がせる番です。全ての関係者に対する恩返しの念も込めて、今後は本校の少林寺拳法部の活性化に努めてまいります。

漕艇大会で優勝

商船学科航海コース3年
西川　蘭丸

この度の第57回全国商船高等専門学校漕艇大会では他の商船との激闘の末、優勝することが出来ました。本校で開催された大会で優勝できたことは本当に嬉しい限りです。

日々の練習はとても大変で何度か心が折れそうになることもありましたが、互いに支えあってつらい練習を乗り越えることでチームに一体感が生まれ、始めはバラバラだったチームも大会前には凄くいいチームになっていたと思います。練習の際にもみんなの勝ちたいという思いが強く何度か衝突することもありましたが、そのたびに話し合い解決していくことで徐々にチームとしての団結力が高まっていき、結果として優勝に繋がったのだと感じました。

大会の運営に協力してくださった方々、そして応援して下さったすべての方々に改めて感謝申し上げます。今後とも応援のほど宜しくお願い致します。

気象観測機器コンテストで特別賞受賞

制御情報工学科5年
坂本龍太郎

私達は大幅に縮小された植物季節観測の省力化・継続を目的としたシステム『四季探偵ＡＩ－アイ－』を開発し、２０２１年12月20日に開催された第10回気象観測機器コンテストで特別賞佐々木嘉和賞を受賞しました。

『四季探偵ＡＩ－アイ－』は対象の植物が撮影できる位置に定点カメラを設置し、定期的に自動撮影と気象情報の取得を行います。撮影された画像から学習済みＡＩが植物の開花などを判別し、ユーザーにＬＩＮＥで通知します。観測手法を肉眼から定点カメラとＡＩに置き換えることで少人数の観測を容易にし、継続を可能にします。

コロナ禍ということもあり、夏休みに集まって作業することができなくて大変でしたが、オンラインでの情報共有を意識しメンバーと協力して完成させることができたのでとてもいい経験になりました。

また、同研究室の『クラウドくんとこよみちゃん』は特別賞衛生賞を受賞しました。

ロボコンに参加して

情報機械システム工学科4年
北川　大雅

私はロボコンに携わって4年目になります。今年はBチームのチームリーダーを務めさせていただきました。

今年のテーマは、「ミラクル☆フライ」です。各チームが自作した紙飛行機をロボットが飛ばし、フィールド内の机に乗せたり、筒に入れることで得られる得点を競います。ここ二年はコロナ渦による影響でオンライン開催でしたが、今回は三年ぶりに現地開催でのロボコンとなりました。

私たちは、大きくアームを振りかぶって紙飛行機を投げる、ダイナミックな機構を持つロボットをコンセプトとして制作し、挑みました。結果としては、デザイン賞とセメダインさん協賛の特別賞を頂くことが出来ました。全国大会出場は叶いませんでしたが、自分たちのアイデアや機構が審査員の方々に大変良い評価頂くことができてよかったと感じています。

この結果は、高学年から低学年まで、今回のロボコンに携わったチーム全員が努力したからだと胸を張って言えます。未熟な私についてきてくれたチーム全員に感謝したいです。

プログラミングコンテストの振り返りと今後

情報機械システム工学科４年
中川　一路

私たちは全国高等専門学校プログラミングコンテスト第33回群馬大会の課題部門において、特別賞を受賞しました。「オンラインで生み出す新しい楽しみ」のテーマに対して、鳥羽商船男子バレーボール部の選手の配置をオンライン上で全国のバレーボール愛好家に考えてもらい、その意見を集約して選手に提供するシステムを作成しました。このシステムを作成するために、男子バレーボール部にデータ収集の面でたくさんの協力をしてもらいました。特に５－６月は部活終わりにほぼ毎日手伝ってもらいました。そのような協力があったからこそ、今回の賞を受賞できました。今回の大会で得た経験を活かし、今後の研究活動に励んでいきたいです。

第57回全国高等専門学校体育大会水泳競技大会について

商船学科１年
野中　亜耶

兄と姉に憧れ４歳で水泳を始めました。泳ぐことが好きで入学する前から水泳部に入ると決めていました。鳥羽商船の水泳部は、練習メニューなどはなく自由に泳ぐことができます。

東海大会では一位でも、全国大会では入賞はできたものの７位と、応援してくださった皆さんには良い結果を届けることは出来ませんでしたが、全国の雰囲気を味わうことができました。水泳部の皆さんへ、来年の全国大会は長野県です。一緒に、〝遊びに〟行きましょう。

最後になりましたが応援してくださった方々、本当にありがとうございました。来年の全国大会ではもっとリラックスして臨み、表彰台に上がれるように頑張ります。

東海地区 高専体育大会

競　技	種　目	順位	学　生	全国大会
柔道	男子個人戦(66kg級)	準優勝	SN3 渡邉　剛	
	男子個人戦(66kg級)	３位	M5 潮田　剛	
ソフトテニス	女子団体	３位	J4B 井坂　美緒　J2B 向井　加奈美	
			J2A 松下　実穂　SN4 久保　綾菜	
			J1B 奥村　心暖　J1B 内田　絢菜	
剣道	女子団体	準優勝	I5 中川　碧海　SE3 山口　なづな	
			S2 谷口　有咲	
バドミントン	男子団体	準優勝	M5 本田　健斗　I5 森田　慶	
			J4A 三鬼　将磨　J4A 中川　一路	
			J1A 大久保　健太　J1A 荻田　龍斗	
	男子個人ダブルス	３位	M5 本田　健斗　I5 森田　慶	
水泳	男子 200m背泳ぎ	準優勝	SE4 松本　幹太	全国大会出場
	女子 100mバタフライ	優勝	S1 野中　亜耶	全国大会出場
	男子 200m自由形	３位	S1 戒居　靖人	
	女子 100m平泳ぎ	準優勝	S1 野中　亜耶	

高専体育大会以外の大会

競技・大会名	成績等	学　生
令和４年度 全国高等学校総合体育大会 少林寺拳法競技大会	男子団体演武　出場	J2A 野邉　優一郎　J2A 長埼　玄武
		J2B 前田　遥　J3A 西井　崚人
		J3B 水谷　怜慈　J3B 山下　惺太
		J2A 鈴木　奏羽
	男子組演武の部　出場	J3B 水谷　怜慈　J3A 西井　崚人
	男子組演武の部　出場	J2A 鈴木　奏羽　J2B 前田　遥
第 57 回全国商船高等専門学校漕艇大会	優勝	J2A 大西　成美　S2 久野　悠寿
		SE3 小川　竜馬　S2 橋詰　煌貴
		S2 中井　新太　S2 加藤　春輝
		S2 中井　一哲　J2A 北仲　一登
		SN3 田淵　風翔　SE3 小林　太紀
		S2 出口　禎朗　J2A 西　櫂寿
		SN3 西川　蘭丸　SN3 藤井　陽士

コンテスト実績一覧

アイデア対決・全国高等専門学校 ロボットコンテスト 2022　東海北陸地区大会
参考：https://official-robocon.com/kosen/

結果	備考
デザイン賞 特別賞（セメダイン株式会社）	B チーム

Wi CON 2021（高専ワイヤレス IoT コンテスト）
参考：https://kosen-iot-contest.jp/2021/result

結果	備考
海洋 SDGs 賞	

Wi CON 2022（高専ワイヤレス IoT コンテスト）
参考：https://kosen-iot-contest.jp/2022/saitaku-1-1

結果	備考
採択（２件）３月成果報告予定	電波利用システム利活用部門

第 33 回全国高専プログラミングコンテスト
参考：https://www.procon.gr.jp/wp-content/uploads/2022/10/3019b231c505b23846a1ee52a6bdfd0b.pdf

結果	備考
特別賞 敢闘賞	課題部門
敢闘賞	自由部門

DCON 2022（第３回全国高等専門学校 ディープラーニングコンテスト 2022）
参考：https://dcon.ai/2022/final-result/

結果	備考
本選結果　６位 QUICK 賞	企業評価額…３億円 投資額……6,000 万円

パソコン甲子園 2022
参考：https://pckoshien.u-aizu.ac.jp/final/#result

結果	備考
ベストアイデア賞	モバイル部門

インターンシップ

就職活動に向けて

商船学科機関コース5年
猪尾　武弘

私は昨年9月3日から10日までの7日間、福寿船舶にインターンシップに行きました。インターンシップで一番大切なことは、とりあえず、元気に笑顔で接することと思いました。

私はインターンシップでお世話になった会社に内定しました。就職活動では、主に学校の成績や海技士、ＴＯＥＩＣの点数などが重要視されますが、私の感覚としてはその人の性格や内面が良く見られている気がします。確かに資格や成績は大切ですが、会社としては、入社してから社員のみんなと船という閉鎖空間の中で仲良く出来る人を欲しがっていると思います。採用試験の面接では主に履歴書を見られますが、自分の個性や内面を出すには難しいと思います。その点インターンシップでは5日から10日間と時間がたっぷりあるので、自分を出せる時間がたくさんあります。ですから、インターンシップを実施している会社で、自身に興味がある会社があるならば、是非行くべきです。無かったとしても就職活動をいち早く始めることが出来るので、インターンシップには参加してみると良いでしょう。

インターンシップに参加して

情報機械システム工学科4年
奥村　貴哉

8月22日から26日までの5日間、エレベータやエスカレータを専門に扱うフジテック株式会社のインターンシップに参加させて頂きました。数ある企業の中からフジテックさんを選んだ理由は2つあり、実際に働くという漠然としたイメージを具現化するため、そしてエレベータやエスカレータの構造に興味を持っていたためです。

期間中は、私が知りたかった構造についての講義や、使用されている部品の紹介、そして今回のメインでもある実際のメンテナンス作業を体験させて頂くなど、沢山の経験をさせて頂きました。また、他高専の学生と会話する機会もあり、様々な知識を得ることが出来ました。

5日間で学んだことを、これからの進路決定に活かしていきます。

クラブ紹介

吹奏楽部の紹介

情報機械システム工学科3年
中村　謙介

私たち吹奏楽部は現在24名で活動しています。活動内容は学内外での演奏会が中心です。残念なことに、コロナの影響で思うように活動が出来ていません。でも、日々個人や少人数で練習しています。今年の海学祭では何とか演奏会が出来ました。

10月1日（土）にはマリーナ河芸で行われた「海のバリアフリーまつり」のイベントとして、四日市農芸高校吹奏楽部の演奏会に参加しました。コロナウイルスの影響で演奏会ができていなかった私たちにとって貴重な時間でした。人前で演奏する楽しさや緊張感、全員で1つの音楽を奏でる達成感など、再度実感することのできた場でした。演奏を聴いていただいた方々、招待してくださった農芸の吹奏楽部の皆さんにはとても感謝しています。

図書館改修に伴い、練習環境も劣悪にはなりましたが、今後も多くの方々に私たちの演奏を聴いていただけるよう練習を重ねます。

ソフトテニス部の紹介

商船学科航海コース3年
渡邉　源

現在、ソフトテニス部は、1年生12名、2年生14名、3年生6名、4年生13名、5年生7名、専攻科生1名の計53名が所属しています。この中には、中学時代からソフトテニスに慣れ親しんだ部員もいれば、高専に入学後、1から始めた部員も多々います。最近では、女子部員も増えてきて、念願の女子団体戦出場も果たすことが出来ました。部員は、学年問わず仲が良く、すぐに馴染める部活だと思います。活動日は、月～土曜日で月、金の2日は自主練です。活動時間は基本16時～18時です。年間の中で、7月に行われる高等専門学校体育大会（高専大会）を中心に高体連の試合などにも参加しています。

普段の部活は、1日1つは何かしら得られるように一人一人が熱心に取り組んでいます。

少しでも興味がある方は、テニスコートによってみてください！

（写真上：自主練日のコート）
（写真下：高専大会後の集合写真）

商船学科遠洋航海実習

『日本丸』での乗船実習

商船学科航海コース5年
寺本　秋水
川上　僚介

日本丸での実習の感想といえばやはり、コロナの影響を強く感じました。まず毎日の体温の測定。忙しさをひしひしと感じる実習中は、特に煩わしく思いました。

また船内で感染者が発生したことも印象深いです。冬休み明けの再乗船後、数日で体調不良者が出て簡易検査が始まるなど、船内が停泊中にも関わらず慌ただしく感じました。

船酔いが気にならなかったことが印象的です。酔い止めは常飲しませんでしたが、問題なく、揺れ方としても就寝の際、多少〝うっとうしく〟感じる程度で、鳥羽丸のひどい時の揺れよりマシと思うと精神的に余裕がありました。

長い実習の間で、様々な景色を見ることができました。

特に印象に残っているのは、奄美大島です。

実習中、何度も心が折れそうになりましたが、奄美大島を見る度、〝まだ頑張れる〟そう思えました。

日本丸の食事は、とてもおいしく、印象に残った夜ご飯は、牛のステーキと鯛の塩焼きが同時に出てきたことです。

航海当直では、班で一丸となって実習しました。夜の0時から当直することもあれば、朝4時からすることもあり、全てが新鮮で、当直が終わった後の解放感はとても気持ちが良かったです。

船酔いで、立つことも出来ない状態なった時もあり、練習船の教官に「そんな理由で仕事は休めないぞ」と言われたが印象に残っています。

長期実習では全てが良い思い出になりました、次の実習でもより多くのことを学び、たくさんの思い出を作りたいです。

『銀河丸』での乗船実習

商船学科機関コース5年
南方　理玖

私達は、4年生の後期に練習船『銀河丸』で12月から約4ヶ月間乗船しました。本来は、2年生の1か月乗船が出来なかった分を合わせ、10月から6ヶ月間の乗船実習のはずだったのですが、新型コロナの影響で実乗船期間が2か月短縮され、その期間の実習は自宅での課題学習となりました。また、初の長期乗船でしたので、はじめの2週間は慣れない船上生活で苦労しました。しかし、段々と体が揺れに慣れて気にせず、実習に集中できるようになりました。

学校では新型コロナの影響で実験実習がほとんど出来ず、分からない部分も多かったのですが、乗船中は実際に機器を動かしたり、点検や分解、組み立てたりと実践的な実習でしたので、これまで学校で勉強してきた内容が次々に繋がっていきました。

実習以外では、神戸や別府を観光したり、自由時間に集まってゲーム大会や勉強会を行ったりと4ヶ月で多くの忘れられない思い出になりました。また、5高専の同級生に会ったのも今回が初めてでしたが、すぐに意気投合し、みんなと共に生活していく中で、毎日がとても楽しくなりました。

就職活動で体験乗船した際、船社でも銀河丸で実習していたことと同じ作業をしていたので、今回の実習経験は非常に重要な経験だったことを確信しました。実習内容をしっかりと身に付け、就職後に機関士として活かせるようにしていきたいと思います。

学生寮

寮務主事からの挨拶

寮務主事　橋爪　仙彦

暁寮、女子寮では、昨年度に引き続き、新型コロナウィルス感染症への対策を第一に考えた集団生活を継続しています。寮生の皆さんがコロナ禍での生活で気を抜いてしまわないように、日頃よりマスクの着用はもちろん他人の居室に入らないこと、食堂や浴室、補食室など人が集まりやすい場所での行動など日々の生活での心がけに注意した生活を送ってもらっています。また、今年度も個室対応を行っていますが、寮というのは集団生活の場であり、暁寮・女子寮の規律を守って生活することも当然求められます。例年通り、寮生会役員の選挙を行い、寮生会の代表である役員と寮務主事室の間で週に一度のペースで定例会を催しています。その場において、寮内の規則のあり方についても話し合いを継続しています。また、防災の観点から火災や地震を想定した避難訓練も継続しています。誰もが安心して安全に過ごせるような寮になればいいと思いながら、日々の寮生活を見守っていきたいと思います。

学生寮の紹介

商船学科航海コース5年　古城　怜士

県内外から多くの学生が集う暁寮は、A棟、B棟の2つに分けられており1～5年生までの学生たちが共同生活を送っています。今はコロナ対応で全室1人部屋で、ｗｉ－ｆｉも完備されています。食事や風呂、洗濯、トイレなどは共同であり、寮独自のルールや時間が決められています。決められたことを守ることで共に暮らす仲間の気持ちを尊重し、楽しく、充実した寮生活が送れます。

毎週月曜日には、寮生会役員と各委員長、世話係学生、寮務主事室の先生方と「定例会」という話し合いの場を設け、より良い寮にするために1時間程度の意見交換を行なっています。

現在は、コロナ禍の中の寮生活においてコロナ感染者を出さないように食堂や風呂場の人数制限、他人の部屋への出入り禁止など様々な規制が強いられています。その中で全員が少しでも住みやすく豊かに過ごせるように切磋琢磨しています。

女子寮の紹介

商船学科機関コース5年　服部　彩喜

女子寮は、現在1年生から5年生まで、合計30名で生活しています。

女子寮生が安心して生活するために、寮内には防犯設備が整えられています。女子寮の周囲のフェンス、1階窓の鉄格子、各居室のブラインド等が完備されているほか、出入口は決められた時間になると自動で施錠されます。そして、夏季休暇中には新たに防犯カメラの設置が行われ、さらに設備が強化されました。

日課やルールは男子寮と同様で、コロナ禍ということもあり制限の多い中での生活を送っていますが、寮生一人一人の協力や配慮のお陰で日々の洗濯や入浴など円滑に行われています。今年度の寮生活も残りわずかですが、制約の中にも楽しみを見つけ、共同生活の中で成長していけると良いと思います。

寮行事予定

4	入寮式
	新入寮生オリエンテーション
	新入寮生と在寮生との対面式
	寮生集会(寮役員等選出)
	寮生防災訓練（火災）
	新入寮生歓迎球技大会（2022年は中止）
	新入寮生個人面談
5	寮生会役員校長面談
	新入寮生部屋替え（2022年は中止）
6	寮生歓迎バーベキュー大会（2022年は中止）
7	七夕行事
8	閉寮式
	寮生大掃除、S4退寮、閉寮前点検
	寮生帰省、閉寮、閉寮点検

9	寮生帰寮、開寮式
	寮生集会(寮役員等選出)
10	寮生防災訓練（夜間・地震）
11	寮生校長面談
	インフルエンザ予防接種
12	寮生クリスマス会
	大掃除、閉寮前点検、閉寮式
	寮生帰省、閉寮、閉寮点検
1	寮生帰寮、開寮式
	卒業を祝う会
2	寮生大掃除、閉寮前点検、閉寮式
	1～4年生寮生帰省閉寮(10:00)、S5寮生退寮

国際交流プログラム

本校におけるグローバル教育及び国際交流の推進を図るため、グローバル教育推進室を中心として、毎年多くの国際交流プログラムを実施しています。主なプログラムは、次のとおりとなります。

①ＭＥＬキャンプ
交流協定を締結しているＳＭＡで実施しているＭＥＬキャンププログラムへ派遣しています。期間の前半はＳＭＡでの語学研修を実施し、後半は客船内で研修を実施しています。
また、現地日系企業への訪問も実施しています。

②ＫＣＣ国際インターンシップ
アメリカのハワイ州カウアイ島にて、伝統的な航海カヌー“NAMAHOE”航海訓練、維持作業等を経験し、異文化間を含めたコミュニケーション能力を培います。また、期間中の前半では語学研修を中心とした座学を行います。

③日タイ高校生ＩＣＴフェア
日タイ高校生ＩＣＴフェアへの参加を通じて学生のコミュニケーション能力と学術能力の向上を図ります。開催中は分科会での発表やフィールドワークなどを行いながら、交流活動を行います。

④ＳＰプロジェクト
高専機構と包括協定を締結しているシンガポールポリテクニク（ＳＰ）との交流事業であり、ＳＰ学生が主体となるプロジェクト型学習（ＰＢＬ）と本校学生協同のフィールドワークで構成されています。

国際交流プログラム

事　業	実施場所
ＭＥＬキャンプ	シンガポール
ＫＣＣ国際インターンシップ	オンライン
日タイ高校生ＩＣＴフェア	タイ
SP project in TOBA	鳥羽

令和４年10月26日に開催された国際交流報告会（KCC国際インターンシップオンラインプラグラム（令和４年２月～３月）について）の様子

教員の活躍

論文賞受賞について

一般教育科　准教授　田中　秀幸

令和3年に、共同研究者の荻原氏（東京大学）との共同研究が評価され、日本応用数理学会論文賞を受賞しました。研究の内容について語ると長々とした説明になりそうですので、ここではかわりに「研究に取り組むとはどういうことか」を書きたいと思います。

数学の研究の場合は、おそらく研究している時間の99％は、わからないことを考えている時間です。問題が解けてうれしいという時間はめったにありません。学生の皆さんは、授業でわからない問題があったときに、教官や周りの友人にヒントを求めず、自分ひとりでずっと考え続けることを想像してみてください。そのように、わからないことを考え続ける時間を楽しいと感じるなら、研究者になる適性があるかもしれません。現在の成績に関係なく、大学・大学院への進学を意識してみてはいかがでしょうか。

学生会活動

学生会活動について

学生会会長　澤村　健

学生会会長をしております澤村健です。我々学生会はピアサポーター養成トレーニングを通した他高専との交流や体育祭・海学祭の運営など、幅広い活動をしております。

9月17日に行われたピアサポーター養成トレーニングは、互いにサポートし合える学生を養成することを目的とし、学生会役員の他に、各クラブの代表、寮生会役員が参加しました。また、鈴鹿高専の学生会役員にも参加していただきました。

コミュニケーションスキルの取得を目的としたグループワークでは、学科や学年、部活動の壁を越えて、フラットな形で取り組むことができました。我々学生会は、部活動のように大会等がないため、他高専との交流を深める貴重な機会となりました。今後も学内外問わず積極的な交流ができればと思っております。

また、6月8日に行われた体育祭は、コロナ感染症の影響から2年間開催することができておりませんでしたが、今年度、満を辞して開催することができました。しかし、未だコロナウイルス感染症の影響はあるため、新競技として、直接的な接触の少ないeスポーツを導入する他、過去2年間の海学祭の中で培った技術を活かした配信や映像コンテンツを導入することで、開催することができました。

現在は、海学祭の開催に向けて準備を進めております。今年度は模擬店の出店を行う他、一般来場者を受け入れる等から、3年ぶりに「本来の」海学祭が帰ってくる予定です。対面開催の経験がない学生が半数以上であることを逆手にとって、新たな取り組みを織り込み、3年前の対面開催から、さらにパワーアップした形を目指しております。学生はもちろん、学外の来場者の皆様にも十分に楽しんでいただける海学祭を作り上げてみせますので、ご期待いただきたいと思います。

（4・11・5執筆）

会議風景

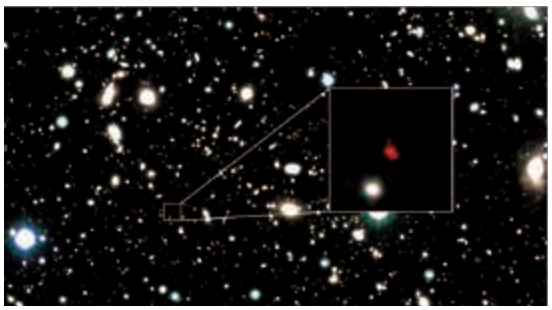
集合写真

研究成果について

一般教育科　准教授　山中　郷史

私も参加をしている、東京大学宇宙線研究所の播金優一助教と早稲田大学理工学術院先進理工学部の井上昭雄教授を中心とする国際研究チームは、135億光年かなたの宇宙に存在する明るい銀河の候補、HDIを発見しました。

発見された銀河は非常に明るく、現在までに見つかっている銀河の中では、最も遠い候補になります。宇宙年齢は138億年と考えられているので、135億光年かなたの宇宙はビッグバン後3億年の宇宙を意味します。人の感覚では3億年と聞くと非常に長く感じてしまいますが、ビックバン後わずか3億年の宇宙に、このような非常に明るい銀河が既に形成されていたことはとても興味深いです。こちらの銀河候補は昨年打ち上げられたジェイムズ・ウェッブ宇宙望遠鏡の第1期観測のターゲットにもなっていて、今後の観測とその結果がとても楽しみな天体です。



図：今回発見された最遠方の銀河候補 HD1 の画像です。拡大図の中心にある赤い天体が、最遠方銀河候補 HD1 です。色は VISTA 望遠鏡による 3 色の観測データを合成して疑似的につけています。（クレジット：Harikane et al. 2022, ApJ, 929, 1; doi:10.3847/1538-4357/ac53a9）

R4.1 ～ R4.12に締結した協定一覧

●鳥羽商船高等専門学校と中電シーティーアイとの包括連携に関する協定
（締結日：令和４年１月14日）
　鳥羽商船の持つ教育研究資源ならびに地域に密着したこれまでの活動から得たノウハウと、中電シーティーアイの幅広い分野のＩＴ技術を通じて、地域社会の持続的な発展に資する活動の展開を目的としています。

●皇學館大学と鳥羽商船高等専門学校等の包括連携協定に関する協定
（締結日：令和４年６月24日）
　皇學館大学と鳥羽商船高等専門学校が包括的な連携・協力のもと、文理の枠にとらわれず、分野横断的な視点から、実社会での課題を発見・解決し、新たな社会的価値を創造する資質・能力を持った人材の育成（STEAM 教育）を推進することを目的としています。

●鳥羽商船高等専門学校と三重県との包括的連携に関する協定
（締結日：令和４年８月31日）
　三重県産業の振興や地域の活性化に貢献する人材を育成するとともに、地域課題に迅速かつ適切に対応し、活力のある個性豊かな地域社会の形成、発展に寄与することを目的としています。

●海のシリコンバレー「伊勢志摩海洋教育研究アライアンス」に関する協定
（締結日：令和４年10月１日）
　伊勢志摩地域に拠点がある地方公共団体、高等教育機関、公的研究機関、地元企業が海洋・水産に関わる教育活動、研究活動及び地域連携活動を通し、地域社会の発展に寄与することを目的としています。

公開講座と出前授業一覧表

公開講座一覧　サイテクランド in 鳥羽商船高専　2022

講座名称
※船員の仕事 in 鳥羽商船（鳥羽クルーズ）
ビー玉スターリングエンジン
ことばのイメージとグローバルについて
英語高速学習（中１で英検３級へ）
おもしろ理科実験
IchigoJamでマイコンプログラミング
光を知り、使い、役立てる （天体望遠鏡を作ってみよう & レーザー加工機でモノづくり）　小学生向け
光を知り、使い、役立てる （天体望遠鏡を作ってみよう & レーザー加工機でモノづくり）　中学生向け
レーザー加工機を用いたアクリルスタンド作成
3D CAD，3Dプリンタ
サイバーセキュリティ体験学習

※は新型コロナウイルス感染症の影響及び悪天候により中止しました

出前授業一覧

講座名称
タブレット端末を活用したプログラミング学習
プログラミング教室
高校授業体験講座
プログラミングに関する出前授業
LEGOロボットを作ろう

ビー玉

天体望遠鏡

令和4年9月23日
挙行されました

商船学科
卒業式の様子

編集後記

　学校だよりVol.94いかがでしたか？　学校の動向や、学生が課外活動やコンテスト等に、一生懸命に取り組んでいる様子が伝わったのではないかと思います。新任教職員紹介や教員の活躍等、普段はあまり目にする機会が少ない情報も載せています。興味を持って、じっくりと読んでいただけると幸いです。末尾になりましたが、本号発行にご協力いただきました皆様には心より感謝申し上げます。（林記）

学校だより Vol.94
独立行政法人国立高等専門学校機構
令和４年12月発行　鳥羽商船高等専門学校　広報･公開委員会「広報誌専門部会」
三重県鳥羽市池上町1番1号　TEL 0599-25-8013　https://www.toba-cmt.ac.jp
バックナンバーは右のQRコードまたは本校ホームページからご覧ください。
▼バックナンバー

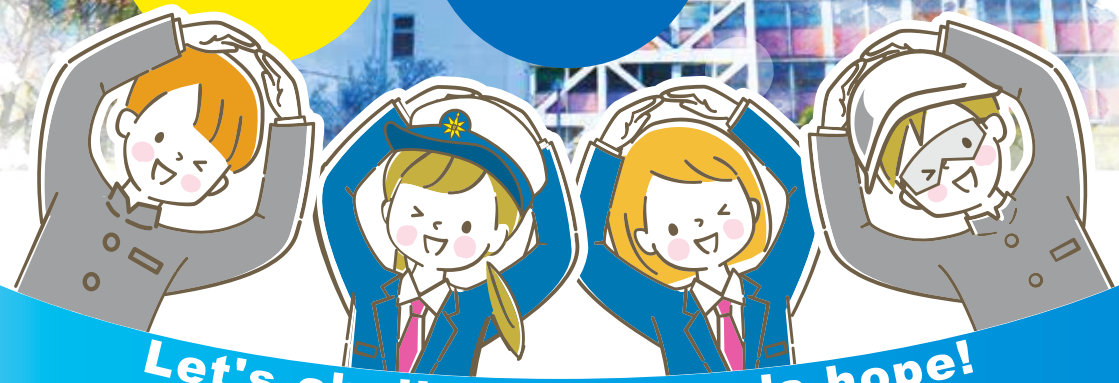
独立行政法人国立高等専門学校機構

鳥羽商船高等専門学校

2023年 学校案内

情報機械システム工学科

商船学科



Let's challenge towards hope!

自ら選んで身に付ける！
なりたい自分になろう！

鳥羽商船高等専門学校は
専門的な知識やスキルを身につけた
社会に必要とされる技術者を
輩出し続けています

教育目標

1 人間性豊かな教養人となること
2 創造性豊かな技術者となること
3 国際性豊かな社会人となること

寮とグラウンド
校舎
近鉄線
最寄り駅まで
徒歩10分！
艇庫
鳥羽丸

教育理念

進取・礼譲・質実剛健

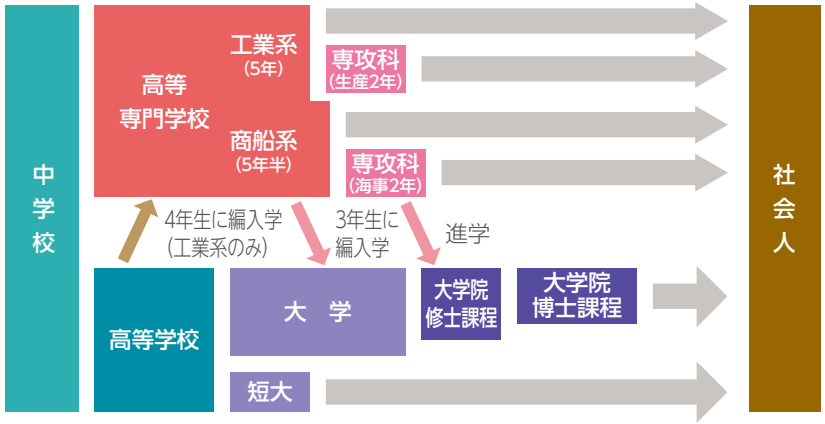
情報
機械システム
工学科
80名

商船学科
40名

高専って？

専門的な知識やスキルを
身につけることができるんだ

高校と同じ一般科目はもちろん、実験や実習を重視した専門科目を学ぶことのできる、特色・魅力のある教育をおこなっています。



高等専門学校（高専）は技術者になるための勉強をする学校で、大学と同じ高等教育機関に属しています。高専では高校と大学の7年間の教育内容を5年間（商船学科は5年半）で学びますが、実験・実習などの体験型の授業を多く取り入れているのが特長です。さらに専門的な勉強だけではなく、数学や英語、国語、理科、社会などの一般科目もある、充実した学校といえます。

Contents　目次

鳥羽商船高専を選んだ理由 …… 6
5年間の歩み …… 8
キャリアパス …… 10
年間スケジュール …… 13
学生（通学生）の一日 …… 14
クラブ・同好会活動 …… 16
国際交流 …… 17
キャンパスMAP …… 18
商船学科 …… 20
情報機械システム工学科 …… 22
コース制・ユニット制について …… 24
一般教育科 …… 26
専攻科 …… 27
学生寮 …… 28
コンテスト出場までの道のり …… 30
学生の活躍 …… 32
進路 …… 34
経費・寮費 …… 36

鳥羽商船高専を選んだ理由

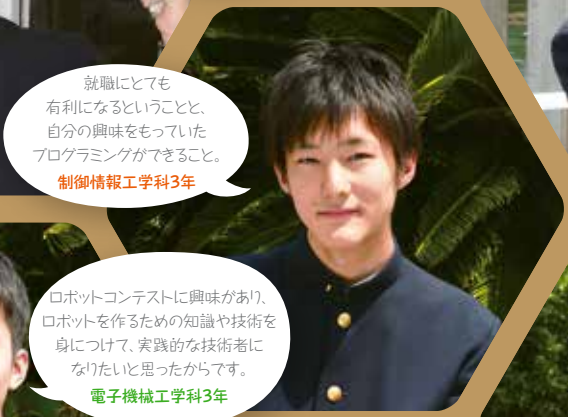
自由性が高く
情報系に特化したこの学校は、
幅広い知識と技術を学ぶことができ、
就職率が約100%と圧倒的に
ほかの高校に比べて高く
卒業後に就職を考えていた
自分にはピッタリだったからです。
情報機械システム工学科1年

船と海が好きで入学しました。
寮生活も学校生活も
毎日が充実していて楽しいです。
商船学科1年

中学校の頃から船に興味があり、
早い時期から専門的なことを
学べるので、この学校に進学しました。
商船学科2年

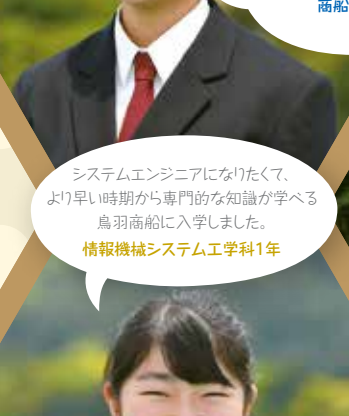
小さい頃から
乗り物や機械が好きでした。
港で大型船を見た際に
船の壮大さに魅せられて
入学を決めました。
商船学科3年

海のない県に住んでいて、
小さい頃から海に興味がありました。
父が船好きでその影響もあって
受験を決意しました。
商船学科3年



就職にとても
有利になるということと、
自分の興味をもっていた
プログラミングができること。
制御情報工学科3年

小学5年生の頃から
パソコンを触る職業に就きたいと思い
進路を考え鳥羽商船に進みました。
情報機械システム工学科1年



システムエンジニアになりたくて、
より早い時期から専門的な知識が学べる
鳥羽商船に入学しました。
情報機械システム工学科1年

ロボットコンテストに興味があり、
ロボットを作るための知識や技術を
身につけて、実践的な技術者に
なりたいと思ったからです。
電子機械工学科3年

就職に強く、大学への
編入も狙えるという柔軟性の高さが
この学校を選ぶ決め手になりました。
電子機械工学科3年

僕がこの学校を選んだ理由は、
専門分野に関する知識を
一から学ぶことができるからです。
電子機械工学科2年

入試日が早いという点と、
他の学校では学べない事を学べる
という点に惹かれて入学しました。
制御情報工学科2年

小さい頃に
船に憧れを抱き、
将来は海運関係の仕事に
就きたいと思ったので
入学しました。
商船学科1年

外国航路の航海士・船長に
なりたくて入学しました。
学習環境が整っており
成長できる学校です。
商船学科5年

私がこの学校を選んだ理由は
プログラムを学び、
私の将来の夢の
プログラミングに関する
仕事をしたいからです。
情報機械システム工学科1年

私は鳥羽商船の
コンテストへの積極的さに
魅力を感じ入学しました。
部活動にも力を入れていて、
勉強も両立できる
すばらしい学校だと
思ったからです。
制御情報工学科2年

**鳥羽商船高専では、普通の高校では
経験できないことがたくさんできます。**

情報機械システム工学科について

2019年4月から電子機械工学科と制御情報工学科を統合し、情報機械システム工学科になりました

※写真と学年は
令和元年5月現在です。

5年間の歩み

駆けろ青春!

入学してすぐ
初めての行事!
新入生同士
仲良くできるかな?

シンガポールからの
留学生と一緒に
記念撮影★

体育祭!
空も晴れ、今年こそは
うちが勝つ!

みんなで
鳥羽丸に乗船だ!
酔わないように
気をつけろ!

やるぞ!!

基礎から
しっかり!

授業が
だんだん
専門的に!

4年生から
私服だよ!

ハワイで実習!?
遊びではないですよ!
でもちょっとくらい★★★

大企業を訪問。
オフィスを体験
してきました!

卒業だー!

1年生

入学

2年生

フィールドワーク

3年生

専門実習

4年生

長期乗船実習

工場見学

5年生

卒業研究

情報機械
システム工学科
卒業

+6か月

長期乗船実習

商船学科
卒業

キャリアパス
(30歳くらいまで)

20歳

スタート

進学か
就職か
進むルートを
決める

就職ルート

電子機械工学科
平成27年卒
西浦 和輝さん
ANAラインメンテナンス
テクニクス(株)

飛行機好きにはたまらない職場です!

商船学科
平成25年卒
角田 真一さん
八馬汽船(株)
三等航海士

社会人1年目の年収は600万超えてました。辛いこともあったけど、鳥羽商船高専を卒業して良かったです。

制御情報工学科
平成24年卒
平松 清美さん
東海旅客鉄道(株)(JR東海)

電気基礎やプログラミング等、学んだ基礎知識がとても役に立っています

私の作ったシステムが大企業で毎日動いてます!

電子機械工学科 平成27年卒
前川 実悠さん
(株)NTTファシリティーズ関西 大阪事業部

現在、NTTの通信を守るためにNTTビルにおける電力設備の保守点検を行っています。業務としては、電気事業法や消防法で定められている点検、故障修理、通信が切断された場合の駆け付け対応などです。多くの利用者がいるNTTの通信を守ることで、お客様との繋がり・やりがいを実感できます。また、主体的に作業ができるので自分も成長できる職場です。

制御情報工学科 平成24年卒
木下 実優さん
日本ヒューレット・パッカード(株)

専攻科ルート

詳しくは27ページへ

大学院進学

電子機械工学科 平成29年卒
奥田 崇礼さん
豊橋技術科学大学

高専で得た知識が研究に役立っています!

国公立大学へも進学しています

大学編入ルート

卒業後5年で年収800万!
これまで7隻に乗船。(ヨーロッパ、中東、アメリカへ行く航路)

商船学科 平成22年卒
鬼頭 和江さん
川崎汽船(株) 三等航海士

青年海外協力隊に2年間参加しました。

青年海外協力隊学生と一緒に

電子機械工学科
平成16年卒
菅井 河奈子さん
駐日ケニア共和国大使館

次ページへGo!

先輩の選んだ道は?

キャリアパス
(50歳くらいまで)

制御情報工学科 平成16年卒
阪 知佳さん
ニプロファーマ(株)

趣味:お菓子作り、バイクツーリング
家族:夫

こんにちは! 制御情報工学科卒業の阪知佳です! 現在は医薬品大手のニプロファーマに転職し、生物系の検査からスタートして結婚を期に総務に転籍しました。経理システムや勤怠システムの導入補佐をしています。一見、学校で勉強したこととは無関係な職に見えますが、幅広く習得した知識は現在も役に立っています!

商船学科 平成元年卒
亀山 真吾さん
川崎汽船(株)　機関長

趣味:ウォーキング、模型製作
家族:家内、息子の3人で、
東京都内のマンション暮らし

平成元年に入社し、世界一周航路の自動車船へ初乗船しました。陸上勤務では英国ロンドンで4年間の海外駐在も経験し、40歳代前半に機関長としてコンテナ船やLNG船に乗船しました。現在は、本社技術グループにて最新の省エネ・低環境負荷船の設計・計画の業務をつとめています。日々大好きな船や機械にたずさわることに喜びを感じながら、自身の技術力を最大限発揮出来るよう頑張っています。

前ページより

商船学科 平成8年卒
福屋 編里さん
日本郵船(株)　船長

年間スケジュール

春
- 入学式
- オリエンテーション(1年生)
- 前期中間試験
- 保護者懇談会
- 体育祭

夏
- 高専体育大会
- 全国商船高専漕艇大会
- 前期期末試験
- オープンキャンパス
- 公開講座
- 卒業式(商船学科)

秋
- 全国高等専門学校
  プログラミングコンテスト
- 全国高等専門学校
  ロボットコンテスト
- 海学祭(学校祭)
- 後期中間試験
- フィールドワーク(2年生)
- 工場見学
  (情報機械システム工学科4年生)
- 保護者懇談会

冬
- 就職支援セミナー
- 後期期末試験
- 卒業研究発表会
- 卒業式
  (情報機械システム工学科)

学生の一日

（通学生の例）

- 7:00 起床
- 7:45 登校
- 8:25 池の浦駅着
- 8:50 1-2限目開始
- 10:30 3-4限目開始
- 12:00 昼食
- 12:50 5-6限目開始
- 14:30 7-8限目開始
- 16:00 放課後
- クラブ・学生会など
- 18:30 下校
- 19:30 帰宅

楽しい1日がはじまる!?

登校中の学生達

1-2限 一般科目

3-4限 専門科目

5-6限 電算室

7限 ホームルーム

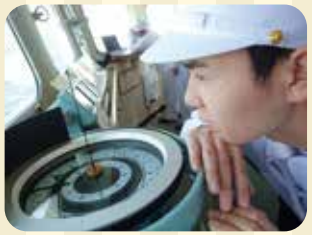
部活で汗を流します

高校と同じような科目が8割

3年生になると専門科目が約半分を占めます

4年生以上は大学並みの時間割になります

曜日	時限	全学科 1年生の例	情報機械システム工学科 3年生の例	商船学科 4年生の例 航海コース	商船学科 4年生の例 機関コース
月	1・2	EC1	キャリアデザイン1	天文航海学	流体力学
	3・4	基礎数学1	化学	船舶通信概論	
	5・6	専門実験実習	機械製図 機械加工実習		ドイツ語 1
	7・8				ドイツ語2
火	1・2	物理1	情報工学3	英語 1	
	3・4	保健体育1	Level Up English1	小型船舶論	
	5・6	芸術	保健体育3	海事法規	舶用補助機関学 2
	7・8			海事英語	
水	1・2	国語1	現代社会	哲学	
	3・4	EE1	国語3	船舶安全論	内燃機関学 2
	5・6	一般基礎教育 1	プログラミング 2	キャリアデザイン2	
	7・8	ホームルーム	ホームルーム		
木	1・2	歴史1		スポーツ1	
	3・4	EC1	工業力学 1	国語表現	
	5・6	基礎数学1	代数・幾何2	理科応用 1	
	7・8		工学数理基礎 1	測位システム論	
金	1・2	専門科目講義	Level Up English1		
	3・4	専門科目講義	微分積分 2	航海実務	機関学実務
	5・6	基礎数学3	PBL 3	航海学実験	舶用機関学実験2
	7・8				



クラブ・同好会活動

クラブや同好会も充実！

本校には、カッター、少林寺拳法、剣道、陸上競技、サッカー、ソフトテニス、卓球、バレーボール、バスケットボール、バドミントン、水泳、柔道等の運動部と吹奏楽、写真、ESS、文芸、ロボコンの文化部があり、大半の学生はいずれかの部に入部してクラブ活動に励んでいます。同好会もたくさんあります。運動部は地区、県の大会や高専大会に参加するなど校外試合も盛んに行われています。

ソフトテニス部

サッカー部

カッター部

バレーボール部

バスケットボール部

少林寺拳法部

水泳部

卓球部

陸上部

剣道部

ESS

バドミントン部

ロボコン部

吹奏楽部

写真部

文芸部

主な成績、功績を
32ページで紹介します

国際交流

世界へはばたこう！

ニュージーランドの他
シンガポール・ハワイでの研修など、
多くの国際交流行事があります。
また、ネイティブの先生が常駐し、
留学生も在学しています。

ハワイ・カウアイ
コミュニティカレッジでの
英語研修で。

英語が通じた！

鳥羽でも
英語の勉強は
できます！

シンガポールから
来日した学生と

ニコルソン先生

日・タイ、サイエンスフェアに
オンライン参加。

Learning English
can be fun and useful!
Millions of people speak English,
and you can speak it, too!
Don't forget to say hello
if you see me!

ニュージーランドで
就業体験

※令和2年度・令和3年度については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より
オンライン等で交流を実施しております。

キャンパス MAP

豊かな自然に囲まれた充実の学習環境!

10 荒天航泊実験棟

大きな水槽で船の性能を調べます。波や風を起こせる水槽もあります。

11 第一体育館
12 第二体育館

13 寮地区

詳しくは28ページで

9 実習工場

様々な大型機械がそろっています。実習のみならず、ロボコンのロボットの部品も作ります。

8 ものづくり工房

ロボコンなど大きなモノ、動くモノをつくるコンテスト等の活動拠点!

7 百周年記念資料館

6 潮騒会館(学生食堂)

5 情報メディア教育センター

マルチラボ

クリエイティブラボ

図書館

地域の方もご利用いただけます

1 1号館(教室・事務室)

2 2号館(商船学科)

操船シミュレーター

3 3号館(情報機械システム工学科)

4 4号館(専攻科)

14 艇庫

15 桟橋・鳥羽丸

最新情報をFacebookでお届けしています

商船学科

教室は船、
キャンパスは海
荒波を超えて行け！

鳥羽丸のメインエンジンで実習

練習船
「鳥羽丸」

船の法律や構造など基礎を学ぶ「座学」と、実際に操縦したりエンジンを動かしたりする「実験・実習」を組み合わせたカリキュラムです。

コースの紹介

●航海コース

船の運航を指揮する航海士、将来の船長を養成するコースです。船の動かし方だけでなく星や天気、法律なども学びます！

●機関コース

船のエンジンなどあらゆる機器を管理する機関士、機関長を養成するコースです。エンジンだけでなく上下水、空調、電気、制御など、すべての機械のエキスパートになります！

資格について

船舶で職員として働くためには、海技士免状や様々な資格が必要です。以下の資格が卒業時に取得および受験可能です。

- ●三級海技士(航海)
  または 三級海技士(機関)
- ※無線従事者
- ※小型船舶操縦者
- ●船舶局無線従事者証明
  (航海コースのみ)
- ●三級海技士(電子通信)
  (航海コースのみ)

※在学中に指導を受け、多くの学生が取得しています。

合い言葉は“海が好き”
めざせ、新卒年収500万！

1年 海、船を感じる

仲間と力を併せて、いざ大海原へ！

はじめてのエンジン見学。

2年 1ヶ月間の乗船実習 コース決め

号鐘(ごうしょう)をピカピカにお手入れします。

船での食事は、おいしいな。

3年 コース別授業 実験実習

操船シミュレータで訓練。

機関シミュレータで訓練。

4年 5ヶ月間の乗船実習 船で海外へ

太陽の高さを六分儀で測るぞ!

消火講習でのひとこま

5年 卒業研究

最後の鳥羽丸実習

5年間で身につけた技術・知識をプレゼンします。

6年 半年の乗船実習 そして卒業

このあと受験する三級海技士の免許が本当の卒業証書！

情報機械システム工学科

もの創りの未来は私たちの中にある!

80名が自分のパソコンを使って受ける授業の様子

情報機械システム工学科ではプログラミングを始めとする工学基礎を学び、「情報」「電気電子」「機械」について順に学習します。上級学年は自らの個性や特性に合わせて「専門性」「志向性」を決定するオーダーメイド型カリキュラムです。

また、地域課題を解決するPBL(Project Based Learning)チームに1年生から所属し、机上の学習に留まらず、地域産業や文化を理解し工学的な解決法を提案できる実践的技術者を目指します。

1年

1年生から専門科目を学びます。初めての科目に、ドキドキです。

3Dプリンタで出力しました。

自分のパソコンでプログラミングをすることにも徐々に慣れていきます。

2年

情報と機械を組み合わせたシステムを作るには電気の知識が必須です。

様々な工作機械で機械加工を体験します。

実際に電気回路を作り授業で学んだ知識を確認します。

3年

専門科目は大学の工学部で勉強するような内容になります。

勉強して得た知識を活用して、地域の問題解決に取り組みます。

立体をパソコンで図に表しています。

4年

高学年になるとグループワークもリーダーシップが必要です。

PBLの一環でVRゴーグルを使ったシステム作成を検討しています。

就職や進学を考えるグループワークで自分たちの適性を話し合います。

5年

研究開発の現場に近い実験実習をおこないつつ、卒業研究にも取り組みます。

卒業研究では、新しい技術に挑戦します。

卒業研究発表会。5年間の集大成です。

卒業研究

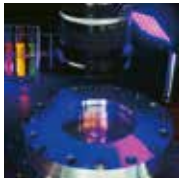
5年生では、大学のように各教員の研究室に所属して卒業研究をおこないます。その一例を紹介します。

骨格情報を用いたスポーツの動作分析

スポーツの上達にはどのような動きをしているか知ることが大事です。ソフトウェアで関節の座標を分析して動きを数値化します。

電線の劣化に関する研究

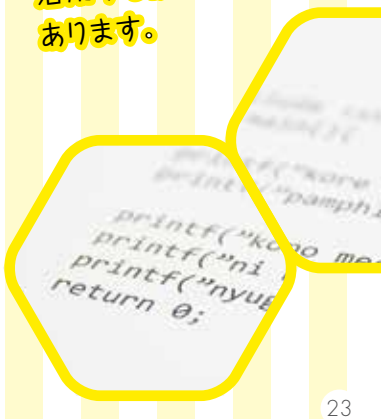
送電線などに用いられる高電圧電線の劣化や耐久性について研究しています。



圧力/温度の非接触計測

感圧/感温塗料という特殊な塗料を使って、物体表面の圧力/温度分布を可視化計測する研究をおこなっています。

3Dプリンタを活用する授業もあります。



コース制について（商船学科）

コース選択

教育目標に合わせて、どの授業をどの学年で学ぶかを決められたカリキュラムにそって学習します。入学時に選んだ学科で基礎学力や専門知識を徐々に身につけていきます。２年生の最後に船長をめざす航海コースか機関長を目指す機関コースを選択してコースごとに決められた内容を学習します。

1年

練習船「鳥羽丸」での実習の他、海技実習、航海概論、機関概論といった船に関する基本的なことや、普通科高校で学ぶ国語や英語、数学、理科、社会、芸術なども学びます。

2年

船舶工学や電気電子などといった、専門性の高い授業が増えてきます。学年末の3月には航海コース、機関コースのコース選択に備えた1ヶ月間の大型練習船実習があります。

大型練習船実習（1ヶ月）

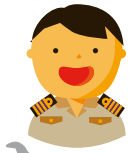
3年

航海コース

気象や、操船、法律や輸送安全など、船を操るために必要な知識を学ぶ他、実験実習も始まります。

機関コース

船を動かす機械やその機械を動かすための補機、電気、制御について学ぶ他、実験実習も始まります。



4年

大型練習船実習（5ヶ月）

5年

選択科目も増え、船舶運航に関わる専門知識を学びます。これまで学んだことを活かし、卒業研究を行います。

6年

選択科目も増え、船内にある機械全般の専門知識を学びます。これまで学んだことを活かし、卒業研究を行います。

大型練習船実習（6ヶ月）

※大型練習船実習の時期は変更になることがあります。

ユニット制について（情報機械システム工学科）

オーダーメイドカリキュラム

低学年から地域課題を解決するチームに入ったり、国際交流プログラムに参加したりします。高学年になると専門を決めて興味のある授業を選んで自分の進路に合わせた内容が学習できます。

専門性ユニット（1分野必須）技術者としての専門分野の学習

データアナライズ	ビッグデータ解析、人工知能による認識処理などを実装できる技術者を育成します。
モバイルアプリケーション	スマートフォンやタブレット端末による各種アプリケーションを開発できる技術者を育成します。
スマートセンシング	身の回りにある情報を定量的に計測し、分析・可視化を行う技術者を育成します。
パワーエレクトロニクス	住宅や事務所向けの電力供給・管理システムの整備、保守を担う技術者を育成します。
エアロスペース	航空宇宙産業の製造現場で活躍するため、生産現場の管理運営能力を持つ技術者を育成します。
ロボティクス	生産を担うロボットの開発、設計、製作、制御、整備ができる技術者を育成します。

志向性ユニット（選択）職種選択のための学習

開発・設計	開発・設計業務に携わるために必要な高度な理数系の知識を修得します。
生産技術	生産現場の取りまとめとして幅広く技術を理解し、各部門の要望をまとめる調整能力を培います。
顧客対応	電気機器やビルシステムの導入・保守運用をするための顧客との交渉力を養います。
ビジネス基礎	ビジネス的な視点を持つ技術者として活躍するために、経営・管理などを学びます。
国際性	グローバルな視野を持ち、英語を中心とした語学力の向上を進めます。

一般教育科

基礎も大切に

英語の授業

高専では、国語、数学、外国語、理科、社会、保健体育などの一般科目も学びます。豊かな教養が創造力の源になります。

英語の授業

真剣そのもの

重力加速度の実験

難しい数式も出てきます

先生が親切に教えてくれます

友達と英会話の練習中

専攻科

創造性豊かなスペシャリストを目指して!

生産技術セミナー

技術者としての視野を広げるための授業科目、専門性や創造性を高めるための実験や特別研究に力を入れて取り組んでいます。

海事システム学専攻

本科5年半で修得した海技士としての経験・技術を基礎に、さらに授業や特別研究を通じて、様々な知識と技術を身につけるカリキュラムです。

日本航海学会講演会で講演

海岸地区のデータ収集の研究

生産システム工学専攻

本科5年間で修得した基礎工学を基盤に、機械システム、電子・物性、計測制御および情報・通信関連分野の高度な知識と技術を修得します。

植物工場のPBL実験

特別研究発表会

学生寮

リーダーシップとフォロワーシップを育む

寮生活で住む場所も安心！

寮生活を通して、実社会で必要な資質を育てることを目標としています。寮生活は、厳しいこともありますが、共に暮らした仲間との連帯感は一生の宝物になります。通学時間によっては、入寮をお断りする場合があります。

寮室

寮室は主に低学年が2人部屋、高学年が1人部屋です。

食堂

3食（朝・昼・晩）栄養バランスがとれた、あたたかい料理を食べることができます。

豚肉と厚揚げの炒め煮&白身魚竜田揚

その他の施設

大浴場、談話室、補食室など、寮生が共同で利用できる施設が付属しています。洗濯室には乾燥機も完備しています。

寮生の一日

《3年生の例》

- 7:00 起床 巡検（点呼）
- 7:40 朝食

朝と夜には点呼があります。

- 8:40 登校
- 8:50 授業開始

海事法規の授業中です。航海士としての基礎知識を学んでいます。

- 12:00 昼休み
- 12:15 昼食
- 12:50 午後の授業

寮の食堂で昼食です。

- 16:00 放課後

クラブ活動も一生懸命取り組みます。カッター部です。

- 18:30 夕食
- 19:00 巡検
- 19:30 入浴
- 20:00 自習時間

寮の自室で自習中。寮生活では自分で時間を管理するのも大切です。

- 22:00 巡検

談話室で他の寮生たちと仲良く交流しています。

- 23:00 就寝

コンテストに出場までの道のり

目指せ！全国大会！

その他のコンテスト

- ディープラーニングコンテスト
- 高校・高専気象観測機器コンテスト
- 英語プレゼンテーションコンテスト
- パソコン甲子園
- システム創成コンテスト

ロボットコンテスト

プログラミングコンテスト

ソーラー&人力ボートレース大会

学生の活躍

令和3年度

●全国高等専門学校第32回プログラミングコンテスト
最優秀賞!　優秀賞!
令和3年10月9日～10日に開催され、課題部門に参加した本校のチームが、遠隔でマダイの養殖について学び、地域産業の体験・理解ができるアプリで最優秀賞、スポーツにおける予測能力を向上させるクイズができるアプリが優秀賞を受賞しました。

全国高等専門学校第32回プログラミングコンテスト　最優秀賞!　優秀賞!

●高専ディープラーニングコンテスト(DCON2021)　**第2位!**
令和3年4月17日に開催され、水温や栄養状況などのデータと気象データの組み合わせから、海苔の最適な養殖方法を提案する海苔養殖支援システムを開発し、評価されました。

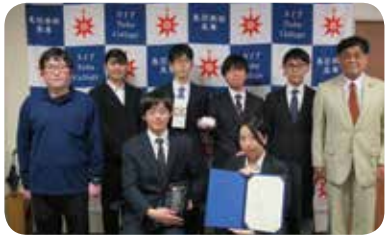
高専ディープランニングコンテスト(DCON2021)　第2位!

●AIビジネス創出アイデアコンテスト2022
人工知能技術コンソーシアム会長賞(2位相当)!
令和4年2月15日に開催され、「野菜のサステイナブルスマート農業」というテーマで応募した本校のチームが、大会成績2位相当にあたる人工知能技術コンソーシアム会長賞を受賞しました。

●第10回高校・高専気象観測機器コンテスト
特別賞!　受賞回数最多勝!
令和3年12月20日に開催され、本校から参加した2チームがそれぞれ特別賞を受賞しました。また、当コンテストでの受賞回数が参加校中最多となったことで、受賞回数最多勝も併せて受賞しました。

●令和3年度日本水産学会中部支部大会　**最優秀発表賞!**

●第25回全国高等学校少林寺拳法選抜大会　**全国大会出場!**


AIビジネス創出アイデアコンテスト2022
人工知能技術コンソーシアム会長賞(2位相当)!

第10回高校・高専気象観測機器コンテスト
特別賞! 受賞回数最多勝!

令和3年度日本水産学会中部支部大会　最優秀発表賞!

令和2年度

●第9回高校・高専 気象観測機器コンテスト
最優秀賞!　優秀賞!

●高専ディープランニングコンテスト
(DCON2020)**第2位!**

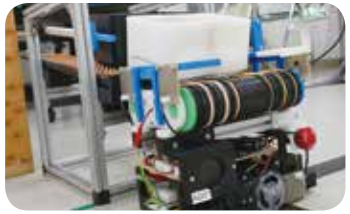
●全国高等専門学校第31回プログラミングコンテスト
特別賞!

●アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト
2020東海北陸地区大会　**特別賞!**

●第3回システム創成コンテスト
優秀賞!　生活環境対策創成賞!

●第24回全国高等学校少林寺拳法選抜大会
全国大会出場!

高専ディープランニングコンテスト(DCON2020)　第2位!


ロボットコンテスト2020東海北陸地区大会　特別賞

システム創成コンテスト　優秀賞!　生活環境対策創成賞!

全国高等専門学校第31回プログラミングコンテスト　特別賞!

令和元年度

●全国高等専門学校体育大会陸上競技　**走高跳　優勝!**

●全国高等専門学校第30回プログラミングコンテスト
2年連続最優秀賞(文部科学大臣賞)!　優秀賞!　特別賞!

●アイデア対決全国高等専門学校ロボットコンテスト2019
ベスト4!　デザイン賞!

●学生スマートフォンアプリコンテスト
最優秀賞!　優秀賞!

●全日本ソーラー&人力ボートレース大会2019　**学生総合優勝!**

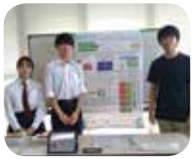
●第8回高校・高専 気象観測機器コンテスト　**最優秀賞!　優秀賞!**

●パソコン甲子園2019　**ベストアイデア賞!**

●令和元年度全国高等学校総合大会　少林寺拳法大会
全国大会出場!

全国高等専門学校体育大会陸上競技 走高跳　優勝

全日本ソーラー&人力ボートレース大会2019


学生スマートフォンアプリコンテスト

ロボットコンテスト2019

第30回プログラミングコンテスト　優秀賞

進路

卒業後の進路として、就職と進学があります。
進学の場合は、本校専攻科または
大学の3年次に編入できます。
その後、大学院に進学することもできます。

商船学科

求人倍率（過去5年間の平均）　《航海コース》14.8　／　《機関コース》25.0

就職先（過去5年間）

JXオーシャン㈱、MOLマリン＆エンジニアリング㈱、旭運輸㈱、旭タンカー㈱、㈱旭メンテックス、飯野海運㈱、イイノガストランスポート㈱、伊勢湾マリン・サービス㈱、一般財団法人新日本検定協会、出光興産㈱、井本商運㈱、㈱ウィングマリタイムサービス、上野トランステック㈱、宇部興産海運㈱、英雄海運㈱、エチレン輸送㈱、大阪旭海運㈱、オーシャントランス㈱、オフショアエンジニアリング㈱、鹿児島船舶㈱、川近シップマネージメント㈱、川崎汽船㈱、共栄マリン㈱、近郵船舶管理㈱、グリーンシッピング㈱、国立開発研究法人水産研究・教育機構、コスモ海運㈱、国華産業㈱、佐渡汽船シップマネジメント㈱、サンエイ・マリン㈱、山友汽船㈱、三洋海事㈱、四国開発フェリー㈱、ジャパン マリンユナイテッド㈱、正栄汽船㈱、商船三井オーシャンエキスパート㈱、商船三井フェリー㈱、昭陽汽船㈱、昭和日タンマリタイム㈱、白井汽船㈱、新日本海サービス㈱、新日本海フェリー㈱、西部タンカー㈱、第一中央内航㈱、ダイキン工業㈱、太平洋フェリー㈱、田渕海運㈱、中央海運㈱、津軽海峡フェリー㈱、鶴見サンマリン㈱、鶴見サンマリンタンカー㈱、㈱帝国機械製作所、㈱電脳交通、東京汽船㈱、東幸海運㈱、東明エンジニアリング㈱、飛島コンテナ埠頭㈱、トランスオーシャン㈱、内海曳船㈱、浪速タンカー㈱、日本海洋事業㈱、日本郵船㈱、早駒運輸㈱、㈲姫子松鉄工所、琵琶湖汽船㈱、ファーストマリンサービス㈱、㈱フェリーさんふらわあ、福寿船舶㈱、福神汽船㈱、防災特殊曳船㈱、㈱マキタ、名鉄海上観光船㈱（五十音順）

進学先（過去5年間）

神戸大学、東京海洋大学（五十音順）
鳥羽商船高等専門学校専攻科（海事システム学専攻）

電子機械工学科

求人倍率（過去5年間の平均）　17.2

就職先（過去5年間）

ANAベースメンテナンステクニクス㈱、㈱JALエンジニアリング、㈱Lei Hau'oli、㈱LIXIL、NTT東日本グループ会社〈エンジニア〉、㈱NTTファシリティーズ、㈱NTTフィールドテクノ、㈱UL Japan、アイリスオーヤマ㈱、明石機械工業㈱、旭化成㈱、旭ダイヤモンド工業㈱、旭電気㈱、旭電器工業㈱、㈱アテック、㈱アビスト、㈱飯田設計、イオンディライト㈱、出光興産㈱千葉事業所、エムイーシーテクノ㈱、オークマ㈱、小木曽工業㈱、花王㈱、関西電力㈱、キクカワエンタープライズ㈱、㈱京都製作所、㈱きんでん、コスモ石油㈱、㈱ザイマックスアルファ、三機工業㈱、サントリーグループ、㈱ジェイペック、ジャパンマテリアル㈱、シンフォニアエンジニアリング㈱、シンフォニアテクノロジー㈱、住友電設㈱、セントラル硝子㈱、綜合警備保障会社、第一工業製薬㈱、ダイキンエアテクノ㈱、ダイキン工業㈱、㈱高津製作所、田中貴金属グループ、㈱タマディック、中部電力㈱、㈱テクモ、東海交通機械㈱、東海旅客鉄道㈱、㈱東京ウエルズ、東京ガス㈱、東芝インフラシステムズ㈱、東ソー㈱、㈱トノックス、㈱トラスト・ネクストソリューションズ、ナブテスコ㈱、西日本コベルコ建機㈱、西日本旅客鉄道㈱、ニプロファーマ㈱、日本オーチス・エレベータ㈱、㈱日本デキシー、日本ピソー㈱、㈱丹羽鉄工所、パーソルR&D㈱、パナソニック㈱インダストリアルソリューションズ社、パナソニック㈱ライフソリューションズ社、パナソニックLSエンジニアリング㈱、パナソニックシステムソリューションズジャパン㈱、浜松ホトニクス㈱、パワーサプライテクノロジー㈱、万里設備㈱、㈱日立ビルシステム、廣瀬精工㈱、富士ゼロックス三重㈱、富士ソフト㈱、㈱富士テクノソリューションズ、㈱マイスターエンジニアリング、松田工業㈱・松田精工㈱、万能工業㈱、三重金属工業㈱、三菱電機エンジニアリング㈱、三菱電機システムサービス㈱、三菱電機ビルテクノサービス㈱、三菱電機メカトロニクスエンジニアリング㈱、村田機械㈱、㈱村田製作所八日市事業所、ムラテックCCS㈱、㈱メンバーズ、森永乳業㈱中京工場、四日市合成㈱（五十音順）

進学先（過去5年間）

岐阜大学、千葉大学、東京工業大学、豊橋技術科学大学、長岡技術科学大学、山口東京理科大学
和歌山大学（五十音順）　鳥羽商船高等専門学校専攻科（生産システム工学専攻）

情報機械システム工学科について

2019年から電子機械工学科と制御情報工学科を統合し、情報機械システム工学科になりました

制御情報工学科

求人倍率（過去5年間の平均）　13.8

就職先（過去5年間）

CTCテクノロジー㈱、㈱FIXER、㈱LIXIL、㈱MIEテクノ、NECネッツエスアイ㈱、NTTコム エンジニアリング㈱、NTTコム ソリューションズ㈱、㈱NTTネオメイト、㈱NTTファシリティーズ関西、㈱NTTファシリティーズ東海、㈱NTTフィールドテクノ、㈱RS Technologies、㈱UL Japan、㈱ZTV、㈱アイ・シー・エス、アイリスオーヤマ㈱、旭化成㈱、旭タンカー㈱、旭電器工業㈱、㈱アビスト、イーウェル㈱、出光興産㈱、エイジェックグループ、㈱エクシオモバイル、㈱エヌ・ティ・ティ エムイー、エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ㈱、オムロンフィールドエンジニアリング㈱、花王㈱、関西電力㈱、キクカワエンタープライズ㈱、キヤノン㈱、キヤノンシステムアンドサポート㈱、㈱協和エクシオ、クオリティソフト㈱、国際ソフトウェア㈱、サントリースピリッツ㈱、シンフォニアエンジニアリング㈱、シンフォニアテクノロジー㈱、住友電設㈱、盛徳海運建設㈱、ソニーデジタルネットワークアプリケーションズ㈱、第一工業製薬㈱、㈱大気社、ダイキンエアテクノ㈱、ダイキン工業㈱、ダックシステム㈱、㈱中央エンジニアリング、中部電力㈱、㈱デジタルハーツ、東海旅客鉄道㈱、東芝インフラシステムズ㈱、東ソー㈱、東レエンジニアリング㈱、トーテックアメニティ㈱、㈱トヨタプロダクションエンジニアリング、㈱ドリーム・アーツ、㈱ナカムラ工業図研、㈱ニコン、日通システム㈱、日東電工㈱、ニプロファーマ㈱、日本オーチス・エレベータ㈱、日本たばこ産業㈱、㈱ネオジャパン、ネクストウェア㈱、パナソニック㈱AIS社伊勢工場、パナソニック㈱ES社津工場、万協製薬㈱、日立INSソフトウェア㈱、㈱百五銀行、百五コンピュータソフト㈱、㈱ファインディックス、㈱ファインディックスソリューション、富士ゼロックス三重㈱、富士通クラウドテクノロジーズ㈱、フジテック㈱、富士電機㈱、富士フイルムビジネスイノベーションジャパン㈱、㈱フタミ金型、㈱マスヤ、松阪ケーブルテレビ・ステーション㈱、三重金属工業㈱、御木本製薬㈱、三菱電機エンジニアリング㈱、三菱電機ビルテクノサービス㈱、美和ロック㈱、ムラテック販売㈱、メタウォーター㈱、㈱メンバーズ、森永乳業㈱中京工場、㈱ユーテック（五十音順）

進学先（過去5年間）

京都工芸繊維大学、静岡大学、信州大学、電気通信大学、豊橋技術科学大学、長岡技術科学大学（五十音順）　鳥羽商船高等専門学校専攻科（生産システム工学専攻）

専攻科

●海事システム学専攻

就職先（過去5年間）

JR九州高速船㈱、NSユナイテッド海運㈱、旭タンカー㈱、㈱クルーズプラネット、商船三井フェリー㈱、㈱新来島どっく、西部タンカー㈱、独立行政法人海技教育機構
日本海洋事業㈱、㈱名門大洋フェリー、リベラ㈱（五十音順）

●生産システム工学専攻

就職先（過去5年間）

DMG森精機㈱、㈱FIXER、NECネッツエスアイ㈱、NTTコムソリューションズ㈱、㈱NTTファシリティーズ関西、㈱NTTネオメイト、㈱UL Japan、㈱アイエスイー、㈱エヌ・ティ・ティ エムイー、㈱エヌエフ回路設計ブロック、オムロン㈱、キヤノンシステムアンドサポート㈱、シンフォニアテクノロジー㈱、ソフトバンク㈱、第一工業製薬㈱、㈱大気社、竹田設計工業㈱、テルモ㈱、東海旅客鉄道㈱、㈱東京ウエルズ、ニプロファーマ㈱、㈱ネオジャパン、㈱ハイマックス、パナソニック㈱AIS社伊勢工場、パナソニック㈱インダストリアルソリューションズ社、パナソニック㈱ライフソリューションズ社、パワーサプライテクノロジー㈱、㈱日立ビルシステム、富士通クラウドテクノロジーズ㈱、三菱電機メカトロニクスエンジニアリング㈱、村田機械㈱、㈱メンバーズ、森永乳業㈱中京工場、ヤフー㈱（五十音順）

進学先（過去5年間）

九州大学大学院、静岡大学大学院、北陸先端科学技術大学院大学（五十音順）

経費

入　学　時　約260,000円
１年生後期　約 80,000円
２～３年生　約160,000円（教科書、教材費等を除く）
４～５年生　約280,000円（教科書、教材費等を除く）

（内訳）

項　目	金　額	備　考
入学料	84,600円	入学時のみ
授業料 （高等学校等就学支援金制度適用後）	115,800円	年額（半期ごとに半額を納入）
学生会費	8,400円	年額（半期ごとに半額を納入）
奨学後援会費	28,800円	年額（半期ごとに半額を納入）
日本スポーツ振興センター共済掛金	1,550円	年額
教科書、教材費	約20,000円 ～60,000円	年額（学科、学年により異なります）

※学外研修やクラブ活動などで、他にも費用がかかることがあります。

就学支援金制度

平成22年度より、高等学校等就学支援金制度が始まり、**入学時より36ヵ月間（1年～3年）については年額118,800円の助成**があります（年収910万円以上の世帯は除く）。また、保護者の所得によっては、授業料全額が助成される場合もあります。本科4年生から専攻科2年生までについては授業料減免制度があります。

奨学金制度

日本学生支援機構や地方自治体・財団法人などが奨学金制度を設けており、意欲と能力のある学生に「教育を受ける機会」を保障し、自立した学生生活を送れるよう支援しています。

寮費

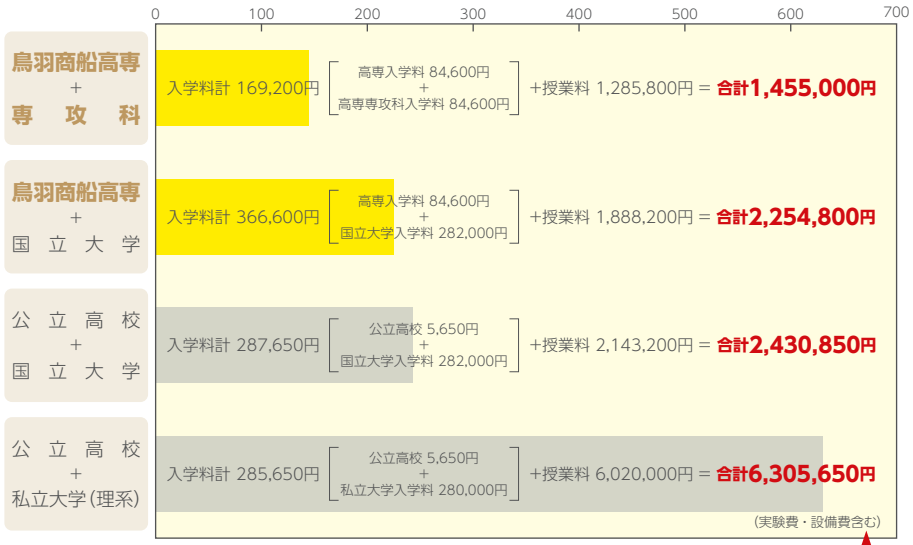
項　目	金　額	備　考
寄　宿　料	700円（２人部屋） 800円（１人部屋）	月額
学寮運営費（光熱費等）	約15,000円	月額
食　　費	約37,000円	月額（1日3食,土日も含む）
布団リース料（年額）	約15,000円	年1回布団交換、月2回シーツ交換

※寮室のエアコン使用による電気料金は、別途、個人の負担になります。

もし大学まで進学したら

学費の比較

「高専」と「高校」・「大学」の学費［入学料+授業料（在学年分）］比較をしてみました。大学卒（学士）を目標として、4パターンの比較をしています。



※公立高校の費用については概数です。
※入学料・授業料について、国公立学校については各校規定、私立学校についてはサンプリングによります。
※教材費・研修旅行費などのさまざまな雑費は含んでおりません。
※平成22年度よりはじまった就学支援金（年額118,800円の学費補助）を反映しています。

公立高校+私立大学（理系）との比較では**約485万円も違う!!**

●入学料免除・徴収猶予制度

入学前1年以内に、学費負担者の死亡または風水害等の災害を受け、学資の支弁が困難な学生には入学料の免除を、経済的理由により納付期限までに入学料の納付が困難であり、かつ成績優秀と認められる学生には徴収猶予を受けられる制度があります。

●奨学金制度

経済的理由により学資の支弁が困難でかつ成績優秀な学生には、選考のうえ、独立行政法人日本学生支援機構等から奨学金が貸与される制度があります。

入学試験

●体験学習（商船学科のみ）
令和5年1月14日（土）／場所：本校

●推　　薦　令和5年1月15日（日）／場所：本校

●学力検査　令和5年2月12日（日）／場所：本校・名古屋・大阪

※学力検査は、他に全国で受験可能な最寄り地受験制度があります。
詳細は、学生募集要項をご覧ください。

●オープンキャンパス
令和4年8月11日（祝）・12日（金）・10月1日（土）

●海学祭（学校祭）
令和4年　12月4日（日）

●受験相談会
令和4年 12月上旬

*オンライン相談会・説明会もおこなっております。（7月～11月に月1回程度）
*これらの日程は、変更となる可能性があります。

※詳細につきましては、本校ホームページをご覧ください。

MAP

交通案内

●大阪から
近　鉄／難波―鳥羽　特急2時間
乗用車／大阪―鳥羽　3時間（200km）

●京都から
近　鉄／京都―鳥羽　特急2時間15分
乗用車／京都―鳥羽　2時間（170km）

●東京・名古屋から
J　R／東京―名古屋　のぞみ1時間40分
名古屋―鳥羽　快速1時間40分
近　鉄／名古屋―鳥羽　特急1時間35分
急行2時間
乗用車／東京（東名―伊勢湾岸―東名阪
―伊勢道―伊勢二見鳥羽ライン）
→鳥羽（485km）約6時間

National Institute of Technology

Toba College

独立行政法人国立高等専門学校機構

鳥羽商船高等専門学校

https://www.toba-cmt.ac.jp 鳥羽商船 検索

〒517-8501　三重県鳥羽市池上町1番1号
鳥羽商船高等専門学校　学生課教務係
TEL 0599-25-8404
E-mail：gakusei-kyomu@toba-cmt.ac.jp

2022年度 学生の活躍記事(本校HP)

No.	日　付	記事タイトル	対象学生	備　　考
1	2023.2.10	観光甲子園でグランプリ受賞！	情報機械システム工学科	
2	2023.2.1	パソコン甲子園・GCON2022の受賞報告会を実施	情報機械システム工学科	
3	2023.2.1	キャンパスベンチャーグランプリ中部大会で奨励賞を受賞	情報機械システム工学科	
4	2023.1.27	第11回高校・高専気象観測機器コンテスト受賞チームが鳥羽市長を表敬訪問しました	制御情報工学科 情報機械システム工学科	
5	2023.1.4	令和４年度日本水産学会中部支部大会において本校学生が優秀発表賞を受賞	専攻科	
6	2022.11.10	パソコン甲子園2022のモバイル部門でベストアイデア賞を受賞！	情報機械システム工学科	
7	2022.11.10	GNSS・QZSSロボットカーコンテスト2022のオンライン部門で審査員特別賞を受賞	電子機械工学科	
8	2022.10.26	本校学生が「ROV設計製作セミナー」に参加	情報機械システム工学科	
9	2022.10.26	第33回高専プロコンにて特別賞を受賞	情報機械システム工学科	
10	2022.10.26	高専ロボコン2022東海北陸地区大会デザイン賞＆特別賞受賞	電子機械工学科 情報機械システム工学科	
11	2022.7.27	第57回全国商船高等専門学校漕艇大会を開催しました	カッター部	
12	2022.7.27	インターハイに少林寺拳法部が出場	少林寺拳法部	
13	2022.6.20	WiCON2021にて本校学生が海洋SDGs大賞を受賞	制御情報工学科 情報機械システム工学科	
14	2022.6.3	本校学生が三重県環境整備事業協同組合主催の「次世代とともに考える閉鎖性海域」にて発表を行いました	制御情報工学科 情報機械システム工学科	
15	2022.6.3	DCON2022出場学生が校長先生へ結果報告を行いました	制御情報工学科	
16	2022.5.26	2022女子学生エンパワーメント研修への参加報告	商船学科 情報機械システム工学科	
17	2022.4.12	ＡＩビジネス創出アイデアコンテストで人工知能技術コンソーシアム会長賞を受賞！	制御情報工学科 情報機械システム工学科	

観光甲子園でグランプリ受賞!

この度、令和5年2月5日(日)に開催された観光甲子園2022の空飛ぶクルマ部門で本校学生チームがグランプリを受賞いたしました。

【概要】

観光甲子園(主催:NEXTOURISM)は、全国の高校生がSDGs思考で観光事業計画を競うコンテストで、SDGs思考で修学旅行プランを計画する「SDGs修学旅行部門」と、空飛ぶクルマの実用化に向けて観光分野における事業アイデアを計画する「空飛ぶクルマ部門」の2つの部門があります。本校のチーム鳥羽は空飛ぶクルマ部門に出場し、予選にエントリーした94チームから、予選・準決勝を勝ち抜き、決勝の5チームに選出され、決勝大会でグランプリを受賞いたしました。

【受賞チーム紹介】

グランプリ:チーム鳥羽　「世界に一つだけの海鮮丼」

観光プラン「世界に一つだけの海鮮丼」とは、新幹線駅・空港がないだけでなく、南北に長いことから県内移動に苦労する三重県の観光課題を空飛ぶクルマによって一気に解決する事業アイデアです。空飛ぶクルマを利活用することで、伊勢湾をまたいだ移動が可能になり、県外からのアクセスが容易となります。また、県内の移動時間も大幅に短縮できる特性を生かして、全国有数の水産資源を誇る三重県各地で取れるさまざまな魚介類を、体験アクティビティを通して現地調達することができます。そして、その日のうちに調達した新鮮な海鮮を1皿にまとめた「世界に一つだけの海鮮丼」を食べることができるという観光プランです。

【観光甲子園公式HP】

https://www.nexttourism-contest.jp/

※学生によるプレゼン動画を視聴いただけます。

独立行政法人国立高等専門学校機構
鳥羽商船高等専門学校
〒517-8501　三重県鳥羽市池上町1-1　TEL:0599-25-8000　FAX:0599-25-8016

Copyright © 2017 National Institute of Technology, Toba College

パソコン甲子園・GCON2022の受賞報告会を実施

この度、パソコン甲子園（2022/11/5～6開催）とGCON2022（2023/1/15開催）にて受賞した学生たちが、和泉校長へ受賞報告を行いました。パソコン甲子園では2位相当のベストアイデア賞を受賞、GCON2022では高専60周年記念賞を受賞しました。

受賞した学生たちと和泉校長、中古賀教員（指導教員）

キャンパスベンチャーグランプリ中部大会で奨励賞を受賞！

この度、“学生起業家の登竜門”として知られているキャンパスベンチャーグランプリ中部大会において、本校学生が開発した「りぷら」が奨励賞を受賞いたしました。「りぷら」はスマホカメラに近赤外線照射装置を取り付け、専用のアプリケーションで撮影することで、プラスチックの種類を判別する装置であり、海洋プラスチックに多い黒色プラスチックの判別も可能となります。廃棄物から新たな製品に再生するマテリアルリサイクルが広がっている中、「りぷら」は海洋プラスチックという社会問題の解決に貢献できるシステムとなります。

【キャンパスベンチャーグランプリ公式HP】
https://cvg.nikkan.co.jp/

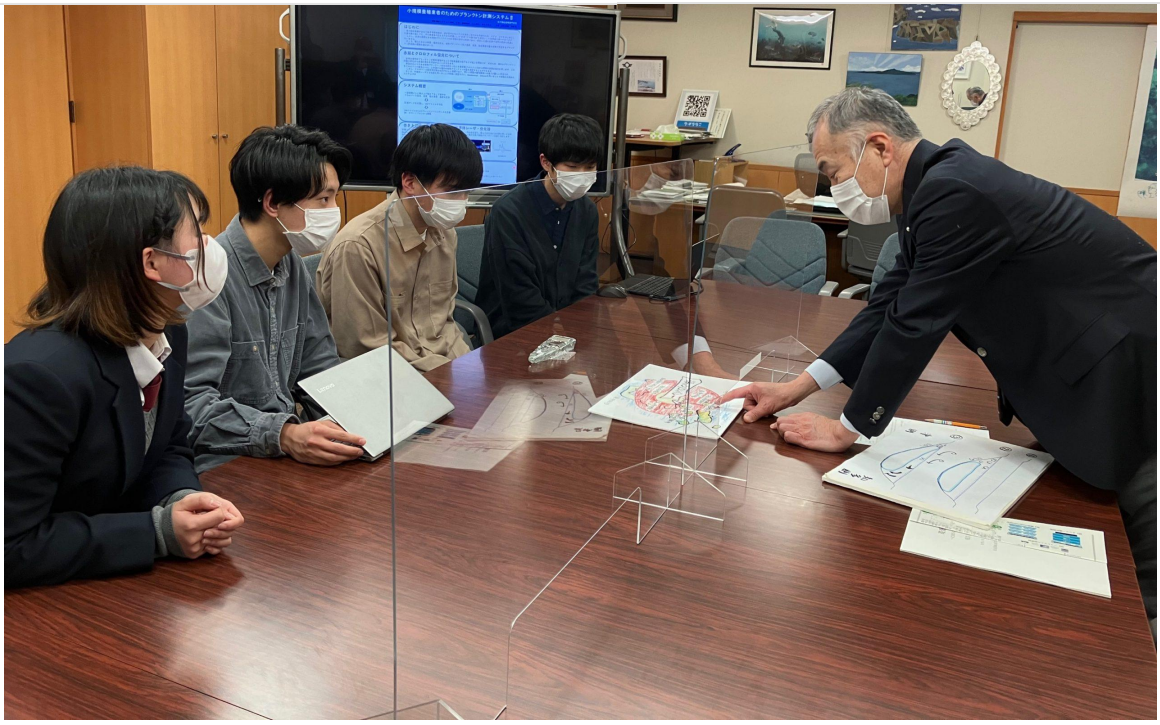
受賞した学生たち（1月27日の表彰式にて）

ページの先頭に戻る

第11回高校・高専気象観測機器コンテスト受賞チームが鳥羽市長を表敬訪問しました

令和４年１月２６日（木）、第11回高校・高専気象観測機器コンテストで最優秀賞と代表理事特別賞を受賞した学生らが鳥羽市長を表敬訪問しました。

表敬訪問では、学生たちからの受賞報告とともに、本コンテストで受賞したシステムについてプレゼンテーションを行いました。鳥羽市長から学生たちへの労いの言葉とともに、次回に向けての期待の言葉をいただき、有意義なひとときとなりました。



最優秀賞を受賞した白石研究室の学生たちと鳥羽市長

ページの先頭に戻る

代表理事特別賞を受賞した北原研究室の学生たちと鳥羽市長

独立行政法人国立高等専門学校機構
鳥羽商船高等専門学校
〒517-8501　三重県鳥羽市池上町1-1　TEL:0599-25-8000　FAX:0599-25-8016

Copyright © 2017 National Institute of Technology, Toba College

令和４年度日本水産学会中部支部大会において本校学生が優秀発表賞を受賞

この度、令和４年12月17日（土）に開催された令和４年度日本水産学会中部支部大会（オンライン開催）において、本校学生が優秀発表賞を受賞いたしました。発表タイトルは次のとおりです。

【発表タイトル】

・ブルーカーボン貯留量の測定のための藻類識別器の作成

学内で実施した授賞式の様子

ページの先頭に戻る

パソコン甲子園2022のモバイル部門でベストアイデア賞を受賞!

2022年11月5日(土)～6日(日)に開催されたパソコン甲子園2022において、本校学生が制作したアプリがモバイル部門にてベストアイデア賞を受賞しました。コンピュータ理工学が専門の会津大学等によって主催・運営されるパソコン甲子園は、高校生と高等専門学校生(3年生まで)がプログラミング能力をはじめ、情報処理技術におけるアイデアや表現力等を競い合い、その経験を通して知識と技術を高めるICT分野の全国大会となります。

【制作アプリ】

「りばるん ～流行予測による制服の着こなし提案アプリ～」

【概要】

女子高生が誰でも簡単に取り入れることができるような、昔と現代の流行を組み合わせた新しい制服コーディネートを提案するアプリとなります。

(リンク先)

大会公式ホームページ

鳥羽商船高等専門学校
作品名『　りばるん　』
2020
2025
2030
2040
2045
2050
ひざ下 5cm
くしゅくしゅ
ひざ上 15cm
ルーズソックス
ひざ上5cm
短めソックス
通知

パソコン甲子園2022
ベストアイデア賞奨学金
¥100,000
モバイル部門

独立行政法人国立高等専門学校機構
鳥羽商船高等専門学校
〒517-8501　三重県鳥羽市池上町1-1　TEL:0599-25-8000　FAX:0599-25-8016

Copyright © 2017 National Institute of Technology, Toba College

GNSS・QZSSロボットカーコンテスト2022のオンライン部門で審査員特別賞を受賞!

2022年10月22日(土)に開催されたGNSS・QZSSロボットカーコンテスト2022において、本校学生が制作したロボットカーがオンライン部門にて審査員特別賞を受賞しました。衛星測位機能を搭載したロボットカーによる自律走行を競い合う「GNSS・QZSSロボットカーコンテスト2022」(主催:一般社団法人測位航法学会、共催:一般財団法人宇宙システム開発利用推進機構、公益社団法人日本航海学会 GPS/GNSS研究会、準天頂衛星システムサービス株式会社)は今年で16回目となり、3年ぶりとなる東京海洋大学グラウンドでの実走(会場参加)と、2020年から続くリモートでの参加(動画参加)のハイブリッドでの開催となりました。

大会結果と本校学生が制作したロボットカーの動画等については、以下の大会公式ホームページをご覧ください。

【リンク先】

GNSS・QZSSロボットカーコンテスト2022【大会公式ホームページ】

エントリー動画【大会公式ホームページ】

Racing
GNSS・QZSSロボットカーコンテスト
2022年度　オンライン審査員特別賞
鳥羽商船高等専門学校藤井研究室
一般社団法人測位航法学会

鳥羽○

本校学生が「ROV設計製作セミナー」に参加

2022年10月21(金)-23(日)に東京大学で開催された「チームでプログラミングに挑戦！～水中ロボットを開発せよ～」（主催：日本財団オーシャンイノベーションコンソーシアム）に情報機械システム工学科４年生の学生が参加いたしました。

大学生・大学院生に混じって最年少の参加ではありましたが、日頃培ったリーダーシップや技術力を遺憾なく発揮し、アイデア出しを主体的に行い、メインプログラマーとして活躍しました。結果としては５チーム中の2位でしたが、評価者からは「コードの内容やハードの構成にしっかりとした理由付けがあってよかった。」とのコメントをいただきました。

ページの先頭に戻る

独立行政法人国立高等専門学校機構
鳥羽商船高等専門学校

〒517-8501　三重県鳥羽市池上町1-1　TEL:0599-25-8000　FAX:0599-25-8016

第33回高専プロコンにて特別賞を受賞!

2022年10月15日(土)から10月16日(日)に開催された第33回全国高等専門学校プログラミングコンテスト(群馬大会)にて、本校の出場チームが課題部門にて特別賞を受賞しました。

(課題部門)
「オンラインで生み出す新しい楽しみ」をテーマにした作品
(作品名)
「OMIAI」
(コンセプト)
バレーボールにおける最強の守備配置とはどのような形なのでしょうか?人によって最強の配置の考え方は違います。私たちは、選手の間にボールが落ちた際に譲り合ってしまうミス「お見合い」が起きない配置が最強だと考えました。そこで、お見合い範囲を可視化し、最強を目指してオンラインで守備配置を作り上げるシステム「OMIAI」を提案します。

(大会公式ホームページ)
https://www.procon.gr.jp/

独立行政法人国立高等専門学校機構 鳥羽商船高等専門学校
〒517-8501 三重県鳥羽市池上町1-1 TEL:0599-25-8000 FAX:0599-25-8016

Copyright © 2017 National Institute of Technology, Toba College

高専ロボコン2022東海北陸地区大会デザイン賞＆特別賞受賞！

　10月23日（日）、第35回アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2022　東海北陸地区大会が3年ぶりに対面で、三重県鈴鹿市で開催されました。

　今年度の競技課題は「ミラクル★フライ～空へ舞い上がれ！～」。

　2分30秒の試合の競技時間中に、ロボットが「紙飛行機」を飛ばし、高さや面積の異なる、テーブルや滑走路（長机）などにランディングさせ、得点を競う競技です。

　本校からは、2チームが参加しました。

Aチーム「挑戦の弾道」（指導教員：情報機械システム工学科 脇坂准教授）

　台形ねじをもちいた装填機構と可変速のローラーで勢いよく紙飛行機を飛ばす射出機構、独自開発の装填機構とチェビシェフリンク機構でふんわりと紙飛行機を飛ばす機構、を組み合わせたロボットを作成しました。初戦富山高専射水キャンパスに判定勝ちも、2戦目で、今大会優勝の鈴鹿高専に敗れました。

Bチーム「入れ込みぶっぱまんV」（指導教員：情報機械システム工学科 宮﨑教授）

　エアシリンダを用いたパンタグラフのリフトアップ機構と投石機構を組み合わせ、人が腕を振って投げるかのように紙飛行機を飛ばす機構、ベルトコンベアを用いた機構、ゴムどうりょくにより紙飛行機を飛ばす機構、を組み合わせたロボットを作成しました。

デザイン賞と特別賞（セメダイン株式会社）を受賞しました。惜しくも全国大会出場は逃しました。

【授賞理由：デザイン賞】

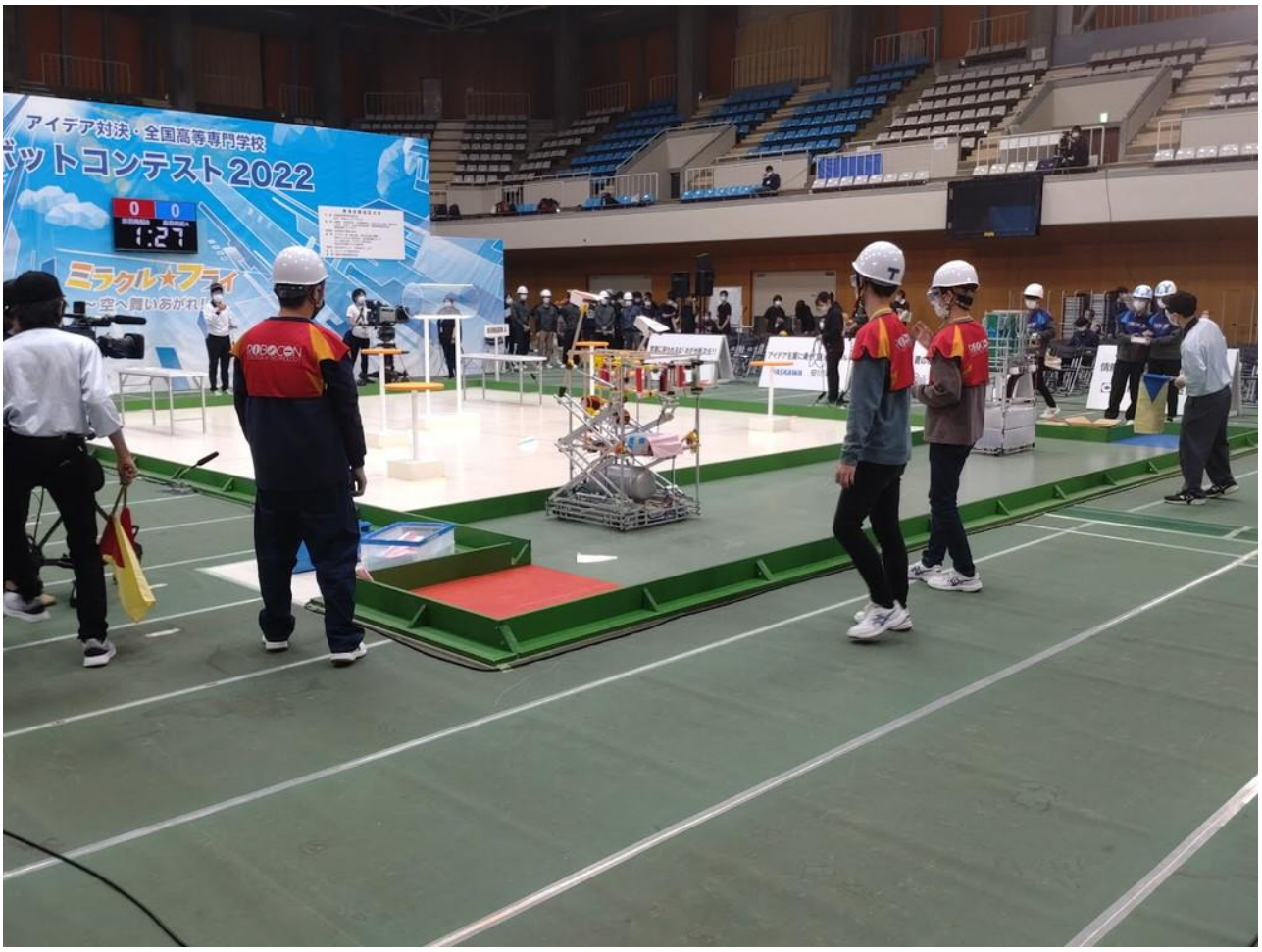
　投石、ベルトコンベア、ゴムと多様な射出機構を詰め込み、次は何を繰り出してくれるのかと会場を沸かせただけでなく、木材を多用した環境にやさしい機体を作り上げた

大会の様子は、Youtubeでご覧いただけます。
https://www.youtube.com/watch?v=WxHT983mPVg

また、2022年11月13日(日) 13:05-13:59にNHK総合テレビにて放送予定です。
(最寄り地区の大会が放送されます。本校出場の東海北陸地区大会は東海北陸の7県でご覧いただけます)

是非学生の活躍をご覧ください。

(大会公式ホームページ)
http://www.official-robocon.com/kosen/



ページの先頭に戻る

ミラクル★
～空へ舞いあ
鳥羽商船高専 B

アイデア対決・全国高等専門学校
ロボットコンテスト2022
ミラクル★フライ

ページの先頭に戻る

ROBOCON
高専ロボコン
特別賞
ROBOCON
COLLEGE of TECHNOLOGY
アイデア対決・全国高等専門学校
ロボットコンテスト2022
東海北陸地区大会
デザイン賞
2022.10.23
全国高等専門学校連合会 NHK
アイデア対決・全国高等専門学校 ロボットコンテスト2022
東海北陸地区大会 特別賞
CEMEDINE 賞
2022.10.23 セメダイン株式会社

第57回全国商船高等専門学校漕艇大会を開催しました

7月18日（月・海の日）に、本校練習船係留場沖で第57回全国商船高等専門学校漕艇大会を開催しました。
当日は爽やかな晴天の下、大島商船高専を除く4商船高専のチームが参加し、AチームとBチームに分かれて競い合いました。
各チームの選手は息を合わせ、力の限りオールを漕ぎ、日頃の練習の成果を発揮しました。
熱戦の結果、本校カッター部Aチームと広島商船高専カッター部Bチームが優勝しました。

レース結果の詳細は別紙記録表をご覧ください。

第57回全国商船高専漕艇大会　結果

インターハイに少林寺拳法部が出場！

令和４年７月29日（金）から7月31日（日）に高知県にて開催される令和4年度全国高等学校総合体育大会少林寺拳法競技大会に本校の少林寺拳法部が組演武に２組、団体演武に１組出場いたします。７月26日（火）にインターハイに出場する選手の壮行会が鳥羽市役所で催され、出場する学生７名が鳥羽市長を表敬訪問しました。また、7月27日（水）に和泉校長へ、大会出場に向けての意気込みを述べ、校長先生から激励のことばが送られました。

鳥羽市役所での壮行会の様子

出場学生と和泉校長(右)、顧問の橋爪教員(左)、西山教員(左から2番目)

ホーム / 学生の活躍 / インターハイに少林寺拳法部が出場!

独立行政法人国立高等専門学校機構
鳥羽商船高等専門学校
〒517-8501　三重県鳥羽市池上町1-1　TEL:0599-25-8000　FAX:0599-25-8016

Copyright © 2017 National Institute of Technology, Toba College

ページの先頭に戻る

WiCON2021にて本校学生が海洋SDGs大賞を受賞！

高専ワイヤレスIoTコンテスト2021にて、「クロロフィル・水温センサ搭載のIoT海洋観測器による牡蠣養殖支援」というテーマで海洋SDGs大賞を受賞しました。

本コンテストは、総務省が主催となり、若手人材の参画を図りながらワイヤレスIoT技術実証の試行的な取り組みを通じて、地域における電波有効利用を推進するための支援策を取りまとめていくことを目的に、全国の高等専門学校の学生を対象に開催されています。

詳細については、以下のコンテスト公式ホームページをご覧ください。

【WiCON2021公式ホームページ】
https://kosen-iot-contest.jp/2021/result

5/26に行われた成果発表会での集合写真

成果発表会の様子

独立行政法人国立高等専門学校機構
鳥羽商船高等専門学校
〒517-8501　三重県鳥羽市池上町1-1　TEL:0599-25-8000　FAX:0599-25-8016

Copyright © 2017 National Institute of Technology, Toba College

本校学生が三重県環境整備事業協同組合主催の「次世代とともに考える閉鎖性海域」にて発表を行いました

令和４年５月２０日（金）、津市で開催された三重県環境整備事業協同組合主催の「次世代とともに考える閉鎖性海域」にて、本校学生が「クロロフィル・水温センサ搭載のIoT海洋観測器によるカキ養殖支援」について発表を行いました。

ページの先頭に戻る

DCON2022出場学生が校長先生へ結果報告を行いました

令和４年５月１２日（木）、DCON2022に出場した学生らが校長先生へ結果報告を行いました。学生らはDCON2022で発表した魚の見える化による定置網漁の支援システム「Seenet」の概要について説明し、このコンテストを通して楽しかったことや大変だったことなど感想を述べました。

受賞したQUICK賞（企業賞）のボードの前で集合写真（左から順に和泉校長、中古賀助教、出場学生ら）

2022女子学生エンパワーメント研修への参加報告

高専機構による「2022女子学生エンパワーメント研修」に本校から6名の学生が参加しました。

本研修は、鹿児島高専の女子学生が小中学生にロボットについて講座を開くというROBOGALSの活動が海外大学と交流した経験をもとに、高専女子学生の諸活動活性化を図るものとして、高専機構で企画されたオンライン研修です。「英語でコミュニケーションを始める時の最初の一歩は」といった話題から、「工学分野を学ぶ女子学生の活躍について」など、盛りだくさんな内容でした。

研修日時および内容

【第1回】3月17日（木）14:00～15:00
内容：8高専の女子学生による高専間交流（八戸、富山、鳥羽、佐世保、鹿児島、沖縄）

【第2回】4月26日（火）16:00～17:00
内容：イギリスの大学教員によるオンライン研修
Dr Aisling O'Boyle (Queen's University Belfast), "Communication Skills in English"
Dr Heather Gyle and Nicola Heron (South Eastern Regional College), "Developing Children's digital Literacy"

【第3回】5月11日（水）16:00～17:00
内容：イギリスの大学教員によるオンライン研修
Dr Aine McGreeghan (South Easter Regional College), "Females in Engineering"

ページの先頭に戻る

AIビジネス創出アイデアコンテストで人工知能技術コンソーシアム会長賞を受賞！

令和４年２月１５日（火）にオンライン開催された「AIビジネス創出アイデアコンテスト」にて、本校学生チームが出場し、人工知能技術コンソーシアム会長賞を受賞しました。

本コンテストは、大阪商工会議所と国立研究開発法人 産業技術総合研究所の人工知能技術コンソーシアムが主催となり、人工知能（ＡＩ）技術を活用した新ビジネスの創出を支援するため実施されているものとなります。

本校の制御情報工学科、情報機械システム工学科の学生によるチーム【白石・近藤LAB】は、「野菜のサステイナブルスマート農業！！」というテーマで応募し、書類審査を経たファイナリスト７者に選ばれ、公開プレゼンテーションを行ったのち、２位相当の人工知能技術コンソーシアム会長賞を受賞しました。

本コンテストの公式ホームページ
https://www.osaka.cci.or.jp/event/seminar/202107/D22210901014.html

ページの先頭に戻る

(左)白石教授、(中央)受賞した学生ら、(右)和泉校長

独立行政法人国立高等専門学校機構
鳥羽商船高等専門学校
〒517-8501　三重県鳥羽市池上町1-1　TEL:0599-25-8000　FAX:0599-25-8016

Copyright © 2017 National Institute of Technology, Toba College

鳥羽商船高等専門学校運営諮問会議規則

制　　定　平成１７年　６月２２日
最終改正　令和　２年　４月２１日

（目的）

第１条　この規則は、鳥羽商船高等専門学校（以下「本校」という。）に置かれる運営諮問会議（以下「諮問会議」という。）の組織及び運営の方法を定めることを目的とする。

（組織）

第２条　諮問会議の委員は、商船高等専門学校に関し識見が高く、地域、産業、教育等の実情に通じ、かつ本校の充実発展に関心と理解のある学外有識者等で、次の各号に掲げる者のうちから、若干人を校長が依嘱する。

(1)　本校の卒業生を雇用している企業等の関係者
(2)　工学、商船学及び教育学分野で高い水準にある研究者及びその他の教育研究機関の職員
(3)　本校が所在する地域の関係者
(4)　本校の支援団体等の関係者

２　諮問会議は、必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め意見を聴くことができる。

（会議の運営）

第３条　諮問会議に議長を置き、その議長は委員の互選をもって充てる。

２　議長は、諮問会議を招集し、会務を総括する。

３　諮問会議は、少なくとも年１回開催するものとする。

（審議事項）

第４条　諮問会議は、次の各号に掲げる校長からの諮問事項について審議し、及び校長に対して助言を行う。

(1)　本校の中期目標、中期計画及び年度計画に関する重要事項
(2)　本校の教育研究上の目的を達成するための基本的な計画に関する重要事項
(3)　本校の教育研究活動等の状況について本校が行う点検及び評価に関する重要事項
(4)　その他、本校の運営に関する重要事項

（委員の任期）

第５条　委員の任期は２年とする。ただし、再任を妨げない。

２　前項の委員に欠員が生じたときの後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（事務）

第６条　諮問会議の事務は、総務課企画・地域連携係において処理する。

（雑則）

第７条　この規則に定めるもののほか、諮問会議の運営に関し必要な事項は、諮問会議が定める。

附　則

この規則は、平成１７年７月１日から施行する。

附　則

この規則は、平成１９年４月１日から施行する。

附　則

この規則は、平成２１年４月２１日から施行し、平成２１年４月１日から適用する。

附　則

この規則は、平成２５年１０月１日から施行する。

附　則

この規則は、令和２年４月２１日から施行し、令和２年４月１日から適用する。